

鴨川市地域防災計画

(改訂案)

令和8年3月予定

鴨川市防災会議

鴨川市地域防災計画

第1編 総則編

第1節 計画の目的及び構成.....	1
1. 計画の目的.....	1
2. 計画の内容.....	1
3. 計画の構成.....	1
4. 計画の修正.....	1
5. 地区防災計画.....	2
第2節 計画の基本方針.....	3
1. 災害予防対策.....	3
2. 災害応急対策.....	4
3. 災害復旧・復興対策.....	4
第3節 防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱.....	5
1. 市.....	5
2. 一部事務組合.....	6
3. 県.....	6
4. 指定地方行政機関.....	6
5. 自衛隊.....	9
6. 指定公共機関.....	10
7. 指定地方公共機関.....	11
8. その他公共的団体.....	11
9. 市民及び事業所等.....	12
第4節 市の概況.....	14
1. 自然条件.....	14
2. 社会的概況.....	19
第5節 災害危険性.....	20
1. 地震の想定.....	20
2. 津波の想定.....	23
3. 風水害の想定.....	23
4. 大規模事故の想定.....	25

第1節 計画の目的及び構成

1. 計画の目的

本計画は、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第42条及び鴨川市防災会議条例第2条の規定に基づき、鴨川市防災会議が作成する計画であり、鴨川市で発生する災害に関し、予防活動、応急対策活動及び復旧活動等の一連の災害対策を実施するにあたり、防災関係機関、鴨川市民及び事業所がその全力をあげて、鴨川市民の生命、身体及び財産を災害から守るため、実施すべき事務を定めることを目的とする。

また、本市は、南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法第3条第1項に基づく「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されていることから、同法第5条第2項の規定に基づき、南海トラフ地震に伴い発生する津波からの防護、円滑な避難の確保及び迅速な救助に関する事項等を本計画（地震・津波災害編）に定めることを目的とする。

2. 計画の内容

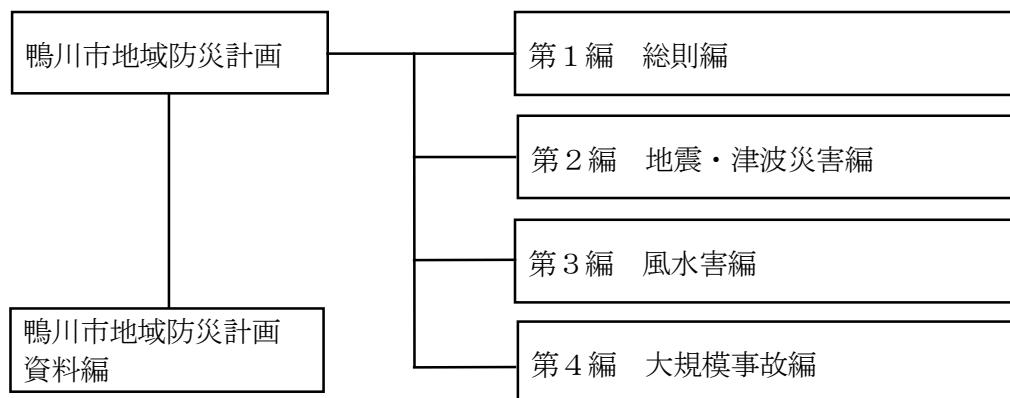
本計画は、市の処理すべき事務又は業務を中心として、各防災関係機関の責任を明確にするとともに、各機関が防災に関し行う事務又は業務を有機的に結合した計画である。

また、本計画は、国の防災方針を定めた防災基本計画及び千葉県地域防災計画との整合性及び関連性を有するものであるが、地域の特性や災害環境にあわせた独自の計画である。

なお、国土強靭化基本法に基づき、巨大地震や集中豪雨等の大規模自然災害等に備えた事前防災・減災、迅速な復旧復興に係る施策については「鴨川市国土強靭化地域計画」に定め、本計画と協調して対策を推進する。

3. 計画の構成

本計画は、次のような構成である。



4. 計画の修正

本計画は、災害対策基本法第42条の規定に基づき各関係機関が毎年検討を加え、必要があると認めるときは、防災会議の承認を得て修正する。

ただし、軽易な事項等は会長が修正し、防災会議に報告する。

なお、修正したときは、知事に報告する。
市及び防災関係機関は、自己の所掌する事項について検討し、必要がある場合は修正内容を防災会議（事務局：鴨川市危機管理課）に提出する。

5. 地区防災計画

本市地域の一定の地区内の居住者等が、災害対策基本法第42条の2に基づく地区防災計画（一定の地区内の居住者及び事業者等が共同して行う防災活動、訓練、備蓄等の計画）を提案した場合、防災会議において本計画への抵触等を判断し、必要と認める場合は当該地区防災計画を本計画に定める。なお、必要がないと判断した場合は、その理由等を提案者に通知する。

第2節 計画の基本方針

本市は、南東が海に面し、北東から南西部を取り囲むように山間部が広がっており、降雨、暴風により被害を受けやすい地形的条件にあるが、治水事業、治山事業等が計画的に推進されてきたため、近年は、風水害による被害は最小限にとどめられているところである。

しかし、都市化が進展していること、市民の生活様式の変化により水道、電気、ガス、電話等への依存度が高まっていること、高齢化、少子化の到来による要配慮者が増加していること、住民の相互扶助意識が低下していることなどから防災面に関するさまざまな課題が指摘され、さらには、市街地の多くが海岸及び河川沿いに位置し、津波や地盤の液状化の影響を受けやすい地域にあるとともに、市街地への人口集中は、災害危険地域への居住地の拡大をもたらす傾向にある。

本市の場合は、昭和30年代後半から整備された建築物や道路、鉄道などの社会資本が更新の時期にさしかかりつつあることに加え、都市構造の複雑化は、地震災害対策のより一層の強化を求めることがある。

また、本市は、海に面しており海難事故や油流出事故の危険性がある。更には都市化の進展、森林面積も大きいこと、産業の高度化等により、大規模火災、林野火災、危険物事故、鉄道事故、道路事故などの大規模な事故災害のおそれがある。こうした大規模事故災害についても対策を講じておく必要がある。

加えて、市民の生活様式の変化は、水道、電気、ガス、電話等への依存度を高め、鉄道等の交通施設とともに地震災害からこれらを守る対策の強化が求められている。

これら本市防災環境の変化に的確に対応し、市民生活の安全を守り、本市の持つ諸機能を確保していくため、風水害、各種大規模事故災害及び地震・津波災害の各段階に応じた予防対策、応急対策及び復旧対策の充実に努めていく。

1. 災害予防対策

- (1) 市民への防災知識の普及に努めるとともに、自主防災組織の育成強化と防災教育、防災訓練の充実に努め、自助・共助・公助の役割分担に基づき地域防災力を向上させる。
- (2) 災害に強い地域づくりを進めるため、土地区画整理等による都市整備や、耐震化・不燃化による建築物対策等の防災都市づくりを進める。
- (3) 防災拠点の整備を進めるとともに、各種資機材の備蓄と消防施設の整備を進める。
- (4) 津波災害を軽減するための施設整備や避難体制を整える。
- (5) 情報連絡手段となる防災行政無線の整備を進める。
- (6) 今後の災害対策に役立つ各種調査研究を進める。
- (7) 発災時にプロアクティブの原則（「疑わしいときは行動せよ」「最悪事態を想定して行動せよ」「空振りは許されるが見逃しは許されない」）に則り迅速に災害対応ができるよう、職員向けの訓練や研修について見直しを行うとともに、日ごろから、国・県や防災関係機関の研修を活用し、危機管理に係る知識、危機管理意識の醸成に取り組む。
- (8) 市及び防災関係機関は、日ごろから、情報連絡員の役割について理解の共有を図るなど、情報共有や連携の強化を行う。

2. 災害応急対策

- (1) 災害時に迅速な対応がとれるよう、市、県及び防災関係機関の応急体制を整える。
- (2) 気象予警報や被害情報などの災害情報の収集伝達体制を整える。
- (3) 被災者の安全な避難に努めるほか、水や食料等の供給、医療や救助など救援救護活動の充実を図る。
- (4) 消防、水防、警備、交通規制など応急活動の充実を図る。
- (5) 必要に応じ、自衛隊や広域的な応援を得て応急対策を実施する。
- (6) 水道、電気、ガス、電話等の生活関連施設等については、関係機関と連携し応急復旧を図る。
- (7) 応急教育の確保と災害廃棄物の迅速な処理及び応急仮設住宅建設の体制整備を図る。

3. 災害復旧・復興対策

- (1) 一般被災者や被災事業者への援護措置の充実を進め、民生安定を図る。
- (2) 生活関連施設等の迅速な本格復旧を図る。
- (3) 中長期に及ぶ復興計画の作成体制づくりを合意形成の基に進め、計画的に復興事業を進める。

以上の基本方針を踏まえつつ、次の要配慮者及び男女共同参画の視点も考慮し、対策を推進する。

＜要配慮者及び男女共同参画の視点＞

高齢者（特に、ひとり暮らし、ねたきり、認知症の高齢者等）、視覚障害者、聴覚・言語障害者、肢体不自由者、内臓機能障害などの内部障害者、知的障害者、発達障害者、精神障害者、難病患者等、乳幼児、妊娠婦、外国人、旅行者等で特に配慮を要する者などの要配慮者は、それぞれの特性により、情報の支障、危険回避行動における支障、移動行動における支障、生活又は適応における支障など、避難行動や避難生活に関して様々な支障をかかえており、災害による被害を多く受ける傾向にある。平成23年版防災白書によると、東日本大震災では、津波による被害が特に大きかったことから、東北3県の死亡者のうち、9割以上の方が溺死とされているが、その年齢構成をみると、60歳以上の方が約65%を占めており、地域の年齢別人口構成比を大きく上回り、高齢者が犠牲となる割合が高かつたことが明らかになっている。

本市でも、高齢化の進展や、障害のある人が年々増加している状況から、今後さらなる対策の充実が求められているところであり、地域と一体となった対策の強化に努めるとともに、大規模災害に際しての予防、応急対策、復旧のそれぞれの段階において、要配慮者の視点に立った対策を講じる。

また、東日本大震災や令和6年1月の能登半島地震において、避難所生活における更衣室の設置や女性に必要な物資の配布をはじめとした、様々な場面における女性への配慮の必要性が改めて認識されたところであり、防災分野における女性の参画拡大等の一層の推進が求められる。

さらに、性的マイノリティの方への配慮など、多様な視点に立つことも必要とされる。被災時における男女のニーズの違い等、男女双方の視点に配慮した災害対策を進めるため、防災に関する政策・方針決定過程及び防災の現場における女性の参画を拡大するとともに、男女共同参画その他の多様な視点を取り入れた防災体制の確立を図る。

第3節 防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱

市及び一部事務組合、県、指定地方行政機関、自衛隊、指定公共機関、並びに指定地方公共機関等は、災害対策に関し、概ね次の事務又は業務を処理する。

なお、これらの機関は、鴨川市の防災に関する機関のみを抽出して記載している。

1. 市

機関の名称	事務又は業務の大綱
市	<ul style="list-style-type: none">・鴨川市防災会議及び市の災害対策本部に関すること・防災思想の普及並びに市内にある公共的団体及び自主防災組織の育成、指導に関すること・防災に関する施設及び組織の整備並びに自主防災組織の充実及び訓練に関すること・防災訓練の実施に関すること・災害応急対策に関する物資並びに資材の備蓄及び点検に関すること・防災に関する設備の整備及び点検に関すること・管内関係団体が実施する災害応急対策等の調整に関すること・災害発生の防除及び拡大防止のための措置に関すること・災害対策要員の動員、雇上げに関すること・近隣市町との相互応援協力に関すること・警報の伝達並びに避難の指示に関すること・災害による被害の調査・報告と情報の収集及び広報に関すること・災害時における自衛隊の災害派遣要請の依頼に関すること・消防、水防その他の応急措置に関すること・緊急輸送道路の確保に関すること・公共的施設の復旧に関すること・被災者に対する救助及び救護措置に関すること・市営施設の応急対策に関すること・災害時の医療及び救護に関すること・清掃、防疫、その他の保健衛生に関すること・災害時の給水に関すること・災害時における文教対策に関すること・被災者の生活再建支援に関すること・義援金品の受領及び配布に関すること・被災産業に対する融資等の対策に関すること・災害復旧の実施に関すること

第1編 総則編
第3節 防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱

2. 一部事務組合

機関の名称	事務又は業務の大綱
安房郡市広域市町村圏事務組合	<ul style="list-style-type: none"> ・消防事務（消防団事務を除く）及び救急事務に関すること ・火葬場施設・設備の維持・管理及び応急対策に関すること ・地域救急医療対策（夜間急病診療事業、在宅当番医制事業、及び病院群輪番制方式による二次救急医療機関運営事業）に関すること ・水道施設の維持・管理及び応急対策に関すること
千葉県市町村総合事務組合	<ul style="list-style-type: none"> ・災害弔慰金の支給等に関すること

3. 県

機関の名称	事務又は業務の大綱
県	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県防災会議及び県災害対策本部に関すること ・防災に関する施設及び組織の整備並びに訓練に関すること ・災害時における災害に関する被害の調査報告、情報の収集及び広報に関すること ・災害の防除と拡大の防止に関すること ・災害時における防疫その他保健衛生に関すること ・災害応急対策用資材及び災害復旧資材の確保と物価の安定に関すること ・被災産業に対する融資等の対策に関すること ・被災県営施設の応急対策に関すること ・災害時における文教対策に関すること ・災害時における社会秩序の維持に関すること ・災害対策要員の動員、雇上げに関すること ・災害時における交通、輸送の確保に関すること ・被災施設の復旧に関すること ・市町村が処理する事務及び事業の指導、指示及びあっせん等に関すること ・災害対策に関する自衛隊への派遣要請、国への派遣要請及び隣接都県市間の相互応援協力に関すること ・災害救助法（昭和22年法律第118号）に基づく被災者の救助、保護に関すること ・被災者の生活再建支援に関すること ・市町村が実施する災害応急対策の補助及び市町村間の総合調整に関すること

4. 指定地方行政機関

機関の名称	事務又は業務の大綱
関東管区警察局	<ul style="list-style-type: none"> ・管区内各県警察の災害警備活動の指導及び調整に関すること ・管区内各県警察の相互援助の調整に関すること ・他管区警察局及び警視庁並びに管区内防災関係機関との連携に関するこ

第1編 総則編
第3節 防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱

機関の名称	事務又は業務の大綱
	<p>と</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察通信の確保及び警察通信統制に関すること ・津波、噴火警報等の伝達に関すること
関東財務局 千葉財務事務所	<ol style="list-style-type: none"> 1 立会関係 <ul style="list-style-type: none"> ・主務省が行う災害復旧事業費の査定の立会に関すること 2 融資関係 <ul style="list-style-type: none"> ・災害つなぎ資金の貸付（短期）に関すること ・災害復旧事業費の融資（長期）に関すること 3 国有財産関係 <ul style="list-style-type: none"> ・地方公共団体が防災上必要な通信施設等の応急措置の用に供する場合における普通財産の無償貸付に関すること ・地方公共団体が災害による著しい被害を受けた小・中学校等の施設の用に供する場合における普通財産の無償貸付に関すること ・地方公共団体が水防、消防及びその他の防災に関する施設の用に供する場合における普通財産の減額譲渡又は貸付に関すること ・災害の防除又は復旧を行おうとする事業者への普通財産の売払又は貸付に関すること ・県が急傾斜地崩壊防止施設の用に供する場合における普通財産の無償貸付又は譲与に関すること ・県又は市町村が防災のための集団移転促進事業の用に供する場合における普通財産の譲与等に関すること 4 民間金融機関等に対する指示、要請関係 <ul style="list-style-type: none"> ・災害関係の融資に関すること ・預貯金の払い戻し及び中途解約に関すること ・手形交換、休日営業等に関すること ・保険金の支払及び保険料の払込猶予に関すること ・営業停止等における対応に関すること
農林水産省 関東農政局	<ul style="list-style-type: none"> ・農業関係、卸売市場及び食品産業事業者等の被害状況の把握に関すること ・応急用食料・物資の支援に関すること ・食品の需給・価格動向の調査に関すること ・飲食料品、油脂、農畜産物等の安定供給対策に関すること ・飼料、種子等の安定供給対策に関すること ・病害虫防除及び家畜衛生対策に関すること ・営農技術指導及び家畜の移動に関すること ・被害農業者及び消費者の相談窓口に関すること ・農地・農業用施設及び公共土木施設の災害復旧に関すること ・被害農業者に対する金融対策に関すること
関東森林管理局	<ul style="list-style-type: none"> ・国有林野の保安林、保安施設（治山施設）等の維持、造成に関すること ・災害復旧用材（国有林材）の供給に関すること
関東経済産業局	<ul style="list-style-type: none"> ・生活必需品、復旧資材などの防災関係物資の円滑な供給の確保に関すること ・商工鉱業の事業者の業務の正常な運営の確保に関すること ・被災中小企業の振興に関すること

第1編 総則編
第3節 防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱

機関の名称	事務又は業務の大綱
関東東北産業保安監督部	<ul style="list-style-type: none"> ・火薬類、高圧ガス、液化石油ガスなど危険物等の保安に関すること ・鉱山に関する災害の防止及び災害時の応急対策に関すること
関東運輸局	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における自動車輸送業者への運送の協力要請に関すること ・災害時における被害者、災害必要物資などの輸送調整に関すること ・災害による不通区間における迂回輸送等の指導に関すること ・災害時における応急海上輸送に関すること ・応急海上運送用船舶の緊急修理に関すること
国土交通省 関東地方整備局	<p>1 災害予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災上必要な教育及び訓練等に関すること ・通信施設等の整備に関すること ・公共施設等の整備に関すること ・災害危険区域等の関係機関への通知に関すること ・官庁施設の災害予防措置に関すること ・大規模地震対策の港湾施設整備による緊急輸送体系の確立に関すること <p>2 災害応急対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に関する情報の収集、災害対策の助言・協力及び予警報の伝達等に関すること ・水防活動、避難誘導活動等への支援に関すること ・建設機械の現況及び技術者の現況の把握に関すること ・災害時における復旧資材の確保に関すること ・災害発生が予測されるとき又は災害時における応急工事等に関すること ・災害時のための応急復旧資機材の備蓄に関すること ・海洋汚染の拡散防止及び防除に関すること ・災害時相互協力に関する申合せに基づく適切な緊急対応の実施に関すること <p>3 災害復旧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生後、できる限り速やかに現況調査を実施し、被災施設の重要度、被災状況を勘案のうえ、二次災害防止に努めるとともに、迅速かつ適切な復旧を図るものとする。
海上保安庁第三管区海上保安本部 (勝浦海上保安署)	<ul style="list-style-type: none"> ・海上災害の発生及び拡大の防止に関すること ・船舶交通の安全、危険を防止し又は混雑を緩和するための船舶交通制限に関すること ・海上における人命及び財産の保護並びに公共の秩序の維持に関すること ・海難救助及び天災事変その他救済を必要とする場合における救助に関すること
東京管区気象台 (銚子地方気象台)	<ul style="list-style-type: none"> ・気象、地象、地動及び水象の観測並びにその成果の収集及び発表に関すること ・気象、地象（地震にあっては、発生した断層運動による地震動に限る）、及び水象の予報並びに警報等の防災気象情報の発表、伝達及び解説に関すること ・気象業務に必要な観測、予報及び通信施設の整備に関すること ・地方公共団体が行う防災対策に関する技術的な支援・助言に関すること ・防災気象情報の理解促進、防災知識の普及啓発に関すること

第1編 総則編
第3節 防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱

機関の名称	事務又は業務の大綱
関東総合通信局	<ul style="list-style-type: none"> ・非常通信の確保等及び関東地方非常通信協議会の運営に関するこ ・災害時テレコム支援チーム（M I C – T E A M）の派遣に関するこ ・災害対策用移動通信機器、臨時災害放送局用設備及び災害対策用移動電源車の貸し出しに関するこ ・非常災害時における重要通信の疎通を確保するため、無線局の開局、周波数等の指定変更及び無線設備の設置場所等の変更を口頭等により許認可を行う特例措置（臨機の措置）の実施に関するこ ・電気通信事業者及び放送局の被災・復旧状況等の情報提供に関するこ
関東地方環境事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・有害物質等の発生等による汚染状況の情報収集及び提供に関するこ ・廃棄物処理施設等の被害状況、がれき等の廃棄物の発生量の情報収集に関するこ ・放射性物質（2011年3月11日の東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所から放出された放射性物質に限る）による汚染状況の情報収集及び提供並びに汚染等の除去への支援に関するこ ・行政機関等との連絡調整、被災状況・動物救護活動の状況等に関する情報収集、提供等に関するこ
北関東防衛局	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における所管財産の使用に関する連絡調整に関するこ ・災害時における自衛隊及び在日米軍との連絡調整に関するこ
千葉労働局木更津 労働基準監督署	<ul style="list-style-type: none"> ・工場、事業場における労働災害の防止に関するこ ・労働力の確保及び被災者の生活確保に関するこ
国土地理院 関東地方測量部	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時等における地理空間情報の整備及び提供に関するこ ・復旧・復興のための公共測量の指導及び助言に関するこ ・地殻変動の監視に関するこ

5. 自衛隊

機関の名称	事務又は業務の大綱
自衛隊	<ol style="list-style-type: none"> 1 災害派遣の準備 <ul style="list-style-type: none"> ・防災関係資料の基礎調査に関するこ ・自衛隊災害派遣計画の作成に関するこ ・防災資材の整備及び点検に関するこ ・千葉県地域防災計画及び自衛隊災害派遣計画に合致した防災に関する各種訓練の実施に関するこ 2 災害派遣の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・人命又は財産の保護のため緊急に行う必要のある即時応急救援活動、民生支援及び復旧支援に関するこ ・災害派遣時の救援活動における防衛省の管理に属する物品の無償貸付及び譲与等に関するこ

6. 指定公共機関

機関の名称	事務又は業務の大綱
NTT東日本(株)、NTTドコモビジネス(株)、(株)NTTトヨモ、KDDI(株)、ソフトバンク(株)、楽天モバイル(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・電気通信施設の整備に関すること ・災害時等における通信サービスの提供に関すること ・被災電気通信施設の応急対策及び災害復旧に関すること
日本赤十字社	<ul style="list-style-type: none"> ・医療救護に関すること ・心のケアに関すること ・救援物資の備蓄及び配分に関すること ・血液製剤の供給に関すること ・義援金品の受付及び配分に関すること ・その他応急対応に必要な業務に関すること
日本放送協会	<ul style="list-style-type: none"> ・防災知識の普及と警報の周知徹底に関すること ・災害応急対策等の周知徹底に関すること ・社会事業団体等による義援金品の募集及び配分に関すること ・被害者の受信対策に関すること
東日本旅客鉄道(株)、日本貨物鉄道(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道施設等の保全に関すること ・災害時における鉄道車両等による救助物資及び避難者の輸送の協力に関すること ・帰宅困難者対策に関すること
日本通運(株)、福山通運(株)、佐川急便(株)、ヤマト運輸(株)、西濃運輸(株)、(一社)AZ-COM丸和・支援ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における貨物(トラック)自動車による救援物資及び避難者の輸送の協力に関すること
東京電力パワーグリッド(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における電力供給に関すること ・被災施設の応急対策と災害復旧に関すること
日本郵便(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における郵便事業運営の確保 ・災害時における郵政事業に係る災害特別事務取扱い及び援護対策 ・被災者への郵便葉書等の無償交付に関すること ・被災者が差し出す郵便物の料金免除に関すること ・被災地あて救助用郵便物の料金免除に関すること ・被災者救助団体へのお年玉付郵便葉書等寄附金の配分に関すること ・被災者の救援を目的とする寄附金の送金のための郵便振替の料金免除に関すること ・災害時における郵便局窓口業務の維持に関すること

第1編 総則編
第3節 防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱

機関の名称	事務又は業務の大綱
(独) 鉄道建設・運輸施設整備支援機構	・被災鉄軌道施設の災害復旧の支援に関すること

7. 指定地方公共機関

機関の名称	事務又は業務の大綱
(公社) 千葉県医師会	・医療及び助産活動に関すること ・医師会と医療機関との連絡調整に関すること
(一社) 千葉県歯科医師会	・歯科医療活動に関すること ・歯科医師会と医療機関及び歯科関係団体との連絡調整に関すること
(一社) 千葉県薬剤師会	・調剤業務及び医薬品の管理に関すること ・医薬品等の需給状況の把握及び情報の提供に関すること ・地区薬剤師会との連絡調整に関すること
(公社) 千葉県LPガス協会安房支部鴨川協議会	・ガス施設の防災対策及び災害時における供給対策に関すること
(公社) 千葉県看護協会	・医療救護活動に関すること ・看護協会と医療機関等会員施設との連絡調整に関すること
千葉テレビ放送(株)、(株)ニッポン放送、(株)ベイエフエム	・防災知識の普及と警報の周知徹底に関すること ・災害応急対策等の周知徹底に関すること ・社会事業団体等による義援金品の募集及び分配に関すること
(一社) 千葉県トラック協会房州支部、(一社)千葉県バス協会	・災害時における貨物自動車(トラック)及び旅客自動車(バス)による救助物資及び避難者の輸送の協力に関すること

8. その他公共的団体

機関の名称	事務又は業務の大綱
安房農業協同組合	・県、市が行う被害状況調査及び応急対策への協力に関すること ・農作物の災害応急対策の指導に関すること ・被災農家に対する融資、あっせんに関すること ・農業生産資材及び農家生活資材の確保、あっせんに関すること ・農産物の需給調整に関すること
鴨川市商工会	・災害時における物価安定についての協力に関すること ・救援用物資、復旧資材の確保についての協力、あっせんに関すること ・市が行う商工業関係被害状況調査及び応急対策への協力 ・融資希望者のとりまとめ、あっせん等の協力に関すること

第1編 総則編
第3節 防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱

鴨川市漁業協同組合、東安房漁業協同組合	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における港湾運送関係事業者との輸送力の確保及び連絡調整に関すること ・災害時における食糧及び救援物資の海上輸送に関すること ・県、市が行う被害状況調査及び応急対策への協力に関すること ・漁船、共同施設の災害応急対策及びその復旧対策の確立に関すること ・被災組合員に対する融資、あっせんに関すること
千葉県森林組合	<ul style="list-style-type: none"> ・県、市が行う被害状況調査及び応急対策への協力に関すること ・被災組合員に対する融資、あっせんに関すること
鴨川市社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・要配慮者の支援に関すること ・災害時におけるボランティア活動の支援に関すること
(公社) 安房医師会	<ul style="list-style-type: none"> ・医療及び助産活動に関すること
(一社) 安房歯科医師会	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医療活動に関すること
(一社) 安房薬剤師会薬業会	<ul style="list-style-type: none"> ・調剤業務及び医薬品の管理に関すること ・医薬品等の需給状況の把握及び情報の提供に関すること
病院等医療施設	<ul style="list-style-type: none"> ・避難施設の整備と避難訓練の実施に関すること ・災害時における収容者の保護及び誘導に関すること ・災害時における病人等の収容及び保護に関すること ・災害時における負傷者の医療と助産救護に関すること
学校法人	<ul style="list-style-type: none"> ・避難施設の整備及び避難訓練の実施に関すること ・災害時における学生の保護及び誘導に関すること ・災害時における応急教育計画の確立及び実施に関すること ・被災施設の災害復旧に関すること
金融機関	<ul style="list-style-type: none"> ・被災事業者等への資金の融資に関すること
社会福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ・避難施設の整備と避難訓練の実施に関すること ・災害時における入所者の保護及び誘導に関すること
危険物取扱施設	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理の徹底に関すること ・防護施設の整備に関すること

9. 市民及び事業所等

機関の名称	事務又は業務の大綱
その他事業所	<ul style="list-style-type: none"> ・消防法（昭和23年法律第186号）に基づく防火管理体制の強化に関すること ・事業所における防災対策の充実と従業員の安全の確保に関すること ・地域の防災活動に積極的に参加し、地域における防災力の向上に寄与すること ・県及び市が実施する防災対策に協力すること ・集客施設を保有する事業所にあっては、来客者の安全確保に努めること ・災害時に重要業務を継続するための事業継続計画（BCP）の策定に努めること ・防災訓練の実施、復旧計画の策定、サプライチェーンの確保等の事業継続マネジメント（BCM）の取組を通じて、防災活動の推進に努めるこ

第1編 総則編
第3節 防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱

機関の名称	事務又は業務の大綱
ボランティア団体	<p>と</p> <ul style="list-style-type: none">・普段から構成員間の連携を密にし、活動体制の整備を図ること・災害時に行政機関と協力して迅速な救援救護活動の実施に寄与すること
自主防災組織	<ul style="list-style-type: none">・地域において自発的に防災活動を実施し、災害の未然防止、地域住民の生命及び身体の保護、被害の拡大防止及び災害復旧に寄与すること・防災に関する知識の普及及び出火防止の徹底に関すること・初期消火、避難、救出教護等に関すること・消火用資機材、応急手当用医療品、救助用資機材、防災資機材等の備蓄及び保守管理に関すること・市及び県等が実施する防災対策に協力すること
市民	<ul style="list-style-type: none">・自らの生命・身体・財産を自ら守るための防災対策を自発的かつ積極的に行うとともに、食料・飲料水の備蓄、非常持出品の準備に関するこ・市及び県等が実施する防災対策に協力するとともに、自発的に地域の防災活動に積極的に参加し、災害の未然防止、被害の拡大防止及び災害復旧に寄与すること・過去の災害から得られた教訓の伝承や、災害の未然防止、被害の拡大防止及び災害の復旧等に寄与すること

第4節 市の概況

本市は、房総半島の南東部、太平洋側に位置し、温暖な気候と美しい海岸線など自然環境に恵まれている。

海岸に沿って東は勝浦市と、西は南房総市・鋸南町に接し、北は房総丘陵を境として、君津市・富津市・大多喜町に接している。

平成17年2月11日に旧鴨川市と天津小湊町が合併し、現在の鴨川市が誕生し、南房総の中核都市として更なる発展を目指している。千葉市へは直線距離にして57km、時間距離にしてJR東日本外房線で2時間弱の位置にある。

■市の位置

位 置		東 経	北 緯	地 点
極 東	140° 13' 00"	35° 08' 01"	大字内浦地先	
極 西	139° 55' 49"	35° 07' 50"	大字平塚字細谷地先	
極 南	140° 02' 17"	35° 03' 06"	大字江見外堀字堀原地先	
極 北	140° 08' 20"	35° 11' 28"	大字四方木字白岩地先	
市役所	140° 05' 56"	35° 06' 51"	大字横渚 1450番地	
面 積			191.14km ²	

出典：市統計書

1. 自然条件

(1) 地形・地質

本市は千葉県の南東部に位置し、地勢は全般的に平坦地が少なく、幾多の丘陵起伏に富み、西の南房総市との境に愛宕山(408.1m)、北部から東部に連なる清澄山系は標高300m前後と低い割に急峻な山が多く、いたる所に渓谷が見られ、市町境となっている。

市の中部には千葉県最高峰の嶺岡山系があり、この間に北西部の丘陵地帯より東南に細長く緩い傾斜をみせて低地部が海岸に達して、長狭平野となっている。

南部海岸線は無霜地帯として知られ早出し花卉が盛んであると共に起伏に富んだ小島、岩礁が多く、その眺望は絶景である。

地質は、第三紀、第四紀の堆積岩や変成岩が分布する。

南部の山地は、嶺岡層群、保田層群、安房層群からなり、嶺岡山系を中心に玄武岩や蛇紋岩が、また、海岸部では変成岩も見られる。この嶺岡山系の蛇紋岩等は風化が進み、地すべりが発生しやすい性質をもっている。

北部の山地は、三浦層群と上総層群からなっている。この三浦層群と上総層群の間には激しい地殻変動の名残と考えられる不整合が存在し、この不整合の直上に沖積層が発達しており、さらに沖積層の上には多くの地域で埋立層が認められている。

いずれの地層の岩石も風化が早いため、非常にやすく、海岸や道路沿いのがけなどのように露出している岩盤は、崩壊の危険が高い。

■主要山岳

山岳名	標高	所在地
愛宕山	408.1m	鴨川市、南房総市
清澄山(妙見)	377.0	鴨川市
二ツ山	376.0	鴨川市
元清澄山	344.3	鴨川市、君津市
嶺岡浅間	334.7	鴨川市
高鶴山	326.0	鴨川市

出典：市統計書

(2) 河川

流域が狭く、規模の小さい河川が蛇行しており、勾配も比較的急峻である。主要河川は東流して太平洋に注ぎ、上流部は砂防指定地となっており、砂防工事が行われ、中下流は局部改良工事が行われている。

上流域は耕地率が低く、水田酪農地帯として知られる。

■主要河川

河川名	延長(km)	流域面積(km ²)	水源地	流末地
洲貝川	3.7	8.5	鴨川市畠	鴨川市江見内遠野 (太平洋流出点)
曾呂川	5.4	14.2	鴨川市上	鴨川市太海 (太平洋流出点)
加茂川 (加茂川支流)	22.3	82.0	鴨川市金束	鴨川市貝渚 (太平洋流出点)
金山川	11.1	14.0	鴨川市打墨	鴨川市太尾 (加茂川合流点)
銘川	3.1	5.0	鴨川市北小町	鴨川市押切 (〃)
川音川	1.8	5.3	鴨川市成川	鴨川市仲 (〃)
待崎川	2.4	19.4	鴨川市和泉	鴨川市広場 (太平洋流出点)
二夕間川 (二夕間川支流)	5.7	7.4	鴨川市清澄	鴨川市天津 (太平洋流出点)
袋倉川	7.2	9.4	鴨川市東町	鴨川市浜萩 (二夕間川合流点)
神明川	1.5	3.8	鴨川市天津	鴨川市天津 (太平洋流出点)
大風沢川	7.7	11.9	鴨川市内浦	鴨川市内浦 (太平洋流出点)
開戸川	1.2	2.3	鴨川市内浦	鴨川市内浦 (太平洋流出点)

出典：市統計書

(3) 湖沼

本市には本来の湖はなく、ダム湖のみ存在し、また流域面積が狭いため流量も少なく、いったん放流するとなかなか満水にならない。他には小規模な農業用溜池が点在している。

(4) 海岸

太平洋に面した31kmに及ぶ海岸線は自然の美しさの反面、津波、高潮による被害を受けるおそれがある。

(5) 気象

① 気温

海洋性の特質を帶び一般に温暖湿潤であり、冬は最も寒い2月でも海岸では降霜がなく最低気温も氷点下に下がることは稀であり、積雪日数もほとんどない。

② 降水量

年間降水量は、令和6年で年間2037.0mmと県北部に比較して多い。これは標高300m程度の山地の影響で、風向が山地に直交するときは地形性降雨を伴うため、風上側の山地斜面では降水量が多くなるためである。

降雨量の季節的变化を見ると、秋に多く、春・夏がこれに次ぎ冬は最も少なくなっている。秋は台風、夏は梅雨等の影響によるもので、特に台風は短期的に激しい雨を伴い、大雨をもたらすことが多い。

③ 風向・風速

春から夏にかけて南西風に、秋から冬にかけては北西風に支配されることが多い。風速に関しては、冬の季節風、台風、低気圧又は寒冷前線の接近、通過の際には強風の吹くことが多い。特に台風接近時には暴風を伴うため、大雨、強風ともに厳重な警戒が必要となる。

(6) 断層帯

本市周辺には、房総半島南部をほぼ東西に横断する幅約5～7kmの「鴨川地溝帯」の北縁と南縁に位置する「鴨川地溝帯北断層」と「鴨川地溝帯南断層」が分布しており、平成10年度～12年度に、千葉県によって活断層調査が実施された。

このうち、鴨川地溝帯北断層は、最近の活動を示す地形が見いだせなかたため、国の地震調査研究推進本部は、「鴨川地溝帯南断層」を「鴨川低地断層帯」とし、次のような評価を行った。

過去の活動：過去の活動に関する資料が乏しく、具体的な活動履歴については明らかでない。

将来の活動：全体が1つの区間として活動した場合、発生する地震規模はマグニチュードが概ね7.2で、そのときの上下変位量は概ね2mとなる可能性がある。

(7) 災害特性

① 風水害

県の南部沿岸は、海からの湿った空気を受け内陸部に比べて強い雨が多く、特に黒原（南部丘陵地域）付近を中心とした比較的狭い範囲で強い雨が多く降る。

過去の水害履歴をみると、台風の通過に伴う大雨によるものが多い。

② 土砂災害

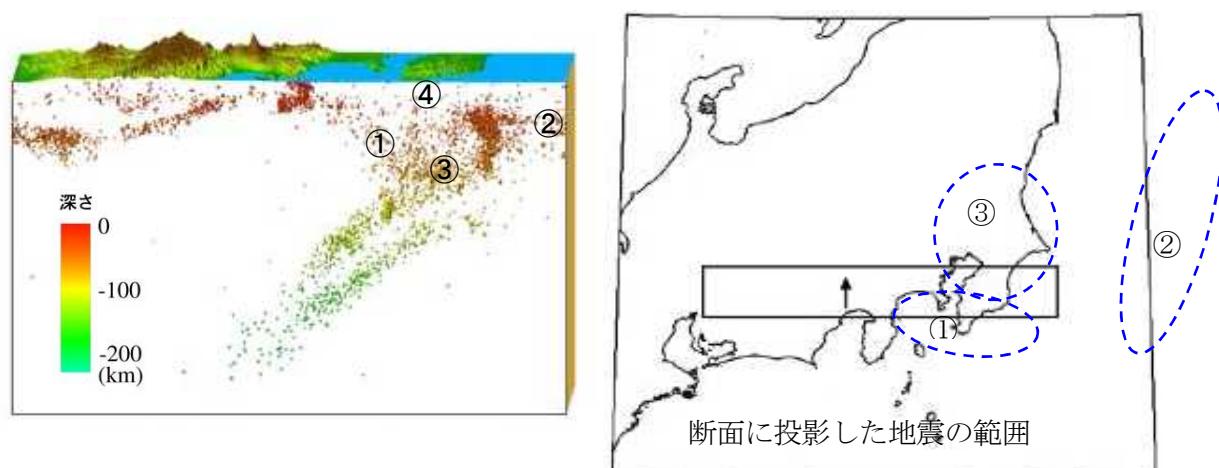
市内は山地に囲まれているため、土砂災害の危険が高い地域が多い。このうち、市北部の上総丘陵は、斜面が崩れ落ちるタイプの「がけ崩れ」が起こりやすい地層からできている。一方、南部から西部の嶺岡山地周辺は、「地すべり」が起こりやすい地層が分布しており、過去にも地すべりが多く発生している。

③ 地震災害の特性

■千葉県南部（鴨川市周辺）に被害をもたらす地震

	地震のタイプ	規模と頻度	特徴
①相模湾から房総半島南東沖にかけてのプレート境界付近で発生する地震	フィリピン海プレートと大陸プレートの境界付近	M8クラスの地震が、200～400年に1度程度の周期で発生。関東地震から80年以上経過しており、早ければ百年後に次の地震が来ると考えられる。 元禄地震・関東地震	震源が市域に近いため、震度7に近い揺れとなることが予想される。また、津波による被害も大きく、特に地震直後に津波が到達することが予想される。
②関東地方東方沖合から福島県沖にかけてのプレート境界付近で発生する地震	太平洋プレートと大陸プレートの境界付近で発生する地震	最大でM7クラスの地震（歴史時代にM8クラスの地震が1度だけ記録されている）。M5～6の地震は数年おきに発生 延宝房総津波	震源から離れているため、大きな揺れはないと予想される。しかし、震源が海底であるため、津波が発生することがある。
③陸域で発生し、震源がやや深い地震	フィリピン海プレートと大陸プレートの境界付近で発生する地震 太平洋プレートと大陸プレートの境界付近で発生する地震等	最大でM7クラスの地震（明治28年）、M5クラスの地震は年に数回発生	震源が地表面から離れているが、規模が大きいため県内でも被害が予想される。
④地表近くの断層による地震	地殻の浅部で発生する地震	鴨川低地断層帯が活動したとすると、M7.2程度（詳細不明） 県内には、切迫性の高い活断層はない。	地表に現れない断層の活動によって地震が発生することもある。このような地震は、規模は比較的小さいが、地表近くを震源とするため、大きな被害が発生する。
⑤遠地地震による津波被害		不特定	津波監視システム等で、津波来襲前に津波発生を覚知できる。

下図の①～④に対応



関東地方の地震活動と太平洋プレートの沈み込み（鴨川市周辺を通る断面図：M2以上、1987～1996年、深さ200km以浅；地震調査研究推進本部（1999）を編集）

(8) 過去の災害

① 鴨川市が影響を受けた主な地震・津波災害（江戸時代以降）

番号	西暦年月日 (日本歴)	震央		マグニチュード	県内最大震度	地変	津波	人命・家屋等の被害
		東経北緯	震央地名					
1	1605. 2. 3 (慶長9年 12月16日)	134.9 33.0	東海・ 南海・ 西海 諸道	7.9			房総半島東岸に大津波が来襲した。一時潮が引いて30余町(30ha)干涸になり、ついで津波が来襲した。上総下総の沿岸45か村の漁村農村が押し流された。大津波は小山の中腹まで押し寄せた。	死者多数
2	1703. 12. 31 (元禄16年 11月23日)	139.8 34.7	江戸・ 関東 諸国	7.9 ～ 8.2	6	安房地方で山くずれが多く発生した。嶺岡山で亀裂が生じたのをはじめ各地で地割れが生じた。	房総沿岸に大津波があった。各地の痕跡高は、御宿8m、勝浦7m、鴨川6.5m、千倉9.2m、相浜11～12m、保田6.5mなどであった。	津波による被害が主であった。安房小湊で570軒流失、死者100名、御宿で倒家440戸、死者20余名、千倉、布良で死者多数、九十九里南部津波で壊滅。

※県内における震度5弱以上を観測した地震、震度不明のものはM7.0以上のものを記載

(参考資料)

新編日本被害地震総覧（宇佐美、1996）

理科年表（国立天文台編、2016）

② 鴨川市が影響を受けた主な風水害（昭和40年以降）

（令和7年9月30日現在）

災害原因	発生年月日	被害の概要										
		人的被害（人）		住家被害（戸）							ライフライン被害	
		死者	負傷者	全壊	大規模半壊	半壊	準半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水	停電（軒）	断水（戸）
房総半島台風	令和元年9月9日	0	0	2	2	42	-	1,730	-	-	18,100	5,755
東日本台風	令和元年10月12日	0	0	0	1	5	-	309	-	-	10,000	235
10月25日の大雨	令和元年10月25日	0	0	0	0	4	-	17	5	28	30	4,699
台風第13号	令和5年9月8日	0	0	0	0	1	5	14	18	16	1,380	87

※東日本台風および10月25日の大雨による住家被害のうち、「全壊」・「大規模半壊」・「半壊」・

「一部損壊」については、従前の災害から被害が継続している戸数の合計を掲載

2. 社会的概況

(1) 人口

本市の人口は、昭和25年の48,571人をピークに、徐々に減少傾向をたどり、昭和60年に旧鴨川市でやや増加傾向が見られたものの、その後は減少傾向をたどっている。最新の国勢調査(令和2年)での人口総数は32,116人であり、ピーク時の66.1%となっている。

(2) 交通・ライフライン等

① 道路

鴨川市域の幹線道路形態を見ると、海岸線に国道128号、市の西部を国道410号、西端部を主要地方道富津館山線が南北に走り、主要地方道鴨川保田線及び鴨川富山線が東西に走っている。また、市の中央部を主要地方道千葉鴨川線が北西・南東方向に走り、更に市東部を主要地方道市原天津小湊線、東端部を天津小湊夷隅線が南北に走っている。

■道路の状況

令和5年3月31日現在

区分	総延長(m)	舗装延長(m)	舗装率(%)	改良済延長(m)	改良率(%)
国道	42,962	42,961	100.0	41,496	96.6
県道	74,888	74,888	100.0	62,805	83.9
市道	740,353	514,716	69.5	235,788	31.8

出典：市統計書

② 鉄道

海岸沿いにJR東日本外房線、内房線が通り、東から安房小湊駅、安房天津駅、安房鴨川駅、太海駅、江見駅となり、最も乗車人員の多い安房鴨川駅では1日約1,000人（令和3年度）の乗車人員がある。

③ バス

日東交通（株）により路線バス及びコミュニティバスが運行されている。また、その他数社により、高速バス等が運行されている。

④ 通信、ライフライン

ア. 災害用通信

災害用通信施設として、防災行政無線等を整備している。

イ. ライフライン

鴨川市のライフゲインは、上水道が安房郡市広域市町村圏事務組合水道部、電力が東京電力パワーグリッド（株）、有線通信がNTT東日本（株）、LPGガスは（公社）千葉県LPGガス協会安房支部鴨川協議会に加盟するLPGガス販売業者等によって供給されている。

(3) その他

本市には、年間を通じ、約270万人（令和6年）の観光客が訪れている。

第5節 災害危険性

1. 地震の想定

(1) 想定条件

計画の前提とする想定地震は、元禄地震とする。

想定地震： 元禄地震(1703) マグニチュード：8.2

発生時期： ① 冬季 午前5時 多くの市民が自宅にいる季節時刻

② 夏季 正午 観光客が多くいる季節時刻

※中央防災会議の「首都直下地震の被害想定と対策について（最終報告）」（平成25年12月）では、フィリピン海プレート内に一律に震源を想定した場合に、市内で震度7となる震度分布図が示された。しかし、その範囲がごく一部に限られること、特定の地震を想定したものでないこと、さらには、これまでの防災・減災対策の方向性に影響するものではないことから、本計画では元禄地震を計画の前提とする。

(2) 被害予測結果

① 建物被害予測

建物 棟数	地震による被害（住家）		
	木造	*RC造	鉄骨造
総数	18,081	17,078	232
全壊棟数	3,159	3,093	14
半壊棟数	4,204	4,058	27
			771
			54
			119

*RC造：鉄筋コンクリート造 単位：棟

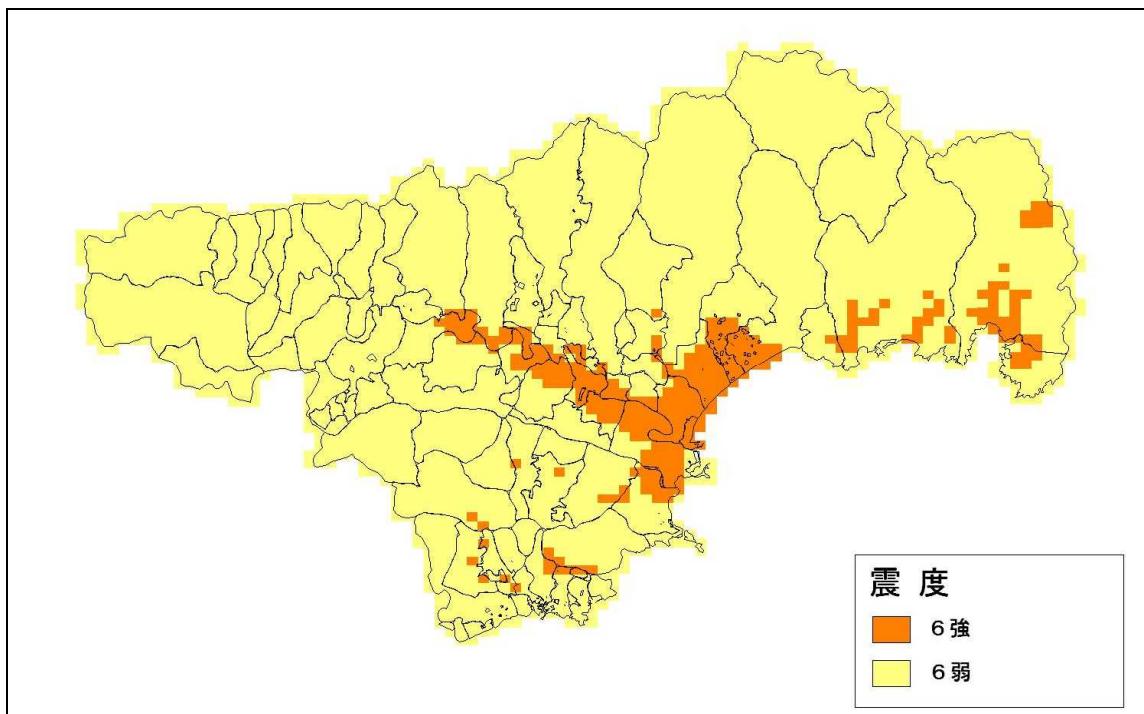
② 人的被害予測

人的被害	死者	重傷者	軽傷者
冬季午前5時	149	45	183
夏季正午	243	74	298

単位：人

◆地震動

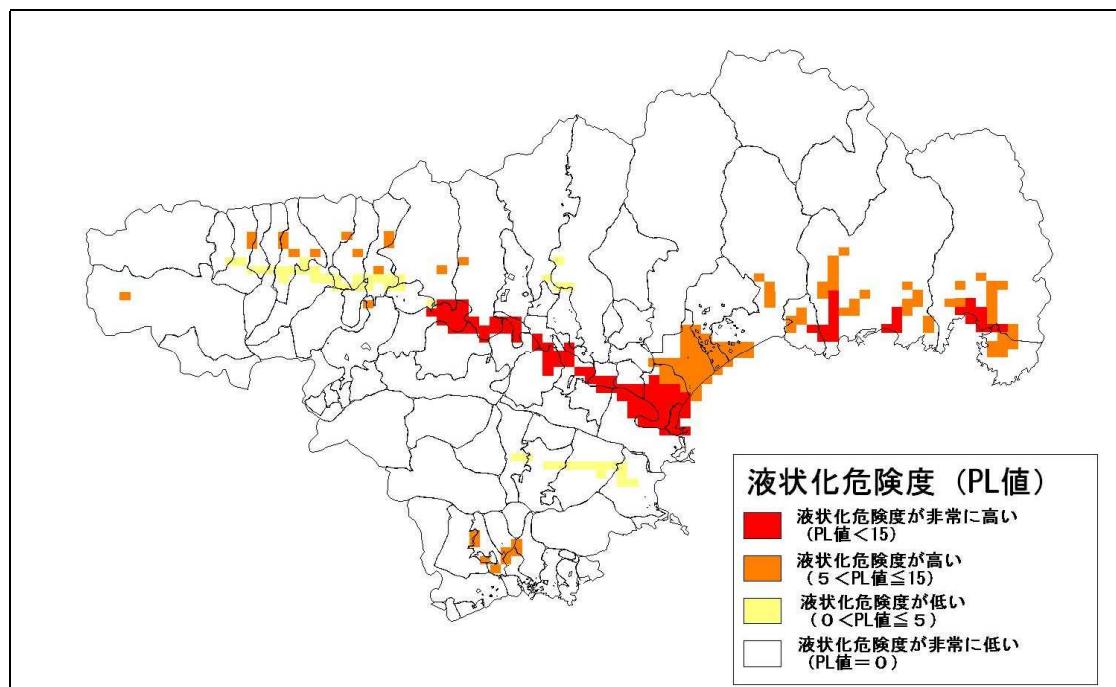
加茂川沿いの低地や海岸付近の低地で震度6強、それ以外の地域で震度6弱が予想され、本市全域で震度6弱以上となるものと予想される。



震度予測

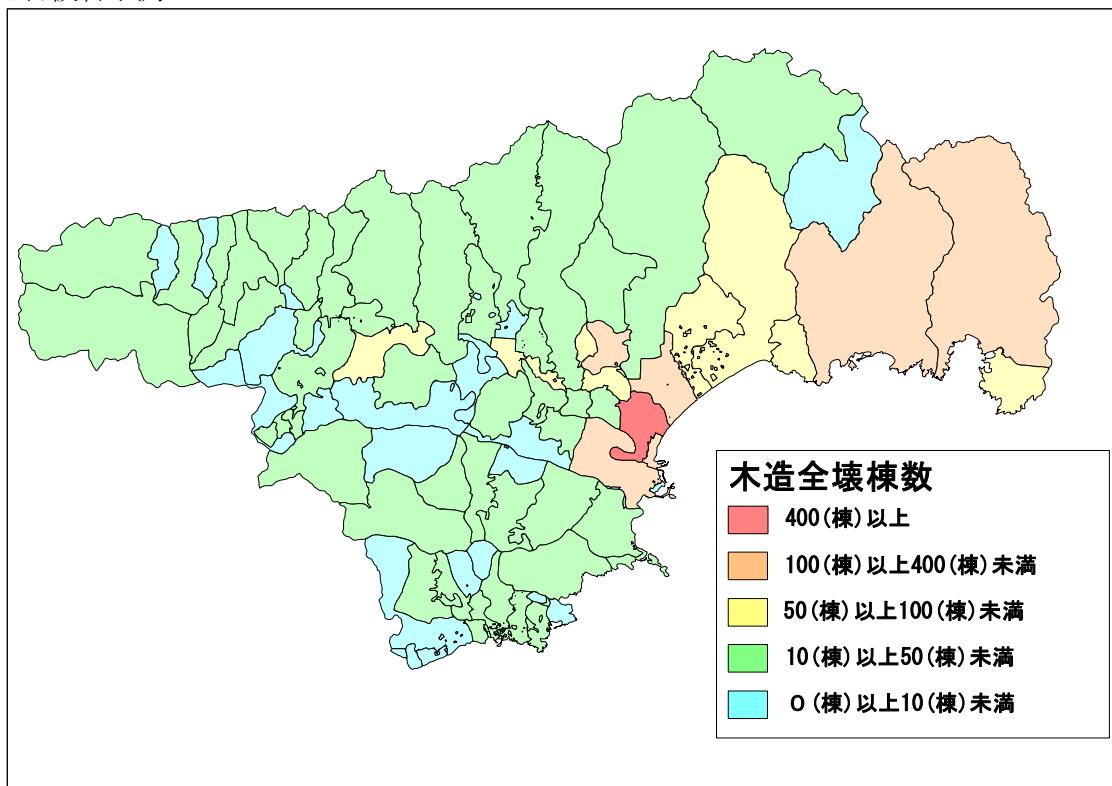
◆液状化

加茂川沿いの低地、海岸部及び河口部での液状化の危険性がやや高くなると予想される。



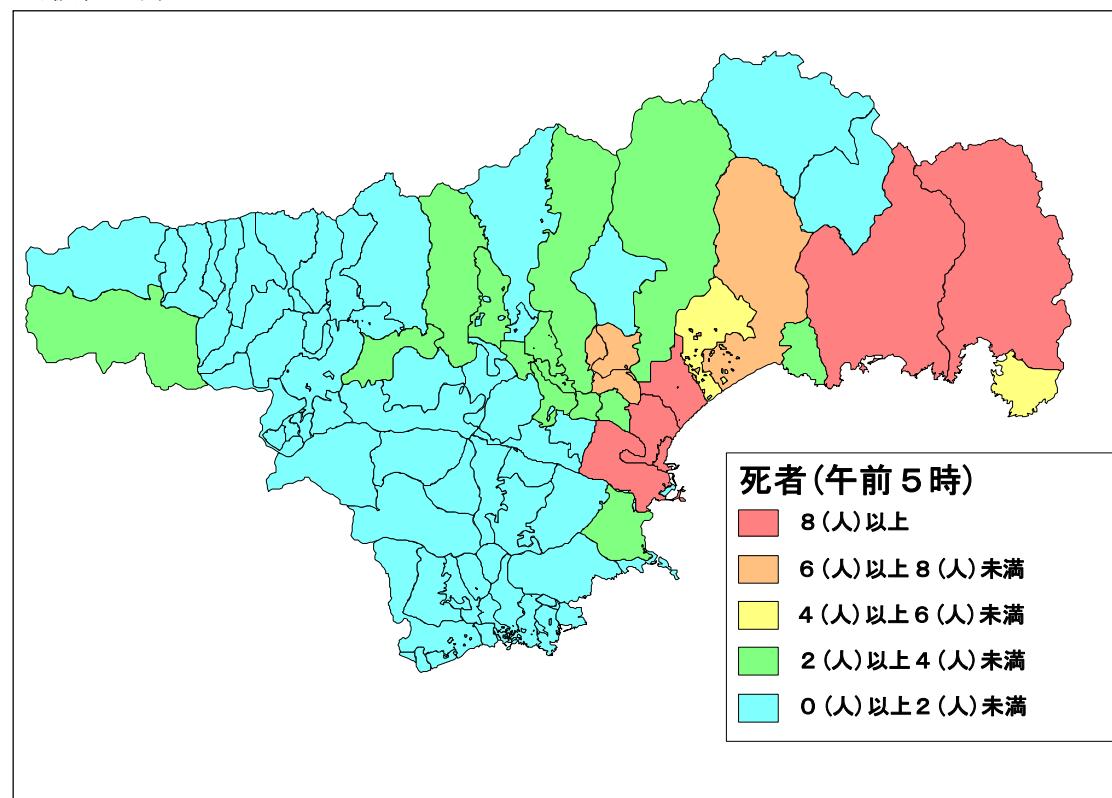
液状化危険度予測

◆建物被害予測



建物被害予測(木造全壊棟数)

◆人の被害予測

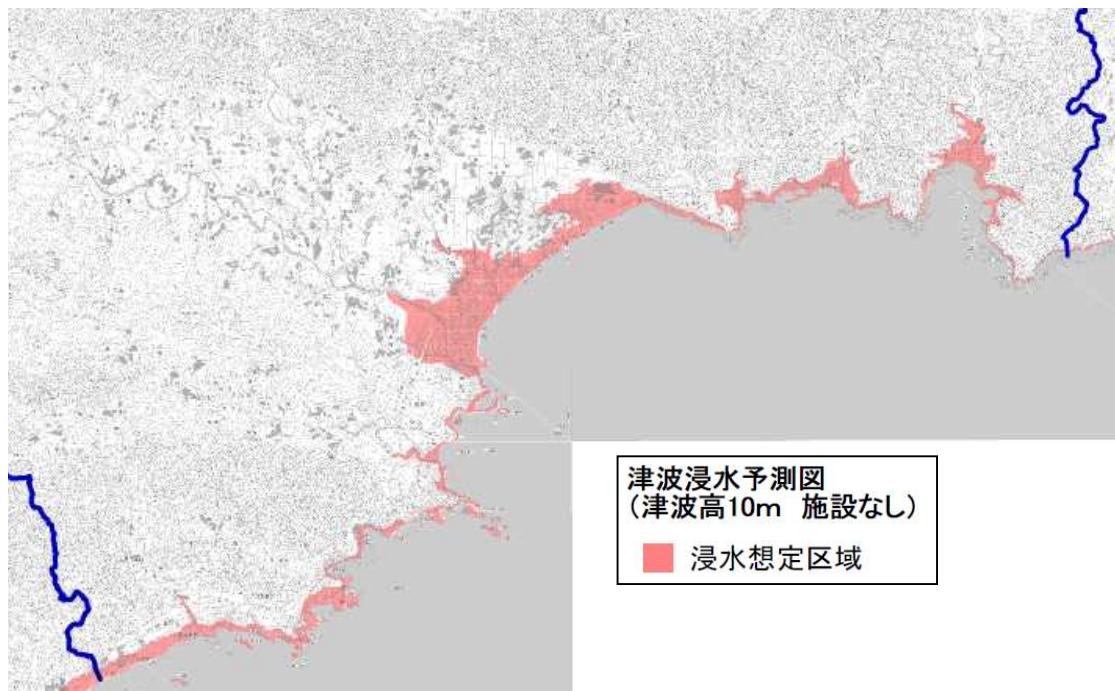


地震による人の被害予測（死者：冬季午前5時）

2. 津波の想定

本市における過去の津波実績では、元禄地震の8mの津波が最大であるが、本計画においては、県による津波浸水予測図（平成23年度）の津波高10mを想定津波とする。

津波浸水予想区域に含まれる建物数（住家）は、約3,000棟であり、概ね7,000人を被災人口と想定する。



3. 風水害の想定

水防法に基づく洪水浸水想定区域（加茂川とその支川、洲貝川、曾呂川、待崎川、二タ間川、袋倉川、神明川、大風沢川及び開戸川）及び高潮浸水想定区域（千葉東沿岸）並びに土砂災害警戒区域等における土砂災害の防止に関する法律（以下「土砂災害防止法」という。）に基づく土砂災害警戒区域等を想定とする。

(1) 洪水

① 洪水浸水想定区域

千葉県は、水防法に基づき、水位周知河川及び主な中小河川について、想定最大規模の大雨による河川の氾濫を想定した洪水浸水区域を指定している。

ア. 水位周知河川

水位周知河川に指定された加茂川及び支川金山川、銘川及び川音川の洪水浸水想定区域は、河道沿いの比較的狭い範囲に限られるが、河口や支川合流点付近ではやや面状に広がる。加茂川流域における最大浸水深は6.9mで、国道410号より下流側の支川合流点や河川の蛇行部を中心として、浸水深が5.0m～10.0mの範囲が点在する。全体としては3.0m～5.0mの範囲が多い。また、加茂川では、支川金山川との合流点から河口にかけての一帯が家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）に指定されている。浸水継続時間はおおむね12時間以内の範囲が多く、12時間以上の範囲は一部に限られている。

河川管理者	対象河川	想定条件	浸水想定区域の状況
千葉県	加茂川	加茂川流域の24時間雨量 669mm	県道34号と88号の交差点より下流のほぼ全区間が、浸水区域である。主に左岸に分布するが、川音川との合流部より上流は左右岸、河口部は右岸が主となる。浸水深は3.0m～5.0mが多く、一部5.0m～10.0mとなる。土地利用は主に農地だが、河口付近の一部が市街地にかかる。家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）が、区間のすべての両岸に分布する。
	金山川		浸水区域は金山川と県道24号の交差部より下流に分布し、県道181号より上流側では面的に広がる。土地利用は概ね農地だが、市総合運動場にかかる。浸水深は3.0m～5.0mで、家屋倒壊等氾濫想定区域は分布しない。
	銘川		浸水区域は加茂川との合流点右岸側に深さ3.0m～5.0mが広く分布し、それ以外は局地的である。土地利用はほぼ農地で、家屋倒壊等氾濫想定区域は分布しない。
	川音川		浸水区域は、加茂川合流点より上流の約800mの範囲に限られ、河道沿いに狭く分布するが、加茂川との合流点付近など、河道に接する平地では面的に広がる。土地利用はほぼ農地で、上流の一部に民家等がある。家屋倒壊等氾濫想定区域は分布しない。

イ. 主な中小河川

主な中小河川である洲貝川、曾呂川、待崎川、二夕間川、袋倉川、神明川、大風沢川、開戸川の浸水想定区域は河道周辺の比較的狭い範囲に限られ、広域に拡がるものはない。浸水深は概ね3.0m未満で、一部の河川では局的に3.0m以上となる。

河川管理者	対象河川	想定条件	洪水浸水想定区域の状況
千葉県	洲貝川	洲貝川流域の24時間雨量 690mm	ほぼ全区間で、断続的かつ面的に浸水範囲が広がる。土地利用は概ね農地で、浸水深は概ね0.5m～3.0mである。
	曾呂川	曾呂川流域の24時間雨量 690mm	ほぼ全区間に渡って浸水範囲が分布する。土地利用は概ね農地で、浸水深は概ね0.5m～3.0mである。
	待崎川	待崎川流域の24時間雨量 690mm	指定区間は県道181号より下流側の約2.5kmで、ほぼ区間で面的に浸水範囲が広がる。土地利用は農地が主体で、一部市街地となる。浸水深は概ね0.5m～3.0mである。
	二夕間川	二夕川流域の24時間雨量 690mm	浸水区域は、袋倉川との合流地点付近や河口付近で面的に分布するほかは局所的である。浸水深は概ね0.5m～3.0mで、土地利用は農地が主体だが、一部に公共施設がある。
	袋倉川	袋倉川流域の24時間雨量 690mm	浸水区域は下流部の平地に連続的に分布し、上流部は局所的である。浸水深は概ね0.5m～3.0mで、一部3.0m～5.0mとなる。土地利用は、下流部において牧場、工場、民家等がある。
	神明川	神明川流域の24時間雨量 690mm	浸水区域は局所的で、浸水深は最大3.0m～5.0mである。

河川管理者	対象河川	想定条件	洪水浸水想定区域の状況
	大風沢川	大風沢川流域の24時間雨量690mm	浸水区域は概ね奥谷集落より下流部にあり、上流部は局所的である。浸水深は概ね0.5m～3.0mで、一部で最大5.0m～10.0mとなる。土地利用は概ね農地で、一部に集落がかかる。
	開戸川	開戸川流域の24時間雨量690mm	浸水区域は一部区間に連続して分布するほか、局所的な分布である。浸水深は概ね0.5m～3.0mで、土地利用は農地が主体だが、一部が市街地にかかる。

② 重要水防箇所

洪水時に水防活動を要する重要水防箇所は市内に3箇所(加茂川2箇所、袋倉川1箇所)あり、いずれも氾濫実績がある(令和7年度千葉県水防計画)。

③ 防災重点農業用ため池

千葉県は、防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法に基づき、決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設等が存在し、人的被害を与えるおそれのあるものとして22のため池を指定している。

(2) 高潮

千葉県は、水防法に基づく想定最大規模の台風で高潮による氾濫が発生した場合の高潮浸水区域を指定している。

浸水範囲は、海岸沿い狭い範囲に限られるが、江見、鴨川、天津及び小湊の漁港区域、加茂川河口部の右岸、大風沢川沿いのJR外房線北側の一部では面的に拡がる。また、浸水深は最大1.0m～3.0mである。

浸水継続時間は概ね12時間～24時間(1日間)で、局所的に24時間(1日間)～72時間(3日間)となる。

(3) 土砂災害

千葉県は、土砂災害防止法に基づき、警戒避難体制を整備すべき土砂災害警戒区域を市内の729箇所に指定しており、そのうち616箇所が建築物の構造規制等が行われる土砂災害特別警戒区域を含んでいる(令和7年12月26日現在)。

また、「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」による急傾斜地崩壊危険区域に18箇所を指定しており(令和5年1月25日現在)、防災工事や保全措置を講じている。

その他、治山事業の基礎調査で把握された山腹崩壊危険地区が147箇所、崩壊土砂流出危険地区が43箇所ある。

4. 大規模事故の想定

大規模事故については、次の事象を対象とする。

- | | | |
|-------------|-----------|----------|
| ・大規模火災 | ・林野火災 | ・危険物等災害 |
| ・海上災害(海難事故) | ・油等海上流出災害 | ・航空機災害 |
| ・鉄道災害 | ・道路災害 | ・放射性物質事故 |

第2編 地震・津波災害編

鴨川市地域防災計画

第2編 地震・津波災害編

第1章 災害予防計画.....	1
第1節 地域防災力の向上.....	1
1. 防災知識の普及と防災意識の啓発.....	1
2. 広報すべき内容.....	2
3. 教育訓練計画.....	3
4. 自主防災組織の育成、強化.....	3
第2節 地盤災害予防対策.....	6
1. 地盤災害の防止.....	6
2. 地盤の液状化対策.....	6
3. 液状化対策の広報・周知.....	7
第3節 防災都市づくり.....	8
1. 出火防止.....	8
2. 建築物の不燃化対策.....	9
3. 土地区画整理事業等.....	9
4. 建築物の防災対策.....	9
5. ブロック塀等倒壊防止及び落下物対策の推進.....	11
6. ライフライン等の耐震対策.....	11
7. 道路等交通施設の整備.....	11
8. 港湾施設の安全化.....	12
9. 危険物施設等の安全化.....	12
第4節 防災施設等の整備.....	14
1. 災害用備蓄の整備.....	14
2. 避難施設の整備.....	15
3. 災害通信施設等の整備.....	17
4. 道の駅の防災機能強化.....	17
第5節 津波災害予防対策.....	18
1. 津波調査.....	18
2. 津波避難対策.....	18
3. 津波防災施設の整備.....	18
4. 津波に対する自衛体制の確立.....	19
5. 津波広報、避難訓練.....	20
第6節 要配慮者の安全確保対策.....	21
1. 在宅要配慮者への対応.....	21
2. 社会福祉施設等における防災対策.....	23
3. 外国人への防災対策.....	23
第7節 帰宅困難者対策.....	24
1. 一斉帰宅の抑制.....	24
2. 帰宅困難者収容施設の指定.....	24
3. 帰宅困難者等への情報提供.....	24

第2章 災害応急対策計画.....	25
第1節 災害応急活動体制.....	25
1. 初動体制.....	25
2. 配備体制.....	26
3. 職員の動員.....	27
4. 地域参集体制.....	27
5. 災害警戒本部.....	27
6. 災害対策本部.....	28
第2節 情報収集伝達.....	35
1. 情報連絡体制.....	35
2. 地震情報等の収集伝達.....	36
3. 被害情報の収集・調査.....	39
4. 災害報告.....	40
第3節 災害広報・広聴活動.....	43
1. 市の行う広報.....	43
2. 避難所での広報.....	44
3. 報道機関への対応.....	44
4. 被災者相談.....	45
第4節 災害救助法の適用.....	46
1. 災害救助法の適用基準.....	46
2. 減失世帯数の算定.....	46
3. 災害救助法の適用手続き.....	47
4. 救助事務の実施.....	47
第5節 広域応援・自衛隊派遣要請.....	49
1. 自治体等への応援要請.....	49
2. 消防の広域応援要請.....	51
3. 自衛隊の災害派遣.....	51
第6節 消防・救助救急・危険物等対策.....	55
1. 消防活動.....	55
2. 救助活動.....	56
3. 救急活動.....	57
4. 危険物等の対策.....	57
第7節 警備・交通・輸送.....	58
1. 警備計画.....	58
2. 交通規制.....	59
3. 緊急輸送路の確保.....	61
4. 緊急通行車両等の確認.....	62
5. 緊急輸送の実施.....	62
第8節 避難対策.....	65
1. 津波避難.....	65
2. 避難の指示等.....	65
3. 警戒区域の設定.....	68
4. 避難誘導.....	68

5. 避難所開設	69
6. 避難所等の運営	69
7. 避難所設備の整備	71
8. 避難者への支援	71
9. 要配慮者の避難対策	72
10. 広域避難・広域一時滞在	73
11. 避難所の集約及び解消	73
第9節 医療救護	74
1. 応急医療救護活動	74
2. 医薬品・医療用資器材等の確保	75
3. 被災者等の健康管理	76
第10節 防疫・清掃	77
1. 防疫活動	77
2. 避難所における衛生管理	78
3. 保健活動	78
4. 食品衛生対策	79
5. し尿の処理	79
6. ごみの処理	79
7. 環境汚染の防止対策	80
8. 障害物の除去	81
9. 動物対策	81
第11節 食料・飲料水・生活必需品等の供給	83
1. 食料の供給	83
2. 飲料水等の供給	84
3. 生活必需品の供給	85
4. 救援物資の受け入れ・管理	86
5. 県による物的支援	86
第12節 行方不明者の捜索・遺体の処理	87
1. 行方不明者の捜索	87
2. 遺体の処理	87
3. 遺体の埋火葬	88
第13節 被災住宅対策	89
1. 応急仮設住宅の供与等	89
2. 住宅の応急修理	90
3. 被災建築物の応急危険度判定	90
4. 被災建築物の撤去・解体	91
5. 被災宅地の危険度判定	91
第14節 文教対策	92
1. 災害発生時の対応	92
2. 応急教育活動	92
3. 応急保育	94
第15節 ライフライン施設等の応急・復旧	95
1. 上水道施設	95
2. ガス施設	96
3. 電力施設	96

4. 通信施設.....	97
5. 道路・橋梁.....	97
6. 公共施設.....	98
7. 鉄道施設.....	98
第16節 ボランティア活動への対応.....	99
1. ボランティア団体への要請.....	99
2. ボランティアへの対応.....	99
第17節 要配慮者への対応.....	101
1. 要配慮者の安全確認.....	101
2. 要配慮者への支援.....	101
3. 福祉仮設住宅の供給.....	102
4. 福祉施設入所者等への対策.....	103
5. 外国人への対策.....	103
第18節 孤立対策.....	104
1. 孤立地区の確認.....	104
2. 救助・救出.....	104
3. 集団避難.....	104
4. 緊急支援物資の確保・搬送.....	104
第19節 帰宅困難者対策.....	105
1. 安全確保.....	105
2. 帰宅困難者への支援.....	105
 第3章 災害復旧・復興計画.....	106
第1節 被災者生活への支援.....	106
1. 被災者台帳の作成等.....	106
2. 災害見舞金等の支給.....	107
3. 被災者生活再建支援金.....	107
4. 災害復興住宅融資.....	108
5. 権災証明書の発行.....	108
6. 災害公営住宅の供給.....	108
7. 租税等の減免等.....	108
8. 介護保険における措置.....	109
9. 職業のあっせん.....	109
10. 農林漁業への融資.....	109
11. 中小企業への融資.....	110
12. 義援金の受け付け・配分.....	110
13. 郵便事業における措置.....	110
第2節 生活関連施設等の復旧対策.....	111
1. 災害復旧事業計画.....	111
2. 災害復旧予算措置.....	111
第3節 激甚災害の指定.....	112
第4節 災害復興.....	114
1. 復興計画作成の体制づくり.....	114
2. 復興に対する合意形成.....	114
3. 復興計画の推進.....	114

4. 特定大規模災害時の措置	114
第4章 南海トラフ地震防災対策推進計画	116
第1節 計画の目的	116
第2節 防災関係機関等の処理すべき事務又は業務の大綱	118
第3節 地震防災対策計画	119
1. 関係者との連携協力の確保	119
2. 津波からの防護、円滑な避難の確保及び迅速な救助に関する事項	119
3. 時間差発生等における円滑な避難の確保等に関する事項	122
4. 地震防災上緊急に整備すべき施設等の整備計画	125
5. 防災訓練計画	126
6. 地震防災上必要な教育及び広報に関する計画	127
7. 南海トラフ地震防災対策計画	127
第5章 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震対応計画	128
第1節 計画の目的	128
1. 計画の目的	128
2. 地震・津波の想定	128
3. 定義	129
第2節 後発地震への注意を促す情報が発信された場合の対応	130
1. 北海道・三陸沖後発地震注意情報の伝達、活動体制等	130
2. 後発地震への注意を促す情報等が発表された後の周知	130
3. 災害応急対策をとるべき地域及び期間等	130
4. 市のとるべき措置	130

第1章 災害予防計画

第1節 地域防災力の向上

項目	実施担当	関係機関
1. 防災知識の普及と防災意識の啓発	危機管理課	県、関係機関
2. 広報すべき内容	危機管理課	県、関係機関
3. 教育訓練計画	各課、学校教育課	県、関係機関
4. 自主防災組織の育成、強化	危機管理課、農林水産課	安房都市広域市町村圏事務組合消防本部、社会福祉協議会、県、施設管理者、事業所

1. 防災知識の普及と防災意識の啓発

災害による被害を最小限にとどめ、被害の拡大を防止し、住民の生命、身体、財産を守るために、防災関係機関の防災対策の推進に合せて、住民一人ひとりが身の周りで起き得る災害リスクについての正しい認識を持ち、「自らの命は自らが守る」との自助意識を徹底し、日頃から災害時に取るべき行動を把握していることが最も必要なことである。このため、危機管理課、県及び関係機関は、災害危険箇所の把握に努め、この調査結果等をもとに防災知識の普及、啓発活動を行い、住民の防災知識の普及・啓発を図る。

また、発災時にプロアクティブの原則（「疑わしいときは行動せよ」「最悪事態を想定して行動せよ」「空振りは許されるが見逃しは許されない」）に則り迅速に災害対応ができるよう、職員向けの訓練や研修について見直しを行うとともに、日頃から、国・県や防災関係機関の研修を活用し、危機管理に係る知識、危機管理意識の醸成に取り組む。

(1) 実施の時期

防災に関する知識の普及啓発について、常時行うことが必要であるが、季節的に発生が予想される災害については、その季節の到来前に重点的に行う。

(2) 広報の実施方法

① 新聞の利用

各新聞社の協力を得て防災に関する知識を普及・啓発する。

② ラジオ、テレビの利用

各ラジオやテレビ局の協力を得て防災に関する知識を普及・啓発する。

③ 広報紙への掲載

防災についての知識を深めるため、広報かもがわ等の広報紙に、防災に関する知識に関する事項を掲載して関心を高める。

④ 市ホームページへの掲載

防災についての知識を深めるため、市のホームページに、防災についての知識を深める情報を掲載して関心を高める。特に鴨川市防災マップ（web版）の閲覧を促進し、災害危険区域や適切な避難行動等を普及する。

⑤ 鴨川市防災マップの配布、掲示

災害の危険区域を示した鴨川市防災マップ（震度分布、津波浸水、液状化危険度等）を作成し、住民への配布、公共施設への掲示を行う。

⑥ 防災に関する講演会、説明会、座談会の開催（県・市）

災害に関する講演会、説明会、座談会を開催して防災意識の普及・啓発を図り、災害の予防対策に役立たせるため、隨時市職員、自主防災会その他関係者を対象として実施する。

⑦ 学校教育

園児・児童生徒等の防災知識の向上を図るため、教材となる防災教育啓発資料を提供する。また、「学校教育指導の指針」等に基づき、園児・児童生徒の発達段階や学習の実態に即して、防災教育を計画的に進める。

学校においては、地域の災害リスクやとるべき避難行動等を含めた、児童生徒への防災教育の充実を図る。

⑧ 千葉県西部防災センター（県）の活用

センターのVRなどの体験施設等を通じて、災害に関する知識の普及・啓発に努める。

⑨ 事業所への防災知識の普及・啓発

防火管理者、危険物取扱者及び自衛消防隊員への講習を防災関係機関と協力して実施する。

また、防火の集い、研究会、講習会等を隨時開催し、防災知識の普及・啓発に努める。

同時に、事業所における事業継続計画（BCP）策定の普及・啓発及び支援に努める。

(3) 配慮事項

① 要配慮者への対応

防災知識の普及・啓発にあたっては、高齢者、障害者、外国人等要配慮者への広報に十分配慮することに加え、家庭動物の飼養の有無による被災時のニーズの違いに配慮するよう努めるとともに、分かりやすい広報資料の作成に努める。

② 過去の災害教訓の伝承

防災知識の普及・啓発にあたっては、東日本大震災など過去に起こった大規模災害の教訓を後世に伝えるため、災害調査の結果や資料を収集・整理し、適切に保存するとともに、市民に閲覧できるよう公開に努める。

2. 広報すべき内容

普及・啓発すべき防災広報の事項は、概ね次のとおりである。

(1) 市地域防災計画の概要

災害対策基本法第42条に基づく「鴨川市地域防災計画」の要旨の公表は、防災会議が市地域防災計画を作成し、又は修正したときに、その概要について行う。

(2) 災害予防の知識

平常時から市民、事業所等が自らの身を守るための知識、自主防災組織等の地域防災力向上のための知識、その他一般的な災害に関する知識を広報する。

(3) 災害時の心得

災害が発生し、又は発生のおそれがあるときにおいて、適切な行動がとれるよう広報する。

① 気象警報・注意報、津波警報・注意報、特別警報等の種別と対策

② 避難する場合の携帯品

③ 避難所・避難場所等

④ その他避難時の心得

また、避難情報等を確実に伝達するため、多様な手段の導入促進を図る。

3. 教育訓練計画

(1) 緊急連絡網及び動員計画の策定

各課及び関係機関は、個々の災害対策員の配備体制及び役割について、あらかじめ動員計画を定める。また、勤務外についても、緊急連絡網を定め、迅速な防災活動体制を確保する。

(2) 行動マニュアルの作成

各課及び関係機関は、個々の職員が、災害時の状況に応じて的確に対応できるよう、行動マニュアルを作成する。

(3) 職員等の防災教育の実施

危機管理課及び総務課は、職員等への防災教育を実施する。

- ① 過去に起きた災害の教訓を生かした災害予防活動の研修を実施する。
- ② 関係防災機関等が開催する研修会等に職員を参加させる。
- ③ 図上訓練やシミュレーション訓練などを実施し、職員に行動マニュアルの周知徹底を図る。

(4) 学校等における応急教育計画の策定

学校等は、災害時の応急教育計画を作成し、関係機関への連絡体制や教職員等の非常招集方法等を定める。

(5) 各種防災訓練の実施

① 避難等救助訓練

各課及び関係機関は、関係の計画に基づく避難その他の円滑な遂行を図るために、水防、消防等の災害防護活動と併せ、又は単独で訓練を実施する。

なお、学校、病院、鉄道、社会福祉施設、工場、事業所、集客施設等では、利用者、従業員等の人命保護のため、特に避難についての施設を整備し、各施設の実情に合わせ、年2回以上の訓練を実施する。また、地域住民の参加を得て、地域の実情に即した避難訓練を行うことを検討する。

② 総合防災訓練

危機管理課は、警察、消防、自衛隊及びライフライン企業、自主防災組織、NPO・ボランティア組織及び教育機関等と合同で、総合防災訓練を実施する。

(6) 業務継続計画の策定

各課及び関係機関は、災害発生後に迅速かつ円滑な業務の再開及び継続ができるよう、業務継続計画（B C P）の策定を行い、各種防災訓練時には、業務再開・継続のための訓練も実施する。

4. 自主防災組織の育成、強化

大きな災害が発生した場合、被害が広域にわたるため防災機関のみで対処することが困難になることが予想されることから、各地域で自発的に防災活動を行う自主防災組織、事業所防災組織の強化を図る。

(1) 自主防災組織の育成

市は地域住民による自主的な防災組織の設置育成に努めるとともに、日頃から大災害が発生した場合を予想した訓練の実施を推進する。

危機管理課は、自主防災組織のリーダーマニュアルを作成し、活動内容等の知識の普及を図るとともに、「鴨川市自主防災組織補助金交付要綱」により防災備品・備蓄品購入等を支援する。

また、防災関係機関の協力を得て、自主防災組織リーダー研修会、講演会及び施設見学等により、防災に対する知識の普及を図るとともに、自主防災組織リーダーの交流強化に努めるとともに、男女共同参画の観点から女性の経験や能力を活用する。

さらに、継続的な防災活動とそれを支える消防団、民生委員、小中学校、地域のボランティア等の地域コミュニティによる防災ネットワークづくりを促進する。

なお、自主防災組織に求められる活動は、次のとおりである。

■自主防災組織に求められる活動

平常時	<ol style="list-style-type: none">1 防災に関する知識の普及・啓発及び出火防止の徹底2 初期消火、避難、救出救護等各種訓練の実施3 消火用資機材、応急手当用医薬品、救助用資機材、防災資機材等の備蓄及び保守管理4 地域を知るため、地域内の避難所、地域の危険箇所などの把握及び防災マップの作成5 災害時避難行動要支援者対策6 家庭の安全点検
発災時	<ol style="list-style-type: none">1 出火防止及び初期消火の実施2 地域内の被害状況等の情報収集、住民への避難指示等の伝達、防災関係機関への連絡及び要請3 救出救護の実施及び協力4 集団避難の実施5 炊き出し、給水や救助物資の配布に対する協力

(2) 事業所防災体制の強化

① 防火管理体制の強化

施設管理者は、学校、病院、集客施設等の多数の人が出入りする施設について、消防法第8条の規定により防火管理者を選任し、消防計画の作成、各種訓練の実施、消防用設備の点検及び整備等を行う。また、初期消火体制の強化等を指導する。

雑居ビル等で管理権原の分かれているものについて、その管理権原者は、統括防火管理者を協議して選任し、当該建築物全体の消防計画の作成、各種訓練の実施、廊下、階段等避難上必要な施設の管理を行う。

② 危険物施設及び高圧ガス施設等の防災組織

危険物施設で災害が発生した場合周囲に及ぼす影響が大きいことから、施設管理者は、事業所の自主防災体制の強化及び相互間の応援体制を確立する。

高圧ガスには爆発性、毒性等の性質があり、災害によって高圧ガス施設等に被害が生じた場合には防災機関のみでは十分な対応が図られないことが考えられる。

このため、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部は危険物施設等管理者に対し自主防災体制の確立を図るよう指導する。また、県は高圧ガス関係保安団体に対し防災活動に関する技術の向上、防災訓練の実施等に関し指導・助言を与え、その育成強化を図る。

③ 事業所組織

事業所は、消防法第8条の規定により「消防計画」を作成する事業所はもちろん、地域の安全と密接な関連のある事業所については、従業員、利用者の安全を確保するとともに、地域の災害を最小限に食い止めるため、自主的に防災組織を編成し、事業所内における安全確保

の他、周辺地域の自主防災組織とも密接な連携をとり、地域の安全に積極的に寄与するよう努める。

また、その具体的な活動は、概ね次のとおりである。

- ア. 防災訓練
- イ. 従業員の防災
- ウ. 情報の収集・伝達方法
- エ. 火災その他の災害予防対策
- オ. 避難対策
- カ. 応急救護対策
- キ. 地域の防災活動への協力

(4) 中小企業の事業継続

商工観光課は、災害に対する危機管理対策の取組が遅れている中小企業者等を対象に、事業継続計画（B C P）の策定について、普及啓発と取組の促進を図る。

(3) ボランティアリーダーの養成

一般分野でのボランティア活動を組織的かつ効果的に進めるためには、その活動の中で指導的な役割を担うボランティアが必要である。

そこで、社会福祉協議会は、県が開催する研修会や講習会を通じて、普段から災害ボランティアリーダーの養成を進める。

また、中間支援組織（N P O・ボランティア等の活動支援や活動調整を行う組織）を含めた連携体制の構築を図り、復旧・復興期も含めた多様な被災者ニーズを踏まえ、各団体の多様性と継続性を活かしたボランティア活動が円滑に行われるよう、その活動環境の整備を図るものとする。

その際、行政、N P O、ボランティア等の三者で連携し、平常時の登録、研修制度、災害時におけるボランティア活動の受入れや調整、ボランティア活動の拠点の確保、活動上の安全確保、被災者ニーズ等の情報提供方策等について意見交換を行う体制を、研修や訓練、情報共有会議等を通じて推進するものとする。

第2節 地盤災害予防対策

項目	実施担当	関係機関
1. 地盤災害の防止	都市建設課	
2. 地盤の液状化対策	都市建設課	県、安房郡市広域市町村圏事務組合水道部
3. 液状化対策の広報・周知	危機管理課	県

1. 地盤災害の防止

都市建設課は、地震に伴う地盤災害による人的、物的被害を未然に防止し、被害の軽減を図るために、市が行った防災アセスメント調査等による地盤の液状化危険度等、危険地域の実態を把握し、危険箇所における災害防止策を講ずる。

なお、土砂災害の防止対策は、「風水害等編 第1章 予防計画 第3節 土砂災害予防計画」に定める。

2. 地盤の液状化対策

都市建設課、農林水産課、安房郡市広域市町村圏事務組合水道部及び県は、地震時において液状化現象の発生が予想される地域にあっては、地盤特性との関係を踏まえ、千葉県東方沖地震(1987年)、阪神・淡路大震災(1995年)、東北地方太平洋沖地震(2011年)、能登半島地震(2024年)等の教訓を生かし、施設の耐震化検討等を行う。

(1) 道路・橋梁

橋台や橋脚周辺の地盤の液状化が予測される橋梁については、橋梁の損壊を防ぐ方策を講じる。

(2) 河川・海岸

通常、河川では大地震と洪水が同時に発生する確率はかなり低いが、地盤の低い地域では通常の水位(潮位)で浸水するおそれがあり、また海岸では地震発生とともに津波が予想されるため、堤防や護岸等の液状化対策など耐震対策を緊急的に実施する必要がある。

このため、県では国土交通省で作成した堤防、護岸、水門、樋管等の各種施設の耐震点検マニュアルに基づき点検を行っており、危険度の高い箇所より液状化対策をすることとなっている。

(3) 漁港施設

県は、地震に強い港湾、港湾海岸を目指し、海岸保全施設の新設や老朽化及び機能の高質化に伴う改良等において、液状化対策を進めており、引き続き施設の重要性を考慮し液状化対策を実施する。

(4) 上水道

安房郡市広域市町村圏事務組合水道部は、液状化が予測される地域に水道施設を新設する場合は、地盤改良等の液状化対策を含めた十分な耐震性能の確保に努める。

水道管の更新にあたっては、耐震継手等の耐震適合性を有する管材を用いた管路の耐震化を計画的に推進する。

3. 液状化対策の広報・周知

(1) 液状化に関する知識の広報・周知

危機管理課は、県が平成26・27年度に作成した「液状化しやすさマップ」や「揺れやすさマップ」を用いて、市民に広報・周知を図る。

(2) 建築物

県は、建築物の基礎、杭等について建築基準法（昭和25年法律第201号）等に定められた構造基準への適合を図るとともに、パンフレットの配布、講演会の実施等により建築物の所有者、設計者に対し、液状化対策に関する普及・啓発に努める。

第3節 防災都市づくり

項目	実施担当	関係機関
1. 出火防止		安房都市広域市町村圏事務組合消防本部
2. 建築物の不燃化対策	都市建設課	県
3. 土地区画整理事業等	都市建設課	県
4. 建築物の防災対策	都市建設課、各施設を所管する課	
5. ブロック塀等倒壊防止及び落下物対策の推進	都市建設課	県
6. ライフライン等の耐震対策		安房都市広域市町村圏事務組合水道部、県、東京電力パワーグリッド（株）、NTT東日本（株）
7. 道路等交通施設の整備	都市建設課、農林水産課	県、東日本旅客鉄道（株）
8. 港湾施設の安全化	農林水産課	県
9. 危険物施設等の安全化		県、安房都市広域市町村圏事務組合消防本部

1. 出火防止

(1) 建築物等の出火防止

安房都市広域市町村圏事務組合消防本部は、次の対策を実施する。

① 一般住宅等

地震に関する一般知識の広報活動や住宅防火診断の実施等により、防災性にすぐれた住環境づくり、出火防止と初期消火の重要性についての指導を推進する。

② 防火対象物の防火管理体制の確立

防火管理者選任義務対象の防火対象物には、必ず防火管理者の選任を期すとともに、小規模防火対象物についても、地震に対する事前対策と発災時の応急対策が効果的に行えるよう指導を強化し、職場における防火管理体制の確立を図る。

特に、劇場、ホテル、病院及び高層建築物等火災時の危険性の高い建築物に対しては、指導の強化を図る。

また、複数の用途が存在し、管理権原が別れている雑居ビル、地下街等の防災体制については、統括防火管理体制が確立されるよう指導するとともに、災害時には事業所の共同防火管理協議会が中心となった防災体制がとれるよう指導する。

③ 予防査察の強化指導

消防法第4条の規定による立入検査を強化し、消防対象物の用途に応じた計画的な査察等を実施し、消防対象物の状況を把握するとともに、火災発生危険の排除に努める。

④ 消防同意制度の活用

建築物の新築、改築等の許可、認可、確認の同意時、防火の観点からその安全性を確保するため、消防法第7条に規定する消防同意制度の効果的な運用を図る。

(5) 住宅用防災機器の設置

消防法に基づき住宅用防災機器の設置が義務づけられたため、すべての住宅(寝室、階段等)に住宅用防災警報器、住宅用防災報知設備を設置するように指導する。

(2) 初期消火

安房都市広域市町村圏事務組合消防本部は、家庭及び職場での初期消火の徹底を図るため、家庭や職場に対して消火器具の設置を奨励する。

また、地域住民に対して初期消火に関する知識、技術の普及を図る。

2. 建築物の不燃化対策

都市計画法に基づき、防火地域、準防火地域の指定を行い、木造建築物の延焼防止、耐火建築の促進を図る。

(1) 建築物の防火規制

都市建設課及び県は、防火、準防火区域及び建築基準法第22条による「屋根不燃区域」の指定により、木造建築物の延焼防止、耐火建築の促進を図る。

(2) 都市防災不燃化促進事業

都市建設課は、大規模な地震等に伴い発生する火災から住民の生命・財産を守るために、避難地・避難路・延焼遮断帯の周辺等の一定範囲の建築物の不燃化を促進する。

3. 土地区画整理事業等

既成市街地における建築物の過密、用途の混在等の都市環境の悪化、道路、公園、駐車場等の未整備による都市機能の低下等の問題に対処していくため、土地区画整理事業等により都市の防災化を推進する。

(1) 延焼遮断帯の整備

市内を防火区画に区分することで広域火災の発生を未然に防止する観点から、市街地整備等の事業を通じて道路等の延焼遮断帯としての機能強化・整備を進める。

県及び都市建設課は、交通及び防災等総合的に検討し、特にその効果の著しい広幅員の道路については緊急性の高いものから整備を促進する。

(2) オープンスペースの確保

県及び都市建設課は、市街地及びその周辺部におけるオープンスペースを確保し、やすらぎのある快適な公園の整備を図るとともに、緑の基本計画に基づく計画の実現に努め、住民参加の緑化運動の推進などを通じて緑の保全を図り、うるおいのあるまちづくりを目指して、緑化の推進を図るとともに、それらの公園に防災機能を持たせるよう努める。

4. 建築物の防災対策

(1) 公共建築物の防災対策

不特定多数の者が利用する特殊建築物の新築等については、県が作成をした「防災計画書作成指導指針」に基づき、建築主及び設計者に防災計画書の作成を指導し、防災設計の推進と防災意識の高揚を図る。

また、既存の特殊建築物については、建築基準法第12条第1項の規定による定期調査報告

制度を活用するほか、予防査察を実施し、所有者等に必要な改善指導をし、建築物の安全性の確保を図る。

(1) 体制の整備

各施設を所管する課は、非常時における各職員、施設利用者の役割や行動について、各施設の内容に応じた実践的な想定を踏まえ、利用者・職員への防災手引書作成及び実践的な訓練の定期的実施を推進する。

(2) 防災点検の実施

各施設を所管する課は、事務用家具・備品類の固定、危険物等の引火性物質の安全管理、施設建物及び壁、塀等の耐震・耐久性能の調査、補強、防災設備の作業点検等を行い、普段からできる限りの危険排除に努める。

(3) 公共建築物等の耐震診断・耐震改修の実施

各施設を所管する課は、「鴨川市耐震改修促進計画」（令和5年3月改定）に基づき、耐震診断及び耐震改修に努める。

(4) 非常用電源対策の実施

災害対策本部の置かれる市役所本庁舎については、非常用電源を設置するとともに、それが72時間稼働できるよう、燃料等の備蓄増強を図る。

なお、停電の長期化に備え、燃料販売事業者等との優先供給に関する協定を締結している。

(2) 施設の移転

各施設を所管する課は、管理する施設が津波の浸水想定区域内にあり、警戒避難体制の構築によっても利用者等の安全を確保できない場合は、安全な場所への施設移転を検討する。

(3) 既存建築物の耐震性向上に向けた耐震診断・改修及び空き家対策の促進

都市建設課は、「鴨川市耐震改修促進計画」（令和5年3月改定）に基づき、住宅及び特定建築物の耐震化目標を95%と定め、耐震化を促進する施策を実施する。

(1) 耐震診断・耐震改修への支援

鴨川市木造住宅耐震診断費補助金交付要綱に基づき、一定要件を満たす一戸建て木造住宅の耐震診断に要する費用の一部を補助する。

(2) 知識の普及及び情報提供

建築物の所有者に対し、鴨川市防災マップ、パンフレットの公表、関係団体の協力による無料相談会等により、耐震診断、耐震改修及び家具の転倒防止等に関する啓発、知識の普及を実施する。

(3) 大規模施設の耐震化促進

旧耐震基準の旅館・ホテル等大規模施設の耐震診断・耐震改修に対する支援を検討する。

また、空き家となっている建築物の倒壊等による周辺への被害発生を防ぐため、平時から空き家対策を推進する。

(4) 被災建築物の応急危険度判定体制の整備

都市建設課は、応急危険度判定士認定要綱に基づき、建築士等の建築技術者に対し、応急危険度判定に必要な建築技術を習得させるため、千葉県主催の講習会への参加を推進する。

(5) 連絡協議会体制の整備と普及・啓発の推進

都市建設課は、県及び県内の市町村で設立した連絡協議会の活動を通し、既存建築物の地震対策等に関する住民への普及・啓発のための施策を推進するとともに、民間の建築関係団体との連携も強化していく。

5. ブロック塀等倒壊防止及び落下物対策の推進

(1) ブロック塀等倒壊防止

都市建設課は、ブロック塀や石塀等の倒壊による人的被害を防止し、避難、消防・救援活動の妨げとならないよう小・中学校・認定こども園の周辺の道路等を中心に実態を調査し、危険なものについては、改修を指導する。加えて、既設のブロック塀等の倒壊防止や安全確保のための施策の推進に努める。

さらに、県等関係機関と連携して、施工業者、ブロック塀の所有者、管理者を対象とした講習会の開催による正しいブロック塀等の施工方法の周知徹底を図る。

また、住民に対しては、地震時のブロック塀からの危険回避について、普段からPR強化に努める。

(2) 落下物対策

県は、屋外及び屋内の落下物等による人的被害を防止し、避難・消防・救助活動の妨げとならないよう、「千葉県落下物防止指導指針」(平成2年11月制定)に基づき、窓ガラス等の落下に関する専門知識及び技術の普及・建築物の所有者等への啓発等に努める。

また、人通りの多い道路や国・県道等主要道路に面する地上3階以上の既存建築物を対象に、窓ガラス等の落下による危険性のあるものについては、改修や補修の指導を徹底する。

6. ライフライン等の耐震対策

(1) 水道施設

「安房地域水道事業統合・広域化基本計画(令和6年度策定)」に基づき、広域的な視点から施設の再編や基幹管路の耐震化を重点的に推進し、地域全体の供給安定性と強靭性の向上を図る。

また、安房都市広域市町村圏事務組合の構成市町と密接に連携し、広域的な相互応援体制によるライフラインの復旧に努める。

大規模地震等により本復旧に長期間を要することが見込まれる場合は、応急仮設配管等の積極的な活用により、避難所や重要施設等への早期の通水確保を図る。

(2) 電気施設

東京電力パワーグリッド株式会社は、法令に定める技術基準に適合するよう設備の耐震化を推進する。

(3) LPGガス

LPGガス事業者は、県の指導により転倒・転落防止措置、マイコンメーター等の安全器具の普及、地震時のバルブ等開閉措置の啓発等を図る。

(4) 電話施設

NTT東日本株式会社は、法令に定める技術基準に適合するよう設備の耐震化を推進する。また、電気通信設備の安全・信頼性強化に向けた取組みの推進に努め、特に、市庁舎等の重要な拠点の通信確保に配慮する。

7. 道路等交通施設の整備

(1) 道路及び橋梁の整備

各道路管理者は、耐震対策を実施し、安全確保に努める。

- ① 道路については、特に崩落の危険性のある法面について、安全対策を実施する。
- ② 特に緊急輸送については、必要な輸送機能を確保できるよう、橋梁や法面対策等耐震対策を最優先に実施する。
- ③ 橋梁については、地震対策上緊急性の高い橋梁から順次耐震対策を実施する。
- ④ 住宅密集地の狭い道路について、狭あい道路整備事業により拡幅を図る。

(2) 鉄道施設の整備

- ① 耐震列車防護装置の整備

東日本旅客鉄道（株）は、地震時に運転中の列車を速やかに停止させるため、在来線早期地震警報システムを導入している。

- ② 構造物の耐震化

防災工事に耐震性を考慮した線区防災強化を推進している。

8. 港湾施設の安全化

耐震強化岸壁の近隣の空地を災害用ヘリコプター離発着場として位置づけるほか、国道からの接続道路を県緊急輸送道路として指定されている。

本市には、県が管理する第3種小湊漁港、天津漁港、鴨川漁港、市が管理する第2種漁港外5漁港があり、特に県が管理する第3種の3漁港は県の漁港漁場整備計画で、防波堤及び護岸の整備、航路、泊地の浚渫、施設の補修、陸揚げの効率性を高める整備等が計画されている。

9. 危険物施設等の安全化

(1) 高圧ガス関係

高圧ガスは、液化ガス又は圧縮ガスの状態において製造し、貯蔵、消費及び輸送されるが、設備の破損や取扱不注意によっては、周辺地域に影響を及ぼすことが予想されるため、県は指導を行い地震時の災害を防止する。

(2) 危険物施設関係

安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部及び県は、消防法第11条の規定により許可された危険物施設等について、不測の事態に備える防災体制を整えるため、下記の対策を実施するよう指導し、地震時の災害を防止する。

① 設備面の対策

- ア. 地震による局所的な応力集中による配管や法兰ジ継手等の変形、破損、漏洩を防ぐため、変位を有効に吸収する構造とするほか、配管及び支持方法についても配慮する。
- イ. 地震の振動等により損傷を受けるおそれのある散水配管、消火設備、ドレンピット等については、配置換え等を行う。
- ウ. 防火壁等の倒壊防止のため配筋等を再検討し、必要に応じ、ひかえ壁等を設置する。
- エ. 停電等に際しても設備の安全が保持できるよう電源等の支援設備を備える。
- オ. 設備を新設する場合は、消防法による耐震基準に基づき設計する。

② 保安体制面の対策

- ア. 作業標準等を整備し、非常停止等の作業が的確に措置されるよう保安教育、訓練を実施する。
- イ. 点検基準を見直し、日常の点検及び地震後の異常の有無確認について的確化を図るとともに、従業員への周知を徹底する。
- ウ. 夜間、休日の応急体制、命令系統、通報体制について明確化を図る。

(3) 少量危険物施設関係

安房都市広域市町村圏事務組合消防本部は、不測の事態に備える防災体制を整えるため、下記の対策を実施するよう指導し、地震時の災害を防止する。

① 設備面の対策

- ア. 無届出施設の防止に努め、貯蔵又は取扱いの技術上の基準の遵守を強力に指導する。
- イ. 地震による局所的な応力集中を排除する配管の緩衝装置、地震動によるタンク本体の転倒、落下防止構造について配慮する。

② 保安体制面の対策

- ア. タンクの元弁及び注入口の弁又はふたは、危険物を入れ、又は出すとき以外は封鎖するよう指導する。
- イ. 地震後の異常の確認の実施及び応急措置について指導する。
- ウ. 定期自主検査の完全実施を指導する。

(4) 火薬類関係

火薬類取扱施設について、防災体制を整えるため、県は下記の対策を指導し地震時の災害を防止する。

① 製造所への対策

- ア. 従事者への保安教育を実施し、保安意識の高揚を図る。
- イ. 定期自主検査の完全実施を指導する。

② 火薬庫への対策

- ア. 地すべり防止区域に火薬庫を設置しないよう指導する。
- イ. 火薬類取扱保安責任者の講習会を実施し、保安意識の高揚を図る。
- ウ. 定期自主検査の完全実施を指導する。
- エ. 応急消火設備を設置するよう指導する。
- オ. 延焼防止対策を施すよう指導する。

③ 点検及び通報

一定規模以上の地震が県内で観測された場合は、火薬庫、製造所等の占有者は速やかにその占有する施設の点検を実施し、被害の有無等を県へ通報するよう指導する。

(5) 毒物劇物取扱施設

安房都市広域市町村圏事務組合消防本部及び県は、下記の対策を実施し、地震時の災害を防止する。

- ① 立入検査体制の整備、強化を図る。
- ② 毒物劇物貯蔵タンク等の整備点検について十分留意させ、防災を考慮の上、耐震設備を講ずるよう指導する。
- ③ 中和剤等の確保及び事故発生時の応急措置体制について指導する。
- ④ 危害防止規定を作成し、管理責任体制を明確にするよう指導する。
- ⑤ 毒物劇物関係業者に対して講習会を開催し、法の遵守の徹底を図る。

第4節 防災施設等の整備

項目	実施担当	関係機関
1. 災害用備蓄の整備	危機管理課	
2. 避難施設の整備	危機管理課、 学校教育課、関係各課	
3. 災害通信施設等の整備	危機管理課	
4. 道の駅の防災機能強化	商工観光課	

1. 災害用備蓄の整備

(1) 備蓄品の整備

危機管理課は、「災害時の緊急物資等の備蓄に関する計画」（千葉県）に基づき、発災から3日間は最低限必要な食料を備蓄で対応するよう緊急用食料、生活必需品及びその他の応急対策用資機材の備蓄量の増加を図る。

備蓄は避難所となる協定避難所や小中学校の空き教室等を活用して行うほか、備蓄品を適正に保管し、集配を管理するため、備蓄倉庫の整備を図る。

また、備蓄物資の中で耐用年数のあるものについては、随時点検入替えを行い、品質管理及び機能維持に努める。

避難生活に必要な物資の備蓄状況については毎年1回住民に公表するものとし、公表する品目（区分）は、内閣府が令和7年1月に公表した「災害用物資・機材等の備蓄状況に関する調査結果」を参考とする。

なお、備蓄物資の選定に際しては、生命維持や生活に最低限必要な食料・飲料水・簡易トイレ・携帯トイレ・常備薬・マスク・消毒液・段ボールベッド・パーテイション・炊き出し用具・毛布・その他生活必需物資や感染症対策を含む避難所運営に必要な資機材、家庭動物の飼養に関する資材等を中心とした備蓄に努める。また、地域特性や要配慮者・女性・子供（特に乳幼児）の避難生活、食物アレルギーなどに配慮する。

■市の備蓄目標

- 津波により自宅が浸水し備蓄を取り出せない住民を対象とする。便宜上、建物1棟=1世帯とする。
- 県の方針から3日間を備蓄で対応することとし、1日は非常時のため2食とする。
- 必要量の100%を市の備蓄とする。

$$3,000 \text{ 棟} \times 2.1 \text{ 人／世帯} \times 3 \text{ 日} \times 2 \text{ 食} \times 100\% = \text{約 } 38,000 \text{ 食}$$

さらに、災害対策本部の置かれる市役所本庁舎については、非常用電源を設置するとともに、それが72時間稼働できるよう、燃料等の備蓄増強を図る。

なお、停電の長期化に備え、燃料販売事業者との優先供給に関する協定を締結している。

災害予防責任者は、法令又は防災計画の定めるところにより、その所掌事務又は業務に係る災害応急対策又は災害復旧に必要な物資及び資材を備蓄し、整備し、若しくは点検し、又はその管理に属する防災に関する施設及び設備を整備し、若しくは点検しなければならない。

2 地方公共団体の長は、毎年一回、前項の規定による物資の備蓄の状況を公表しなければならない。

(2) 民間等との協定促進

危機管理課は、大手スーパー、生活協同組合、コンビニエンスストア等の流通業者との災害時援助協定を推進して、在庫を利用した流通備蓄の活用を図る。

また、大量な物資の仕分けや避難所への輸送等について民間物流事業者と連携して人員や資器材を確保するなどの体制整備に努める。

(3) 他団体との協力

危機管理課は、市内業者からの調達では間に合わない場合は、県もしくは近隣市町村に応援を要請し、対処する。

また、内閣府の「新物資システム（B-PLo）」を活用することにより、国、都道府県、他市町村、防災関係機関間において備蓄情報の共有化を図る。

(4) 住民への備蓄の推進

危機管理課は、公共備蓄の物資が、被災者に対して迅速に供給できない場合を想定して、各家庭で「最低3日、推奨1週間分」の食料、飲料水等の備蓄を進めるほか、各職場においても備蓄の充実に努めるよう、防災関連行事等を通じて備蓄の推進を図る。合わせて、食料、飲料水、非常持出袋（モバイルバッテリー含む）の備えなど避難生活を想定した備蓄の促進に努める。

また、事業所等においては、従業員、来客等を考慮した備蓄を行うよう周知を行う。

2. 避難施設の整備

(1) 避難場所の指定等

危機管理課は、災害対策基本法第49条の4から第49条の9に基づき、津波、洪水、土砂災害等から円滑に避難するための「指定緊急避難場所」、避難者及び住居を失った被災者等を一時滞在させる「指定避難所」を指定するため、同法施行令及び施行規則に適合する施設の調査、選定を行う。指定にあたっては県知事への通知及び公示を行うほか、鴨川市防災マップ等で緊急避難場所や適切な避難行動等を周知するよう努める。

また、要配慮者に特別の配慮をするための避難施設（福祉避難所）の協定先の増加と指定促進に努める。

(2) 避難所の整備

危機管理課、学校教育課及び関係各課は、「災害時における避難所運営の手引き」により、避難所の選定を行うものとし、特に避難所の整備については、手引きの内容及び次の点に留意する。

- ① 避難所の開設が予定されている施設の耐震性を確保するとともに、対象地域の被災住民を収容できる規模をもって適切に配置する。
- ② 避難所に指定した建物については、必要に応じ、給水、トイレ、電源、通信、空調、換気、照明、テレビ・ラジオ等避難生活の環境を良好に保ち、要配慮者にも配慮した設備の整備に努める。

なお、トイレ環境の整備にあたっては、より快適なトイレの設置に配慮するよう努める。
③ 上記②の設備を稼働させるために必要な電源や燃料の確保を図る。また、その際、必要に応じ指定避難所の電力容量の拡大やエネルギーの多様化に努める。

- ④ 避難所における救護所、貯水槽、井戸、通信機器等施設、設備の整備に努める。
- ⑤ 避難所における公衆無線LAN等の整備に努める。
- ⑥ 避難所に食料（アレルギー対応食品等を含む）、水、非常用電源、常備薬、炊き出し用具、

毛布、簡易ベッド、仮設トイレ等避難生活に必要な物資等の備蓄に努める。また、灯油、LPGガスなどの非常用燃料の確保等に努める。

- ⑦ あらかじめ避難所内の空間配置図、レイアウト図などの施設の利用計画を作成するよう努めるものとする。また、要配慮者に特別の配慮をするための避難施設（福祉避難所）の整備に努め、簡易ベッド、簡易トイレ等の設備及び避難時の介助員の配置等について検討する。また、受入れ対象者を特定して指定福祉避難所として公示し、平時からその周知に努める。
- ⑧ 避難生活の長期化に対応するため、間仕切りや照明等、被災者のプライバシー及び安全を確保するための設備の整備に努める。
- ⑨ 避難所運営マニュアルの作成、訓練等を通じて、避難所の運営管理のために必要な知識等の普及に努める。その際、住民等への普及にあたっては、住民等が主体的に指定避難所を運営できるように配慮するよう努める。特に、夏季には熱中症の危険性が高まるため、熱中症の予防や対処法に関する普及啓発に努める。
- ⑩ 指定管理施設が指定避難所となっている場合には指定管理者との間で事前に避難所運営に関する役割分担等を定めるよう努めるものとする。
- ⑪ 指定避難所となる施設については、必要に応じ、良好な生活環境を確保するために、換気、照明等の施設の整備に努める。また、感染症対策について、感染症患者が発生した場合の対応を含め、平常時から危機管理課と健康推進課等が連携して、必要な場合には、専用スペースへの誘導等の対応、ホテルや旅館等の活用等を含めて検討する。
- ⑫ 保健師、福祉関係者等の様々な主体が行う状況把握を円滑に行うことができるよう、平時から実施主体間で調整し、状況把握が必要な対象者や優先順位付け、個人情報の利用目的や共有範囲の検討に努める。
- ⑬ 在宅避難者の発生や避難所の不足等に備え、地域の実情に応じ、在宅避難者等が利用しやすい場所に在宅避難者等の支援拠点を設置すること等、在宅避難者等の支援策を平時から検討するよう努める。
- ⑭ やむを得ず車中泊となる避難生活者に備え、地域の実情に応じて車中泊避難スペースの設置等、車中泊避難者の支援策の検討に努める。その際、車中泊での健康上の留意点等の広報や車中泊避難者の支援に必要な物資の備蓄に努める。

(3) 感染症対策

健康推進課は、避難所における感染症を防止するため、次の対策を推進する。

- ① 避難行動の周知
- 避難所での感染を防止するため、災害時には危険な場所にいる人は避難することが原則のもと、適切な避難行動を住民に周知する。
- ア 鴨川市防災マップによる避難の要否（避難が必要な区域等）の確認
- イ 避難時の持出品（マスク、体温計等）の準備
- ウ 避難所以外の避難先（親戚、知人宅等）の確保
- ② 自宅療養者等の避難確保
- 平時から安房保健所（安房健康福祉センター）と連携し、避難指示等発令時における自宅療養者や濃厚接触者の避難の要否、避難方法、避難先について検討する。
- ③ 避難所の確保
- 避難所の過密を防止するため、災害初期から開設する避難所を増設するほか、市内の宿泊施設や研修施設との災害応援協定を推進するとともに、これらの施設への優先避難者（高齢者、基礎疾患有する方等）を検討する。
- ④ 避難所の環境整備
- 避難所における感染防止に必要な装備や備品（フェイスシールド、非接触型体温計、消毒

液、パーティション、段ボールベッド等)を備蓄し、避難所担当職員等に対応を習熟する訓練を実施する。

(4) **避難路の整備**

危機管理課は、道路の安全性の点検及び避難誘導標識の設置等適切な措置を講じる。

3. 災害通信施設等の整備

(1) **防災行政無線の整備**

危機管理課は、防災行政無線の施設、設備の更新を図る。また、難聴地域への屋外拡声器の増設とともに、停電対策としてバッテリーの大容量化を図る。

(2) **新たな通信機器の導入**

危機管理課は、地域防災拠点等との通信を確保するための手段について検討する。

また、市民に情報を伝達するために防災ラジオ等を導入し、普及を促進する。

(3) **アマチュア無線の活用**

危機管理課は、災害時における情報収集等を行うため、アマチュア無線団体との協力体制について検討する。

(4) **通信・報告手段の冗長性の確保**

危機管理課は、災害時において停電等により県防災情報システムが利用できない場合を想定した通信・報告手段を確保しておく。

(5) **モバイルバッテリーの確保**

危機管理課は、業務用の携帯電話・スマートフォンについて、停電時でも充電が可能となるよう、モバイルバッテリーを確保しておく。

(6) **ドローンの活用**

危機管理課は、災害時における被害状況等の確認にドローンを活用するため、民間団体等との協力体制の構築を図る。

4. 道の駅の防災機能強化

商工観光課は、災害時において地域住民や道路利用者、観光客への安全・安心な場や災害情報の提供の場となり得る道の駅「鴨川オーシャンパーク」について、必要に応じて防災機能強化に努める。

第5節 津波災害予防対策

項目	実施担当	関係機関
1. 津波調査	危機管理課	
2. 津波避難対策	危機管理課	県
3. 津波防災施設の整備	都市建設課、農林水産課、危機管理課	県
4. 津波に対する自衛体制の確立	危機管理課、農林水産課、商工観光課	
5. 津波広報、避難訓練	危機管理課	

1. 津波調査

本市は、過去には1703年12月31日（元禄16年11月23日）に発生した元禄地震などによる津波被害を経験している。また、現在も地震活動の空白域である東海地方をはじめとする関東近海の地震ばかりでなく、遠隔地の地震においても、津波の襲来が懸念される。

このように津波防災対策は、本市にとって重要課題のひとつであるため、危機管理課は、過去の津波記録、文献資料の収集、伝承・体験情報の収集などの調査を進める。

2. 津波避難対策

(1) 津波浸水予測図の作成・周知

危機管理課は、県が平成23年度に作成した津波浸水予測図及び平成28年度に公表した「地震被害想定調査」における津波浸水域に基づき、浸水する範囲を記載した鴨川市防災マップを作成し周知する。

(2) 津波避難ビル等の指定

危機管理課は、(1)による津波浸水予測図に基づき、津波から避難が困難と想定される地域に対し、緊急的・一時的に避難する津波避難ビル及び津波避難場所を指定する。

なお、津波避難ビルについては令和7年9月現在、40箇所が指定されている。

(3) 津波避難計画の見直し

危機管理課は、市民の迅速な避難行動ができるよう、避難計画、初動体制、避難指示の発令等を定めた「鴨川市津波避難計画」（平成30年4月改訂）を作成している。

今後は、個別避難計画の実効性を確保する観点等から、多様な主体の協力を得ながら、新たな津波浸水予測や津波避難ビル等の指定に合わせて見直しを図る。

3. 津波防災施設の整備

(1) 津波防波堤の検討

県は、海岸保全施設については、今まで、侵食、高波及び高潮に対する施設整備を進めており、その規模を超える津波に対してはソフト対策で対応することとしていたが、東北地方太平洋沖地震による津波により、九十九里浜を中心に甚大な被害が発生したことから、「千葉東沿岸海岸保全基本計画」を変更し、発生頻度の高い津波から防護するための海岸保全施設等の整備

を海岸の利用形態や環境面に配慮しながら、地元の意見を踏まえて実施する。

(2) 防災施設点検、診断及び改修、補強

既存の防波堤等の防災施設は、ほとんどが高潮を想定した設計基準に基づき築造されている。都市建設課は、特に建設年次の古い施設については、老朽度、天端高の点検及び設置地盤の液状化を含む耐震性診断を南部漁港事務所、安房土木事務所鴨川出張所と連携して整備に努める。農林水産課は、漁港海岸について整備に努める。

(3) 護岸等の避難階段、避難口の設置

都市建設課及び農林水産課は、直立構造の護岸、堤防等で避難階段が少ない施設について、海水浴場等の利用形態に応じ、避難階段、避難口等の設置を行うよう南部漁港事務所、安房土木事務所鴨川出張所と連携して整備に努める。農林水産課は、漁港海岸について整備に努める。

(4) 津波避難施設の整備

危機管理課は、浸水予測図に基づき津波から避難が困難と想定される地域における避難場所の確保に努める。

4. 津波に対する自衛体制の確立

(1) 住民等への情報伝達体制の確立

① 情報伝達手段の整備

危機管理課は、住民等への情報伝達や避難指示等を迅速かつ確実に実施するため今後とも防災行政無線の拡充に努めるほか、多様な情報伝達手段について検討する。

② 海水浴場等の自主的情報伝達

危機管理課及び商工観光課は、海水浴場、観光施設の責任者等に対して、ラジオ、防災行政無線等の情報伝達手段の聴取や市の関係各課と連絡により、自主的に観光客等に情報伝達を行う体制づくりを指導する。

③ 漁港、船舶等の情報伝達

農林水産課は、各漁業協同組合等に対して、伝達システム、手段、具体的実施方法等を検討のうえ、迅速な情報伝達体制づくりを指導する。

(2) 津波避難体制の確立

① 住民等の自主避難

危機管理課は、防災行政無線による避難指示によって、住民の自主的避難が行えるよう自主防災組織、町内会等の避難体制づくりを支援する。特に、避難行動要支援者の支援方法等について検討する。

② 誘導者の行動ルールの作成

危機管理課は、避難行動支援者、消防吏員、消防団員、警察官、市職員等の避難誘導を行う者の危険を回避するため、行動ルールについて定める。

③ 標識等の整備

危機管理課は、観光客等に避難場所等を周知するために、避難場所案内板や避難誘導標識等の整備、鴨川市防災マップ等の掲示を行う。

④ 海水浴場等の自主避難

危機管理課及び商工観光課は、海水浴場等の多数が集まる場所については、海水浴場の管理者等の判断により自主的、主体的に避難誘導を行う体制の確立について指導する。

5. 津波広報、避難訓練

(1) 津波広報

危機管理課は、「地震イコール津波・即避難」の認識が、沿岸地域に限らず全域的に共通認識として定着するよう、広報紙、パンフレット、テレビ、ラジオ、新聞等の多種多様な広報媒体を活用し、防災訓練等あらゆる機会をとらえて繰り返し、分かりやすい広報に努める。

(2) 津波避難訓練の実施

危機管理課は、住民、事業者等が一体となった津波避難訓練を実施する。

また、自治会・自主防災組織、観光施設等による地域の津波避難訓練の実施を支援する。

第6節 要配慮者の安全確保対策

項目	実施担当	関係機関
1. 在宅要配慮者への対応	福祉課、子ども支援課、健康推進課、危機管理課	県
2. 社会福祉施設等における防災対策	福祉課、子ども支援課	県、社会福祉施設の管理者
3. 外国人への防災対策	市民生活課、危機管理課	県

1. 在宅要配慮者への対応

福祉課は、災害対策基本法第49条の10から第49条の13の規定に基づき、避難行動要支援者の名簿を作成するなど、要配慮者の支援体制づくりを行う。

(1) 災害支援体制

自主防災組織、民生委員・児童委員、消防団、福祉関係者等と連携し、それぞれの避難行動要支援者に対応する避難支援協力員を明確化する。避難支援協力員は、避難行動要支援者本人の意向を極力尊重した上で、原則として、自主防災組織、福祉関係者やボランティア等から複数名選出する。

(2) 避難行動要支援者の範囲

要配慮者（高齢者、障害者、乳幼児その他の特に配慮を要する者）のうち、災害が発生し、又は災害が発生するおそれがある場合に自ら避難することが困難な者であって、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るために特に支援を要する者とする。

■対象の範囲

- ① 75歳以上の人一人暮らしの者
- ② 75歳以上のみで構成された世帯に属する者
- ③ 要介護3・4・5の認定を受けている者
- ④ 身体障害者手帳1・2級を所持する者
- ⑤ 療育手帳Ⓐ又はAの1、Aの2を所持する知的障害者
- ⑥ 精神障害者保健福祉手帳1級を所持する者
- ⑦ 常時特別な医療等を必要とする在宅療養者
- ⑧ 乳幼児（0～3歳）
- ⑨ 妊産婦
- ⑩ その他災害時の自力避難に不安を抱く者等で、市長が支援を必要と認めた者

(3) 個人情報とその入手方法

避難行動要支援者に関する情報については、市の通常業務を通じて把握するものとし、要介護認定情報、障害者手帳台帳、母子健康手帳の発行状況、住民基本台帳等を活用する。

(4) 個人情報の更新

個人情報の見直しは、原則として毎年行うものとする。

(5) 避難行動要支援者名簿の作成・提供

避難行動要支援者の名簿は、対象者本人による申出（手上げ方式）、自主防災組織・民生委員・児童委員等が登録を働きかけ、本人の同意を得て行う方式（同意方式）により作成する。

作成した名簿については、災害発生時における避難支援等を円滑に実施するため、必要最小限度の範囲において、鴨川消防署、鴨川警察署、民生委員・児童委員、社会福祉協議会、自主防災組織その他避難支援等の実施に携わる関係者に対し、事前に提供する。ただし、名簿情報の提供について、本人の同意が得られない場合は、この限りではない。

(6) 情報漏洩を防止する措置

避難行動要支援者名簿を自主防災組織等に提供する場合には、誓約書等の提出を求めるなど、適切な措置を講じ、個人情報の漏えい防止を図る。

(7) 避難行動要支援者システムの活用

避難行動要支援者システムに登録されている住民基本情報については、定期的に更新を行うとともに、発災時には必要に応じて特定の区域内に居住する避難行動要支援者の情報を速やかに抽出できるよう、隨時、適切な保守・管理（メンテナンス）を行う。

(8) 個別避難計画の作成

個別避難計画は、避難行動要支援者一人ひとりについて、災害時における避難方法及び避難支援を行う者等を、本人及び家族等とともにあらかじめ定め、定期的に見直し・更新を図る。

また、避難行動要支援者及び避難支援等実施者（当該個別避難計画に氏名等が記載された避難支援等の実施者）が同意した場合は災害対策基本法に基づいて避難支援等関係者に対して個別避難計画情報を必要な限度で提供するとともに、情報漏えい防止など必要な措置を講じる。

(9) 避難支援関係者等の安全確保

避難支援者の安全を確保するため、関係者等が話し合って支援ルールを定め、支援できない可能性もあること等を避難行動要支援者等に理解してもらうように努める。

(10) 防災設備等の整備

福祉課及び関係機関は、一人暮らし高齢者、ねたきり高齢者等の安全を確保するため緊急通報システム等の整備に努めるとともに、在宅者の安全性を高めるため、自動消火器及び火災報知器等の設置等の推進に努める。

なお、障害者については、障害の種類及び程度に応じて情報を迅速かつ確実に取得できるよう、また、緊急通報を円滑な意思疎通により迅速かつ確実に行うことができるよう、伝達体制や仕組みも含めて必要な施策の実施に努める。

その他、災害に関する情報及び被災者に対する生活情報を大規模停電時も含め常に伝達できるよう、その体制及び施設・設備の整備に努める。

(11) 避難施設等の整備

福祉課、子ども支援課及び危機管理課は、要配慮者に特別な配慮をするための福祉避難所の整備に努め、要配慮者が避難生活に必要となる資機材等をあらかじめ避難施設へ配備するよう努める。

市は、国の「避難所における良好な生活環境の確保に向けた取組指針」や県の作成した「災害時における避難所運営の手引き」に基づき、要配慮者や女性に十分配慮した構造・設備及び運営の確保に努める。

(12) 防災知識の普及・啓発、防災訓練の充実

福祉課及び関係機関は、要配慮者及びその家族に対し、パンフレット、ちらし等を配布する

等、広報の充実を図るとともに、地域の防災訓練への積極的参加を呼びかけ、防災知識の普及・啓発に努める。

2. 社会福祉施設等における防災対策

(1) 防災施設等の整備

社会福祉施設の管理者は、施設の安全性の確保に努める。また、電気・水道等の供給停止に備えて、施設入所者が最低限度の生活維持に必要な食料、飲料水、医薬品類等の備蓄を行うとともに、施設機能の応急復旧等に必要な非常用自家発電機等の防災資機材の整備を行う。

(2) 組織体制の整備

社会福祉施設の管理者は、あらかじめ防災組織を整え、施設職員の任務分担、動員計画、緊急連絡体制等を明確にしておく。

また、福祉課との連携のもとに、施設相互間、近隣住民及び自主防災組織等の協力が得られるよう体制づくりを行う。

(3) 防災教育の充実

社会福祉施設の管理者は、施設の職員や入所者が、災害等に関する基礎的な知識や災害時におけるべき行動等について、理解や関心を高めるため、定期的に防災教育を実施する。

(4) 認定こども園における対策

認定こども園においては、非常用発電機や投光器など、業務の継続に必要な資機材及び備蓄食料、非常用トイレその他保育の継続に必要な消耗品等を整理し、備蓄を図る。

3. 外国人への防災対策

市民生活課は、言語、生活習慣、宗教、防災意識の異なる外国人を要配慮者として位置づけ、平時から外国人コミュニティや高等学校、高等教育機関、企業等と連携し、外国人の所在把握や個人情報管理を行うとともに、災害発生時に迅速かつ的確な行動ができるよう住民登録時等多様な機会に防災対策の周知を図る。

また、防災教育・訓練の実施、情報伝達網の整備や通訳の確保などのほか、県等と連携し、災害多言語支援センターの設置が可能な体制の確保に努める。

なお、危機管理課は、県が作成した「災害時における避難所運営の手引き」を活用し、避難所の整備に努める。

第7節 帰宅困難者対策

項目	実施担当	関係機関
1. 一斉帰宅の抑制	商工観光課	
2. 帰宅困難者収容施設の指定	危機管理課	
3. 帰宅困難者等への情報提供	危機管理課	県

1. 一斉帰宅の抑制

(1) 基本原則の周知・徹底

商工観光課は、大規模災害が発生した場合は「むやみに移動を開始しない」という帰宅困難者対策の基本原則をホームページ等により周知徹底を行う。

また、事業所、学校、観光施設等に対し、宿泊客、従業員、生徒、教職員等の食料・飲料水の備蓄や安否確認等の体制整備を行うよう要請する。

(2) 安否確認手段の普及・啓発

商工観光課は、災害用伝言ダイヤル171、災害用伝言板等の一般電話に頼らない安否確認手段について、平常時から体験することで、発災時に利用してもらえるよう広報・啓発を行う。

(3) 避難対応の協議

商工観光課は、東日本旅客鉄道（株）と交通機関停止時の旅客の避難対応について協議を行う。

2. 帰宅困難者収容施設の指定

危機管理課は、帰宅が困難となった観光客等を一時的に受け入れるための収容施設を指定する。民間施設については、当該事業者と協議を行い、事前に協定を締結し指定する。

また、施設における情報提供や物資の備蓄のあり方についても検討する。

3. 帰宅困難者等への情報提供

危機管理課は、県や関係機関と連携してエリアメールや緊急速報メール、鴨川市安全・安心メール、防災ポータルサイト、SNSなどを活用した情報提供について検討・実施していく。

第2章 災害応急対策計画

第1節 災害応急活動体制

大地震が発生した場合、人命損傷にとどまらず、家屋の倒壊、火災やがけ崩れの発生、道路・橋梁の損壊、津波や水害さらには生活関連施設の機能障害など、市内の広い範囲にわたり大きな被害の発生が予想される。

このような被害の拡大を防止し、被災者の救援救護に全力を挙げて対処するため、市及び各防災関係機関は、それぞれの計画に基づき迅速かつ的確な活動体制のもと災害応急対策に万全を期する。

その際、全職員は、以下のプロアクティブ原則を基本理念とし、危機意識を共有して、行動するものとする。

- ・疑わしいときは行動せよ
- ・最悪事態を想定して行動せよ
- ・空振りは許されるが見逃しは許されない

1. 初動体制

市は、地震が発生した場合、もしくは震度情報、津波警報等に対応して次の体制をとる。

(1) 本部参集体制

職員は、通常の災害対策本部の配置場所に参集し、災害対策を開始する。

(2) 地域参集体制

居住する地域の地域防災拠点及び市役所に参集し、災害対策を開始する。

なお、勤務時間内の場合、市役所から地域防災拠点に職員を派遣する。

■参集場所

条件	勤務時間内	勤務時間外
震度5弱 津波注意報 津波警報	【本部参集体制】 ・市役所に災害警戒本部を設置して対応する。	【本部参集体制】 ・市役所に参集し、災害警戒本部を設置して対応する。
震度5強以上 大津波警報	【地域参集体制】 ・市役所に災害対策本部を設置して対応する。 ・地域の指定職員は、地域防災拠点に派遣される。	【地域参集体制】 ・地域の指定職員以外は市役所に参集する。 ・市役所に災害対策本部を設置して対応する。 ・地域の指定職員は、直接、地域防災拠点に参集し、対応する。

■地域防災拠点設置箇所

江見地区公民館、江見小学校、旧曾呂小学校、東条小学校、西条小学校、田原小学校、長狭学園、天津小湊小学校

2. 配備体制

(1) 配備基準

地震災害が発生した場合又は発生するおそれのある場合、状況に応じて次の配備基準により、災害警戒及び応急対策にあたる。

なお、実際の職員の参集状況や対応の必要性などの判断をしながら、柔軟に対応する。

■配備体制（震災）

配備段階		配備基準	配備を要する部署
連絡体制	第1配備	1. 市内震度が4を記録したとき（自動配備） 2. 市内で長周期地震動の階級3以上を記録したとき（自動配備） 3. 南海トラフ地震臨時情報（調査中）又は、同（巨大地震注意）が発表されたとき（自動配備） 4. 北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表されたとき（自動配備） 5. その他危機管理課長が必要と認めたとき	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理課
災害警戒本部（災害即応体制）	第2配備	1. 市内震度が5弱を記録したとき（自動配備） 2. 気象庁が津波予報区「千葉県九十九里・外房」に津波注意報又は津波警報を発表したとき（自動配備） 3. その他副市長（本部長）が必要と認めたとき	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理課 ・総務課長 ・市民生活課長 ・天津小湊支所長 ・健康推進課長 ・福祉課長 ・子ども支援課長 ・農林水産課長 ・都市建設課長 ・学校教育課長 ・生涯学習課長 ・状況に応じ、各所属職員を登庁させる
災害対策本部	第3配備	1. 市内震度が5強以上を記録したとき（自動配備） 2. 気象庁が津波予報区「千葉県九十九里・外房」に大津波警報を発表したとき（自動配備） 3. 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表されたとき（自動配備） 4. 以下に該当する場合で、総合的な対策を講ずるため、市長（本部長）が必要と認めたとき ア. 大規模停電・断水等が発生し、回復までに長期間を有すると見込まれるとき 5. その他市長（本部長）が必要と認めたとき	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員【地域参集体制】（勤務時間内） ・地域防災拠点に本部から派遣（勤務時間外） ・地域防災拠点、本部に直接参集

(2) 配備の決定

職員の配備は、震度、津波情報に基づく自動配備（参集指示なし）とする。

その他の場合、危機管理課長は、災害情報及び必要な対策を市長又は副市長に報告する。市長又は副市長は、報告に基づいて配備体制及び本部の設置を決定し、動員を指示する。

3. 職員の動員

(1) 動員方法

勤務時間内の場合、市長又は副市長は、地震情報から震度を確認し、本部員に配備及び動員を連絡する。各班長又は関係所属長は、所属職員に連絡する。連絡は、職員参集メールの他、電話及び庁内放送を用いる。

勤務時間外の場合は、職員参集メールの他、各職員がテレビ、ラジオ等で情報を確認し、配備基準に該当する場合は参集する。

(2) 参集場所

参集場所は、各自の勤務先又は地域防災拠点（地域防災拠点の指定者）とする。

なお、災害状況等により、やむをえず参集場所に行けない場合は、直近の地域防災拠点とする。

(3) 動員報告

参集した職員は、所属単位に各班長を通じて動員報告を行う。

また、報告を確認する体制を整備し、確実に実施する。

4. 地域参集体制

震度5強以上の地震発生、あるいは大津波警報が発表された場合、小学校区別に地域に居住する職員が地域防災拠点に参集し、地域の住民とともに初動活動を実施する地域参集体制をとる。

5. 災害警戒本部

(1) 設置基準

災害警戒本部は、第2配備段階に該当した場合に、自動的に設置するほか、副市長（本部長）が警戒活動の必要があると認める場合は、必要な職員を配備し、市役所に設置する。

(2) 組織

災害警戒本部は、副市長（本部長）、危機管理課長（副本部長）、配備体制に掲げる所属長を本部員として組織し、その運営については災害対策本部を準用する。

(3) 指揮の権限

災害警戒本部の設置及び指揮は、副市長（本部長）の権限により行われるが、副市長の判断を仰ぐことができない場合は、次の順によりその権限を委任する。なお、本部長及び副本部長の代替職員については、次のとおりとする。

■部長及び代替職員

名 称	本部長	代替職員 (第1順位)	代替職員 (第2順位)
本部長	副市長	危機管理課長	総務課長
副本部長	危機管理課長	総務課長	本部長が 指定する職員

(4) 活動

災害警戒本部の活動は、次のとおりである。

■災害警戒本部の活動内容

- | | |
|--------------|------------------|
| ○災害情報の収集 | ○関係機関との連絡・調整 |
| ○災害危険箇所の警戒巡視 | ○所管施設の警戒巡視及び予防措置 |
| ○軽微な被害への応急対策 | ○住民への災害広報 |

(5) 災害警戒本部の廃止

副市長（本部長）は、被害が発生しなかったとき、あるいは事態が収束したときは、災害警戒本部を廃止する。

(6) 災害対策本部への移行

副市長（本部長）は、災害が拡大したとき、若しくは拡大のおそれがあるときは、災害警戒本部から災害対策本部へ移行すべき旨を市長に報告する。

6. 災害対策本部

(1) 設置基準

災害対策本部は、配備基準に該当した場合に自動的に設置するほか、市長（本部長）が必要と認めたときに設置する。

(2) 設置場所

災害対策本部は、原則として、市役所本庁舎4階会議室に設置する。被災のため使用できない場合は、災害の状況により総合保健福祉会館に設置する。

■災害対策本部の設置場所

区分	設置順位	設置場所
災害対策本部	1	市役所本庁舎4階会議室
	2	総合保健福祉会館（ふれあいセンター）

(3) 災害対策本部設置の通知

本部事務局は、本部を設置した場合、直ちに千葉県、自衛隊、警察署、その他必要な防災関係機関等に通知する。

■本部設置の通知

通 知 先	通 知 方 法
市各課	庁内放送、職員参集メール、市防災行政無線、電話、口頭
防災関係機関	県防災行政無線、電話、口頭
一般市民	市防災行政無線、広報車、市ホームページ、安全・安心メール
報道機関	電話、口頭
隣接市町村	電話、文書、県防災行政無線

(4) 指揮

災害対策本部の設置及び指揮は、市長（本部長）の権限により行われるが、市長（本部長）の判断を仰ぐことができない場合は、次の順によりその権限を委任する。

■部長及び代替職員

名 称	本部長、副本部長	代替職員 (第1順位)	代替職員 (第2順位)
本部長	市 長	副市長	危機管理課長
副本部長	副市長	危機管理課長	総務課長

(5) 本部の組織

災害対策本部の組織及び編成は「鴨川市災害対策本部条例」及び「鴨川市災害対策本部規則」の定めるところによるが、その概要は次のとおりである。

① 本部の組織

本部長 (市長)	<ul style="list-style-type: none">・災害対策本部の事務を総括し、職員を指揮監督する。・本部の設置・廃止の決定、避難指示等の発令、警戒区域の設定、千葉県知事に対する自衛隊の災害派遣要請の要求の権限をもつ。また、千葉県知事に要求ができない場合には、その旨及び災害の状況を防衛大臣又は防衛大臣が指定するものに通知することができる。
副本部長 (副市長)	<ul style="list-style-type: none">・本部長の補佐をし、本部長に事故あるときはその職務を代理する。・本部長が適切に判断するために必要なアドバイスが行えるよう、各班からの情報を収集・分析する。
本部員	<ul style="list-style-type: none">・本部長の命を受け、本部の事務に従事する。

② 班

災害対策を行うため本部に班をおく。班長、副班長及び班員は、市長（本部長）が指名する。

班長	<ul style="list-style-type: none">・班における職員の活動を統括する。・班内における人員の配置・補充、他機関への応援の要請等を行う。
副班長	<ul style="list-style-type: none">・班長の補佐をし、班長に事故あるときはその職務を代理する。
班員	<ul style="list-style-type: none">・班長の指示にしたがって対策を実行する。

③ 本部会議

市長（本部長）は、災害応急対策に関する基本方針その他重要事項を審査決定するため、本部会議を開催する。

本部員	教育長、全所属長、その他市長が認める者
本部会議 の協議事項	<ul style="list-style-type: none">○災害対策本部配置体制の決定○避難所等の開設決定○避難の指示等の決定○自衛隊派遣要請依頼の決定○災害救助法適用申請の決定○県及び他市町村への応援要請の決定○その他重要事項の決定 <p>※市長（本部長）が最終決定権限を有する。</p>

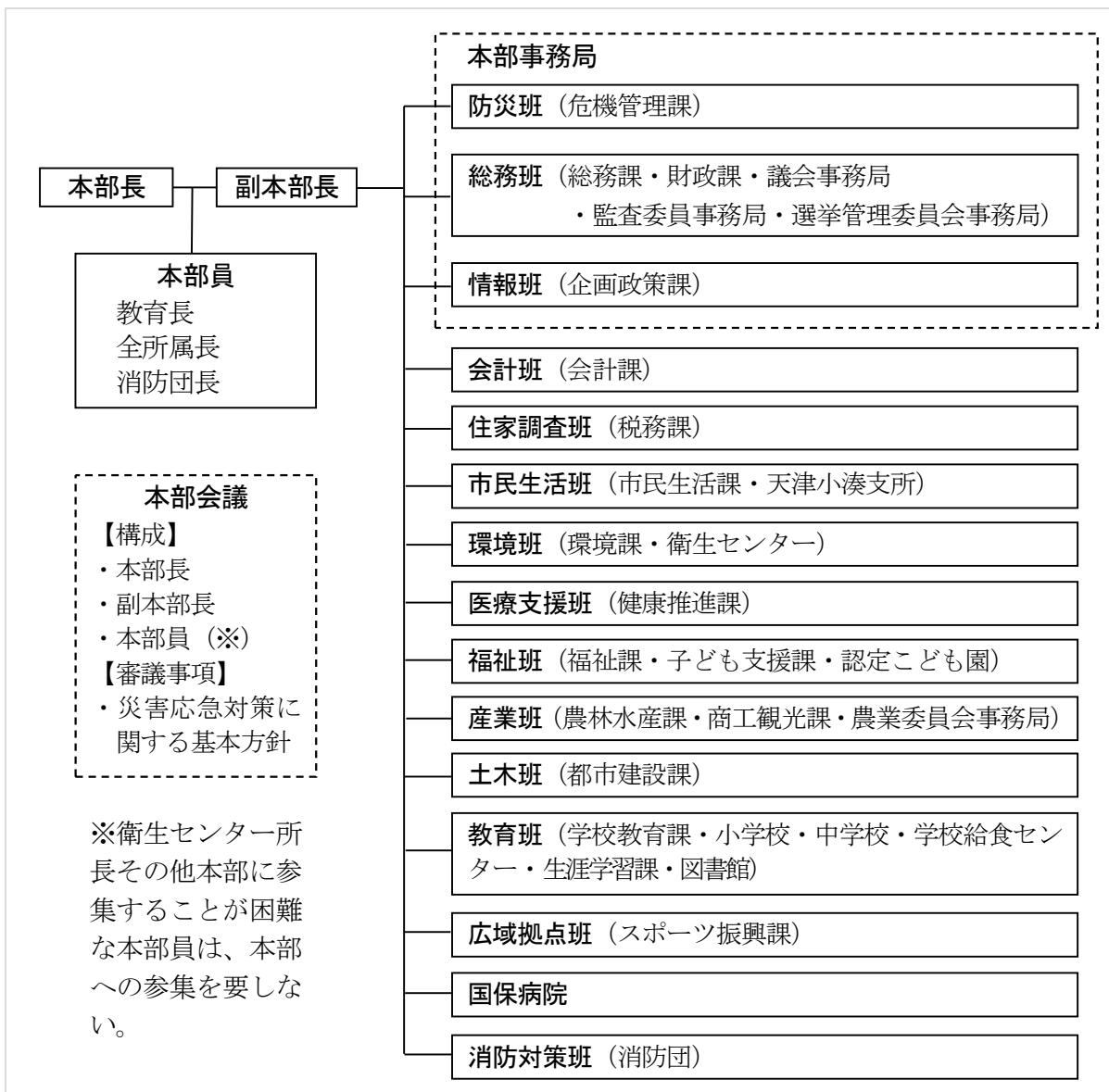
(6) 災害対策本部の廃止

市長（本部長）は、災害の発生する危険が解消したと認めたとき、又は災害応急対策が概ね完了したと認めたときは、災害対策本部を廃止する。廃止の通知は、設置時の通知と同様に行う。

災害対策本部の廃止については、警報等の解除状況だけでなく、市全体の被害状況についても考慮して、総合的に判断する。

なお、災害の規模等により、事後処理を必要とする場合は、関係課等において継続して対処する。

■災害対策本部の組織



(7) 防災関係機関との連携

① 防災関係機関との連携

本部長は、災害の状況に応じて防災関係機関に先遣隊や連絡調整員の派遣を求め、必要な調整等を行う。

また、国や県、防災関係機関の先遣隊や連絡調整員が市本部に派遣された場合や現地災害対策本部が市内に設置されたときは、本部事務局との連絡体制を確保して十分な連絡調整を行う。

なお、県は災害即応体制時から、あらかじめ選定した県職員を情報連絡員（リエゾン）として市に派遣し、被害や災害対応の状況、人的・物的ニーズなどの情報を収集する。

② 県との連携

大規模災害により県に被災状況を報告できないため、県から情報収集等を行う職員（リエゾン）が派遣された場合は本部事務局に受入れ、県との連絡調整を行う。このため、市、県及び防災関係機関は、日頃から、情報連絡員の役割について理解の共有を図るなど、情報共有や連携の強化を行う。

また、県災害対策本部会議に市職員の出席を求められた場合、本部長は副本部長その他の本部員等の中から適切な職員を指名し、県に派遣する。

③ 合同調整所の設置

市又は県は、災害の現場において、現地関係機関（消防機関、警察機関、自衛隊、海上保安庁、医療機関、関係事業者等の現地で活動する機関をいう。）の活動を円滑に調整する必要があると認めるときは、合同調整所を速やかに設置し、現地関係機関の間の連絡調整を図る。

■各班共通事務

- 1. 避難所の運営に関すること
- 2. 所管の被害把握及び復旧に関すること
- 3. 関係する機関、団体等との連絡調整に関すること
- 4. 本部長の命による業務に関すること

■災害対策本部事務分掌 ※繁忙期によっては班内で協力すること

班	担当	事務分掌（平時からの準備を含む全期間）	平時からの準備を含む全ての期間	発災～12時間程度	発災～3日間
本部事務局	防災班	1. 本部事務局に関すること	●	●	●
		①気象等、災害情報の受理、伝達に関すること	●	●	●
		②避難指示等に関すること	●	●	●
		③被害情報のとりまとめ及び国・県への報告に関すること	●	●	●
		④災害対策本部の庶務に関すること	●	●	●
		2. 防災拠点に関すること	●	●	●
		①防災拠点との連絡に関すること	●	●	●
		3. 協定施設避難所及び広域避難に関すること	●	●	●
		4. 災害救助法に基づく救助の総括に関すること	●		●
		5. その他他班に属さないこと	●		●
	総務班	1. 職員の動員及び配備に関すること	●	●	●
		①職員参集把握に関すること	●	●	●
		②職員の必要物資の調達に関すること	●		●
		③職員の配置計画に関すること	●		●
		2. 災害救助法に基づく救助に要する費用の支弁に関すること	●		●
		3. 本部事務局に関すること	●	●	●
		①災害対策本部の事務の補助に関すること	●	●	●
		②県、他市町村及び関係機関等との相互連絡に関すること	●	●	●
		③自衛隊派遣要請及び調整に関すること	●	●	●
		④緊急消防援助隊の要請に関すること	●	●	●
		4. 応援に関すること	●		
		①職員を被災地へ応援派遣する調整に関すること	●		
		5. 受援に関すること	●		●
		①応援機関との連絡調整に関すること	●		●
		②応援要員の受入れに関すること	●		●
		③応援要員の支援に関すること	●	●	●
		6. 広報に関すること	●	●	●
		①災害広報に関すること	●	●	●
		②災害記録の保存及び公表に関すること	●		
		③報道機関との連絡調整に関すること	●		●
		7. 秘書に関すること	●	●	●

第2編 地震・津波災害編 第2章 災害応急対策計画
第1節 災害応急活動体制

班	担当	事務分掌（平時からの準備を含む全期間）	平時から の準備を 含む全て の期間	発災～ 12時間 程度	発災～ 3日間
本部事務局		①本部長、副本部長の秘書に関すること	●	●	●
		②被害を受けた地域の視察及び慰問に関すること	●		
		8. 市議会及び議員との連絡調整に関すること			
		9. 管財に関すること	●	●	●
		①臨時電話・その他の機材確保に関すること	●	●	●
		②庁舎及び庁内施設・設備の保全に関すること	●	●	●
		③車両その他輸送手段の確保、配車計画及び緊急輸送の実施に関すること	●		●
		④災害対策に係る契約に関すること	●		
		1. 情報に関すること	●	●	●
		①情報の受付に関すること	●	●	●
		②情報のとりまとめに関すること	●	●	●
会計班	会計課	1. 被災経費の出納に関すること	●	●	●
住家調査班	税務課	1. 被害発生状況の把握に関すること	●	●	●
		①被害状況の確認に関すること	●	●	●
		2. 家屋被害調査に関すること	●		
		①家屋の被害調査に関すること	●		
		②罹災証明に関すること	●		
		3. 税金の減免等災害時の税制措置に関すること	●		
市民生活班	市民生活課 天津小湊支所	1. 市民生活に関わること	●	●	●
		①相談窓口、手続き窓口対応に関すること	●		
		②行方不明者の把握に関すること	●	●	●
		③遺体の安置・処理・火葬に関すること	●		●
		2. 市民の把握に関すること	●	●	●
		①避難者把握に関すること	●	●	●
		②市民の安否確認、避難先等の把握に関すること	●	●	●
		③被災者台帳の作成に関すること	●	●	●
		3. 被災者相談窓口に関すること	●		
		4. 外国人への対応に関すること	●	●	●
環境班	環境課 衛生センター	1. 被災地の環境に関すること	●		
		①大気・河川等の監視に関すること	●		
		②環境汚染対策に関すること	●		
		2. 家庭動物に関すること	●		●
		3. 被災地のゴミの収集・処理に関すること	●		●
		4. 災害廃棄物に関すること	●		●
		5. 被災地のし尿汚物の処理に関すること	●	●	●
		①仮設トイレの配置に関すること	●	●	●
		②し尿収集・処理に関すること	●		●
医療支援班	健康推進課	1. 傷病者の応急救護に関すること	●	●	●
		①市救護本部設置に関すること	●	●	●
		②医薬品・医療用資器材等の確保に関すること	●	●	●
		③応急医療の調整に関すること	●	●	●
		④傷病者の収容・搬送に関すること	●	●	●
		⑤医療要援護者の支援に関すること	●		●
		2. 市民の健康管理に関すること	●		
		①市民の健康管理及び防疫に関すること	●		
		②被災地の消毒に関すること	●		

第2編 地震・津波災害編 第2章 災害応急対策計画
第1節 災害応急活動体制

班	担当	事務分掌（平時からの準備を含む全期間）	平時から の準備を 含む全て の期間	発災～ 12時間 程度	発災～ 3日間
福祉班	福祉課 子ども支援課 認定こども園	1. 住民の福祉に関すること	●	●	●
		①要配慮者への支援に関すること	●	●	●
		②福祉避難所の開設・運営に関すること	●		
		③日赤・社会福祉協議会との連絡調整に関すること	●		●
		④ボランティア活動調整に関すること	●		
		⑤各種給付対策に関すること	●		
		⑥義援金に関すること	●		
		2. 認定こども園に関すること	●		
		①応急教育・応急保育の実施に関すること	●		
産業班	農林水産課 農業委員会事務局 商工観光課	1. 所管の被害把握及び復旧に関すること	●	●	●
		①農林漁業施設の被害調査点検に関すること	●	●	●
		②農林漁業施設の復旧に関すること	●	●	●
		③治山・治水に関すること	●	●	●
		④家畜等の被害の調査に関すること	●	●	●
		2. 飲食料、生活必需品の調達及び配布に関すること	●	●	●
		3. 帰宅困難者に関すること	●	●	●
		①帰宅困難者の把握に関すること	●	●	●
		②一時滞在施設の開設及び収容に関すること	●		●
		4. 被災地の給水に関すること	●	●	●
土木班	都市建設課	1. 所管施設の対策に関すること	●	●	●
		①道路・橋梁・河川等の被害調査点検に関すること	●	●	●
		②道路・橋梁・河川等の復旧に関すること	●	●	●
		③水防活動に関すること	●	●	●
		④がけ崩れの点検・復旧に関すること	●	●	●
		⑤道路情報収集に関すること	●	●	●
		⑥緊急輸送路確保に関すること	●		●
		⑦障害物除去に関すること	●	●	●
		⑧復旧資材の確保調達に関すること	●		●
		2. 宅地・住宅・建築物の対策に関すること	●		●
		①被災宅地の危険度判定に関すること	●		
		②被災建築物の応急危険度判定に関すること	●		●
		③仮設住宅・公営住宅・公共施設・公園の点検、復旧に関すること	●		
		④仮設住宅の設営及び修理に関すること	●		
教育班	学校教育課 小学校 中学校 学校給食センター 生涯学習課 図書館	1. 生徒、児童に関すること	●	●	●
		①生徒・児童の避難・救護に関すること	●	●	●
		②災害時の応急教育に関すること	●		
		③被災生徒・児童に対する学用品の支給に関すること	●		
		2. 避難所に関すること	●	●	●
		①避難所運営の統括に関すること	●	●	●
広域拠点班	スポーツ振興課	1. 広域防災拠点に関すること	●	●	●
		①広域防災拠点の開設・運営支援に関すること	●	●	●
		②自衛隊等災害派遣部隊の受入れに関すること	●		●
		③ヘリコプター離発着場対応に関すること	●		●
		2. 物資集積場所の開設、管理に関すること	●		●
		①物資集積場所の開設、救援物資の受入れ、整理に関すること	●		●
国保病院		1. 施設の被害調査・復旧及び入院患者の安全確保に関する	●	●	●

第2編 地震・津波災害編 第2章 災害応急対策計画
第1節 災害応急活動体制

班	担当	事務分掌（平時からの準備を含む全期間）	平時から の準備を 含む全て の期間	発災～ 12時間 程度	発災～ 3日間
		こと			
		2. 被災者の医療に関すること	●	●	●
消防対策班	消防団	1. 消防団の動員に関すること	●	●	●
		2. 消防機関との連絡に関すること	●	●	●
		3. 被害情報の収集に関すること	●	●	●
		4. 水防活動に関すること	●	●	●
		5. 災害の警戒及び防御に関すること	●	●	●
		6. 被災者の捜索及び救出に関すること	●	●	●
		7. 活動に関する資機材の調達及び補給に関すること	●	●	●
		8. 避難者の誘導案内に関すること	●	●	●

第2節 情報収集伝達

項目	実施担当	関係機関
1. 情報連絡体制	本部事務局	
2. 地震情報等の収集伝達	本部事務局	県、銚子地方気象台
3. 被害情報の収集・調査	各班	鴨川警察署、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部
4. 災害報告	本部事務局	県

1. 情報連絡体制

(1) 通信機能の確保と統制

災害時には、次の通信施設を活用する。

本部事務局は、災害発生後、防災行政無線、電話等の通信施設の機能確認を行う。停電、機器の破損等の支障が生じている場合は、自家発電装置の運転、修理等の措置をとる。また、無線機の貸出し等の管理を行う。

■主な通信手段

主な通信手段		主な通信区間
有線	一般加入電話・FAX	市・防災関係機関との連絡
	災害時優先電話	
無線	県防災行政無線	市～県・近隣市町・防災関係機関
	市防災行政無線（固定系）	市～災害現場・避難所・防災関係機関・住民等
	簡易デジタル業務無線 (消防団配備)	市～災害現場
口頭	広報車	市～住民等

(2) 代替通信施設の利用

本部事務局は、市が所有する通信機能が低下し、応急対策に著しい支障が生じる場合は、次の代替通信手段を確保する。

■代替通信施設

手 段	内 容
非常・緊急通話	あらかじめ承認を受けた電話番号から「非常（緊急）」の旨及び必要事項をNTT東日本（株）に申し出ることにより接続する。
非常・緊急電報	NTT東日本（株）に非常扱い電報（緊急扱い電報）である旨を告げ発信を依頼する。
専用通信施設の利用	それぞれの通信系が被災により不通となった場合、又は著しく通信が困難となった場合は、次に掲げる機関所属の無線局を利用し災害に関する通信の確保を図る。 ① 県の無線通信施設 ② 関東地方非常通信協議会の構成機関である次の機関の通信施設 ア. 警察通信施設 イ. 国土交通省関係通信施設

	ウ. 勝浦海上保安署通信施設 エ. 日本赤十字社通信施設 オ. NTT東日本（株）千葉支店通信施設 カ. 東京電力パワーグリッド（株）通信施設 キ. 日本放送協会千葉放送局通信施設
アマチュア無線	アマチュア無線の協力により被害情報を収集する。

(3) 災害時における放送及び緊急警報放送の要請

県は、災害対策基本法第55条及び第56条に規定する災害に関する通知、要請、伝達又は警告等で、他に手段がなく緊急を要する場合は、別に定める「災害時における放送要請に関する協定」により、日本放送協会千葉放送局、(株)ニッポン放送、千葉テレビ放送(株)、(株)ベイエフエムに放送の要請を行う。

なお、市長（本部長）が行う避難の指示等で緊急やむを得ない特別の事情がある場合は、県の定める「緊急警報放送の実施に伴う災害時の放送要請について」により、県を通じ日本放送協会千葉放送局に緊急警報放送を行うよう求める。

(4) 非常通信の利用方法

本部事務局は、公衆電気通信施設が使用できない状態になった場合又は特に緊急を要する事態が生じたときで、他の通信施設を利用したほうが速やかに連絡できると認めた場合は、防災関係機関の通信施設の利用を図る。

2. 地震情報等の収集伝達

銚子地方気象台は、次の地震・津波情報を伝達する。

■地震情報の種類

本市が属する緊急地震速報や震度情報で用いる区域は、千葉県南部である。

種類	内容
緊急地震速報 (警報)	ある地域で最大震度5弱又は長周期地震動階級3以上を予想した時に発表する。発表対象地域は、震度4又は長周期地震動階級3以上を予想した地域となる。
震度速報	地震発生から約1分半後、震度3以上の地域名（鴨川市は「千葉県南部」と地震の発生時刻を発表
震源・震度に関する情報	津波警報、津波注意報発表時、若干の海面変動が予想された時、緊急地震速報（警報）発表時に発表 地震の発生場所（震源）やその規模（マグニチュード）、震度1以上を観測した地点と観測した震度を発表。それに加えて、震度3以上の地域名と市町村名を発表 なお、震度5弱以上と考えられる地域で、震度を入手していない地点がある場合は、その市町村名を発表
長周期地震動に関する観測情報	長周期地震動階級1以上を観測したときに、10分程度で発表する。
遠地地震に関する情報	国外で発生した地震について、マグニチュード7.0以上又は著しい被害が発生する可能性がある地域で規模の大きな地震を観測した場合（国外で発生した大規模噴火を覚知した場合にも発表することがある。） 地震の発生時刻、発生場所（震源）、その規模（マグニチュード）、津波の影

第2編 地震・津波災害編 第2章 災害応急対策計画
第2節 情報収集伝達

	響に関して、概ね30分以内に発表する（国外で発生した大規模噴火を覚知した場合は、噴火発生から1時間半～2時間程度で発表）。
その他の情報	顕著な地震の震源要素更新のお知らせや地震が多発した場合、震度1以上を観測した地震の回数を発表
推計震度分布図	観測した各地の震度データをもとに、250m四方ごとに推計した震度（震度4以上）を図情報として発表

■津波警報等

鴨川市の津波予報区は、「千葉県九十九里・外房」に属している。

種類	発表基準	津波の高さ 予想の区分	発表される津波の高さ		想定される被害と取るべき行動
			数値 での発表	定性的表現 での発表	
大津波警報*	予想される津波の最大波の高さが高いところで3mを超える場合	10m < 高さ	10m超	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難する。警報が解除されるまで安全な場所から離れない。
		5 m < 高さ ≤ 10m	10m		
		3 m < 高さ ≤ 5 m	5 m		
津波警報	予想される津波の最大波の高さが高いところで1mを超えて、3m以下の場合	1 m < 高さ ≤ 3 m	3 m	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難する。警報が解除されるまで安全な場所から離れない。
津波注意報	予想される津波の最大波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合	0.2m ≤ 高さ ≤ 1 m	1 m	(表記なし)	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れる。海水浴や磯釣りは危険なので行わない。注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近づいたりしない。

*大津波警報は特別警報に位置づけられている。

■津波情報の種類

津波警報等を発表した場合、津波の到達予想時刻や予想される津波の高さなどを併せて発表する。

種類	内容
津波到達予想時刻・予想される津波の高さに関する情報	各津波予報区の津波の到達予想時刻や予想される津波の高さを5段階の数値（メートル単位）又は2種類の定性的表現で発表。
各地の満潮時刻・津波の到達予想時刻に関する情報	主な地点の満潮時刻・津波の到達予想時刻を発表

第2編 地震・津波災害編 第2章 災害応急対策計画
第2節 情報収集伝達

津波観測に関する情報	沿岸で観測した津波の時刻や高さを発表（※1）
沖合の津波観測に関する情報	沖合で観測した津波の時刻や高さ、及び沖合の観測値から推定される沿岸での津波の到達時刻や高さを津波予報区単位で発表（※2）

(※1) 津波観測に関する情報の発表内容について

- 沿岸で観測された津波の第一波の到達時刻と押し引き、及びその時点までに観測された最大波の観測時刻と高さを発表する。
- 最大波の観測値については、大津波警報又は津波警報を発表中の津波予報区において、観測された津波の高さが低い間は、数値ではなく「観測中」の言葉で発表して、津波が到達中であることを伝える。

最大波の観測値の発表内容

発表中の津波警報等	観測された津波の高さ	内容
大津波警報	1 m超	数値で発表
	1 m以下	「観測中」と発表
津波警報	0.2m以上超	数値で発表
	0.2m未満	「観測中」と発表
津波注意報	(すべての場合)	数値で発表（津波の高さがごく小さい場合は「微弱」と表現）

(※2) 沖合の津波観測に関する情報の発表内容について

- 沖合で観測された津波の第一波の観測時刻と押し引き、その時点までに観測された最大波の観測時刻と高さを観測点ごとに発表する。また、これら沖合の観測値から推定される沿岸での推定値（第1波の推定到達時刻、最大波の推定到達時刻と推定高さ）を津波予報区単位で発表する。
- 最大波の観測値及び推定値については、沿岸での観測と同じように避難行動への影響を考慮し、一定の基準を満たすまでは数値を発表しない。大津波警報又は津波警報が発表中の津波予報区において、沿岸で推定される津波の高さが低い間は、数値ではなく「観測中」（沖合での観測値）及び「推定中」（沿岸での推定値）の言葉で発表して、津波が到達中であることを伝える。
- 沿岸からの距離が100kmを超えるような沖合の観測点では、津波予報区との対応付けが難しいため、沿岸での推定値は発表しない。また、最大波の観測値については数値ではなく「観測中」の言葉で発表して、津波が到達中であることを伝える。

発表中の津波警報等	沿岸で推定される津波の高さ	内容
大津波警報	3 m超	沖合での観測値、沿岸での推定値とも数値で発表
	3 m以下	沖合での観測値を「観測中」と発表 沿岸での推定値を「推定中」と発表
津波警報	1 m超	沖合での観測値、沿岸での推定値とも数値で発表
	1 m以下	沖合での観測値を「観測中」と発表 沿岸での推定値を「推定中」と発表
津波注意報	(すべての場合)	沖合での観測値、沿岸での推定値とも数値で発表

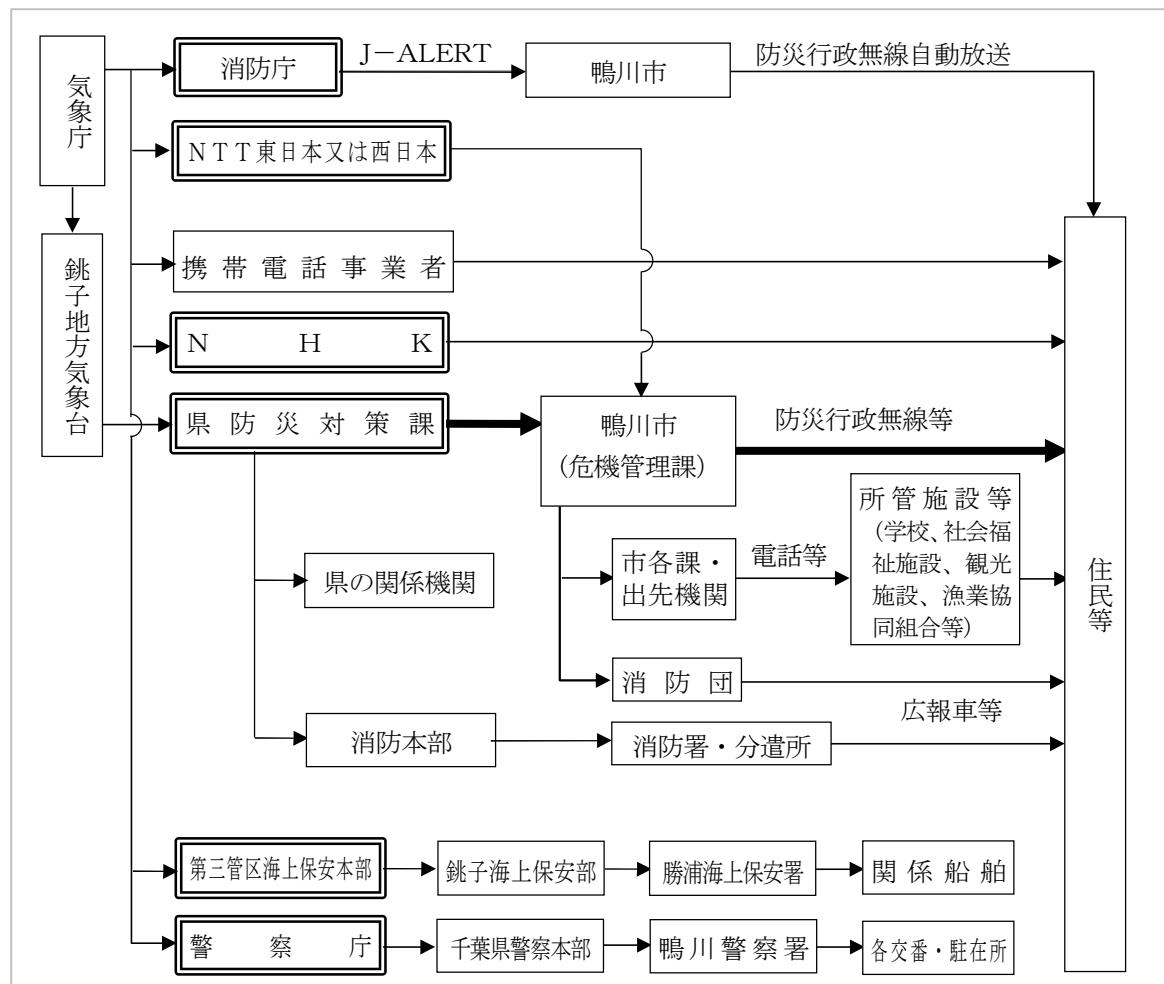
■津波予報

地震発生後、津波による災害が起こるおそれがない場合には、以下の内容を津波予報で発表する。

発表される場合	内 容
津波が予想されないとき (地震情報に含めて発表)	津波の心配なしの旨を地震情報に含め発表

0.2m未満の海面変動が予想されたとき	高いところでも0.2m未満の海面変動のため被害の心配はなく、特段の防災対応の必要がない旨を発表
津波注意報解除後も海面変動が継続するとき	津波に伴う海面変動が観測されており、今後も継続する可能性が高いため、海に入っての作業や釣り、海水浴などに際しては十分な留意が必要である旨を発表

■津波警報等伝達系統図



(注)二重線の枠の機関は、気象業務法に基づく伝達先

太線の経路は、気象業務法による特別警報の通知又は周知の義務があるもの

携帯電話事業者は、大津波警報・津波警報が発表されたときに、緊急速報メールを関係エリアに配信する。

3. 被害情報の収集・調査

各班は、災害発生後直ちに被害状況の収集活動を開始し、必要に応じて鴨川警察署、鴨川消防署等その他、関係機関との密接な連絡をとりながら災害対策活動に必要な情報の収集に努める。

(1) 発見者の通報義務

災害が発生するおそれのある異常な現象（火災、異常水位、がけ崩れ、地すべり等）を発見した者は、市長（本部長）又は警察官若しくは海上保安官に通報する。

市長（本部長）は、異常現象等の発見又は災害発生の連絡を受けた場合は、銚子地方気象台及びその事象に関係のある機関に通報する。

(2) 初期情報の収集・報告

異常現象発見の通報を受けたとき、又は災害の発生が予想されるときは、住家調査班、土木班及び消防対策班等は現場を巡回し警戒にあたる。各班は所管施設の警戒監視にあたる。

(3) 災害調査

各班は、災害の危険が解消した段階で、住家・人的被害及び所管施設等の被害調査を行う。各調査担当班は、調査した結果をまとめ、本部事務局に提出する。各調査担当及び調査対象は、次のとおりである。

■調査の対象及び担当

調査対象	調査担当
住家被害	住家調査班
人的被害	市民生活班
農業作物、農業施設被害、林業被害	産業班
商業被害、工業被害	産業班
河川、道路、橋梁被害、漁港、がけ崩れ、公園施設、下水路施設被害	土木班、産業班
水道施設被害	安房郡市広域市町村圏事務組合水道部
医療施設被害	医療支援班
廃棄物処理施設被害	環境班
福祉施設被害	福祉班、医療支援班
教育施設被害、社会教育施設被害	教育班、広域拠点班
文化・観光施設被害	教育班、産業班
危険物施設被害	安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部

また、必要に応じて、被害状況の把握のため、防災関係機関から連絡員の派遣を得て、ヘリコプターによる上空からの確認や、無人航空機（ドローン）を活用した被害情報の収集について調整する。

4. 災害報告

(1) 地震発生時の通報

本部事務局は、震度4以上を記録した場合、速やかに被害情報を収集し、千葉県防災情報システム及び、電話・ファクシミリ又は防災行政無線により県本部事務局に連絡する。

ただし、県に報告できない場合にあっては、総務省消防庁に報告するものとし、事後速やかに県に報告する。震度5強以上を記録した地震にあっては、「火災・災害即報要領」により被害の有無を問わず、第1報等について県と併せて総務省消防庁に報告する。

また、同時多発の火災等により消防機関への通報が殺到したときは、その旨を国（消防庁）及び県に報告する。

(2) 県への報告

市長（本部長）は、災害対策基本法第53条の規定により、災害の状況及びこれに対してとられた措置の概要を県に報告する。被害情報等の収集報告活動に関する具体的運用は、「千葉県危機管理情報共有要綱」による。

県へ報告すべき事項は次のとおりである。

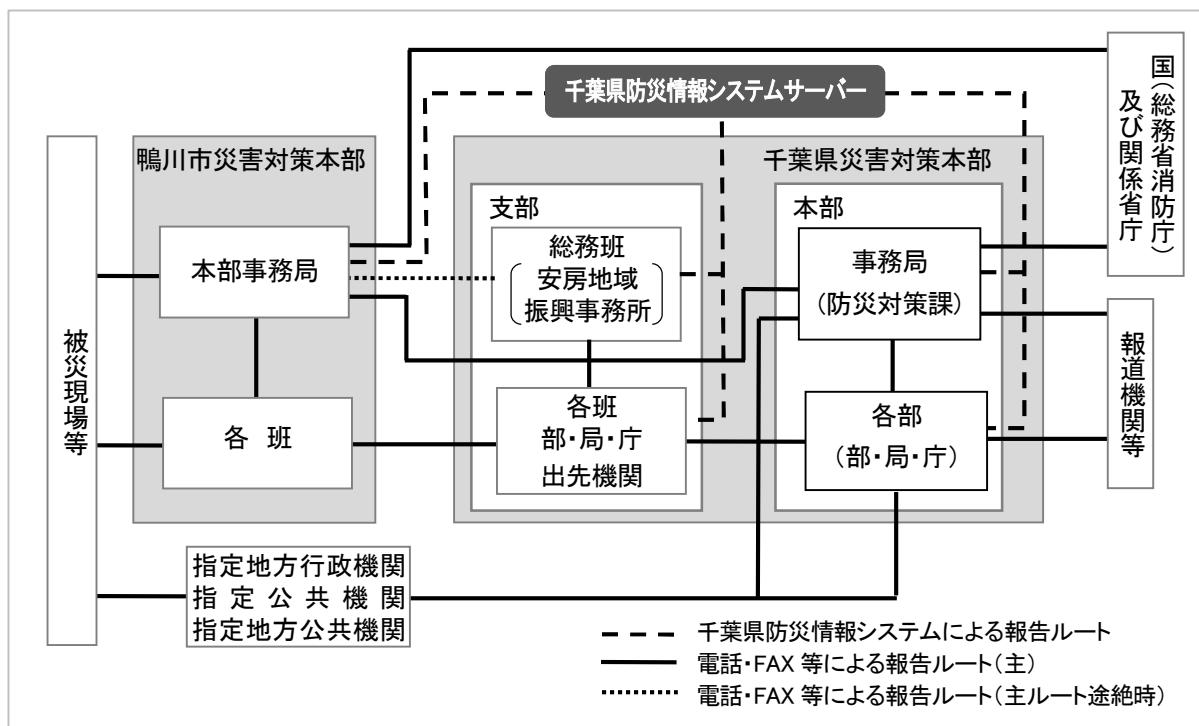
- ① 災害の原因
- ② 災害が発生した日時
- ③ 災害が発生した場所又は地域
- ④ 被害の状況（被害の程度等は「被害認定基準」に基づき判定する。）
- ⑤ 災害に対して既にとった措置及び今後とろうとする措置
 - ア. 災害対策本部の設置状況及び職員の配備状況
 - イ. 主な応急措置の実施状況
 - ウ. その他必要事項
- ⑥ 災害による市民等の避難の状況
- ⑦ 災害救助法適用の要否及び必要とする救助の種類
- ⑧ その他必要な事項

なお、県への報告にあたっては以下の事項に留意するものとする。

- ① 情報収集の迅速・正確を期するため、情報の収集・連絡に係る組織、設備、要領等の整備を図っておくこととし、特に発災初期の情報は、住民組織を通じて直ちに通報されるよう体制を整えておく。
- ② 被害が甚大なため被害状況の収集及び報告が困難なとき、又は被害等の調査に専門的な知識や技術を必要とするときは、県等に応援を求めて実施する。
- ③ 罹災世帯・罹災人員等の把握にあたっては、現地調査のほか住民基本台帳等と照合し、正確を期する。
- ④ 要救助者の迅速な把握のため、安否不明者についても積極的に情報を収集する。なお、救助活動の効率化・円滑化のために必要と認めるときは、県等と連携の上、安否不明者の氏名等を公表し、その安否情報を収集・精査することで、安否不明者の速やかな絞り込みに努める。

また、被害情報等の報告経路概要図は、次のとおりである。

■報告経路概要図



(3) 行政機能の確保状況の把握及び報告

震度6弱以上の地震を観測した場合において、自らの行政機能の確保状況を的確に把握するため、次の3点を把握し、「市町村行政機能チェックリスト」に必要事項を記入し、県の担当部署に原則としてファクシミリにより報告する。

- ① トップマネジメントは機能しているか
- ② 人的体制（マンパワー）は充足しているか
- ③ 物的環境（庁舎施設等）は整っているか

(4) 報告責任者の選任

市及び防災関係機関は、次の基準により、被害情報等の報告に係る責任者を定めておく。

区分	所掌事務	市	防災関係機関
総括責任者	市及び防災関係機関における被害情報等の報告を総括する。	市に1名	各機関に1名
取扱責任者	市及び防災関係機関における各部門の被害情報等の報告事務を取り扱う。	市において所掌事務等を勘案して定める。	各機関において所掌事務等を勘案して定める。

(5) 報告先と連絡方法

国、県及び安房地域振興事務所に行う被害報告の報告先は、次のとおりである。

① 総務省消防庁

時間区分	報告先区分	消防防災無線（県防災行政無線）			一般加入電話	
		系統	電話	FAX	電話	FAX
勤務時間内	応急対策室	地上系	120-90-49013	120-90-49033	03-5253	03-5253
		衛星系	048-500-90-49013	048-500-90-49033		
勤務時間外	消防庁宿直室	地上系	120-90-49102	120-90-49036	03-5253	03-5253
		衛星系	048-500-90-490102	048-500-90-49036		

② 千葉県

時間区分	報告先区分	県防災行政無線			一般加入電話	
		系統	電話	FAX	電話	FAX
勤務時間内	県危機管理課	地上系	500-7320	500-7298	043-223	043-222
		衛星系	012-500-7320	012-500-7298		
勤務時間外	県防災行政無線統制室	地上系	500-7225	500-7110	043-223	043-222
		衛星系	012-500-7225	012-500-7110		

③ 安房地域振興事務所

時間区分	報告先区分	県防災行政無線		一般加入電話	
		電話	FAX	電話	FAX
	地域振興課	509-721・723	509-722	0470-22-7111	0470-22-0074

④ 安房土木事務所

時間区分	報告先区分	県防災行政無線		一般加入電話	
		電話	FAX	電話	FAX
	維持課	509-733・731	509-732	0470-22-4348	0470-23-8349
	鴨川出張所	556-721・723	556-722	04-7092-1107	04-7093-2190

第3節 災害広報・広聴活動

項目	実施担当	関係機関
1. 市の行う広報	本部事務局	
2. 避難所での広報	本部事務局	
3. 報道機関への対応	本部事務局	
4. 被災者相談	市民生活班、住家調査班、産業班、土木班、福祉班	

1. 市の行う広報

本部事務局は、災害の推移や緊急度により、次の手段によって住民への広報を行う。必要に応じて、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部の協力を得る。

(1) 市の広報活動

被災地域に対する広報活動を次の方法によって行う。

- ア. 新聞・ラジオ・テレビ等を利用して適時に広報を行う。
- イ. 広報紙、チラシ、ポスター等を作成して配布又は避難所に貼付する。
- ウ. 広報車を利用して巡回する。
- エ. 防災行政無線、防災ラジオ、安全・安心メール、市ホームページ、SNS等を利用して一斉に広報する。

(2) 広報内容

広報内容は、次に掲げる事項を中心とする。

① 災害発生前の広報

- ア. 災害の規模、動向、今後の予想に関する情報
- イ. その他被害及び混乱防止に必要な注意事項の呼びかけ

② 災害発生時の広報

ア. 二次災害に関する情報

- (ア) ガスの元栓を閉めること及び電気のブレーカーを切る等の指示
- (イ) ガス器具、電気器具及び石油ストーブ等の火災予防の注意喚起
- (ウ) 切れた電線に触らないよう、感電災害防止の注意喚起

イ. 被害情報及び被災状況に関する情報

- (ア) 人及び家屋関係
- (イ) 公益事業関係
- (ウ) 交通施設関係
- (エ) がけ崩れその他地盤関係
- (オ) 土木施設関係
- (カ) 農林水産関係
- (キ) 商工業関係
- (ク) 教育関係
- (ケ) その他

ウ. 市の災害対策関係及び活動状況に関する情報

- (ア) 本部の設置

- (イ) その他
- エ. 避難方法等に関する情報
 - (ア) 避難指示等
 - (イ) 避難の際の注意及び避難場所の周知
- オ. 応急対策活動に関する情報
 - (ア) 水防、警備、救助及び防疫活動
 - (イ) 通信、交通、土木港湾等施設の応急対策活動
- カ. その他一般市民及び被災者への必要な広報事項
- ③ 被災者への広報
 - ア. 市救護本部、避難所の開設状況
 - イ. 医療救護、衛生知識の周知
 - ウ. 給水、給食等の実施状況
 - エ. 停電、断水等ライフラインに関する途絶及び復旧の状況
 - オ. 通信、道路、交通機関等の復旧、運行状況
 - カ. 被災地の状況
 - キ. その他
- ④ 流言飛語の防止に関する情報
- ⑤ 県外で発生した震災に係る支援に関する情報

(3) 災害記録の保存・公表

本部事務局は、被災状況や対策実施状況等の災害記録を保存し、必要に応じて公表する。

2. 避難所での広報

本部事務局は、館内放送に加え、掲示板への掲示や避難所及び自治組織を通じて災害広報紙を配布する。

また、福祉班との連携により、要配慮者に配慮し口頭伝達など避難者の状況に応じた広報を行う。

■避難所での広報項目例

- | | |
|---------------|---------------|
| ○災害の状況 | ○施設使用方法等の注意事項 |
| ○生活ルール | ○生活支援対策のお知らせ |
| ○その他各種対策のお知らせ | ○避難所運営等への協力要請 |

3. 報道機関への対応

(1) 広報の要請

本部事務局は、テレビ、ラジオ、新聞等の報道機関へ、住民広報、救援物資等の支援に関する広報を要請する。この際、情報及び必要な資料等を提供し、広報を要請する。

(2) 報道発表

本部事務局は、市役所本庁舎等に記者発表場所を設置し、定時型の記者発表を行う。必要に応じて臨時の記者発表を行う。

なお、あらかじめ情報提供ルールや取材時の制限、対応項目、他の応急業務との優劣等を定めておくことにより、対応の効率化と担当職員の負担軽減を図る。

■記者発表の項目例

○災害の種別	○発生年月日、時刻
○災害の発生場所及び被害激甚地域	○被害状況
○二次災害等その他の情報	○応急・復旧対策
○災害対策本部の設置又は廃止	○住民への情報

(3) 取材活動での要請

本部事務局は、災害対策本部内への立入、取材は原則禁止する措置をとる。また、避難者への取材は、プライバシー等に配慮するよう要請する。

4. 被災者相談

市民生活班は、住民からの問合せや生活相談に対応するため、市役所本庁舎のほか、必要に応じて支所等に相談窓口を設置する。また、住民の相談に対し迅速に対応するため、相談窓口には、必要に応じて各班の担当者を置くほか、応援職員の配置を図る。

相談窓口で扱う事項は、次のとおりである。

なお、住民からの意見、要望等についても、可能な限り聴取し応急対策に反映させる。

■相談窓口の内容

設置場所	市役所本庁舎等
相談窓口で扱う事項	<ul style="list-style-type: none">○捜索依頼の受付け（市民生活班）○食料、飲料水、日用品等の支給に関する情報（産業班）○罹災証明書の発行（住家調査班）○埋火葬許可書の発行（市民生活班）○仮設住宅の申し込み（土木班）○住宅の応急修理の申し込み（土木班）○災害見舞金、義援金の受付け、払い出し（福祉班）○生活資金等の相談等（福祉班）

第4節 災害救助法の適用

項目	実施担当	関係機関
1. 災害救助法の適用基準	本部事務局	
2. 滅失世帯数の算定	本部事務局、住家調査班	
3. 災害救助法の適用手続き	本部事務局	
4. 救助事務の実施	本部事務局	

1. 災害救助法の適用基準

(1) 災害が発生した場合

災害救助法の適用基準は、災害救助法施行令第1条第1項の1～4の規定による。鴨川市における具体的適用基準は、次のとおりである。

■災害救助法の適用基準

指標となる被害項目	適用の基準	該当条項
市内の住家が滅失した世帯の数	60以上	第1条第1項第1号
県内の住家が滅失した世帯の数	2,500以上	第1条第1項第2号
そのうち市内の住家が滅失した世帯の数	30以上	
県内の住家が滅失した世帯の数	12,000以上	第1条第1項第3号前段
そのうち市内の住家が滅失した世帯の数	多数	
災害が隔絶した地域に発生したものである等災害にかかった者の救護を著しく困難とする内閣府令で定める特別の事情がある場合であって、多数の世帯の住家が滅失したこと。 ※1	知事が内閣総理大臣と協議	第1条第1項第3号後段
多数の者が生命又は身体に危害を受け又は受けるおそれが生じた場合であって、内閣府令で定める基準に該当するとき。 ※2	知事が内閣総理大臣と協議	第1条第1項第4号

※1 被災者への食品若しくは生活必需品の給与等について特殊の補給方法を必要とし、又は被災者の救出について特殊の技術を必要とすること

※2 災害が発生し、又は発生するおそれのある地域に所在する多数の者が、避難して継続的に救助を必要とすること。

被災者への食品若しくは生活必需品の給与等について特殊の補給方法を必要とし、又は被災者の救出について特殊の技術を必要とすること。

(2) 災害が発生するおそれがある場合

災害が発生するおそれがある段階において、国が災害対策基本法に基づく災害対策本部を設置し、本市域がその所管区域になった場合で、現に救助を必要とするときである。

2. 滅失世帯数の算定

(1) 被災世帯の算定基準

住家が滅失した世帯の数は、住家の「全壊（全焼・流失）」した世帯を基準とする。そこまで

至らない半壊等については、災害救助法施行令第1条第2項の規定により以下のとおり、みなし換算を行う。

■滅失世帯の算定方法

滅失住家 1世帯	全壊（全焼・流失）住家	1世帯
	半壊（半焼）住家	2世帯
	床上浸水、土砂の堆積により一時的に居住できない状態になった住家	3世帯

(2) 住家被害の認定

住家調査班は、内閣府の「災害に係る住家の被害認定基準運用指針」による被害住家の調査を行い、被害程度の認定を行う。被害の区分と認定は、「被害認定基準」(資料編参照)による。

3. 災害救助法の適用手続き

(1) 災害救助法の適用要請

市長（本部長）は、本市の災害が災害救助法の適用基準のいずれかに該当し、又は該当する見込みであるときは、県の「災害救助の手引き」に基づいて直ちにその旨を知事に報告し、災害救助法適用を知事に要請する。

(2) 適用要請の特例

市長（本部長）は、災害の事態が急迫して、知事による救助の実施の決定を待つことができない場合には、災害救助法の規定による救助に着手し、その状況を直ちに知事に報告する。

4. 救助事務の実施

災害救助法による救助事務は、知事が行い（法定受託事務）、市町村長がこれを補助する。

ただし、救助事務の一部が市へ委任された場合、本部事務局は当該事務の内容を各班に周知し、事務の実施を指示する。各班は、内閣府の「災害救助事務取扱要領」、千葉県災害救助法施行細則、千葉県の「災害救助の手引き」により事務を実施する。

■災害救助法の対象となる救助事務の項目と担当

救助事務の種類	担当
避難所の供与	福祉班、教育班
応急仮設住宅の設置及び供与	土木班
炊き出しその他による食品の給与	
飲料水の供給	産業班
被服、寝具その他生活必需品の給与又は貸与	
医療	医療支援班
助産	
被災者の救出	安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部
福祉的サービスの提供	福祉班
住家被害の拡大防止のための緊急修理	
日常生活に必要な最小限度の部分の修理	土木班

第2編 地震・津波災害編 第2章 災害応急対策計画
第4節 災害救助法の適用

救助事務の種類	担当
学用品の給与	教育班
埋葬	市民生活班
死体の搜索	
死体の処理	
障害物の除去	土木班
輸送、その他の事務	各班共通

※災害が発生するおそれがある場合においては、「避難所の供与」のみが対象となる。

災害救助法による救助の程度、方法及び期間等については、千葉県災害救助法施行細則別表第一の基準による。なお、災害救助法施行細則別表第一による救助の適切な実施が困難な場合、市長（本部長）は知事に救助の程度、方法及び期間の特例措置を県に求める。

各班は、災害救助法による救助事務を日毎に記録し、整理する。また、市が設置し、社会福祉協議会等が運営する鴨川市災害ボランティア活動センターに、災害ボランティア活動及び市の実施する救助の調整事務を委託する場合は、当該事務に必要な人件費及び旅費を災害救助法の国庫負担の対象とすることができるため、当該事務の記録、整理を社会福祉協議会等に依頼する。

第5節 広域応援・自衛隊派遣要請

項目	実施担当	関係機関
1. 自治体等への応援要請	本部事務局	安房都市広域市町村圏事務組合水道部
2. 消防の広域応援要請	本部事務局、広域拠点班	安房都市広域市町村圏事務組合消防本部
3. 自衛隊の災害派遣	本部事務局	

1. 自治体等への応援要請

(1) 県への応援要請

市長（本部長）は、災害が発生し、応急措置を実施するため必要があると認めるときは、知事に対し、応援の要請又はあっせんの要請を行う。

■県への応援要請手続き

要請先	県防災危機管理部	
連絡方法	文書（緊急の場合は電話、無線で行い、事後文書送付）	
応援の要求	○災害の状況 ○応援を必要とする理由 ○応援を希望する人員、物資等の品名、数量 ○応援を必要とする場所・活動内容 ○その他必要な事項	災害対策基本法第68条

また、市長（本部長）は、総務省の応急対策職員派遣制度による総括支援チーム^{*1}、対口支援チーム^{*2}の支援が必要と認める場合、県に支援チームの派遣を要請する。

*1 災害マネジメントを支援するチーム

*2 避難所運営、罹災証明書の交付等の災害対応業務を支援するチーム

(2) 指定地方行政機関等への応援要請

市長（本部長）は、災害応急対策又は災害復旧のため必要があるときは、指定地方行政機関に対し、職員の派遣を要請する、又はその派遣について知事に対しあっせんをもとめる。

■指定地方行政機関等への応援要請手続き

要請先	指定地方行政機関又は特定公共機関（あっせんをもとめる場合は県）	
連絡方法	文書（緊急の場合は電話、無線で行い、事後文書送付）	
職員派遣・ あっせん要請	○派遣の要請・あっせんを求める理由 ○職員の職種別人員数 ○派遣を必要とする期間 ○派遣される職員の給与その他勤務条件 ○その他必要な事項	派遣：災害対策基本法 第29条 あっせん：災害対策基本法 第30条 地方自治法 第252条の17

(3) 他市町村への応援・援助要請

市長（本部長）は、応急措置を実施するため必要と認めるときは、県内市町村間で締結した

「災害時における千葉県内市町村間の相互応援に関する基本協定」及び「災害時における相互援助に関する協定」に基づき、県内外の他市町村長に応援及び援助の要請を行う。

■県内市町村への応援要請手続き

要請先	要請先市町村（複数にわたる場合は知事）
連絡方法	文書（緊急の場合は電話、無線で行い、事後文書送付）
要請事項	<ul style="list-style-type: none"> ○被害状況 ○応援の種類 ○応援の具体的な内容及び数量 ○応援を希望する期間 ○応援場所及び応援場所への経路 ○その他必要な事項災害の状況
応援の種類	<ul style="list-style-type: none"> ○食料、飲料水及び生活必需物資並びにその供給に必要な資機材の提供 ○被災地の救出、医療、防疫、施設の応急復旧等に必要な資機材及び物資の提供 ○救援及び救助活動に必要な車両、舟艇等の提供 ○救助及び応急復旧に必要な医療職、技術職、技能職等の職員の派遣 ○被災者の一時収容のための施設の提供 ○被災傷病者の受入れ ○遺体の火葬のための施設の提供 ○ごみ・し尿等の処理のための施設の提供 ○ボランティアの受入及び活動調整 ○全各号に定めるもののほか特に要請のあった事項

■相互応援協定

協定名	協定締結先
千葉県水道災害相互応援協定	千葉県
鴨川市と荒川区との非常災害時等における相互応援に関する協定	東京都荒川区
大規模災害時における相互応援に関する協定	大阪府泉南市
災害時における相互援助に関する協定	東京都板橋区、栃木県日光市、山梨県都留市、群馬県渋川市、群馬県高崎市、群馬県沼田市、茨城県かすみがうら市、茨城県桜川市、新潟県南蒲原郡田上町、新潟県妙高市、福島県白河市、山形県最上郡最上町、山形県尾花沢市

(4) 水道事業体等の相互応援

市長（本部長）災害等により水道水の供給が停止し、応急措置を実施するため必要があると認めるときは、県内水道事業体等の間で締結している「千葉県水道災害相互応援協定」に基づく手続きを安房都市広域市町村圏事務組合水道部に要請する。

安房都市広域市町村圏事務組合水道部は、市長（本部長）からの要請を受けた場合は速やかに千葉県に応援要請を行う。

(5) 資料の提供及び交換

- ① 防災関係機関は、災害対策上必要な資料又は調査の成果を相互に交換する。
- ② 知事及び指定地方行政機関の長は、災害応急対策に必要な職員の派遣措置が講じられるよ

う、あらかじめ関係資料を整備しておく。

(6) 経費の負担

① 国又は他都県、市町村から市に職員派遣を受けた場合

国又は他都県、市町村から市に派遣を受けた職員への給与及び経費の負担方法は、所定の方法による。

② 指定公共機関等から協力を受けた場合

指定公共機関等が県に協力した場合の経費負担については、各計画に定めるもののほか、その都度、又は事前に相互に協議して定めた方法による。

(7) 民間団体等への協力要請

市長（本部長）は、大規模災害時における迅速な応急・復旧体制を図るため、必要と認められるときは、各種団体等に対して協力を要請する。

(8) 応援隊の受入れ・活動支援

広域拠点班は、「千葉県大規模災害時応援受援計画」に基づき広域防災拠点の開設、運営について、「千葉県広域防災拠点施設の利用に関する協定」に基づいて県と連携して支援を行う。

なお、鴨川市総合運動施設が、館山・鴨川・勝浦ゾーンの広域防災拠点（自衛隊、消防、警察）に指定されている。

また、本部事務局は、各班からの応援要請に基づき応援隊の派遣について、応援先の自治体等と調整して受入れを行い、応援者を配分する。各活動現場においては、各班が応援者の業務について対応する。

その際、感染症を考慮して適切な空間を確保するほか、応援職員等の宿泊場所の確保が困難となる場合も想定してホテル・旅館、公共施設の空きスペース、仮設の拠点や車両を設置できる空き地など応援職員等の宿泊場所として活用可能な施設等のリスト化に努める。

2. 消防の広域応援要請

(1) 消防相互応援

市長（本部長）又は消防長は、県内消防機関による広域的な応援の必要を認めるときは、「千葉県広域消防相互応援協定」及び「千葉県消防広域応援基本計画」に基づき、迅速な応援要請をする。

(2) 緊急消防援助隊

県内の消防力を結集しても消防力に不足が生じると認めるときは、知事を通じて消防庁長官へ緊急消防援助隊の出動を要請することができる。

緊急消防援助隊の応援要請を行った場合には、緊急消防援助隊が円滑に活動できるよう次の体制の確保を図る。

- | | |
|---------------------|-------|
| ○情報提供 | ○通信運用 |
| ○集結及びヘリコプター離発着場予定場所 | ○補給体制 |

3. 自衛隊の災害派遣

(1) 災害派遣要請

市長（本部長）は、人命又は財産の保護に必要が認められるときに、知事に対して自衛隊の災害派遣の要請を求めることができる。

※自衛隊派遣の三要件 ①緊急性 ②公共性 ③非代替性

■自衛隊の活動

○被害状況の把握

車両、航空機等状況に適した手段によって情報収集活動を行い被害の状況を把握する。

○避難の援助

避難の命令等が発令され、避難、立ち退き等が行われる場合で必要があるときは、避難者の誘導、輸送等を行い、避難を援助する。

○遭難者等の捜索救助

行方不明者、傷者等が発生した場合は、通常、他の救援活動に優先して、捜索救助を行う。

○水防活動

堤防、護岸等の決壊に対するは、土のう作成、運搬、積込み等の水防活動を行う。

○消防活動

火災に対しては、利用可能な消防車その他の防火用具（空中消火が必要な場合は航空機）をもって、消防機関に協力して消火に当たるが、消火薬剤等は、通常関係機関の提供するものを使用するものとする。

○道路又は水路の啓開

道路若しくは水路が損壊し、又は障害物がある場合は、それらの啓開、又は除去に当たる。

○応急医療、救護及び防疫

被災者に対し、応急医療、救護及び防疫を行うが、薬剤等は、通常関係機関の提供するものを使用するものとする。

○人員及び物資の緊急輸送

救急患者、医師その他救援活動に必要な人員及び救援物資の緊急輸送を実施する。この場合において航空機による輸送は、特に緊急を要すると認められるものについて行う。

○給食、給水及び入浴支援

被災者に対し、給食、給水及び入浴支援を実施する。

○物資の無償貸付又は貸与

防衛省の管理に属する物品の無償貸与及び譲与等に関する省令に基づき、被災者に対し生活必需品等を無償貸付し、又は救じゅつ品を譲与する。

○危険物の保安及び除去

能力上可能なものについて、火薬類、爆発物等危険物の保安措置及び除去を実施する。

○その他

その他臨機の必要に対し、自衛隊の能力で対処可能なものについては、所要の措置をとる。

(2) 派遣要請の要求の手続き

市長（本部長）は、自衛隊の災害派遣の必要があると認められるときは、知事に対して文書により要求する。なお、緊急を要する場合は、電話又は口頭で次の事項を明らかにして要求し、事後速やかに文書を提出する。

また、通信の途絶等で知事に依頼できないときは、直接最寄りの駐屯地司令等の職にある部隊の長に通知し、事後、所定の手続きを行う。

なお、事態の推移に応じ、派遣を要請しないことを決定した場合は、直ちにその旨を連絡する。

■災害派遣要請の手続き

要請事項	<input type="checkbox"/> 災害の情況及び派遣を要請する事由 <input type="checkbox"/> 派遣を希望する期間 <input type="checkbox"/> 派遣を希望する区域及び活動内容 <input type="checkbox"/> 連絡場所、連絡責任者、宿泊施設の状況等その他参考となるべき事項
連絡先	千葉県防災危機管理部

(3) 受入体制

本部事務局は、自衛隊の災害派遣要請を依頼した場合、作業計画を作成し、次のような対応を行う。

■自衛隊の受入体制

項目	内容
作業計画の作成	<input type="checkbox"/> 作業箇所及び作業内容 <input type="checkbox"/> 作業箇所別必要人員及び必要機材 <input type="checkbox"/> 作業箇所別優先順位 <input type="checkbox"/> 作業に要する資材の種類別保管（調達）場所 <input type="checkbox"/> 部隊との連絡責任者、連絡方法及び連絡場所
資機材の準備	必要な機械、器具、材料、消耗品等の確保に努め、諸作業に關係のある管理者への了解を取りつける。
派遣部隊の受入れ	派遣された部隊に対し、次の施設等を準備する。 <input type="checkbox"/> 本部事務室 <input type="checkbox"/> 宿舎 <input type="checkbox"/> 材料置場、炊事場（野外の適切な広さ） <input type="checkbox"/> 駐車場（車1台の基準は3m×8m） <input type="checkbox"/> 指揮連絡用ヘリコプター離発着場
連絡窓口	<input type="checkbox"/> 自衛隊派遣要請に係る県との連絡調整は、本部事務局に連絡窓口を一本化する。 <input type="checkbox"/> 自衛隊からの連絡員の派遣を要請する。

■ヘリコプター離発着場の必要地積 (注)四方向に障害物のない広場のとき

機種	必要地積
O H - 6 J × 1	約 30m × 30m
U H - 1 H × 1	約 36m × 36m
U H - 6 O × 1	約 50m × 50m
C H - 4 7 × 1	約 100m × 100m

(4) 調整組織の構築

県、市、自衛隊等による調整組織を構築する場合、本部事務局は、自らの消防力等の活用、自衛隊による教育支援を含めた対応要領の普及等、共助体制の早期確立に努める。

(5) 自衛隊の自主派遣

自衛隊は、災害の発生が突発的で、その救援が緊急を要し、知事の要請を待ついとまがないときは、部隊等を自主派遣することができる。

また、大規模な災害が発生した際には、自衛隊は、その活動が円滑に進むよう「提案型」の支援を行い、支援ニーズを早期に把握・整理する。

(6) 経費の負担区分

次の費用は、市が負担する。

また、派遣部隊は、関係機関又は民間からの宿泊・給食の施設、設備等の提供を受けた場合には、これを利用することができます。

自衛隊の救援活動に要した経費は、原則として派遣を受けた市が負担するものとし、2以上の地域にわたって活動した場合の負担割合は、関係市町村が協議して定める。

■負担経費

- 資機材（自衛隊装備にかかるものを除く）等の購入費
- 資機材等の借上料及び修繕費
- 宿営に必要な土地、建物等の使用及び借上料
- 宿営及び救援活動に伴う光熱、水道、電話料等
- その他救援活動の実施に要する経費で負担区分に疑義のある場合は、自衛隊と市が協議する。

(7) 撤収要請依頼

災害派遣の目的が達成されたとき、又はその必要がなくなったときは、市長（本部長）は、知事及び派遣部隊の長と協議の上、知事に派遣部隊の撤収要請の依頼を行う。

第6節 消防・救助救急・危険物等対策

項目	実施担当	関係機関
1. 消防活動	消防対策班	安房都市広域市町村圏事務組合消防本部
2. 救助活動	市民生活班、消防対策班	鴨川警察署、安房都市広域市町村圏事務組合消防本部
3. 救急活動		安房都市広域市町村圏事務組合消防本部
4. 危険物等の対策		安房都市広域市町村圏事務組合消防本部、県

1. 消防活動

(1) 消火活動

安房都市広域市町村圏事務組合消防本部は、次の点に留意して消火活動を効果的に行う。

■消火活動の留意事項

- ① 風向き、市街地の建物分布等を考慮し、最も効果的に消防力を投入する。
- ② 延焼火災の少ない地区は、集中的に消火活動を実施し、安全地区として確保する。
- ③ 延焼火災が発生している地区は、直ちに住民の避難を開始し、必要に応じて避難路の確保等を最優先で行う。また、安全な方向への避難誘導を呼びかける。
- ④ 危険物の漏洩等のおそれがある地区は、立入り禁止措置をとり、安全な避難誘導に努める。
- ⑤ 病院、避難所等、幹線道路、防災拠点となる施設等の火災防ぎょを優先して行う。
- ⑥ 住民等が実施する初期消火活動との連携、指導に努める。

① 活動体制

震災時には、人命に対する多様な危険現象が複合的に発生することが予想されることから、災害事象に対応した防御活動を常備消防、消防団の全機能をあげて展開し、地域住民の生命、身体及び財産の保護に努める。

② 活動方針

震災時には、住民の生命、身体の安全確保を基本とし、出火防止と地震により発生した火災の早期鎮圧、人命の救出、救助及び避難路の安全確保を原則とした活動を実施する。

③ 活動の基本

ア. 常備消防

(ア) 避難場所、避難路確保の優先

延焼火災が多発し拡大した場合は、人命の安全を優先とした避難場所、避難路確保の消防活動を行う。

(イ) 重要地域の優先

同時に複数の延焼火災を覚知した場合は、重要かつ延焼拡大危険要素が高い地域を優先に消防活動を行う。

(ウ) 消火可能地域の優先

同時に複数の延焼火災が発生した場合は、消火可能地域を優先して消火活動を行う。

(エ) 市街地火災の優先

大工場、大量危険物貯蔵施設等から出火し、多数の消防隊を必要とする場合は、市街地に面する部分及び市街地の延焼火災の消防活動を優先とし、それらを鎮圧した後に部隊を集中して活動に当たる。

(オ) 重要対象物の優先

重要対象物周辺と他の一般市街地から同時に出火した場合は、重要対象物の防護上に必要な消防活動を優先する。

イ. 消防対策班

(ア) 出火防止

地震の発生により、火災等の災害発生が予測された場合は、居住地付近の住民に対し出火防止を広報するとともに、出火した場合は、住民と協力して初期消火を図る。

(イ) 消火活動

常備消防の出動不能若しくは困難な地域における消火活動、又は主要避難路確保のための消火活動については、単独又は常備消防と協力して行う。

(ウ) 救急救助

要救助者の救助救出、負傷者への応急措置及び安全な場所への搬送を行う。

(エ) 避難誘導

避難の指示等がなされた場合は、これを住民に伝達するとともに、関係機関と連絡をとりながら住民を安全に避難させる。

(2) 住民・自主防災組織の活動

住民及び自主防災組織は、火災が発生した場合に初期消火活動を行い、消防機関が到着した場合にはその指示に従う。

(3) 事業所の活動

事業所は、火災が発生した場合、出火防止措置及び初期消火活動を行う。また、火災の拡大、爆発等が発生するおそれのあるときは、次の措置をとる。

■事業所の消火活動等

- ① 警察、消防署等最寄りの防災機関への通報
- ② 自衛消防隊等による初期消火、延焼防止活動
- ③ 必要に応じて従業員、顧客等の避難
- ④ 周辺地域の住民等への必要な情報の伝達
- ⑤ 立入り禁止措置等の実施

2. 救助活動

(1) 行方不明者情報の収集

市民生活班は、災害により要救出者、行方不明者が発生した場合は、氏名、性別、年齢、災害発生場所、遭難場所、身体的特徴、衣服等の情報を把握する。

(2) 救助活動

安房都市広域市町村圏事務組合消防本部及び消防対策班は、救助隊を編成し、救助資機材等を準備して行方不明者情報をもとに救出活動を行う。

災害の状況等により市の救助隊だけでは救助活動が困難な場合は、鴨川警察署、安房都市広域市町村圏事務組合消防本部、隣接消防機関等の応援を要請する。自衛隊の応援が必要な場合は、知事に要請を依頼する。

また、車両、特殊機械器具が必要な場合は、県の協力又は土木・建設協力会等に出動を要請

する。

(3) 住民・自主防災組織・事業所の救助活動

住民、自主防災組織及び事業所は、二次災害の発生に十分注意しながら連携して、地域及び事業所内の被害状況を調査し、行方不明者の確認を行う。

また、崩壊土砂や建物等の下敷きとなっている者がいるときは、可能な限り協力して救助を行う。

3. 救急活動

安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部は、救助現場から救護所又は救急指定病院等まで、救急車等で傷病者を搬送する。傷病者が多数発生した場合は、警察その他の機関、住民等に搬送を要請する。市内の搬送先病院で収容できない場合は、災害拠点病院へ救急車で搬送する。

また、道路の被害等で救急車による搬送ができない場合は、県を通じてヘリコプターの出動を要請する。

4. 危険物等の対策

市は、県及び安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部等が行う次の対策に協力する。

(1) 高圧ガス保管施設の応急対策

- ① 高圧ガス保管施設の破損に伴う被害の拡大を防止するため、関係機関と連絡を密にし、高圧ガス製造事業者等に必要な指示を行う。
- ② 関係機関と連絡の上、必要に応じて高圧ガス取扱いの制限等の緊急措置を行う。

(2) 石油類等危険物保管施設の応急対策

- ① 危険物の流出並びに爆発等のおそれのある作業及び移送を停止するとともに、施設の応急点検と出火等の防止措置を行う。
- ② 混触発火等による火災の防止措置、初期消火活動、タンク破壊等による流出及び異常反応、浸水等による広域拡散の防止措置と応急対策を行う。
- ③ 危険物による災害発生時の自主防災組織活動と活動要領の制定を行う。
- ④ 災害状況の把握及び状況に応じた従業員、周辺地域住民への人命安全措置並びに防災機関との連携活動を行う。

(3) 危険物等輸送車両の応急対策

- ① 事故通報等に基づきその状況を把握の上、交通規制等について関係機関と密接な情報連絡を行う。
- ② 必要に応じ、地域住民への広報活動や警戒区域に対する規制等を行う。
- ③ 危険物輸送車両の関係者に対して、必要に応じ一時使用停止又は使用制限の緊急措置命令を発する。

第7節 警備・交通・輸送

項目	実施担当	関係機関
1. 警備計画		鴨川警察署
2. 交通規制	土木班、本部事務局	鴨川警察署、県、国
3. 緊急輸送路の確保	土木班	県
4. 緊急通行車両等の確認	本部事務局	県公安委員会
5. 緊急輸送の実施	本部事務局	

1. 警備計画

(1) 災害警備の基本方針

警察は、災害が発生し、又は発生するおそれがある場合における公共の安全と秩序の維持に当たるため、平素から管内の実態を把握するとともに、防災関係機関と緊密な連絡協調を図り、積極的な関係情報の収集と的確な情勢判断により、早期に警備態勢を確立して、災害情報の収集、共有、避難誘導、交通の確保、犯罪の予防検挙、人命の救助、財産の保護等の諸活動を行うことを基本とする。

(2) 警備体制

警察本部及び鴨川警察署は、地震や津波に伴い災害が発生し、又は発生するおそれがある場合は、その規模に応じ指揮体制を確立し災害警備活動を行う。

① 連絡室

震度4以上の地震が発生した場合、津波注意報が発表された場合等

② 対策室

震度5弱の地震が発生した場合、津波警報が発表された場合等

③ 災害警備本部

震度5強以上の地震が発生した場合、大津波警報が発表された場合等

(3) 警備活動要領

- ① 要員の招集及び参集
- ② 地震、津波その他災害情報の収集及び伝達
- ③ 装備資機材の運用
- ④ 通信の確保
- ⑤ 負傷者の救出及び救護
- ⑥ 避難誘導及び避難地区の警戒
- ⑦ 警戒線の設定
- ⑧ 災害の拡大防止と二次災害の防止
- ⑨ 報道発表
- ⑩ 行方不明者の捜索及び迷子等の保護
- ⑪ 死傷者の身元確認、遺体の収容
- ⑫ 交通対策（現場周辺の交通規制及び緊急交通路の確保）
- ⑬ 地域安全対策（犯罪の予防・取締り、相談活動）
- ⑭ 協定に基づく関係機関への協力要請
- ⑮ その他必要な応急措置

(4) 市の活動

消防対策班は、鴨川警察署や勝浦海上保安署等の関係機関の災害警備実施計画に協力し、住民の安全を守るため次の措置を講ずる。

① 住民が避難した地域については、地域安全活動を強化して、犯罪の予防、財産の保護等に努める。

ア. 住民の避難後の住宅密集地域等、商店街、金融機関等の防犯対象及び各種犯罪の多発地域等については、自主的防犯組織等によるパトロール活動を支援するとともに、広報活動も実施し、犯罪の予防等を図る。

イ. 防犯協会等の自主的防犯組織に対して情報の提供・伝達を行うとともに、平常時からこれらの組織への支援等を行う。

② 大規模な災害発生時には自然発生的に地域住民による自警団が組織されることが予想されるので、自警団が行う防犯活動に対する支援を行う。

2. 交通規制

(1) 道路情報の収集及び提供

土木班は、鴨川警察署及び道路管理者と連絡をとり、その管理する道路の被災状況、交通の状況等の情報を収集する。

① 調査及び報告

土木班は、調査の結果被災箇所を発見した場合は、下記の要領により報告する。

ア. 市域の道路について被災箇所を発見したときは、速やかにその路線名・箇所・拡大の有無・迂回路線の有無その他被災の状況等を本部事務局に報告する。

イ. 本部事務局は、アによる報告を受けたときは、その状況を直ちに道路管理者に報告する。

② 県警本部

ア. 交通情報の収集は、航空機、オートバイその他の機動力を活用し、専従の収集班を編成して行う。

なお、警察本部においては、隣接都県警察及び警察庁（管区警察局を含む。）と連携を密にし、交通情報の収集を行う。

イ. 交通情報の提供は、交通情報提供装置を活用し、道路情報センター及び報道機関の協力を得て行う。

(2) 交通規制

鴨川警察署及び国道、県道の道路管理者等は、災害により危険な箇所又は緊急輸送等のため必要な路線において、通行禁止又は制限等の措置をとる。交通規制を行う箇所には、検問所を設置し規制、警戒にあたる。

また、交通規制又は道路が被災した場合は、鴨川警察署及び県道、国道の道路管理者等と協議し、迂回路を設定する。

■交通規制等の実施者及び状況・内容

実施機関	規制を行う状況・内容	根拠法令
道路管理者	○道路の破損、欠壊、その他の事由により交通が危険であると認められる場合、道路の構造を保全し、又は交通の危険を防止するため、区間を定めて道路の通行を禁止し、又は制限することができる。	道路法（昭和27年法律第180号）第46条
道路管理者等	○放置車両、立ち往生車両等の発生により、災害応急対策の実施に著しい支障が生じるおそれがあり、かつ、緊急通行車両の通行を確保するため緊急の必要があると認めるときは、道路の区間を指定し、運転者等に対して車両等の移動を命令することができる。また、運転者等が不在の場合等には、道路管理者等が自ら車両等の移動を行うことができる。	災害対策基本法第76条の6
公安委員会	○道路における危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図る必要があると認めるとき、交通整理、歩行者又は車両等の通行の禁止その他道路における交通の規制をすることができる。 ○災害が発生し、又はまさに発生しようとしている場合において、災害応急対策が的確かつ円滑に行われるようするため緊急の必要があると認めるときは、緊急通行車両以外の車両の通行を禁止し、又は制限することができる。	道路交通法（昭和35年法律第105号）第4条 災害対策基本法第76条
鴨川警察署長	○道路における危険を防止し、その他交通の安全と円滑を図る必要があると認めるとき、歩行者又は車両等の通行の禁止その他の交通の規制のうち、適用期間の短いものをすることができる。	道路交通法第5条
警察官	○道路の損壊、火災の発生その他の事情により道路において交通の危険が生じるおそれがある場合において、当該道路における危険を防止するため緊急の必要があると認めるときは、必要な限度において、一時、歩行者又は車両等の通行を禁止し、又は制限することができる。 ○通行禁止区域等において、車両その他の物件が緊急通行車両の通行の妨害となることにより、災害応急対策の実施に著しい支障が生じるおそれがあると認めるときは、当該車両その他の物件の移動、その他必要な措置を命ずることができる。また、措置をとることを命ぜられたものが当該措置をとらないとき又は命令の相手方が現場にいないときは、自ら当該措置をとることができる。	道路交通法第6条 災害対策基本法第76条の3第1項 災害対策基本法第76条の3第2項
災害派遣を命じられた部隊等の自衛官、消防吏員	○警察官がその場にいない場合に限り、通行禁止区域等において、災害対策基本法第76条の3第1項、第2項に定められた職務を行うことができる。	災害対策基本法第76条の3
海上保安署	○天災事変、海難、工作物の損壊、危険物の爆発等危険な事態がある場合であって、人の生命若しくは身体に危険が及び、又は財産に重大な損害が及ぶおそれがあり、かつ、急を要するとき航行制限を実施する。	海上保安庁法（昭和23年法律第28号）第18条

(注) 道路管理者等とは、道路法による道路を管理する道路管理者、港湾法による道路を管理する港湾管理者、漁港漁場整備法による道路を管理する漁港管理者をいう。

(3) 地震発生時における運転者のとるべき措置

地震発生時における運転者のとるべき措置については、次の事項の周知を図る。

① 車両運転中の場合

- ア. 出来る限り安全な方法により、車両を道路の左側に停止させること
- イ. 停止後は、ラジオやSNS等により災害情報及び交通情報を聴取し、その情報及び周囲の状況に応じて行動すること
- ウ. 引き続き車両を運転するときは、道路の損壊、信号機の作動停止、道路上の障害物等に十分注意すること。
- エ. 車両を置いて避難するときは、できるだけ道路外の場所に駐車しておくこと。やむを得ず道路上に置いて避難するときは、車両をできる限り道路の左端に寄せて駐車し、エンジンを切り、エンジンキーを付けたままとし、窓を閉め、ドアはロックしないこと。また、避難する人の通行や災害応急対策の実施の妨げとなるような場所には駐車しないこと。

② 車両運転中以外の場合

- ア. やむを得ない場合を除き、津波から避難するために車両を使用しないこと。
- イ. 津波から避難するためやむを得ず車両を使用するときは、避難者、道路の損壊、信号機の作動停止、道路上の障害物等に注意しながら運転すること。

③ 災害対策基本法に基づく交通規制が行われたときには、通行禁止区域等（交通規制が行われている区域又は道路の区間をいう。）における一般車両の通行は禁止又は制限されることから、通行禁止区域等内的一般車両については次に掲げる措置を講ずること

- ア. 速やかに、車両を次の場所に移動させること。
 - ・道路の区間を指定して交通の規制が行われたときは、規制が行われている道路の区間以外の場所
 - ・区域を指定して交通の規制が行われたときは、道路外の場所
- イ. 速やかな移動が困難なときは、車両をできる限り道路の左端に沿って駐車するなど、緊急通行車両の通行の妨害とならない方法により駐車すること。
- ウ. 通行禁止区域等内において、警察官の指示を受けたときは、その指示に従って車両を移動又は駐車すること（その際、警察官の指示に従わなかったり、運転者が現場にいないために措置を執ることができないときは、警察官が自らその措置を執ることがあり、この場合、やむを得ない限度において、車両等を破損することがある。）。

3. 緊急輸送路の確保

(1) 緊急輸送路の確保

市は、自衛隊との連携等、道路啓開を行うために必要な体制をあらかじめ整備しておく。災害発生時には、土木班は、道路管理者と連携を図り、緊急輸送道路となる道路の状況を点検し、交通規制、応急復旧などを行い、通行を確保する。また、本部事務局は、道路の通行禁止、制限等緊急輸送道路における状況について、鴨川警察署と密接な連絡をとる。なお、道路管理者等は、あらかじめ住民等に対し、災害時において災害対策基本法第76条の6に基づき車両の移動等を命じる道路区間の指定を行った場合は、車両の移動等が行われることがあることを周知するものとする。

(2) 千葉県の緊急輸送道路

県は、災害発生時の被害者の救援、緊急物資の輸送への対処を目的として、千葉県内の国道、主要地方道等を緊急輸送道路として指定している。

市に該当する緊急輸送ネットワークは、次のとおりである。

■県の緊急輸送ネットワーク

路線区分	市内の路線
1次路線	国道128号、主要地方道千葉鴨川線
2次路線	国道410号、主要地方道鴨川保田線、主要地方道富津館山線 県道浜波太港線 他2路線（市道、臨港道路）
3次路線	なし

(注) 1次路線は、県庁所在地、地方中心都市及び重要港湾、空港等を連絡する道路、2次路線は、第1次緊急輸送道路と市区町村役場、主要な防災拠点（行政機関、公共機関、主要駅、港湾、ヘリポート、災害医療拠点、自衛隊等）を連絡する道路、3次路線は、その他の防災や輸送のための拠点との連絡する道路である。

4. 緊急通行車両等の確認

(1) 緊急通行車両申請手続き

市は、知事又は公安委員会に対し、車両が緊急通行車両（道路交通法第39条第1項の緊急自動車、災害応急対策の的確かつ円滑な実施のため、その通行を確保することが特に必要な車両）であることの確認を求めることができる。

本部事務局は、災害対策に使用する車両で緊急通行車両標章等の事前交付を受けていないものについて、緊急通行車両確認申請書を県又は公安委員会に提出する。県又は公安委員会は、緊急通行車両であることを確認したときは、標章及び確認証明書を交付する。

交付された標章は、運転者席の反対側（助手席）の内側ウインドウガラス上部の前面から見やすい箇所に貼付し、証明書は必ず携行し、警察官等から提示を求められたときは、これを提示する。

(2) 緊急通行車両等の事前申出

県公安委員会は、緊急通行車両の迅速な確認手続きを実施するため、あらかじめ関係機関から緊急通行車両の事前確認の申出を受理している。緊急通行車両に該当するかどうかの審査を行い、緊急通行車両に該当すると認められるものには、標章及び確認証明書を事前に交付する。

(3) 規制除外車両の事前届出

市は、緊急通行車両以外の社会生活の維持に不可欠な車両又は公益上通行させることがやむを得ないと認められる車両（規制除外車両）について、当該車両を所有・管理する機関と協力して県公安委員会への事前届出を推進する。

- ① 医師・歯科医師、医療機関等が使用する車両
- ② 医薬品・医療機器・医療用資材等を輸送する車両
- ③ 患者等搬送用車両（特別な構造又は装置があるものに限る。）
- ④ 建設用重機、道路啓開作業用車両又は重機輸送用車両

5. 緊急輸送の実施

(1) 緊急輸送の範囲

市が実施する緊急輸送の対象は、次のとおりである。

本部事務局は、各班からの輸送要請に基づき、輸送業者等と連絡調整を行い、車両等の手配を行う。

■輸送の範囲

- | | |
|----------------------|-----------------|
| ○被災者の避難 | ○医療救護を必要とする傷病者等 |
| ○救出救助、医療救護のための人員、資機材 | ○飲料水、食料、物資 |
| ○応急復旧用資機材・災害対策要員等 | |

(2) 車両・燃料の確保

本部事務局は、公用車その他の車両を管理し、各班からの配車要請に基づいて配車を行う。公用車では不足する場合又は公用車では輸送できない場合は、輸送業者等からトラック、バス等を調達する。

① 車両等の調達の優先順位

必要車両の調達の優先順位は、次のとおりである。

- ア. 各班専用管理車両の各班利用
- イ. 本班事務局管理の市所有車両の運用
- ウ. 外部からの車両の調達
- エ. 県への要請若しくは調達あっせんの依頼

② 借り上げの準備

災害の状況により、必要と認めるときは、本部事務局はあらかじめ以下のとおり、輸送業者等からの借り上げの準備を行う。

- ア. 借り上げ可能な車両の調査

イ. 車両の用途

- (ア) 生活必需品及び政府食糧等の輸送
- (イ) 障害物の除去及び運搬
- (ウ) 塵芥処理及び運搬
- (エ) その他必要な運搬

ウ. 車両の待機

市内の各輸送業者等は、市からの要請があった場合は、供給可能な台数を各事業所に待機させる。

エ. 借り上げ料金

借り上げに要する費用は、市が当該輸送業者等の団体若しくは当該業者等と協議して定める。

③ 燃料の調達

燃料は、市内の燃料販売業者から「災害時における物資の供給に関する協定書」(千葉県石油商業協同組合安房支部)に基づき調達する。

市は、以上に係る措置に必要な体制や手続等をあらかじめ定めるものとする。

(3) 配車計画

本部事務局は、次のとおり車両を効率的に管理し、配車を行う。

① 配車基準

- ア. 災害時において各班の所管事務が円滑に実施できるよう、市保有車両並びに調達車両の配分又は併用、転用等災害の状況に応じた車両の運用計画を立て、輸送力を確保する。
- イ. 災害時における各班に配分する車両は、あらかじめ定めておく。
- ウ. 災害の状況に応じて必要とする車両を各班、関係防災機関及び市内の輸送関係業者に対し、車両の待機を要請することができる。

② 配車手続き

各班は、車両を必要とする場合は、車種、台数、日時及び引渡し場所等を明示し、本部事務局に請求する。

(4) 鉄道による輸送

本部事務局は、自動車による輸送が不可能な場合又は広域輸送が必要な場合は、東日本旅客鉄道（株）又は、日本貨物鉄道（株）に鉄道による輸送を要請する。

(5) ヘリコプターによる輸送の要請

本部事務局は、災害による交通の途絶又は緊急的な輸送を必要とする場合は、県を通じてヘリコプターによる輸送を要請する。

その場合、自衛隊等と連携して臨時のヘリコプター離発着場を開設する。

(6) 船舶による輸送

本部事務局は、陸路による緊急輸送が困難な場合においては、耐震強化岸壁等が整備された鴨川漁港を海上輸送拠点として活用した輸送を実施する。

その場合においては、鴨川市漁業協同組合及び東安房漁業協同組合に組合及び組合員の持船による海上輸送の協力要請をする。それでも間に合わない場合には、県、他市町村の漁業協同組合にも協力を要請し、応急対応要員又は緊急物資等の輸送をする。

市内の民間企業の持船にも協力を要請する。

第8節 避難対策

項目	実施担当	関係機関
1. 津波避難		
2. 避難指示等	本部事務局	
3. 警戒区域の設定	本部事務局	
4. 避難誘導	本部事務局	
5. 避難所開設	教育班、各班、防災班	
6. 避難所等の運営	教育班、市民生活班、各班	
7. 避難所設備の整備	教育班	
8. 避難者への支援	本部事務局、教育班、産業班、 医療支援班	
9. 要配慮者の避難対策	福祉班	
10. 広域避難・広域一時滞在	本部事務局	
11. 避難所の集約及び解消	本部事務局	

1. 津波避難

津波避難は、別に定める「鴨川市津波避難計画」によるものとする。津波避難の方針は、次のとおりである。

(1) 避難指示の発令

次の場合に海浜から退避し、安全な場所に避難するよう指示する。

- ① 大津波警報、津波警報、津波注意報が発表されたとき
- ② 強い地震（震度5弱以上）を感じたとき又は弱い地震であっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じた場合で、かつ市長が避難の必要を認めたとき

(2) 避難先

津波避難施設又は海岸から離れた避難場所や高台に避難する。

津波が引いた後も長期にわたり避難が必要な場合は、2次避難場所へ移動する。

(3) 避難方法

避難方法は徒歩を基本とする。

ただし、以下の場合においては車両の使用を認めるものとする。

- ① お年寄りや体の不自由な人などが長い距離を避難する場合
- ② 避難者が自力で避難できない場合及び遠隔地の避難所へ早急に避難させるため必要と認められる場合

2. 避難の指示等

避難の指示等は、別に定める「鴨川市避難情報の判断・伝達マニュアル」によるものとする。避難指示等の方針は、次のとおりである。

(1) 避難指示等の発令

市長（本部長）は、災害が発生し、又は発生するおそれがある場合は、必要と認める地域の

必要と認める居住者、滞在者その他の者に対し、避難のための立ち退きを指示し、緊急を要するときには緊急安全確保を指示する。

また、避難指示等に先立ち、一般住民の避難準備と要配慮者等の避難開始を促すため「高齢者等避難」を伝達する。

■避難の指示等の発令権者及び要件

発令権者	指示等を行う要件	根拠法令
市長 (本部長)	○災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、市民の生命又は身体を災害から保護し、その他災害の拡大を防止するため特に必要があると認めるときは立退き避難を指示し、急を要するときは緊急安全確保を指示できる。	災害対策基本法 第60条
知事	○災害の発生により市長(本部長)がその全部又は大部分の業務を行うことができなくなったとき	災害対策基本法 第60条
知事及びその命を受けた県職員	○津波等により著しい危険が切迫していると認められるとき ○地すべりにより著しい危険が切迫していると認められるとき	水防法第29条 地すべり防止法 第25条
警察官 海上保安官	○市長(本部長)が避難のための立退きを指示することができないと認められるとき ○市長(本部長)から要求があったとき ○人の生命若しくは身体に危険を及ぼすおそれのある天災等、特に急を要するとき	災害対策基本法 第61条 警察官職務執行法 第4条
災害派遣を命じられた部隊等の自衛官	○人の生命若しくは身体に危険を及ぼすおそれのある天災等、特に急を要する場合で、その場に警察官、海上保安官がいないとき	自衛隊法第94条

■避難の種類及び発令基準（津波を除く）

種類	住民等に求める行動内容	発令基準の目安
高齢者等 避難	・要配慮者は、危険な場所から避難（立退き避難又は屋内安全確保）する。 ・避難の準備を整えるとともに、以後の防災情報等に注意を払い、自発的に避難を開始する。	・状況により本部長（市長）が必要と認めるとき
避難指示	・危険な場所から全員避難（立退き避難又は屋内安全確保）する。	・火災の拡大、がけ崩れ、危険物質等の流出拡散等により、住民に危険が及ぶと認められるとき
緊急安全 確保措置	・直ちに安全確保 ・立退き避難はかえって命に危険を及ぼしかねないと自ら判断する場合には、緊急安全確保措置をとる。	・人的被害が発生する危険性が高いと判断したとき

(注)「立退き避難」とは、災害リスクのある区域等の居住者等が、自宅・施設等においては命が脅かされるおそれがあることからその場を離れ、リスクのある区域等の外側等、対象とする災害に対し安全な場所に移動することであり、避難行動の基本である。

「屋内安全確保」とは、災害リスクのある区域等に存する自宅・施設等であっても、鴨川市防災マップ等で自ら自宅・施設等の浸水想定等を確認し、上階への避難や高層階に留まること等によって計画的に身の安全を確保する行動で、居住者等が自ら判断する。

「緊急安全確保」とは、高所への移動、近傍の堅固な建物への退避、屋内の屋外に面する開口部から離れた場所での待避その他の緊急に安全を確保するための行動である。

(2) 避難指示等の伝達

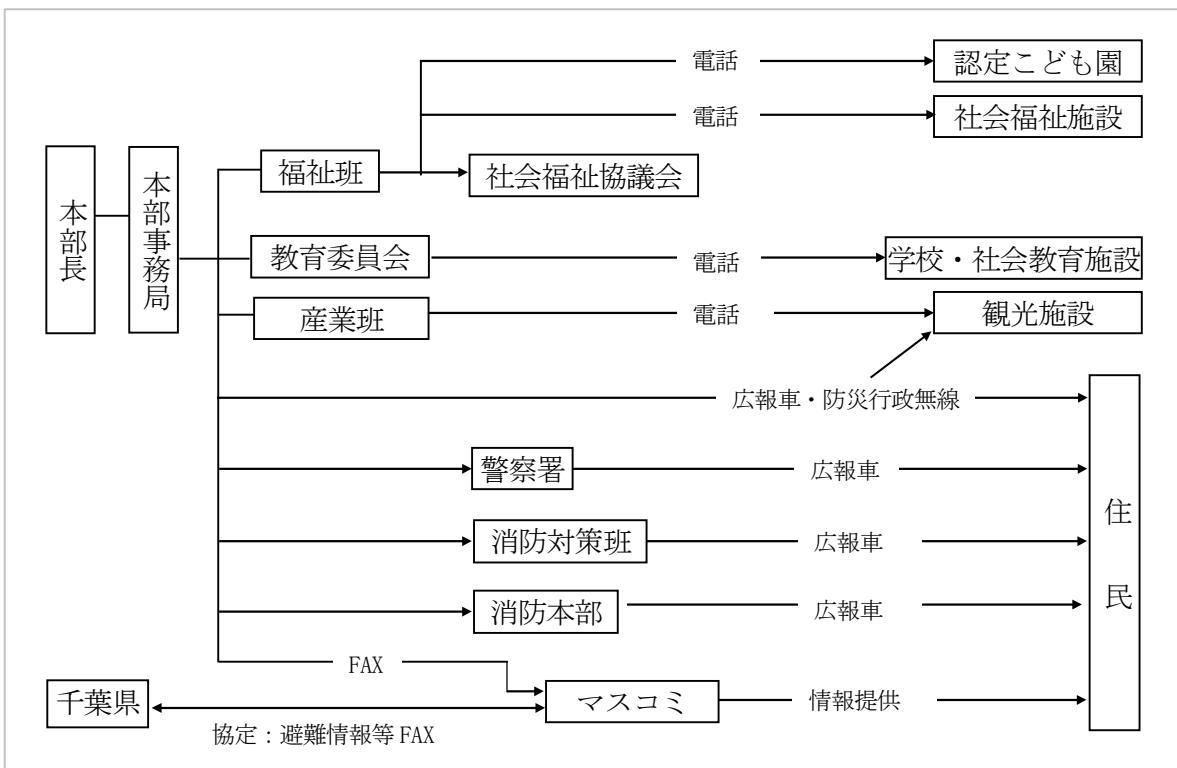
避難指示等の伝達は、次の経路のとおりとする。本部事務局は、関係各対策班及び関係機関に避難指示等の広報を要請する。

また、知事に対し、避難指示等の実施時刻、避難先、避難者数、避難対象地域の人口等を速やかに報告する。

■避難時の伝達事項例

- 避難の理由
 - 避難指示等の対象区域・対象者
 - 避難先
 - 避難経路
 - 避難時の服装、携行品等
 - 避難行動における注意事項

■避難指示等の伝達経路



*認定こども園、社会福祉施設、学校等へは、電話で伝達した後、職員を派遣する（津波を除く）。

(3) 避難の措置と周知

本部事務局は、当該地域の住民等に対してその内容を周知するとともに、速やかに関係機関に対して連絡する。

① 住民等への周知

避難の措置を実施したときは、当該実施者は報道機関の協力を得るほか、以下の方法などにより、周知徹底を図る。なお、周知にあたっては、可能な限り多様な伝達手段を組み合わせるよう努めるものとする。

- 市町村防災行政無線（防災ラジオを含む）
 - 広報車
 - サイレン又は警鐘
 - SNS
 - 電話、FAX、登録制のメール
 - その他速やかに住民に周知できる方法

② 関係機関の相互連絡

市、署、警察本部、自衛隊及び海上保安庁は、避難の措置を行つた場合においては、その

内容について相互に通報連絡する。

(4) 解除

市長（本部長）は、災害による危険がなくなったと判断されるときには、避難指示等を解除し、住民に周知するとともに、速やかにその旨を知事に報告する。

3. 警戒区域の設定

市長（本部長）は、災害が発生し、又はまさに発生しようとしている場合は、生命又は身体に対する危険を防止するため必要があると認める場合は、警戒区域を設定し、当該区域への立ち入りの制限、禁止、退去を命ずる。

■警戒区域の設定権者及び要件・内容

設定権者	設定の要件・内容	根拠法令
市長 (本部長)	○災害が発生し、又はまさに発生しようとしている場合において、市民の生命又は身体に対する危険を防止するため特に必要があると認めるときは、警戒区域を設定し、災害応急対策に従事する者以外の者に対して当該区域への立ち入りを制限し、若しくは禁止し、又は当該区域からの退去を命ずることができる。	災害対策基本法第63条
知事	○災害の発生により市がその全部又は大部分の事務を行うことができなくなったときは、上記の全部又は一部を市長（本部長）に代わって実施しなければならない。	災害対策基本法第73条
消防長、 消防署長	○ガス、火薬又は危険物の漏洩、飛散、流出等の事故が発生した場合において、当該事故により火災が発生するおそれが著しく大であり、かつ、火災が発生したならば人命又は財産に著しい被害を与えるおそれがあると認めるとき、火災警戒区域を設定してその区域内における火気の使用を禁止し、又は総務省令で定める者以外の者に対してその区域からの退去を命じ、若しくはその区域への出入りを禁止し、若しくは制限することができる。	消防法第23条の2
消防吏員又 は消防団員	○火災の現場においては、消防警戒区域を設定して、総務省令で定める以外の者に対してその区域からの退去を命じ又はその区域への出入りを禁止し若しくは制限することができる。	消防法第28条
警察官	○次の場合、上記（災害対策基本法第63条）に記載する市長（本部長）等の職権を行うことができる。 ○市長（本部長）若しくは市長（本部長）の委任を受けた市職員が現場にいないとき、又はこれらの者から要求があったとき ○上記（消防法第23条の2）において消防長若しくは消防署長又はこれらの者から委任を受けた消防吏員若しくは消防団員が現場にいないとき又は消防長若しくは消防署長から要求があったとき ○上記（消防法第28条）において消防吏員又は消防団長が火災の現場にいないとき又は消防吏員又は消防団員の要求があったとき	災害対策基本法第63条 消防法第23条の2 消防法第28条

設定権者	設定の要件・内容	根拠法令
警察官、海上保安官	○上記（消防法第28条）において、市長が避難のための立退きを指示することができないと認められるとき ○市長から要求があったとき	災害対策基本法第61条
	○人の生命若しくは身体に危険を及ぼすおそれのある天災等、特に急を要するとき	警察官職務執行法第4条
災害派遣を命じられた部隊等の自衛官	○上記（災害対策基本法第63条）において市長（本部長）若しくは市長（本部長）の委任を受けた市職員及び警察官が現場にいないとき、上記に記載する本部長等の職権を行うことができる。	災害対策基本法第63条

4. 避難誘導

避難の誘導は、市職員、消防職員、消防団員、警察官、自主防災組織の避難誘導担当者その他の避難措置の実施者が行う。本部事務局は、これらの機関に要請する。

5. 避難所開設

(1) 避難所等の開設

市長（本部長）は、災害の状況に応じて開設する避難所を決定する。

教育班、各班は、避難所を開設する施設の管理者に連絡し、開設準備のため職員（避難所職員）を派遣する。派遣された職員は、施設の管理者等と協力して避難者受入れの準備を行う。

教育班は、避難所からの連絡を受け、避難所の開設状況を把握する。

防災班は、協定施設避難所開設の要請を行う。

なお、避難所のライフラインの回復に時間要すると見込まれる場合や道路の途絶による孤立が続くと見込まれる場合は、避難所の閉鎖、避難者の移送等を検討する

(2) 避難者の受入れ

避難所職員は、施設管理者等と協力して、避難スペースへの案内、施設利用の注意、避難者の要望聴取等を行う。また、開設当初からパーテイションや段ボールベッド等の設置に努める。

各避難所（学校施設避難所、社会教育施設避難所、協定施設避難所）の統括者は、避難者等の状況及びニーズを把握し、隨時、災害対策本部に報告する。

その他、ペット同行避難者を適切に受け入れ、避難所等におけるペットの受入状況を含む避難状況等の把握に努める。避難所でのペットの対応は、本章・第10節・9「(3) ペットへの対応」を参照する。

6. 避難所等の運営

家屋の被災又は災害危険性が解消せず、避難生活が長期化する場合は、次のような避難所の運営を行う。

(1) 避難所運営体制の確立

住民組織を中心とした避難所自治組織（以下「自治組織」という。）を立ち上げ、避難者、職員及びボランティアによる運営を行う。運営にあたっては、男性だけでなく女性の参画を求めるとともに、性別での役割固定化や、役割分担に偏りがないよう配慮する。

また、市は避難所の運営管理のために、各班（長期化する場合は、全職員で対応）の職員を

派遣する。派遣職員が到着するまでは、施設管理者が管理する。

避難所職員は、住民組織のリーダーを中心となって自治組織を結成するように、組織やルールづくり等を支援する。また、避難所運営における相談や、教育班を通じて災害対策本部との調整等を行う。

■避難所の運営

避難所職員	○災害対策本部との連絡 ○避難者への広報 ○施設管理者との調整	○避難所記録の作成 ○運営に関する相談
自治組織	○運営方針の決定 ○避難世帯調査票の記入 ○清掃 ○要望のとりまとめ	○生活ルールの決定 ○食料・物資の配布 ○避難者への情報伝達
ボランティア	○生活支援	

(2) 避難所事務室の開設

避難所職員は、避難所に避難所事務室を開設し、運営の拠点とする。

(3) 避難者の管理

避難所職員は、自治組織の協力を得て、避難世帯調査票、避難者名簿等を作成し、避難者の把握を行う。

また、避難所の運営状況について、避難所運営記録を作成し、1日に1度、教育班を通じて災害対策本部事務局へ報告する。病人の発生等、特別な事情のある時は、そのつど必要に応じて報告する。

避難所からの退去者、毎日の出入りを記録する。

なお、避難所への名簿掲示などの避難者情報の広報は行わず、親族等からの避難者の問い合わせに対しては、第3章・第1節・1 「(3) 安否情報の照会」により対応する。

(4) 指定避難所以外の被災者（在宅等避難者）の把握

市民生活班は、教育班、自治会・町内会・自主防災組織等と連携し、指定避難所以外に自宅、地区の集会場、車中・テント泊等で避難生活を余儀なくされている在宅等避難者を把握する。

また、在宅等避難者の支援拠点を避難所等に設置し、食料、物資、保健医療サービス等のニーズの把握、被災者支援情報や各種支援サービスの提供に努める。

(5) 避難所広報

避難所職員は、避難者への広報を掲示板への掲示、館内放送によって行う。要配慮者に考慮して自治組織を通じて広報紙、チラシ等の配布、口頭による伝達をするように配慮する。

(6) 防犯対策

避難所職員は、避難所において外来者は受け付け記録をとるほか、就寝場所、トイレ等の巡回警備等を行い、防犯に注意する。

教育班は、必要に応じて警察官の派遣を要請する。また、警察官と連携して、避難地域の安全確保と犯罪の防止に努める。

7. 避難所設備の整備

(1) スペースの確保

避難所職員は、施設管理者と協力して避難所のスペースを確保し、要配慮者、乳幼児のいる家庭、単身女性等の専用エリアの区分、男女別更衣室、物干場、授乳室、女性用トイレの設置などに配慮するとともに、被災者のプライバシー及び安全の確保に努める。

避難生活が長期化する場合、関係担当班と協議の上、避難所生活の環境整備に努める。

■スペース例

- | | | |
|------------|------------|-----------|
| ○生活スペース | ○休憩スペース | ○更衣スペース |
| ○洗面・洗濯スペース | ○市救護本部スペース | ○物資保管スペース |
| ○相談窓口スペース | ○配膳・配給スペース | ○駐車スペース |

(2) 設備・備品の整備

避難生活に必要な設備・備品を整備する。特に、季節の特性や要配慮者に配慮する。

また、女性や子供等に対するDV等を防止するため、注意喚起のポスター掲載などに努める。

教育班は、関係班等と連携し必要な設備を確保する。また、入浴、洗濯等に必要となる水の確保に努める。

■避難所の設備等の例

- | | | |
|------------|------------|----------|
| ○冷房・暖房器具 | ○仮設トイレ | ○公衆電話 |
| ○給湯設備 | ○掲示板 | ○間仕切り |
| ○食器、調理器具 | ○清掃用具 | ○感染症予防物品 |
| ○畳、パーティション | ○仮設風呂、シャワー | ○洗濯機 |

8. 避難者への支援

(1) 食料・物資の供給

教育班は、避難所職員から必要数を把握し、産業班に食料・物資の供給を連絡する。食料は、アレルギー、嚥下摂食困難、食形態、栄養バランス、宗教等に配慮する。

なお、避難者への食料・物資の配布は、自治組織が実施するが、女性用品は女性が配布するなどの配慮を行う。

食料・物資は、自宅や指定避難所以外に避難している地域の被災者全員のニーズを把握して配給する。

食料の調達、運搬、炊き出しは第11節を参照する。

(2) 衛生対策

避難所職員は、自治組織、ボランティア及び医療支援班等と協力して、避難所の衛生対策を行い居住環境の保持に努める。

自治組織は、ゴミ捨てや清掃ルールを定め、定期的に避難者で清掃を行う。

■衛生対策例

- | | |
|--------------|----------------|
| ○ゴミ箱、清掃用具の設置 | ○トイレ、洗面所の清掃・消毒 |
| ○ゴミ置場等の清掃・消毒 | ○マスク着用や手指消毒の励行 |

(3) 食中毒等の予防

避難所職員は、医療支援班と連携し食中毒の予防のため、食料の管理、炊事場の清掃、炊き

出し時の衛生管理を徹底するよう指導する。

(4) 入浴対策

本部事務局及び教育班は、自衛隊の入浴支援、近隣のホテル、旅館等の入浴施設等を確保し、被災者に提供する。

(5) 健康管理対策

避難所職員は、医療支援班と連携して感染症の予防のため、薬品を確保し、手洗い、うがいを励行する。

また、適切な避難スペースの確保、避難所レイアウトなど必要な感染症対策の実施に努める。

なお、医療支援班は、必要に応じて避難所内に避難者の健康相談等を行う救護所を設置し、安房医師会や安房保健所（健康福祉センター）等の協力を得て、医師、保健師等による巡回診療などを実施する。また、避難所の衛生管理、避難者の栄養指導、心のケア等にも配慮する。その他、感染症により自宅療養中の住民が避難所に避難する場合は、避難所運営に必要な情報を本部事務局及び避難所職員等と共有する。

(6) 被災者意見等の聴取

避難所職員は、避難所で被災者等の要望や意見を収集し、整理する。

また、女性相談窓口を開設・運営する際は、男女共同参画センターなどを活用する。

(7) 女性等への配慮

女性や子供等に対する性暴力、DV等を防止するため、注意喚起のポスター掲載などに努める。

9. 要配慮者の避難対策

(1) 重度在宅療養者の対策

福祉班は、避難時に重度在宅療養者を福祉施設に一時的に受入れ、施設での受入れ又は他施設への転送などの措置をとる。

(2) 避難生活での配慮

福祉班は、避難所職員と連携し要配慮者専用スペースや間仕切りの設置など、要配慮者の避難所生活に配慮する。

(3) 福祉避難所の開設

避難所内の一般避難スペースでの生活が困難な要配慮者に対して、要配慮者の状況に応じて福祉避難所を開設する。

福祉避難所の設置は、市が発災後に福祉避難所に指定されている施設の管理者と連絡を取り、行うものとする。

福祉避難所開設後は、関係機関及び各避難所に開設済の福祉避難所を周知する。

(4) 避難行動要支援者システムの活用

地図情報との連動により、避難が必要な区域における避難行動要支援者を抽出するなど、災害発生の状況に応じて避難行動要支援者システムを活用し、避難行動要支援者の安全確保に努める。

10. 広域避難・広域一時滞在

(1) 広域避難の要請

避難指示等を行った場合の立退き先を市内の指定緊急避難場所等とすることが困難で、他市町村に避難させる必要がある場合、災害対策基本法に基づく広域避難を実施する。

市長（本部長）は、住民等を保護するため県内の他市町村に受入れを要請する場合は、その旨を県に報告し、当該市町村長と協議する。

県外の市町村への広域避難が必要な場合は、知事に対して当該都県の知事と受入れを協議するよう求めることができる。緊急を要する場合は、県知事に報告して当該市町村長と協議する。

本部事務局、関係班は避難先の市町村と連携し、避難者の移送、避難所への収容等を行う。

(2) 広域一滞在の要請

市内での避難所の確保が困難な場合、相互応援協定や災害対策基本法に基づき、他市町村に市内の被災者の一時滞在先を確保する。

市長（本部長）は、相互応援協定や災害対策基本法に基づき、他市町村長に市内の被災者の一時滞在を要請する。また、災害対策基本法に基づく県外への広域一時滞在が必要な場合は、知事に協議を求める。

本部事務局、関係班は滞在先の市町村と連携し、被災者の居所等を把握し、被災者台帳等を活用して広報や支援サービスの提供に努める。

(3) 広域避難等の受入

他市町村又は県から本市への広域避難、広域一時滞在の受入れを求められた場合は、正当な理由がある場合を除いてこれを受諾し、指定緊急避難場所、指定避難所等を提供する。

11. 避難所の集約及び解消

本部事務局は、避難生活の改善及び施設の本来機能確保のため、災害の復旧状況や避難者の状況を勘案しつつ、避難場所の集約及び解消を図る。

第9節 医療救護

項目	実施担当	関係機関
1. 応急医療救護活動	医療支援班、国保病院	安房都市広域市町村圏事務組合消防本部、公益社団法人安房医師会、一般社団法人安房歯科医師会、一般社団法人安房薬剤師会、安房保健所（安房健康福祉センター）、災害拠点病院（亀田総合病院 外）、救急告示病院（東条病院 外）
2. 医薬品・医療用資器材等の確保	医療支援班、国保病院	公益社団法人安房医師会、一般社団法人安房歯科医師会、一般社団法人安房薬剤師会、安房保健所（安房健康福祉センター）、千葉県赤十字血液センター
3. 被災者等の健康管理	医療支援班、国保病院	公益社団法人安房医師会、一般社団法人安房歯科医師会、一般社団法人安房薬剤師会、安房保健所（安房健康福祉センター）

1. 応急医療救護活動

(1) 情報の収集

医療支援班は、災害対策本部を通じ、又は安房保健所（安房健康福祉センター）及び一般社団法人安房薬剤師会、安房歯科医師会等関係機関との連携により、災害医療体制の確立（「安房地域災害医療体制整備のための実働マニュアル」に基づく）と迅速な応急救護活動のため、次の情報の収集を行う。

- ア. 医療施設の被害状況、診療機能の確保状況
- イ. 救護所の設置状況及び傷病者の対応状況
- ウ. 救護用品及び医薬品等医療資器材の需給状況
- エ. 医療施設及び救護所等への交通状況
- オ. その他参考となる事項

(2) 市救護本部等の設置

医療支援班は、総合保健福祉会館に市救護本部を設置し、傷病者の応急救護活動並びに収容及び搬送の連絡調整を実施する。

また、市救護本部は、必要に応じて避難所又は被災地域周辺の医療救護活動が可能な医療機関等に救護所を設置し、傷病者の応急救護活動を実施するとともに、安房都市広域市町村圏事務組合消防本部及び救急告示病院との連携のもと、傷病者の収容及び搬送を実施する。

■救護所での応急救護活動

- 負傷者の傷害等の程度判別（トリアージ）の実施
- 応急処置、重症・中等症者の医療施設への搬送の要否及び搬送順位の判別
- 応急救護活動の記録及び医療支援班への活動状況等の報告

(3) 医療救護の実施

医療支援班は、公益社団法人安房医師会に対して必要に応じて医療救護班の派遣を要請する。

医療救護班は、傷病者の発生状況等に応じて、救護所において応急救護活動を実施する。

市長（本部長）は、多数の傷病者が発生した場合は、合同救護本部（安房保健所（安房健康福祉センター））に対し、医療チーム等の派遣を要請する。

(4) 傷病者の搬送

救出現場又は避難所等から救急告示病院等への重篤・重症者又は中等症者の搬送は、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部若しくは救急告示病院の救急車又は医療支援班により行う。

災害拠点病院又は県外の医療施設への搬送は、救急車又はヘリコプターにより行う。

軽症者の搬送は、原則として自主防災組織が行う。

(5) 後方医療施設の確保

市内の災害拠点病院及び救急告示病院において、重篤・重症者、中等症者等を収容する。

市長（本部長）は、市内の災害拠点病院等で重篤・重症者等の収容先を確保できない場合は、合同救護本部（安房保健所（安房健康福祉センター））に収容先の確保及び広域搬送を要請する。

■後方医療施設

災害拠点病院	基幹災害医療センター	亀田総合病院	鴨川市東町 929	04-7092-2211
	地域災害医療センター	安房地域医療センター	館山市山本 1155	0470-25-5111
救急告示病院		市立国保病院 東条病院	鴨川市宮山 233 鴨川市広場 1615	04-7097-1221 04-7092-1207
その他後方医療施設		エビハラ病院 小田病院	鴨川市太海 630 鴨川市横渚 880	04-7093-2626 04-7092-1128

(6) 医療要援護者の支援

医療支援班は、在宅の人工透析患者及び人工呼吸器装着者等の医療要援護者について、医療施設の対応状況を確認し、患者に情報を提供する。

また、必要に応じて受け入れ可能な医療機関への移動を支援する。

2. 医薬品・医療用資器材等の確保

(1) 医薬品・医療用資器材等の確保

医療支援班は、医薬品及び医療用資器材が不足するときは、一般社団法人安房薬剤師会薬業会から医薬品及び医療用資器材を調達する。

入手困難なときは、災害対策本部を通じて、災害応援協定を締結している他の地方公共団体等に要請するほか、安房保健所（安房健康福祉センター）に備蓄されている災害用備蓄医薬品を救護所等に供給要請する。そのほか合同救護本部（安房保健所（安房健康福祉センター））から県災害医療本部及び千葉県医薬品卸協同組合等を通じて、医薬品卸業者から調達し、医薬品等を確保する。

(2) 血液製剤等の確保

医療支援班は、輸血用の血液及び血液製剤が必要なときは、千葉県赤十字血液センター等に供給を依頼する。また、必要に応じて献血への呼びかけを行う。

3. 被災者等の健康管理

(1) 避難所での医療活動体制

医療支援班は、避難所生活が長期化するときは、安房保健所（安房健康福祉センター）の協力により、避難所内に救護所を設置し、又は避難所を巡回して医療救護活動を行う。この実施にあたっては、公益社団法人安房医師会、一般社団法人安房歯科医師会に対して巡回医療支援班の編成を要請し、健康診断のほか、精神科及び歯科等を含めたきめ細かな活動を行う。

(2) 心のケア

医療支援班は、災害による心的外傷後ストレス障害（P T S D）、生活の激変や避難生活の長期化によるストレス障害等に対応するため、安房保健所（安房健康福祉センター）と連携し、精神科医療機関の協力を得て、カウンセリングやメンタルヘルスケア等を行い、被災者の精神的負担の軽減に努める。

なお、必要に応じてD P A T（災害派遣精神医療チーム）の派遣を県に要請する。

(3) 医療情報の提供

医療支援班は、通院患者等のために治療可能な医療施設等の情報を収集し、災害広報紙等で住民に提供する。

(4) エコノミークラス症候群等の予防

医療支援班は、エコノミークラス症候群等に関する知識や予防措置を広報し、その発症を未然に防止する。

なお、必要に応じてJ R A T（日本災害リハビリテーション支援協会）による予防活動を県に要請する。

第10節 防疫・清掃

項目	実施担当	関係機関
1. 防疫活動	医療支援班	安房保健所（安房健康福祉センター）
2. 避難所における衛生管理	医療支援班	安房保健所（安房健康福祉センター）
3. 保健活動	医療支援班、福祉班	公益社団法人安房医師会、安房保健所（安房健康福祉センター）
4. 食品衛生対策	医療支援班	安房保健所（安房健康福祉センター）
5. し尿の処理	環境班	
6. ごみの処理	環境班	
7. 環境汚染の防止対策	環境班	
8. 障害物の除去	土木班	河川管理者、道路管理者、漁港管理者、鴨川警察署、勝浦海上保安署
9. 動物対策	産業班、環境班、市民生活班、住家調査班、教育班	南部家畜保健衛生所、安房保健所（安房健康福祉センター）、獣医師会

1. 防疫活動

(1) 防疫業務の実施

医療支援班は、感染症法に基づき、関係各班、医師会等と協力し、安房保健所（安房健康福祉センター）の指示により次の防疫事務を実施する。

また、市は患者の発生状況や防疫活動の状況等を隨時安房保健所（安房健康福祉センター）に報告する。

■災害防疫業務

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ○予防教育及び広報活動の強化 | ○消毒方法の施行 |
| ○そ族、昆虫等の駆除 | ○生活用水の使用制限及び供給等 |
| ○避難所の衛生管理及び防疫指導 | ○臨時予防接種の実施 |

(2) 防疫班の編成

医療支援班は、防疫活動実施のための防疫班を編成し、防疫活動を実施する。被災状況によっては、衛生業者に委託して防疫班を複数編成する。不足する場合は、近隣市町、県、その他の関係機関に応援を要請する。

(3) 防疫用資機材・薬品の調達

医療支援班は、防疫用資機材・薬剤を県（安房保健所（安房健康福祉センター））から調達する。

(4) 清潔方法・消毒方法の実施

医療支援班は、災害により感染症が発生し、又は発生のおそれのある地域の消毒を行う。その際、必要に応じて災害協定に基づく県ペストコントロール協会等の協力を得る。

2. 避難所における衛生管理

医療支援班は、安房保健所（安房健康福祉センター）、避難所職員、避難所自治組織、ボランティア等と協力して、感染症の早期発見に努めるとともに、避難所の衛生管理について避難所自治組織等を指導する。

また、避難所等における衛生環境を維持するため、必要に応じ災害時感染制御支援チーム（DICT）等の派遣要請を検討する。

■避難所の衛生指導

- | | |
|-------------|----------------|
| ○トイレの清掃・消毒 | ○避難所居住スペースの清掃 |
| ○ごみ置場の清掃・消毒 | ○手洗い、うがい等の励行 |
| ○食品の衛生管理 | ○マスク着用や手指消毒の励行 |

3. 保健活動

医療支援班及び福祉班は、避難生活の長期化やライフラインの長期停止等により、被災者の健康が損なわれることのないよう公益社団法人安房医師会、安房保健所（安房健康福祉センター）等と連携して保健活動を行う。

また、職員の体調管理、メンタルヘルスにも留意する。

(1) 要配慮者の健康状態の把握

医療支援班及び福祉班は要配慮者の安否・健康状態を把握し、安房保健所（安房健康福祉センター）が把握する要配慮者等に関する情報との共有・交換を行う。

(2) 避難所等巡回による被災者の健康管理

医療支援班は安房保健所（安房健康福祉センター）と連携し、避難所や被災地域において、巡回や健康相談等による被災者の健康状態や、保健医療福祉のニーズを把握し、保健医療活動チーム、介護・福祉の関係機関と連携して要配慮者に対する支援及び調整を行う。

安房保健所（安房健康福祉センター）は、市が行う避難所等における健康状態の把握、保健指導、栄養指導、衛生状態の保持等の健康管理を支援する

(3) 二次健康被害の予防

医療支援班は安房保健所（安房健康福祉センター）と連携し、避難所においてできるだけ早期に健康相談が実施できる体制（人・場所）を確立する。

健康相談においては被災者の健康管理と併せて、避難所における特異的な健康課題となる環境整備と併せ、食中毒や感染症の発生予防、熱中症予防、深部静脈血栓症（いわゆるエコノミークラス症候群）、こころのケア等について予防活動を継続的に行う。

特に高齢者は生活不活発病になりやすいため、適度に体を動かせる場の提供や他者とのコミュニケーションが図れるよう配慮し、心身機能の低下を予防する。

(4) 活動体制の整備

医療支援班及び福祉班は安房保健所（安房健康福祉センター）と、平時から要配慮者等の把握、避難所等における予防活動や保健活動の連携等について協議を行っておく。

発災時は、上記(1)から(3)を実施する保健師・栄養士の応援派遣の必要性について検討し、保健活動計画を立てて必要な支援を安房保健所（安房健康福祉センター）に報告する。

安房保健所（安房健康福祉センター）は、市の保健活動を把握・支援し、保健活動計画を立てて保健師、栄養士を派遣するとともに、市からの要請を県健康福祉部に報告する。

4. 食品衛生対策

医療支援班は、安房保健所（安房健康福祉センター）と協力し、飲料水汚染のおそれがある場合は、被災者へ供給する飲料水の水質検査を実施し、必要がある場合は消毒を実施する。また、被災者等へ供給する食品、炊き出し施設等の衛生を確保するよう関係団体等に要請する。

5. し尿の処理

災害時のし尿の収集・処理は、「鴨川市災害廃棄物処理計画」（令和2年3月策定）により行う。

(1) 仮設トイレの設置

環境班は、避難者数等に応じて仮設トイレを避難所等に設置する。市の調達で不足する場合は、県等を通じて仮設トイレを確保する。

(2) し尿の処理

環境班は、仮設トイレ等のし尿の収集・処理計画を作成し、衛生センターで収集・処理する。し尿の収集・処理が困難な場合は、「災害時等における廃棄物処理施設に係る相互援助細目協定」により、県や隣接市町等に要請する。

6. ごみの処理

災害廃棄物については、「鴨川市災害廃棄物処理計画」（令和2年3月策定）により収集・処理を行う。

住民の在宅している世帯及び避難所から発生する可燃ごみを優先的に収集・処理する。粗大ごみや資源物回収については可燃ごみを優先するために状況によっては一時的に中止する。通常と同じようにごみの分別を徹底し、個別に収集し、リサイクルの方針にあわせて処理を行う。避難所でも、一般のごみと同じように分別を行い収集する。

環境班は、被災状況などから推定されるごみの推計発生量をもとに、ごみ処理能力、収集車両、人員の確保や支援の必要性、処理方法、処理機関、広域処理等を明確にし、災害廃棄物処理実行計画を策定する。これをもとに、必要な体制を速やかに確保し、ごみの収集・処理を行う。また、ごみの発生量が多い場所などでは仮集積所の設置についても考慮する。

(1) 実施機関

- ① 災害時における被害地域の清掃は、市長（本部長）が実施する
- ② 市は、地震災害等による大量の廃棄物が発生し市で処理が困難な場合は「災害時等における廃棄物処理施設に係る相互援助細目協定」に基づき援助協力の要請を行う。また、建築物の解体に伴うがれき等の大量発生が予想される場合は、県の「地震等大規模災害時における災害廃棄物の処理等に関する協定」及び「地震等大規模災害時における被災建物の解体撤去等に関する協定」を活用し、県を通じて民間事業者の協力を求める。
- ③ 環境大臣に廃棄物処理特例地域として指定された場合、市長（本部長）は必要に応じて災害廃棄物処理の代行を国に要請する。

(2) 廃棄物の処理方針

① がれき

がれきは、膨大な量が発生することから、いったん仮置場に保管し、分別、中間処理リサイクルを行ったのち、原則として最終処分場で適正に処分する。

② 粗大ごみ

粗大ごみは、平常時に比べ増大することから、災害時の混乱を想定して特例的な排出、収集、処理方法を検討しておく。

(3) 生活ごみ

生活ごみは、衛生、防疫に十分配慮するとともに、災害時の混乱を想定して特例的な排出、収集、処理方法を検討しておく。

(4) 適正処理が困難な廃棄物に関する処理方針

産業廃棄物に該当するものは、平常時と同様に事業者の責任において処理する。一般家庭から排出されるものは、適正な処理方法を住民に広報するとともに相談窓口を設置する。

(3) 発生量の推計方法

市において、原則として千葉県災害廃棄物処理計画（以下「県計画」という。）で定めた推計方法に準じて発生量を推計し、処理体制の確立を図る。

(4) ごみの搬送方法

ごみの搬送方法については、環境班が作業計画を策定し決定するが、原則として次のとおり行う。

① 生ごみ等腐敗しやすい廃棄物は、被災地における防疫上、特に早急に収集されることが望ましいので最優先で収集、搬送の体制を確立し、クリーンステーション鴨川へ搬送する。

② 家具・家電製品等の粗大ごみは、クリーンステーション鴨川等へ搬送する。

③ ごみの一時集積

被災地域の環境保全の緊急性を考える観点から、災害発生後収集可能な状態になった時点から10日以内に、ごみの一時集積場を指定し、速やかに被災地域からの搬出を行う。

作業は、平常作業からの全面応援及び臨時雇用の人員・機材により、市民生活に直接障害となっているごみの早急な収集に努める。

また、一時集積場については定期的な消毒を行う。

(5) 一時集積場所の確保

短期に発生する膨大な廃棄物に対し、最終処理に至るまでの間、一時的に集積する場所が必要となることから、市ではあらかじめその適地等をリストアップし、一時集積場所として確保できるようする。

(6) ごみの処理方法

クリーンステーション鴨川へ搬送するほか、必要に応じて埋め立て、露天焼却等環境衛生上支障のない方法で行う。

(7) 災害廃棄物に関する啓発・広報

住民やボランティア等に対し、災害廃棄物の分別や収集、仮置場の利用方法等を周知する。

7. 環境汚染の防止対策

環境班は、倒壊建築物の解体・撤去等に伴うアスベストの飛散や、危険物の漏洩による環境汚染に対処するため、環境監視体制の整備を図るとともに、「災害時における石綿飛散防止に係る取扱いマニュアル」（環境省水・大気環境局大気環境課）を参考に環境汚染防止体制の強化を図る。

また、必要に応じて、アスベスト飛散の危険性について住民やボランティアに対し注意喚起や被害防止のための指導を行う。

8. 障害物の除去

(1) 住宅関係の障害物の除去

知事は、災害救助法を適用した場合、住居又はその周辺に運ばれた堆積土砂、竹木等で日常生活に著しい障害を及ぼしているものを応急的に除去する。

■障害物除去の対象者

- ① 当面の日常生活が営み得ない状態にあるもの
- ② 住家の被害程度は、半壊又は床上浸水したもの
- ③ 自らの資力をもってしては障害物の除去ができないもの

知事から市長に委任された場合、土木班は、土木業者等に応援を要請して障害物を除去する。本市限りで処理不可能な場合は、隣接市町村、県、国、その他の関係機関と連携して実施する。

(2) 河川・海岸・漁港関係の障害物の除去

河川管理者、海岸管理者、漁港管理者は、河川、海岸、漁港等の巡視を行うとともに、災害によって発生した障害物を除去する。特に、橋脚、暗渠流入口及び工事箇所の仮設物等につかえる浮遊物、並びに流下浮遊物、その他の障害物の除去作業を、県及び関係機関、並びに市内の土木業者と連携して実施する。

勝浦海上保安署は、海難船舶又は漂流物・沈没物等により船舶交通の危険が生じ、又は生じるおそれがあるときは、所有者等に対し、これらの除去、その他船舶交通の危険を防止するための措置を講じることを命じ、又は勧告する。

(3) 道路上の障害物の除去

道路管理者は管理道路の巡視を行い、鴨川警察署と連携して交通に支障を及ぼしている障害物を除去する。また、管理道路以外でも、交通に著しい障害がある場合は、緊急的に障害物を除去する。除去の方法は、第7節「4. 緊急輸送路の確保」と同様に行う。

(4) 除去作業上の留意事項

除去作業を実施するにあたっては、次の点について十分留意して行う。

- ① 他の所有者の敷地内で作業が必要なときは、可能な限り管理者、所有者の同意を得る。
- ② 除去作業は、緊急でやむを得ない場合を除き、再度の輸送や事後の支障の生じないよう配慮して行う。

9. 動物対策

(1) 死亡獣畜の処理

産業班は、南部家畜保健衛生所の指導により、死亡した家畜、野禽等を処理する。

(2) 放浪動物への対応

環境班は、安房保健所（安房健康福祉センター）、動物愛護センター、警察、公益社団法人千葉県獣医師会等関係団体及びボランティア等と連携して、飼い主の被災により遺棄又は逃げ出したペット等を救助及び保護する。危険動物が逃亡した場合は、人的危害を防止するため、飼養者、警察等と連携により必要な措置を講ずる。

(3) ペットへの対応

避難時のペットの保護及び飼養は、原則としてペットの所有者が行う。避難所には、ペットの収容スペースを指定して所有者自らが準備したケージ、餌等にて飼養を行う。

教育班は、住民による自己責任においてペットを飼養させることを広報する。

また、ペットとの同行避難に備えて、「災害時における避難所運営の手引き」を参考に、ペットの収容場所を確保するとともに、トラブル等が起きないようルールの作成及びペット同行避難訓練の実施に努める。

環境班は、避難生活が長期化し、避難所等において避難生活の障害となるペット問題が生じた場合は、県及び公益社団法人千葉県獣医師会等と取扱いについて協議する。ペット救護所等を設置する場合は、公共用地の使用に便宜を図る。

第11節 食料・飲料水・生活必需品等の供給

項目	実施担当	関係機関
1. 食料の供給	産業班	
2. 飲料水等の供給	産業班、医療支援班	安房郡市広域市町村圏事務組合水道部
3. 生活必需品の供給	産業班	
4. 救援物資の受け入れ・管理	広域拠点班	
5. 県による物的支援		県

1. 食料の供給

(1) 備蓄食料の活用

災害発生から3日間は、家庭内備蓄等の食料を活用することを原則とする。
市は、家庭内備蓄等を持ち出せない被災者に市で備蓄した食料を提供する。

(2) 対象者

食料供給の対象者は、次のとおりとする。

■食料供給の対象者

- 避難指示等に基づき避難所に収容された人
 - 住家が被害を受け、炊事の不可能な人
 - 旅行者、市内通過者などで他に食料を得る手段のない人
 - 施設で調理することができない社会福祉施設等の入所者
 - 災害応急活動従事者※
 - 流通が麻痺し、食料の調達が不可能となった人※
- ※これらの者は、災害救助法の実費弁償の対象外である

(3) 供給数の把握

産業班は、避難者や災害従事者等に食料を供給するため、次のように必要数を把握する。

■供給数把握の方法

対象者	方 法
避難者	避難所自治組織又は避難所職員からの申告にもとづいて、教育班を通じて把握する。
災害対策本部要員	各班からの報告を本部事務局が把握する。
応援者、作業従事者	作業を所管する各班からの報告を本部事務局が把握する。

(4) 食料の確保

供給する食料は、弁当、パン、牛乳、ジュース類とする。

産業班は、必要量をもとに協定締結業者から調達する。できる限り要配慮者に適した供給ができるように配慮する。乳児に対しては、協定締結業者、薬局等から粉ミルク（調製粉乳）又は液体ミルクを調達する。

市内で調達が不可能又は必要数量を確保できない場合は県に要請する。

(5) 食料の搬送・配布

産業班は、食料の供給を避難所まで搬送するよう食料供給業者に要請する。

市外から救援物資として届けられた食料は、総合運動施設文化体育館に集積し、輸送業者等に避難所までの輸送を要請する。

避難所等での配布は、避難所自治組織に一任する。

なお、備蓄物資の供給や物資の調達・輸送に関しては、新物資システム（B-PLo）等を活用し、県や関係機関との情報共有を図る。

(6) 炊き出し

産業班は、弁当等が調達できない場合や避難者等から申し出があった場合は、炊き出しを実施する。

炊き出しは、学校給食センター、自衛隊に要請する。避難所内での炊き出しは、避難所自治組織、ボランティアに要請して行う。

炊き出しの食材等は、安房農業協同組合、食料品販売業者から調達する。米穀は、米穀取扱業者から調達する。なお、政府所有米穀を活用する場合は市長から知事に要請し、農林水産省（農産局長）の指示に基づき、保管された事業所において米穀の引き渡しを受ける。なお、状況に応じて市長から農林水産省に直接連絡した場合は、事後その旨を知事に報告する。

引き渡しにあたっては、災害協定を締結する運送事業者に対し、当該事業所から炊き出し拠点への輸送を要請する。

2. 飲料水等の供給

水道施設が破損し、水道水の供給が停止した場合は、安房都市広域市町村圏事務組合水道部と連携し、次のように行う。

(1) 備蓄飲料水の活用

災害発生から3日間は、家庭内備蓄等の飲料水を活用することを原則とする。

(2) 優先給水

安房都市広域市町村圏事務組合水道部及び産業班は、人命の安全確保を第一とし、災害拠点病院や透析医療機関、避難所等の重要施設に対し優先的に給水を実施する。

(3) 需要の把握

安房都市広域市町村圏事務組合水道部及び産業班は、以下の需要把握を行う。

■把握する内容

- 断水が発生している地域、人口、世帯数
- 避難所の名称及び避難者数、要配慮者の状況

(4) 給水活動の準備

産業班は、安房都市広域市町村圏事務組合水道部と連携し、次のように給水活動の準備を行う。

■給水活動の準備

給水拠点の設定	避難所、避難場所又は公共施設等			
活動計画作成	○給水ルート	○給水方法	○給水量	○人員配置
応援要請	○広報の内容・方法等 ○資機材の準備 ○水質検査			

資機材の確保	給水車（不足時は自衛隊、千葉県に要請） 備蓄品（不足時は業者へ手配）
--------	---------------------------------------

(5) 水源の確保

安房郡市広域市町村圏事務組合水道部及び産業班は、代替水源の確保を図る。

緊急時には、非常用給水栓が備え付けられた公共施設の受水槽等を給水源として活用する。この場合、機械的処理や薬剤滅菌、煮沸等の適切な措置を講じ、安全性を確保する。また、応急給水に使用する容器や資機材の洗浄・消毒を徹底し、二次汚染の防止に努める。

(6) 給水活動

産業班は、安房郡市広域市町村圏事務組合水道部と連携し、相互応援協定に基づく応援事業体等の協力を得ながら給水活動を行う。

水道水は、給水車用給水栓が備え付けられた浄水場から給水車で運搬する。

給水拠点では、住民が持参した飲料水袋やポリタンク等に給水を行う。必要に応じて、市又は安房郡市広域市町村圏事務組合水道部が保有している備蓄資材も活用する。

配水管の復旧状況を共有し、断水の解消及び給水範囲を調整する。

断水の解消に長期間を要する場合は、現場状況を勘案し、応急仮設配管による定点給水等の措置を講じる。

(7) 家庭用井戸等の水質検査

医療支援班は、家庭用井戸、事業所の井戸について、水質検査の結果、飲料水として適當と認めたときは、その付近の住民に飲料水として使える旨を広報する。

3. 生活必需品の供給

(1) 備蓄物資の活用

災害発生当初は、家庭内備蓄等の物資を活用することを原則とする。

市は、家庭内備蓄等を持ち出せない被災者に市で備蓄した物資を提供する。

(2) 対象者

生活必需品供給の対象者は、次のとおりとする。

■生活必需品の供給対象者

住家の被害が全壊（焼）、半壊（焼）等であって次に掲げる条件を満たす者

①被服、寝具その他生活上必要な最小限度の家財を喪失した者 かつ

②被服、寝具その他生活必需物資がないため、直ちに日常生活を営むことが困難な者

(3) 供給数の把握

産業班は、教育班及び市民生活班を通じて、避難所職員、自治的活動をする団体（区・町内会等）住民自治会組織から必要数を把握する。

(4) 生活必需品の確保

産業班は、生活必需品を協定締結業者から確保する。確保が十分でない場合は、県等に供給を要請する。

なお、備蓄物資の供給や物資の調達・輸送に関しては、新物資システム（B-PLo）等を活用し、県や関係機関との情報共有を図る。

■供給する生活必需品（例）

- タオルケット、毛布、布団等の寝具
- 洋服上下、子供服等の上着、シャツ、パンツ等の下着
- タオル、靴下、靴、サンダル、傘等の身の回り品
- 石鹼、歯磨用品、ティッシュペーパー、トイレットペーパー等の日用品
- 炊飯器、鍋、包丁、ガス器具等の調理道具
- 茶碗、皿、箸等の食器
- マッチ、使い捨てライター、プロパンガス、固体燃料等の光熱材料
- 高齢者、障害者等の日常生活上の支援を行うために必要な紙おむつ、ストーマ用装具等の消耗器材
- 寒冷地の防寒、ヒートショック等の被災者の健康被害を防止する観点から必要とされる簡易な電気ストーブ又はこれに準ずるもの（電気ストーブ、セラミックヒーターや電気カーペット）
- 猛暑による熱中症及び脱水症状等の被災者の健康被害を防止する観点から必要とされる扇風機

(5) 生活必需品の搬送・配布

産業班は、生活必需品の供給を避難所まで搬送するよう物資供給業者に要請する。

市外から救援物資として届けられた生活必需品は、鴨川市総合運動施設文化体育館に集積し、輸送業者等に避難所までの輸送を要請する。

避難者への配布は、自治組織に一任する。被災者宅への配布は、地区の施設まで搬送し、自治的活動をする団体（区・町内会等）自治会、民生委員及びボランティア等の協力を得て被災者に公平に配布する。

4. 救援物資の受け入れ・管理

(1) 救援物資の取扱い

原則として、個人からの救援物資は受け入れない。公共団体、企業からの救援物資は、登録制とし必要なときに供給を要請する。

(2) 受け入れ・管理・配分

広域拠点班は、鴨川市総合運動施設文化体育館に物資集積所を開設し、受入れ、整理等を行う。

5. 県による物的支援

県は、市が甚大な被害を受け、物資の提供や調達が困難になった場合には、市からの要請や情報連絡員が把握した支援ニーズに基づき、食料及び燃料等の生活必需物資を確保し、迅速な供給に努めることを原則とするが、市が壊滅的な被害を受けたことにより行政機能が低下したと推測される場合は、要請を待たずに、需要を推計の上、必要最低限の水、食料、生活必需物資等を送り込む「プッシュ型」による物資の供給を行う。

なお、プッシュ型による物資は、新物資システム（B-PLo）に登録された地域内輸送拠点（鴨川市総合運動施設文化体育館）に供給される。

第12節 行方不明者の搜索・遺体の処理

項目	実施担当	関係機関
1. 行方不明者の搜索	市民生活班、消防対策班	安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部、鴨川警察署、勝浦海上保安署
2. 遺体の処理	市民生活班	鴨川警察署、公益社団法人安房医師会、一般社団法人安房歯科医師会
3. 遺体の埋火葬	市民生活班	安房郡市広域市町村圏事務組合

1. 行方不明者の搜索

(1) 行方不明者情報の収集

市民生活班は、相談窓口で受けた搜索願及び被災現場等での情報を収集し、行方不明者リストを作成する。行方不明者のリストは、警察署に提出し、連携をとる。

(2) 搜索活動

消防対策班は、救助活動で編成した救助隊を、遺体の搜索及び収容隊としてて、行方不明者リストに基づき搜索活動を行う。また、鴨川警察署、自衛隊等と協力して搜索活動を実施する。

行方不明者を発見し、すでに死亡していると認められるときは鴨川警察署に届出し、警察官の死因・身元等の調査、検視（見分）を受ける。

鴨川市周辺海域に行方不明者等が漂流する事態が発生した場合は、直ちに鴨川警察署及び勝浦海上保安署に連絡するとともに、地元漁協及び船舶関係者の協力を得て、搜索、救助及び収容にあたる。

死体を発見したときは鴨川警察署に届出を行い、警察等が取り扱う死体の死因又は身元の調査等に関する法律等による調査を受けるとともに、遺体の収容について必要な協力を求める。

2. 遺体の処理

(1) 遺体安置所の開設

市民生活班は、遺体の検視、検案等の処理、安置を行うための遺体安置所を開設する。なお、遺体安置所の確保が困難な場合は、鴨川警察署に協力を求める。

また、遺体の処理、安置に必要な資機材を葬祭業者等から確保する。なお、遺体保存用の資機材の確保が困難な場合は、「千葉県広域火葬計画」に基づき、県に協力を要請する

(2) 遺体の調査・検視（見分）

市民生活班は、遺体の調査、検視のための警察官の派遣を鴨川警察署に依頼する。

鴨川警察署は、遺体の死因、身元等の調査、検視（見分）を行い、終了後に遺族に引き渡す。遺体の受取人がない場合は、検視調書を添えて市に引き渡す。

(3) 身元の確認

市民生活班は、鴨川警察署と連携して身元不明遺体の特徴等をまとめ、問い合わせ等に対応

する。

また、鴨川警察署は、身元不明者の所持品、着衣、人相、特徴等を写真に収め、関係方面に手配するとともに写真の掲示、縦覧などを行って早期に確認できるよう協力する。

特に、身元不明遺体が多数の場合、身元不明者のリスト等を作成し身元確認を進める。

(4) 遺体の処理

市に引き渡された遺体は、医師による検案等の処理を行う。

市民生活班は、検案医師について、県、国保病院のほか、必要に応じて公益社団法人安房医師会長、一般社団法人安房歯科医師会長等に出動を要請し、知事、他の市町村に応援を求めるほか、必要な措置を講じる。

遺体の処理は、遺体安置所で行い、処理が終了後に遺族に引き渡す。

■遺体の処理

① 遺体の洗浄、縫合、消毒等の処理	遺体識別のための洗浄、縫合、消毒等の措置
② 遺体の一時保存	身元が識別されない遺体又は短期日の間に埋葬することが困難な場合には、そのまま一時保存する。
③ 遺体の検案	遺体の死因その他の医学的検査をする。

(5) 漂着遺体等の取扱い

遺体の身元が判明している場合は、その遺族又は被災地の市町村長に引き渡す。遺体の身元が判明しない場合は、行旅病人及行旅死亡人取扱法（明治32年法律第93号）の規定により処理する。

ただし、災害救助法が適用された市町村から漂着したものであると推定される場合は、被災地の市町村に引き渡す。なお、遺品の保管、遺体の撮影記録を保存する。

3. 遺体の埋火葬

(1) 埋火葬の受付

市民生活班は、遺体安置所等で埋火葬許可書を発行する。

(2) 埋火葬

市民生活班は、遺体を長狭地区火葬場又は安房聖苑にて火葬する。また、遺族では遺体の搬送が困難なときは、県、災害派遣の自衛隊、災害協定を締結している全国靈柩自動車協会、市内の葬儀業者等に協力を要請する。

なお、遺体の埋火葬が長狭地区火葬場又は安房聖苑で対応不可能な場合は、「千葉県広域火葬計画」に基づき、近隣市町村、県、国その他の関係機関の応援を得て実施する。

(3) 遺骨の保管

市民生活班は、引き取り手のない遺骨等を遺留品とともに保管する。引き取り手がないときは、市が指定した墓地に埋葬する。

第13節 被災住宅対策

項目	実施担当	関係機関
1. 応急仮設住宅の供与等	土木班	県
2. 住宅の応急修理	土木班	
3. 被災建築物の応急危険度判定	土木班	
4. 被災建築物の撤去・解体	土木班、環境班	
5. 被災宅地の危険度判定	土木班	

1. 応急仮設住宅の供与等

災害救助法が適用された場合は、県が応急仮設住宅を供与する。

災害救助法が適用されない場合で、多数の住家被害が発生した場合は、災害救助法に準じて市が応急仮設住宅を供与し、土木班が担当する。

なお、市限りで処理不可能な場合は、近隣市町村、県、国その他の関係機関の応援を得て実施する。

供与の方法は、賃貸型応急住宅（民間賃貸住宅）の確保、公営住宅の一時提供を優先し、不足する場合は建設型応急住宅を検討する。

(1) 需要の把握

土木班は、災害後に被害家屋認定調査等の結果から仮設住宅の概ねの必要数を把握する。また、被災者の相談窓口又は避難所にて、仮設住宅入居の申し込みを受付ける。

応急仮設住宅の対象者は、罹災証明の発行を受けている等次の条件に該当する者である。

■応急仮設住宅の対象者(入居資格条件)

次のすべての条件に該当する者

- ①災害時において現実に市内に居住していることが明らかな者
- ②住家が全焼、全壊又は流失した者であること
- ③居住する住家がない者であること
- ④自らの資力で住宅を確保することができない者であること

(2) 入居者の選定

土木班は、応急仮設住宅への入居申込みを受け付け、入居者を決定する。決定にあたっては、高齢者、障害者等を優先しつつ、高齢者・障害者等が一定の地域に集中しないよう配慮する。

また、従前地区のコミュニティの維持を配慮した入居方法も検討する。

(3) 賃貸型応急住宅の確保

土木班は関係団体と協力をし、民間賃貸住宅を借り上げて賃貸型応急住宅として提供する。

(4) 公営住宅の一時提供

土木班は、公営住宅の空き部屋を確保し、公営住宅法上の目的外使用として被災者に一時提供する。

(5) 建設型応急住宅の確保

土木班は、仮設住宅の建設地としてライフライン、交通、教育等の利便性を考慮して、原則として市立学校の校庭や公園などから建設用地を選定する。

市が建設する場合は建築基準法に基づいて応急仮設住宅を設計し、原則として鴨川市入札参加業者資格者名簿に登録された者の中から指名して請負工事にて建設する。なお、気象条件や要配慮者に配慮して、冷暖房設備の設置、段差の排除等に配慮する。

応急仮設住宅を同一敷地内又は近接する地域内に概ね50戸以上設置した場合は居住者の集会等に利用するための施設を設置する。

また、要配慮者への措置として、社会福祉施設等に入所している高齢者、障害者等を入居させる福祉仮設住宅を建設することができる。

2. 住宅の応急修理

災害救助法が適用された場合に知事が実施し、市長は知事を補助する。

土木班は応急修理制度の実施要領を作成し、修理事業者、被災者に周知する。また、市指定の修理事業者を選定し、修理申込者に紹介する。

応急修理の種類	対象者
住家の被害の拡大を防止するための緊急の修理	○災害のため住家が半壊（焼）又はこれに準ずる程度の損傷を受け、雨水の浸入等を放置すれば住家の被害が拡大するおそれがある者
日常生活に必要な最小限度の部分の修理	○住家が半壊（焼）若しくはこれらに準ずる程度の損傷を受け、自らの資力により応急修理をすることができない者 ○大規模な補修を行わなければ居住することが困難である程度に住家が半壊（焼）した者

3. 被災建築物の応急危険度判定

(1) 応急危険度判定士の確保

土木班は、県及び建築士会等関係団体の協力を得て、次の方法により応急危険度判定の有資格者を確保する。

■判定士確保の方法

- ① 県、他市町村への要請
- ② 市内の建築士会等関係団体への要請
- ③ ボランティアの募集

(2) 応急危険度判定実施本部の設置

土木班は、市役所に応急危険度判定実施本部を設置し、以下の準備を行う。

■危険度判定の準備事項

- ① 担当区域の分担
- ② 判定基準等のマニュアルの準備
- ③ 判定結果を表示する用紙の準備
- ④ 実施方法等の説明会の実施

(3) 応急危険度判定の実施

判定は、「震災建築物等の被災度判定基準及び復旧技術指針」（一般財団法人日本建築防災協会）に基づき、2人以上のチームで目視点検により行う。判定の結果は、「危険」「要注意」「調査済」に区分し、建物の入り口に判定結果を色紙で表示する。

なお、判定は、避難所等になっている公共建物を優先的に行う。

■判定の内容

危険（赤色）	建築物の損傷が著しく、倒壊などの危険性が高い場合であり、使用及び立ち入りができない。
要注意（黄色）	建築物の損傷は認められるが、注意事項に留意することにより立ち入りが可能である。
調査済（緑色）	建築物の損傷が少ない場合である。

4. 被災建築物の撤去・解体

被災建物の解体、撤去は原則として所有者の責任において行う。

ただし、災害等廃棄物処理事業が適用される場合は解体住家の運搬及び処分を市が実施し、さらに、大規模な災害等により被災住家の解体について国の事業が適用される場合は、住家の解体においても市が実施する。

この場合、土木班は、対象住家や申請方法等を広報し、申請窓口を設置する。また、申請窓口では、申請の受付、解体・運搬業者の紹介、手続きの説明等を行う。

5. 被災宅地の危険度判定

市は、被災した宅地の余震等による二次災害を防止し、住民の安全を図るために被災宅地の危険度判定を行う。

土木班は、県を通じて被災宅地危険度判定士の確保を要請する。判定は、「被災宅地の調査・危険度判定マニュアル」(被災宅地危険度判定連絡協議会)等に基づき行い、判定の結果はステッカ一等で表示する。

また、施設等に著しい被害を生じるおそれのある場合は、速やかに関係機関や住民に連絡とともに、必要に応じ、適切な避難対策、被災施設・危険箇所への立入制限を実施する。

第14節 文教対策

項目	実施担当	関係機関
1. 災害発生時の対応	教育班、福祉班	各学校、認定こども園
2. 応急教育活動	教育班、福祉班	各学校、認定こども園
3. 応急保育	福祉班	認定こども園

1. 災害発生時の対応

災害発生時の対応は、各施設の防災対応マニュアルに定める大規模地震が発生した場合の学校の初期対応に基づき行う。

(1) 児童生徒の安全確保

学校長は、地震が発生した場合、児童生徒の無事を確認する。校舎の被害、火災等が発生した場合は、安全な場所に避難させる。

学校長は、児童生徒を保護者の引き取りがあるまで、一時的に保護する。

(2) 安否の確認

災害が発生した場合、学校長は、各学校等で児童生徒等の安否を確認し、教育委員会に報告し、教育委員会はそれを把握する。

(3) 施設の被害調査

学校長は、施設設備の被害状況を把握し、教育委員会に報告する。

教育班は、学校施設、社会体育及び社会教育施設の点検、被害調査及び応急措置を実施する。

(4) 避難所開設の調整

教育班は、各学校と調整し、避難所開設時には、体育館等の避難スペースを確保する。派遣された職員は、避難者受け入れ準備を行う。

また、避難所運営にあたっては、学校と協力して教育スペースと避難スペースとの調整をする。

2. 応急教育活動

災害発生時の対応は、各施設の防災対応マニュアルに定める学校再開に向けた対応に基づき行う。

(1) 教育場所の確保

教育班は、各学校の被害状況を把握するとともに、学校長と連携をとって応急教育の場所を確保する。

■教育場所の確保

災害の程度	応急教育実施予定
学校等の校舎の一部が災害を受けた場合	①特別教室、屋内施設等を利用する。 ②2部授業を実施する。
学校等の校舎すべてが災害を受けた場合	①公民館等公共施設を利用する。 ②近隣の学校等の校舎を利用する。

県内大部分(広域な範囲)について大災害を受けた場合	①避難先の最寄りの学校等、公民館など公共施設を利用する。
特定の地区全体について相当大きな災害を受けた場合	①市民の避難先の最寄り学校等、災害を受けなかった最寄りの学校等、公民館、公共施設等を利用する。 ②応急仮設校舎を建設する。

(2) 応急教育の準備

教育班及び学校長は、臨時の学級編成を行い、児童生徒及び保護者に授業再開を周知する。教職員の被災により、十分な人員を確保できない場合は、千葉県教育委員会と連携して学級編成の組み替え、近隣学校からの応援等により対処する。

(3) 応急教育の要領

学校長は、応急教育において実施する指導内容、教育内容については、特別計画を立案する。授業不可能な場合にあっても、家庭学習の方法等について指導する。

■応急教育の留意事項

教育内容	○教具、資料をするものはなるべく避ける。 ○健康指導、生活指導、安全教育に直接、間接に関係する科目。例えば、体育、理科の衛生等を主として指導する。
生活に関する指導	○飲み水、食物、手洗等の飲食関係の衛生指導 ○衣類、寝具の衛生指導 ○住居、便所等の衛生指導 ○入浴その他身体の衛生指導
その他の生活指導	○児童生徒のそれぞれの発達段階に応じて事態の認識と復興の意欲を持たせ、具体的に出来る仕事をさせる。 ○児童生徒相互の助け合い、協力の精神を育て、集団生活の積極的な指導の場とする。

(4) 学用品の給与

災害により学用品を失った児童生徒に対し、必要な教材、学用品を給与する。教育班は、学校長を通じて給与の対象となる児童生徒数を把握し、罹災者名簿及び学籍簿と照合する。

学用品、文房具については被害状況別、学校ごとに学用品購入（配分）計画表を作成する。文房具、学用品は、業者から一括購入し、学校ごとに分配する。教科書の確保は、千葉県教育委員会に要請する。

（5）その他の留意事項

施設内における児童生徒の救護は原則として、当該学校医、歯科医、薬剤師、養護教諭等がこれにあたるものとし、隨時最寄りの学校の校医等が求めに応じて、補充要員として加わる。

■その他の留意事項

○学校給食については、原則として一時中止するものとし、可能な限り、被災者の炊出しを行う。また、教育班は、給食施設及び給食物資搬入業者の被害状況を迅速に把握し、学校給食の再開計画を策定するものとし、市長（本部長）へ報告する。
○学校教育課長は、被害学校ごとに分担を定めて、情報及び指令の伝達についての万全を期するものとし、あわせて学校の衛生管理指導、教育施設の緊急使用等の応急・復旧対策の総括にあたる。
○市立認定こども園も市立学校に準じた措置を行う。

3. 応急保育

市立認定こども園長は、施設等の被害状況を把握する。既存施設において保育の実施ができない場合、臨時的な施設を設け、保育を実施する。

交通機関の不通、保護者の被災等で通園に支障をきたす場合は、近隣の施設で保育することができる。

また、災害に関する理由により、緊急に保育が必要な場合は、保育措置の手続きを省き、一時的保育を行うよう努める。

第15節 ライフライン施設等の応急・復旧

項目	実施担当	関係機関
1. 上水道施設		安房都市広域市町村圏事務組合水道部
2. ガス施設		公益社団法人千葉県LPガス協会安房支部鴨川協議会
3. 電力施設		東京電力パワーグリッド(株)
4. 通信施設		NTT東日本(株)、NTTドコモビジネス(株)、(株)NTTドコモ、KDDI(株)、ソフトバンク(株)、楽天モバイル(株)
5. 道路・橋梁	土木班	道路管理者
6. 公共施設	施設を所管する班	施設管理者
7. 鉄道施設		東日本旅客鉄道(株)

1. 上水道施設

(1) 応急活動体制の確立

安房都市広域市町村圏事務組合水道部は、被害が発生した場合は、必要な要員を動員し、応急体制を確立する。

(2) 応急活動

安房都市広域市町村圏事務組合水道部は、浸水区域等の被害状況を調査し、被害の拡大防止及び速やかな機能回復を図るため、以下の活動を行う。

① 情報収集と緊急措置

安房都市広域市町村圏事務組合水道部は、上水道施設の被害状況について情報収集を行うとともに緊急措置を講じ、水道施設からの漏水防止及び施設破損に伴う二次災害の防止等を図る。

② 応急復旧体制の整備

安房都市広域市町村圏事務組合水道部は、収集した被災情報に基づき、速やかに応急復旧体制を確立する。同組合の体制のみでは対応が困難な場合は、「千葉県水道災害相互応援協定」に基づき、千葉県に応援を要請し、広域的な復旧体制を整える。

ア. 復旧の優先順位

- ・取水、導水、浄水施設の復旧及び主要な送・配水管及び応急給水拠点に至るまでの管路の復旧を優先する。
- ・主要な送・配水管及び応急給水拠点に至るまでの管路の復旧を優先する。

イ. 広報・保安対策の実施

- ・復旧体制の整備に合わせ、被災状況や復旧見通しについて住民への広報を行うとともに、作業現場の保安対策に万全を期する。

ウ. 応急復旧資機材の確保

- ・応急復旧に必要な管類等の資機材について、平時からの備蓄及び災害時の優先供給体制を確保する。

③ 応急給水の実施

安房郡市広域市町村圏事務組合水道部は、断水等の発生により住民の生活に支障が生じるおそれがある場合は、速やかに給水車等の出動、応急給水拠点の開設を行い、生活用水の確保を図る。その際は、災害拠点病院や避難所等の重要施設への給水を優先する。

(3) 上水道の復旧対策

安房郡市広域市町村圏事務組合水道部は、収集した被害状況に基づき、速やかに復旧計画を作成し、以下の作業を実施する。

■上水道施設の復旧作業

- | | |
|-------------|-------------|
| ○資機材及び人員の確保 | ○施設・管路の復旧工事 |
| ○復旧見通し等の広報 | ○関係機関との連携 |

2. ガス施設

(1) 動員、配備体制

公益社団法人千葉県L Pガス協会安房支部鴨川協議会は、非常災害が発生した場合は、災害対策の迅速かつ適切な実施を図るため、社内規定により体制をとり、二次災害の防止と事故処理にあたる。

(2) 情報収集、連絡体制

災害に対して無線・有線などの通信設備を使用し、情報の収集、連絡にあたる。

また、鴨川消防署等の防災機関との通信体制は、各関係機関の指導を得て行う。

さらに本部は、外部関係機関と連絡をとるとともに、テレビ、ラジオ等の報道機関の情報から、通信、交通、電力、水道等の被災状況を収集する。

(3) 消費者への広報

災害時には、広報車による巡回のほか、鴨川消防署、鴨川警察署、報道機関等に協力を要請し、被害地区におけるガス機器の使用上の注意事項について広報する。

ア. ガス栓を全部閉めること。

イ. ガスの臭いがする場合、火気使用は厳禁であること。

この場合には、ガス栓・メータコックを閉め、直ちにガス会社に連絡すること。

ウ. 換気扇の使用は、スイッチの火花によって爆発の原因となるので避けること。

県、市、鴨川消防署、鴨川警察署等の官公庁及び上部団体並びに報道機関に対し、ガス設備の被害状況、供給支障の状況、災害復旧の現状と見通しについて適切に広報連絡を行い、周知に努める。

3. 電力施設

東京電力パワーグリッド(株)は、電力の円滑な供給を確保するために必要な災害応急復旧対策を講じる。

大規模停電の発生時には、災害協定に基づいて連絡調整員を派遣し、停電復旧作業及び道路障害物除去作業、電源車の配備、重要施設の優先復旧、停電に関する広報活動及び停電復旧に関する住民対応へのサポートに関する調整を行う。

なお、災害時においても健全な電力設備は電力供給を継続するが、警察、消防機関等から要請があった場合等には、送電停止等適切な危険予防措置を講じる。

(1) 非常体制の確立

地震災害が発生したときは、非常災害対策本部を千葉総支社内に設置する。

(2) 応急復旧対策

非常災害が発生した場合は、関係機関から情報収集を行うとともに電力設備の被害状況を把握し、速やかに応急復旧対策をたてる。

(3) 応急復旧作業

電力施設の被害状況及び重要度、被害復旧の難易度を勘案し関係機関と協議を図るとともに、連携をとり安全を確認しながら応急復旧を行い、極力送電の確保に努める。

(4) 情報連絡

非常災害時における電力設備の被害状況等の情報連絡を関係機関に行うとともに、復旧状況の通報及び報告を行う。

(5) 市民への広報

災害協定に基づき、停電が長時間かつ広範囲となる場合及び、市から要請を受けた場合には、実施可能な広報手段にて当該地域の住民に対し、感電事故防止及び電気火災等の防止に関する情報発信を行う。

4. 通信施設

NTT東日本(株)、NTTドコモビジネス(株)、(株)NTTドコモ、KDDI(株)、ソフトバンク(株)、楽天モバイル(株)は、災害が発生した場合は、電気通信設備の予防措置、災害応急対策、災害復旧等に対する適切な措置をとる。

(1) 災害時の活動体制

災害が発生した場合は、非常態勢を発令し対処する。この場合、市及び各防災機関と密接な連携を保ち相互協力に努める。

(2) 設備、資機材の点検及び出動準備

災害の発生とともに、設備、資機材の点検等を行う。

(3) 応急措置

電気通信設備に被害が発生した場合、当該設備及び回線の復旧に関し応急措置をとる。この場合、重要通信の確保に留意し、災害の状況、電気通信設備の被害状況に応じて、電気通信事業法(昭和59年法律第86号)に定められた復旧順位に従って実施する。

(4) 広報

災害が発生し、通信が途絶若しくは利用の制限を行ったときは、利用制限の措置状況及び被災した設備の復旧状況を、テレビ、ラジオ、新聞掲載及び広報車等により地域の住民に周知する。

災害用伝言ダイヤル「171」や掲示板、災害用伝言板サービス及び災害用音声お届けサービス等の安否情報確認のためのシステム提供を開始する。

5. 道路・橋梁

地震が発生した場合、各道路管理者は、所管の道路、橋梁について被害状況を把握し、緊急輸送道路を最優先に、道路交通の確保を図る。

各道路管理者は、所管道路について鴨川警察署と連携して通行の禁止又は制限等の措置などを講じるとともに、被災道路、橋梁については、緊急巡回、緊急点検によって得られた情報を整理検討のうえ、応急復旧の方針を決定し、応急復旧を行う。

各道路管理者は、被害を受けた道路を速やかに復旧し、交通の確保に努めるものとする。特に、緊急輸送道路1次路線など交通上重要と認められるものを最優先に復旧作業を実施し、道路の機能確保に努める。

また、県が管理する国道、県道と交通上密接な市道について、市の工事実施体制等を勘案して県が災害復旧工事等を行う権限代行制度の活用が必要なときは、同制度による支援を県に求める。

6. 公共施設

地震が発生した場合、河川、海岸、漁港、砂防、地すべり防止及び急傾斜地崩壊防止施設の被害状況を速やかに把握し、各施設管理者は、所管施設の被災状況を調査し、施設利用者等の安全確保を図るため、避難誘導措置を行うとともに、二次災害の防止等の応急措置を行う。

(1) 海岸保全施設

海岸保全施設が、地震、津波により被害を受けた時、又はそのおそれがある時は関係機関と協議して必要な応急措置を行う。

(2) 河川管理施設

地震、津波等により堤防、護岸等の河川管理施設が被害を受けた時、又はそのおそれのある時は関係機関と協議して施設の応急措置を行う。

(3) 漁港施設

地震・津波により漁港の基本施設等が被害を受けた時、又はそのおそれがある時は関係機関と協議して必要な応急措置を行う。

(4) 砂防設備、地すべり防止施設、急傾斜地崩壊防止施設

地震により砂防設備、地すべり防止施設、急傾斜地崩壊防止施設が被害を受けた時、又はそのおそれのある時は関係機関と協議して必要な応急措置を行う。

7. 鉄道施設

鉄道施設の応急復旧対策は、東日本旅客鉄道(株)が定めた「防災業務実施計画」に基づいて行われる。市は必要に応じてこれに協力する。

第16節 ボランティア活動への対応

項目	実施担当	関係機関
1. ボランティア団体への要請	福祉班	社会福祉協議会
2. ボランティアへの対応	福祉班	社会福祉協議会

1. ボランティア団体への要請

大規模震災時において、災害応急対策の実施には多くの人員を必要とするため、ボランティア活動の協力を申し入れる団体や個人の協力を得て、効果的な応急対策を実施する。

(1) ボランティアの活動分野

ボランティアの協力を得て実施する活動内容は次のとおりとする。

■ボランティアの活動

専門ボランティア	一般ボランティア
○救護所等での医療、看護	○避難所の運営補助
○被災建築物の応急危険度判定	○炊出しや食料、飲料水などの配給
○被災宅地の危険度判定	○救援物資や義援品の仕分け、輸送
○外国語の通訳、情報提供	○高齢者や障害者などの要配慮者の支援
○被災者への心理治療	○清掃、がれきの片付け
○高齢者や障害者などの要配慮者の介護	○その他被災地における軽作業など
○その他の専門的知識、技能を要する活動等	

(2) ボランティアとして協力を求める個人、団体

災害時にボランティアとして活動が期待される個人、団体は、次のとおりであり、これらに積極的に協力を求める。

■協力を求める個人、団体

○個人
被災地の住民、応急危険度判定士、被災宅地危険度判定士その他
○団体
鴨川市赤十字奉仕団、鴨川市国際交流協会、 日本アマチュア無線連盟千葉県支部、その他ボランティア活動団体

(3) ボランティア参加の呼びかけ

大規模な災害が発生した際には、テレビやラジオ、新聞、インターネット等の報道機関や市、県及び近隣都県の社会福祉協議会、日本赤十字社各支部等の関係団体や民間団体等を通じて、広くボランティアの参加を呼びかける。

2. ボランティアへの対応

災害状況によって多くのボランティアが集まる場合は、社会福祉協議会と連携してボランティアへの対応を行う。また、地元や外部から被災地入りしているNPO等との連携を図るとともに、

災害中間支援組織（N P O・ボランティア等の活動支援や活動調整を行う組織）を含めた連携体制の構築を図り、復旧・復興期も含めた多様な被災者ニーズを踏まえ、各団体の多様性と継続性を活かしたボランティア活動が円滑に行われるよう、その活動環境の整備を図る。

(1) 活動拠点の設置

社会福祉協議会は、「鴨川市災害ボランティア活動センターの設置及び運営に関する協定」に基づき、ボランティア団体と協力して、市が設置するボランティア活動センター（活動拠点）を運営する。

ボランティア活動センターでは、ボランティアの受付、登録、ボランティア活動のコーディネーターと関係機関との連絡調整などを行う。

(2) ボランティア保険への加入

福祉班は、社会福祉協議会と協力して、登録したボランティアをボランティア保険に加入するように手続きを行う。

(3) ボランティア活動との調整、支援

福祉班は、社会福祉協議会、ボランティアコーディネーター等と定期的に協議を行い、市からの要請事項、活動の報告や諸問題の解決を図る。

福祉班は、ボランティアの活動に必要な情報をボランティア活動センター及びその他のボランティア組織へ提供するとともに、これらの組織と災害対策本部との連絡調整にあたる。

(4) 感染症対策について

市災害ボランティア活動センターは、感染症が懸念される状況においては、ボランティアの募集範囲は市域を基本とし、募集範囲を拡大する場合は被災地域の住民のニーズや意見などを踏まえ、関係団体と協議する。

第17節 要配慮者への対応

項目	実施担当	関係機関
1. 要配慮者の安全確認	福祉班、医療支援班	
2. 要配慮者への支援	福祉班、医療支援班	
3. 福祉仮設住宅の供給	福祉班、土木班	
4. 福祉施設入所者等への対策	福祉班	社会福祉施設等
5. 外国人への対策	市民生活班	

1. 要配慮者の安全確認

福祉班及び医療支援班は要配慮者の安否確認及び避難行動要支援者の支援について、避難行動要支援者名簿及び個別避難計画に基づき実施する。

なお、災害が発生し、又は発生するおそれがあり、避難行動要支援者を保護するために特に必要な場合、本人の同意のない避難行動要支援者名簿、個別避難計画の情報についても、災害対策基本法の規定により、避難の支援等に必要な範囲で避難支援等関係者に提供する。

また、必要に応じて避難行動要支援者システムを活用し、迅速かつ的確な対応を行う。

(1) 安否確認

福祉班及び医療支援班は、住民組織、自主防災組織、福祉関係団体、民生委員・児童委員等と協力して、避難区域における在宅の避難行動要支援者の安否確認を行う。災害状況によっては、移送の要否等を検討する。

(2) 避難情報の伝達

福祉班は、避難行動要支援者への情報の伝達にあたっては、避難行動要支援者自身が情報を取得できるようにそれぞれのハンディキャップを踏まえ、拡声器、口頭又は防災行政無線等の通常の伝達手段に加えて視覚障害者向けインターネット（電子メール読み上げアプリを使用）、FAX通信、聴覚障害者用情報伝達装置など多様な手段を活用して伝達を図る。

(3) 避難支援

避難行動要支援者の避難誘導は、原則として地区の住民組織、自主防災組織等が行う。

福祉班は、避難行動要支援者の避難状況を速やかに確認し、避難所を確保するとともに、健康状態の把握に努め、状況に応じて福祉避難所への移送、社会福祉施設への緊急入所を行う。

2. 要配慮者への支援

(1) 避難所における援護対策

福祉班及び医療支援班は、要配慮者への援護対策のニーズを把握し、避難所運営組織、ボランティアの協力を得て、次の対策を行う。

■避難所における要配慮者への支援

ケアサービスリストの作成	<input type="radio"/> 必要となる介護・介助要員・用具の種別・規模 <input type="radio"/> その他介護に必要な状況
必要な設備・物資の確保・設置	<input type="radio"/> 踏み板等、段差の解消 <input type="radio"/> 簡易ベッド <input type="radio"/> パーティション（間仕切り） <input type="radio"/> 車椅子、紙おむつ、障害者用携帯トイレ等介護物資
要配慮者専用スペースの確保	<input type="radio"/> 可能な限り少人数部屋 <input type="radio"/> トイレに近い
生活支援	<input type="radio"/> 適温食と高齢者に配慮した食事の供給 <input type="radio"/> ホームヘルパーの派遣、ガイドヘルパーの派遣
広報支援	<input type="radio"/> 手話通訳の派遣 <input type="radio"/> ボランティアによる個別情報伝達

なお、避難所の高齢者、障害者、乳幼児その他の要配慮者の生活機能の低下防止等のため必要がある場合は、「千葉県災害福祉支援チームの派遣に関する基本協定」による千葉県災害福祉支援チーム（DWA T）や災害支援ナースの派遣を県に要請する。

また、災害救助法が適用された際は、避難生活において配慮を必要とする高齢者、障害者、乳幼児等への福祉チームによる福祉サービスは国庫負担の対象となることから、福祉チームの活動状況や帳簿等を整理し、保管する。

■災害救助法による福祉サービスの対象等

福祉サービスの提供者	<input type="radio"/> あらかじめ編成した福祉サービスチーム <input type="radio"/> 社会福祉施設等から確保した社会福祉士、介護福祉士等
福祉サービスの提供範囲	<input type="radio"/> 要配慮者に関する情報の把握 <input type="radio"/> 要配慮者からの相談対応 <input type="radio"/> 要配慮者に対する避難生活上の支援 <input type="radio"/> 要配慮者の避難所への誘導 <input type="radio"/> 福祉避難所の設置（避難所の供与に基づき設置する場合を除く。）

(2) 社会福祉施設等への入所

福祉班は、避難所で介護等が困難な要配慮者を、可能な限り社会福祉施設等へ入所させるため、福祉施設等に受け入れを要請する。

(3) 巡回相談等の実施

福祉班は、災害によるショック及び避難生活の長期化に対応するため、被災地等において、社会福祉士、介護福祉士、児童相談員、ケースワーカー、ボランティア等の専門家によるホームヘルプサービス、要介護者への巡回相談等に努める。

(4) 応急仮設住宅の配慮

福祉班及び土木班は、要配慮者に配慮した応急仮設住宅の設置を検討する。

3. 福祉仮設住宅の供給

土木班及び福祉班は、県と協力し、要配慮者向け住宅として福祉仮設住宅を設置する。

■福祉仮設住宅の対策

- 医師会並びに医療ボランティア等との連携・協力による健康チェック・こころのケア対策
- ケースワーカー・カウンセラー等による全般的な生活相談業務、各種行政支援サービスの利用相談業務、ホームヘルパーの派遣その他要配慮者向サービスの実施
- グループホーム入居者への支援措置

4. 福祉施設入所者等への対策

(1) 安全確保

社会福祉施設等の管理者は、入所者・利用者の安否を確認し、負傷した場合は、救護所等に移送する。

また、火災が発生した場合、職員は初期消火を行い、避難が必要な場合は、近隣の住民等の協力を要請する。

(2) 施設における生活の確保

福祉班は、災害によりライフライン等が断たれ、食料、飲料水、生活必需品等が供給できなくなった場合、必要とする品目、数量等の情報を収集し、産業班に供給を要請する。

5. 外国人への対策

市民生活班は、避難情報の伝達と安否情報の収集を行うとともに、外国人の避難状況によつては、県やボランティア等と協力し、災害多言語支援センターを設置するなどして、個別ニーズへの対応やメンタルヘルスケアなど外国人に配慮した支援を行う。

第18節 孤立対策

項目	実施担当	関係機関
1. 孤立地区の確認	本部事務局、土木班	
2. 救助・救出		安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部
3. 集団避難	本部事務局	
4. 緊急支援物資の確保・搬送	本部事務局	

1. 孤立地区の確認

本部事務局は、一般電話、無線電話等を用いて孤立が予想される地区の確認を行う。通信遮断により孤立が予想された場合は、土木班の派遣等により道路の状況を確認し、孤立状況の把握を実施する。

また、県、自衛隊、関係機関のヘリコプター、ドローン、船舶による偵察などにより可能な限り孤立地区の状況を把握する手段を確保する。

2. 救助・救出

安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部は、建物被害等により生き埋め者や重傷者が発生した場合は、県、自衛隊、関係機関に要請し、ヘリコプター、船舶等により救急搬送や救助要員の応援隊を搬送する。

3. 集団避難

本部事務局は、孤立地区において、土砂災害により二次災害のおそれやライフラインの途絶、食料・物資の不足等により、地区内で生活が困難な場合は、地区全員の集団避難を指示する。

その場合は、県、自衛隊、関係機関に要請し、ヘリコプター、船舶などの避難手段を確保する。なお、集団避難を完了した後は、防犯等のために必要に応じてパトロールを実施する。

4. 緊急支援物資の確保・搬送

地区住民は、集団避難完了あるいは道路の復旧などにより孤立が解消するまでの間は、食料品等を相互に融通しあい、できる限り地区内で自活することを原則とする。

本部事務局は、食料品、物資等が不足する場合は、県、自衛隊等の協力を得て、地区住民の生活維持のため、食料品、生活必需品等の輸送を実施する。

第19節 帰宅困難者対策

項目	実施担当	関係機関
1. 安全確保		観光施設の管理者、交通機関の管理者
2. 帰宅困難者への支援	産業班	

道路の寸断、公共交通機関等の不通により、自力で帰宅することが困難な滞留者、観光客に対し、観光施設、交通機関の管理者等と協力して次のような支援を行う。

1. 安全確保

観光施設の管理者、交通機関の管理者等は、災害が発生又は発生するおそれがあるときは、利用者等を適切な場所に誘導し、安全を確保する。

また、必要に応じて、利用者を一時滞在施設へ誘導する。

2. 帰宅困難者への支援

(1) 一時滞在施設等の提供

産業班は、滞留時間が長期に及ぶ見通しのときは、観光施設の管理者、交通機関の管理者等と連携して、公共施設等に一時滞在施設を開設する。特に、自動車で移動する帰宅困難者のために、駐車が可能な空地を確保し、駐車場として指定する。

一時滞在施設を開設した場合は、その状況を集約し県へ報告するとともに、駅、帰宅困難者が避難している避難所等への情報提供を行い、避難誘導を促す。

(2) 情報等の提供

産業班は、帰宅困難者に対し、被害の状況や鉄道の運航情報等の帰宅情報を提供する。

さらに、可能な場合は、飲料水、食料、物資等の提供を行う。

また、県や関係機関と連携してエリアメールや緊急速報メール、鴨川市安全・安心メール、防災ポータルサイト、SNSなどを活用した情報提供について検討・実施する。

第3章 災害復旧・復興計画

第1節 被災者生活への支援

項目	実施担当	関係機関
1. 被災者台帳の作成等	市民生活班	
2. 災害見舞金等の支給	福祉班	社会福祉協議会
3. 被災者生活再建支援金	福祉班	県、(財)都道府県会館
4. 災害復興住宅融資		住宅金融支援機構
5. 罹災証明書の発行	住家調査班	
6. 災害公営住宅の供給	土木班	
7. 租税等の減免等	住家調査班	県
8. 介護保険における措置	医療支援班	
9. 職業のあっせん		公共職業安定所
10. 農林漁業への融資	産業班	県、農業協同組合
11. 中小企業への融資	産業班	県、一般金融機関、政府系金融機関、信用保証協会
12. 義援金の受け付け・配分	福祉班	
13. 郵便事業における措置		日本郵便(株)

1. 被災者台帳の作成等

(1) 被災者台帳の作成

市民生活班は、被災者への支援を漏れなく行うために、それぞれの被災者の被害状況、支援の実施状況、支援にあたっての配慮事項等を一元に集約した被災者台帳を作成する。被災者台帳は、全庁的に共有を図る。

なお、被災者台帳の作成にデジタル技術を活用するよう積極的に検討する。

(2) 被災者台帳の利用

市民生活班は、次のいずれかに該当すると認めるときは、災害対策本部内において被災者台帳を利用する。

- ① 本人の同意があるとき、又は本人に提供するとき。
- ② 市が被災者への援護の実施に必要な限度で台帳情報を内部で利用するとき。
- ③ 他の自治体に台帳情報を提供する場合で、提供される自治体が、被災者への支援に必要な限度で利用するとき。

また、台帳情報の提供について申請があった場合は、不当な目的でない場合を除いて情報提供を行う。

(3) 安否情報の照会

市民生活班は、被災者の安否情報について家族及び親族等から照会があったときは、避難者名簿、行方不明者名簿、被災者台帳等を活用し、照会された市民等の安否情報を確認する。

回答の際は、被災者や第三者の利益を侵害しないように配慮するほか、照会に対して適切に回答し、又は備えるため、必要な限度で当該情報を利用し、必要に応じて関係自治体、警察等

に対して、被災者に関する情報提供を求める。

2. 災害見舞金等の支給

(1) 災害弔慰金の支給等に関する法律（昭和48年法律第82号）による支給

福祉班は、次の支援を行う。

① 災害弔慰金の支給

「千葉県市町村災害弔慰金の支給等に関する条例」に基づき、災害により死亡した住民の遺族に対し災害弔慰金を支給する。

② 災害障害見舞金の支給

「千葉県市町村総合事務組合条例」に基づき、自然災害により負傷し又は疾病にかかり、治癒後に精神又は身体に著しい障害がある住民に対して災害障害見舞金を支給する。

③ 災害援護資金の貸付

「千葉県市町村総合事務組合条例」に基づき、自然災害により被害を受けた世帯の世帯主に対し、生活の建て直しのために災害援護資金の貸付を行う。

(2) 千葉県災害弔慰金・千葉県災害見舞金の支給

福祉班は、「千葉県災害見舞金等支給基準」に基づき、災害による被災者及びその遺族に対し災害見舞金及び弔慰金を支給する。

(3) 鴨川市災害見舞金等支給要綱による支給

福祉班は、市民に対し、「鴨川市災害見舞金等支給要綱」に基づき、地震等の災害により災害を受けた場合に、その世帯又は遺族に対し、見舞金又は弔慰金等を支給する。

(4) 生活福祉資金の貸付け

社会福祉協議会は、「生活福祉資金貸付事業制度要綱」（厚生労働省）に基づき、災害救助法が適用にならない災害によって被害を受けた低所得世帯に対して、生活福祉資金を貸付ける。

なお、「災害弔慰金の支給等に関する法律」に基づく災害援護資金の貸付対象となる世帯は、原則としてこの資金の貸付け対象とならない。

3. 被災者生活再建支援金

被災者生活再建支援法（平成10年法律第66号）に基づき、県は、自然災害によりその生活基盤に著しい被害を受け、自立した生活を再建することが困難なものに対し、自立した生活を開始するために必要な費用に当てるため、被災者生活再建支援金の支給を行う。（支給事務については、県から事務の全部の委託を受けて、被災者生活再建支援法人である（公財）都道府県センターが行う。）

また、被災者生活再建支援法による支援金の支給対象とならない世帯であっても、一定の要件に該当する場合には、千葉県被災者生活再建支援事業に基づいて同法と同等の支援金の支給を行う。

福祉班は、同法に基づき基金の事務の一部を委託された場合、申請書の審査・取りまとめ等、支給に関する事務が適切かつ速やかに実施されるよう県と連携を図りながら事務を行う。

4. 災害復興住宅融資

住宅金融支援機構は、災害により住宅を失い、又は破損した者が住宅の建設、補修、購入等を行えるよう資金を融資する。

5. 罹災証明書の発行

住家調査班は、災害協定を締結している県土地家屋調査士会等の協力を得て「災害に係る住家の被害認定基準運用指針」（内閣府）に基づく住家の被害調査を実施する。

家屋の被害調査の結果から「罹災台帳」を作成し、被災者の「罹災証明書」発行申請に対し、罹災台帳で確認のうえ発行する。罹災台帳で確認できないときでも、申請者の立証資料をもとに客観的に判断できるときは「罹災証明書」を発行する。

また、災害の状況を迅速かつ的確に把握するとともに、各種の支援措置を早期に実施するため、災害による住家等の被害の程度の調査や罹災証明書の交付の体制を確立し、遅滞なく、住家等の被害の程度を調査し、被災者に罹災証明書を交付する。

さらに、住家等の被害の程度を調査する際、必要に応じて、航空写真、ドローン等による空撮写真、被災者が撮影した住家の写真、応急危険度判定の判定結果等を活用するなど、適切な手法により実施する。

なお、平時から家屋被害調査の担当者の育成、応急危険度判定の担当との情報共有体制を確立しておくものとする。

6. 災害公営住宅の供給

災害公営住宅は、地震等による大規模な災害が発生し、住宅の被害が次の条件の1つに達した場合に、低所得罹災世帯のため、国庫から補助を受け整備し入居させるものである。

土木班は、県と調整を図り災害公営住宅の整備を行う。

■災害公営住宅の適用条件

○地震、暴風雨、洪水、その他異常な天然現象による災害の場合

- ・被災地全域の滅失戸数が500戸以上のとき
- ・1市町村の区域内の滅失戸数が200戸以上のとき
- ・滅失戸数がその市町村の区域内の住宅戸数の1割以上のとき

○火災による場合

- ・被災地域の滅失戸数が200戸以上のとき
- ・滅失戸数がその市町村の区域内の住宅戸数の1割以上のとき

7. 租税等の減免等

地震等の災害によって被害を受けた住民に対して市税等の減免、納税延期及び徵収猶予を行う。住家調査班は、各種申請手続きを一括して受け付ける窓口を設置し、受付処理を行う。

(1) 納税期限の延長

地震等の災害により、納税義務者等が期限内に申告その他の書類の提出又は市税を納付もしくは納入することができないと認めるときは、当該期限の延長を行う。

(2) 徴収猶予

地震等の災害により財産に被害を受けた納税義務者等が市税を一時に納付し、又は納入することができないと認められるときは、その者の申請に基づき、1年以内において徴収を猶予する。なお、やむを得ない理由があると認められるときは、さらに1年以内の延長を行う。

(3) 減免

地震等に被災した納税（納付）義務者に対し、該当する各税目等について減免を行う。なお、県税、国税も同様な措置がとられる。

■税等の減免の内容

税 目	減 免 の 内 容
市民税	被災した納税義務者の状況に応じて減免を行う。
固定資産税	災害により著しく価値が減じた固定資産について行う。
軽自動車税・国民健康保険税	被災した納税（納付）義務者の状況に応じて減免を行う。
特別土地保有税	災害により著しく価値を減じた土地について行う。

8. 介護保険における措置

医療支援班は、大規模災害の発生時において国から示される特例措置を踏まえ、災害によって被害を受けた住民に対し、介護保険について次の措置をとる。

■介護保険における措置

- 認定更新申請期限に関する措置
- 給付差し止め等に関する措置
- 給付割合の増額

9. 職業のあっせん

館山公共職業安定所は、地震等の災害により離職を余儀なくされた者の再就職を促進するため、離職者の発生状況、求人、求職の動向等の情報を速やかに把握するとともに、以下の措置を行い、離職者の早期再就職のあっせんを行う。

■職業安定所の職業のあっせん

- 被災者のための臨時職業相談窓口の設置
- 館山公共職業安定所に出頭することが困難な地域において、臨時職業相談所の開設、又は巡回職業相談の実施
- 職業訓練受講指示又は職業転換給付金制度等の活用
- 雇用保険の失業給付に関する特例措置

10. 農林漁業への融資

産業班は、災害により被害を受けた農林漁業者に対し、千葉県、農業協同組合等の協力を得て災害復旧融資制度の広報等の支援策を行う。

■農林漁業への融資

- 天災による被害農林漁業者等に対する資金の融通に関する暫定措置法（昭和30年法律第136号）の規定に基づいた、指定された天災に基づく被害を受けた農林漁業者に必要な資金融資（農業協同組合、金融機関）

- 農林漁業金融公庫による復旧資金融資（農業協同組合、金融機関）

11. 中小企業への融資

産業班及び県は、地震等による災害により被害を受けた中小企業が再建と経営の安定を図るために、復旧に必要な資金並びに事業費の融資を促進する。

■中小企業への融資制度

- 一般金融機関、政府系金融機関の融資
- 小規模企業者等設備導入資金の貸付
- 信用保証協会による融資の保証

12. 義援金の受け付け・配分

(1) 義援金の受け付け

福祉班は、県及び日赤千葉県支部と連携をとり、義援金受付窓口を設置し、受付記録を作成して保管の手続きを行うとともに、寄託者に受領書を発行する。被災者に配分するまでの間、市指定金融機関に専用口座をつくり保管する。

(2) 義援金の配分

福祉班は、義援金の配分にあたっては、義援金配分委員会を組織し、被災者数、被災者世帯数、被災状況等を考慮して義援金の配分を決定する。

13. 郵便事業における措置

地震が発生した場合において、日本郵便（株）は、災害の態様及び公衆の被災状況等被災地の実情に応じ、次の対策を実施する。

■郵便事業における措置

- 被災者への郵便葉書等の無償交付
- 被災者が差し出す郵便物の料金免除
- 被災地あて救助用郵便物の料金免除
- 災害時における窓口業務の維持
- 災害特別事務取扱い、（株）ゆうちょ銀行の非常払及び（株）かんぽ生命保険の非常取扱いについて、各社から要請があつた場合の取扱い

第2節 生活関連施設等の復旧対策

項目	実施担当	関係機関
1. 災害復旧事業計画	各班	安房都市広域市町村圏事務組合水道部
2. 災害復旧予算措置	各班	

1. 災害復旧事業計画

市は、県、国と連携して地震による災害の再発生を防止し、単なる原形復旧にとどまらず必要な改良を行うなど将来の災害に備えるため、法律に基づいて次のような災害復旧事業計画を策定し復旧事業にあたる。

■公共施設の災害復旧事業計画

- (1) 公共土木施設災害復旧事業計画
 - ① 河川
 - ② 海岸
 - ③ 砂防設備
 - ④ 林地荒廃防止施設
 - ⑤ 地すべり防止施設
 - ⑥ 急傾斜地崩壊防止施設
 - ⑦ 道路
 - ⑧ 漁港
 - ⑨ 水道、下水道
 - ⑩ 公園
- (2) 農林水産業施設災害復旧事業計画
- (3) 都市施設災害復旧事業計画
- (4) 上下水道災害復旧事業計画
- (5) 住宅災害復旧事業計画
- (6) 社会福祉施設災害復旧事業計画
- (7) 公共医療施設、病院等災害復旧事業計画
- (8) 学校教育施設災害復旧事業計画
- (9) 社会教育施設災害復旧事業計画
- (10) その他災害復旧事業計画

2. 災害復旧予算措置

災害復旧事業、その他関係事業に要する費用は、別に法律に定めるところにより、予算の範囲内において、国及び県が全部又は一部を負担し又は補助して行われる。

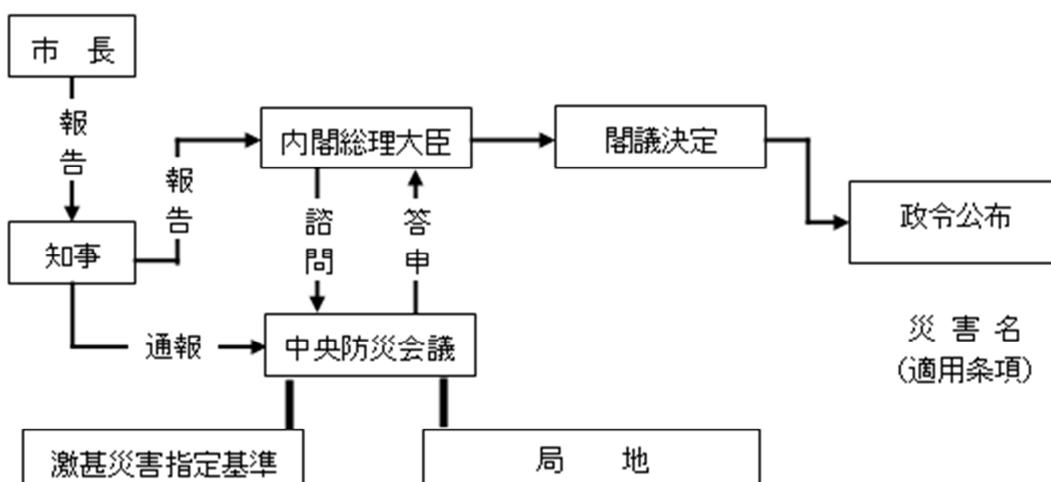
第3節 激甚災害の指定

項目	実施担当	関係機関
激甚災害の指定に関する計画	本部事務局	

市及び県は、著しく激甚である災害（以下「激甚災害」という。）が発生した場合には、災害の状況を速やかに調査し、実情を把握して早期に激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律（昭和37年法律第150号。以下「激甚法」という。）の指定を受け、公共施設の災害復旧事業が迅速かつ円滑に実施できるよう措置する。

激甚の基準については、「激甚災害指定基準」（昭和37年12月7日・中央防災会議決定）と「局地激甚災害指定基準」（昭和43年11月22日・中央防災会議決定）の2つがあり、この基準により指定を受ける。

■激甚災害指定の流れ



■激甚法による財政援助

助成区分	財政援助を受ける事業等
公共土木施設災害復旧事業等に関する特別の財政援助	<ul style="list-style-type: none"> ○公共土木施設災害復旧事業 ○公共土木施設災害関連事業 ○公立学校施設災害復旧事業 ○公営住宅災害復旧事業 ○生活保護施設災害復旧事業 ○児童福祉施設災害復旧事業 ○認定こども園の災害復旧事業 ○老人福祉施設災害復旧事業 ○身体障害者社会参加施設災害復旧事業 ○障害者支援施設災害復旧事業 ○女性自立支援施設災害復旧事業 ○感染症指定医療機関災害復旧事業 ○感染症予防事業 ○特定私立幼稚園災害復旧事業

第2編 地震・津波災害編 第3章 災害復旧・復興計画
第3節 激甚災害の指定

	<ul style="list-style-type: none">○堆積土砂排除事業○湛水排除事業
農林水産業に関する特別の助成	<ul style="list-style-type: none">○農地等の災害復旧事業等に係る補助の特別措置○農林水産業共同利用施設災害復旧事業費の補助の特例○開拓者等の施設災害復旧事業に対する補助○天災による被害農林漁業者等に対する資金の融通に関する暫定措置の特例○森林災害復旧事業に対する補助○森林組合等の行う堆積土砂の排除事業に対する補助○土地改良区等の行う湛水排除事業に対する補助○共同利用小型漁船の建造費の補助
中小企業に関する特別の助成	<ul style="list-style-type: none">○中小企業信用保険法（昭和 25 年法律第 264 号）による災害関係保証の特例○事業協同組合等の施設の災害復旧事業に対する補助
その他の財政援助及び助成	<ul style="list-style-type: none">○公立社会教育施設災害復旧事業に対する補助○私立学校施設災害復旧事業に対する補助○市町村が施行する感染症予防事業に関する負担の特例○母子及び父子並びに寡婦福祉法（昭和 39 年法律第 129 号）による国の貸付けの特例○水防資材費の補助の特例○罹災者公営住宅建設事業に対する補助の特例○産業労働者住宅建設資金融通の特例○小災害債に係る元利償還金の基準財政需要額への算入等○雇用保険法（昭和 49 年法律第 116 号）による求職者給付に関する特例

第4節 災害復興

項目	実施担当	関係機関
1. 復興計画作成の体制づくり	本部事務局	
2. 復興に対する合意形成	本部事務局	
3. 復興計画の推進	本部事務局	
4. 特定大規模災害時の措置	本部事務局、産業班、土木班	

地震により地域が壊滅し、社会経済活動に甚大な障害が生じた場合には、被災地域の再建は、都市構造の改変、産業基盤の改変を要するような多数の機関が関係する高度かつ複雑な大規模事業となる。

市は、県及び関係機関と、緊密な連携を図りながら、再度災害の発生防止とより快適な生活環境を目指し、住民の安全と環境保全等にも配慮した防災まちづくりを実施する。

なお、復興のため市街地の整備改善が必要な場合には、被災市街地復興特別措置法（平成7年法律第14号）等を活用することにより、合理的かつ健全な市街地の形成と都市機能の更新を図る。

1. 復興計画作成の体制づくり

復興計画は、被災状況、地域の特性、関係公共施設管理者の意向等を勘案しつつ、迅速な原状復旧を目指すか、又はさらに災害に強いまちづくり等の中長期課題の解決をも図る計画的復興を目指すかについて早急に検討し、復旧・復興の基本方針を定める。そして、この方針を基に復興計画を作成する。

そのため、市は、県の行う復興計画の迅速かつ的確な作成と遂行のための体制整備（県と市及び関係機関との連携、国との連携）に協力し、連携をとる。

2. 復興に対する合意形成

復興計画の作成にあたっては、新たなまちづくりの展望、計画決定までの手続、スケジュール、被災者サイドでの種々の選択肢、施策情報の提供等を住民に対し行い、住民の早急な生活再建の観点から、防災まちづくりの方向についてできるだけ速やかに住民の合意を得るように努める。

3. 復興計画の推進

復興事業は、多数の機関が関係する高度かつ複雑な大規模事業となり、中長期に及ぶことから、社会情勢や住民のニーズの変化、科学技術の進展等復興事業を取り巻く状況の変化を考慮の上、可及的速やかに実施するため、市、県及び関係機関は、諸事業を調整しつつ計画的に復興を進めることとする。

4. 特定大規模災害時の措置

大規模災害からの復興に関する法律に基づく特定被災市となった場合は、必要に応じて県と共同して国の基本方針に即した復興計画を策定し、また、復興協議会を組織して復興整備事業の許

認可の緩和等の特別措置の適用を受け、市街地開発事業、土地改良事業等を実施する。

なお、特定大規模災害等による被害により、行政機能の低下や専門知識を有する職員が不足する場合は、同法に基づき、復興を図るために必要な都市計画の決定や変更について県知事に対して代行を要請するほか、復興計画の作成や復興整備事業の実施等に必要な人員が中長期的に不足する場合は、同法に基づき、関係地方行政機関の長又は県知事に対して職員の派遣又はそのあつせんを要請する。

第4章 南海トラフ地震防災対策推進計画

第1節 計画の目的

1. 推進計画の目的

南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法第3条第1項の規定に基づき、本市は、南海トラフ地震が発生した場合に著しい地震災害が生ずるおそれがある地域「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されている。

このため、同法第5条第2項の規定に基づき、南海トラフ地震に伴い発生する津波からの防護、円滑な避難の確保及び迅速な救助に関する事項等を定め、地震防災対策の推進を図ることとする。

なお、この章に記載のない事項は、総則編、本編「第1章 災害予防計画」及び「第2章 災害応急対策計画」に準ずる。

2. 地震の想定

南海トラフ巨大地震（M9.1）が発生した場合、市内の最大震度は5弱と予測されている。また、地震発生から最短で45分後に津波（高さ1m）が到達し、最大津波高は8m、海岸や各漁港などが浸水すると予測されている。



3. 定義

この章において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

(1) 後発地震

南海トラフの想定震源域及びその周辺で速報的に解析されたM6.8程度以上の地震が発生又はプレート境界面で通常とは異なるゆっくりすべり等の現象が発生した後に、発生する可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された南海トラフ地震をいう。

(2) 南海トラフ地震臨時情報（調査中）

南海トラフの想定震源域及びその周辺で速報的に解析されたM6.8程度以上の地震が発生又はプレート境界面で通常とは異なるゆっくりすべり等を観測した場合に気象庁から発表される情報をいう。

(3) 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）

南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界でM8.0以上の地震が発生したと評価が出された場合に、気象庁から発表される、後発地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まっている旨を示す情報をいう。

(4) 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）

南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界でM7.0以上M8.0未満又はプレート境界以外や想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲でM7.0以上の地震（太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震を除く。）が発生若しくは南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界面で通常と異なるゆっくりすべりが観測されたと評価された場合に、気象庁から発表される、後発地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まっている旨を示す情報をいう。

(5) 時間差発生等

先に発生した地震で大きな被害が発生した後、時間差を置いて再び大きな揺れ・津波が生じる場合その他の後発地震の発生をいう。

第2節 防災関係機関等の処理すべき事務又は業務の大綱

市や防災関係機関及び防災上重要な施設の管理者、市民、事業者等の処理すべき事務又は大綱については、総則編「第2節 防災関係機関等の処理すべき事務又は業務の大綱」に準ずる。

第3節 地震防災対策計画

項目	実施担当	関係機関
1. 関係者との連携協力の確保	本部事務局、産業班	
2. 津波からの防護、円滑な避難の確保及び迅速な救助に関する事項	各班	防災関係機関
3. 時間差発生等における円滑な避難の確保等に関する事項	各班	防災関係機関
4. 地震防災上緊急に整備すべき施設等の整備計画	各課	防災関係機関
5. 防災訓練計画	危機管理課	県
6. 地震防災上必要な教育及び広報に関する計画	危機管理課	県
7. 南海トラフ地震防災対策計画	危機管理課	県

1. 関係者との連携協力の確保

(1) 物資等の調達手配

第2章「第11節 食料・飲料水・生活必需品等の供給」に準ずる。

(2) 広域応援の要請

第2章「第5節 広域応援・自衛隊派遣要請」に準ずる。

なお、南海トラフ地震では被害が超広域に及び、従来の応援システムが機能しなくなることも考慮し、人的・物的資源の絶対的不足、発災直後の情報不足等を前提に、優先順位を付けて対処する。

(3) 帰宅困難者への対応

第2章「第19節 帰宅困難者等対策」に準ずる。

2. 津波からの防護、円滑な避難の確保及び迅速な救助に関する事項

(1) 津波からの防護

市は、津波による被害を防止、軽減するための施設の整備、運用体制の確立に努める。

また、津波防護施設等の整備については、第1章「第5節 津波災害予防対策」に準ずる。

(2) 津波に関する情報の伝達

津波警報等の伝達については、第2章「第2節 情報収集伝達」に準ずる。

また、被害情報等の収集・報告の方法、防災行政無線の整備計画については、第2章「第2節 情報収集伝達」及び第1章「第4節 防災施設等の整備」に準ずる。

(3) 避難対策等

住民等の自主的な避難行動及び市が行う避難誘導及び避難所の運営・安全確保については、第1章「第5節 津波災害予防対策」及び第2章「第8節 避難対策」に準ずる。特に要配慮者については、第2章「第17節 要配慮者への対応」に準ずる。

また、津波広報、教育、訓練については、第1章「第1節 地域防災力の向上」に準ずる。

(4) 消防活動等

安房郡市広域町村圏事務組合消防本部及び消防団は、地震が発生した場合、次の措置をとる。

① 重点活動

- ア. 津波警報等の情報の的確な収集及び伝達
- イ. 津波からの避難誘導
- ウ. 自主防災組織等の津波避難計画作成等に対する支援
- エ. 津波到達予想時間等を考慮した退避ルールの確立

② 水防活動

水防管理団体等は、次の措置をとる。

- ア. 所管区域内の監視、警戒及び水防施設の管理者への連絡
- イ. 水門、閘門及び防潮扉の操作又は操作の準備並びに人員の配置
- ウ. 水防資機材の点検、配備

(5) ライフライン、通信、放送関係

① 水道施設

安房郡市広域町村圏事務組合水道部が行う二次災害防止のための広報の実施及び応急措置の内容については、第2章「第15節 ライフライン施設等の応急・復旧」に準ずる。

② 電気、ガス、通信

電気、ガス、通信事業者が行う二次災害防止のための広報の実施及び応急措置の内容については、第2章「第15節 ライフライン施設等の応急・復旧」に準ずる。

(6) 交通

① 道路

各道路管理者等は、津波襲来のおそれがあるところでの交通規制、避難経路として使用されることが想定される区間についての交通規制の内容を、広域的な整合性に配慮しつつ、あらかじめ計画し周知するものとする。

② 船舶

津波が予想される場合や津波等により船舶の座礁等の海難事故が発生した場合、勝浦海上保安署及び漁港関係者（県、鴨川市漁業協同組合、東安房漁業協同組合等）は相互に連携して以下の安全対策を行う。

ア. 津波が予想される場合、船舶の安全対策について次の適切な措置を講じる。

- (ア) 避難の要否及び時機
- (イ) 船舶の入港禁止
- (ウ) 在泊船舶等の動静把握及び安全対策

イ. 避難又はその他の安全対策措置の必要がある場合、直ちに次の方法によりその旨を伝達する。

- (ア) 無線放送
- (イ) 巡視船艇による在泊船舶への通報
- (ウ) 漁業無線局等への連絡

③ 鉄道

鉄道事業者は、津波の襲来により危険度が高いと予想される区間における運行の停止等の運行上の措置を講じるものとする。

④ 乗客等の避難誘導

鉄道事業者等は、列車の乗客や駅等に滞在する者の避難誘導計画をあらかじめ定めるものとする。

(7) 市が管理又は運営する施設に関する対策

① 不特定多数の者が出入りする施設

市が管理する庁舎、学校等の施設管理者は、次の措置をとる。

また、具体的な措置については、施設ごとに「7. 南海トラフ地震防災対策計画」に準ずる計画を策定し、安全確保対策に従事する者の避難に要する時間を十分確保した上で、必要な対策を実施するものとする。

ア. 共通事項

(ア) 来場者等への津波警報等の伝達

情報伝達にあたっては、鴨川市防災マップ等を確認するとともに、次の事項に留意する。

- ・来場者等が極めて多数の場合には、これらの者が円滑な避難行動をとり得るよう適切な伝達方法を検討する。
- ・避難場所や避難経路、避難対象地域、交通規制状況等その他必要な情報を併せて伝達するよう事前に検討する。なお、施設が海岸近くにある場合には、強い地震を感じたとき、又は弱い地震であっても長いゆっくりとした揺れを感じたときは、津波警報が発表される前であっても、直ちに避難するよう来場者等に対し伝達する方法を明示する。

(イ) 来場者等の安全確保のための退避等の措置

(ウ) 施設の防災点検及び設備、備品等の転倒、落下防止措置

(エ) 出火防止措置

(オ) 飲料水、食料等の備蓄

(カ) 消火用設備の点検、整備

(キ) 非常電源（自家発電設備等）の整備、防災行政無線、テレビ、ラジオ、インターネットなどの情報を入手するための機器の整備

イ. 個別事項

(ア) 病院等

重症患者、新生児等の移動が不可能又は困難な者の安全確保のために必要な措置

(イ) 学校等

学校等が市の定める津波避難対象地域にあるときは避難の安全に関する措置

学校等に保護が必要な生徒等がいる場合は、これらの者に対する保護の措置

(ウ) 社会福祉施設

重度障害者、高齢者等の移動することが不可能又は困難な者の安全確保のための必要な措置

② 災害応急対策の実施上重要な建物に対する措置

災害対策本部等を設置する庁舎等の施設管理者は、①のア. に掲げる措置をとるほか、次に掲げる措置をとる。

ア. 自家発電設備、可搬式発電機等の非常電源の確保

イ. 無線通信機等通信手段の確保

ウ. 災害対策本部等開設に必要な資機材及び緊急車両等の確保

③ 工事中の建築物等に対する措置

工事中の建築物その他の工作物又は施設については、原則として工事を中断し、特別の必要により津波被害の防止対策を行う場合には、作業員の安全確保のため津波からの避難に要する時間を配慮する。

(8) 迅速な救助

被災者の救助、救急活動等については、第2章「第6節 消防・救助救急・水防・危険物等対策」に準ずる。

3. 時間差発生等における円滑な避難の確保等に関する事項

(1) 南海トラフ地震臨時情報（調査中）発表時の応急対策

市は、気象庁が南海トラフ地震臨時情報（調査中）を発表した場合、必要に応じて担当職員の緊急参集、情報の収集及び共有、地域住民等に密接に関係のある事項に関する周知、その他必要な措置を行う。

情報伝達の経路、体制及び方法は、第2章「第1節 災害応急活動体制」及び「第2節 情報収集伝達」に準ずる。

(2) 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）発表時の災害応急対策

① 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）等の伝達、災害対策本部等の設置等

ア. 市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）等について、その機関相互間及び機関内部において確実に情報を伝達するものとし、その経路及び方法は、第2章「第2節 情報収集伝達」に準ずる。この場合、勤務時間内及び勤務時間外等の時間帯に応じ、伝達が確実に行われるよう留意する。

イ. 市は、管轄区域内の地域住民等並びに防災関係機関に対し、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）等を正確かつ広範に伝達するものとし、その経路及び方法は、第2章「第2節 情報収集伝達」に準ずる。この場合、防災行政無線、緊急速報メール等の活用による伝達手段の多重化・多様化に努め、可能な限り短い時間内において正確かつ広範に伝達を行うよう留意する。なお、地域住民等に対する南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）等の伝達を行う際には、具体的にとるべき行動をあわせて示すこと等に配慮するものとする。

ウ. 市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合に第2配備をとるものとし、その運営体制等は第2章「第1節 災害応急活動体制」に準ずる。

エ. 市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）等について、状況の変化等に応じて逐次伝達するために必要な措置を講じるとともに、地域住民等が正確に理解できる平明な表現を用いて反復継続して行うよう努める。

② 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）等が発表された後の周知

市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）等が発表された場合、地域住民等に冷静な対応を呼びかけるとともに、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）等の内容、交通に関する情報、ライフラインに関する情報、生活関連情報など地域住民等に密接に関係のある事項について周知する。その体制及び周知方法については、第3章「第2節 情報収集伝達」に準ずる。

市が行う周知については、テレビ及びラジオ等を活用するほか、同報無線による情報伝達を実施するものとする。この場合において、地域の自主消防組織やその他の公共的団体等の協力を得るなどの多様な手段を用いる。

なお、外国人等特に配慮を要する者に対する情報伝達については、外国語放送等様々な周知手段を活用するよう努める。

市は、地域住民等からの問い合わせに対応できるよう、窓口等の体制を整備するものとし、その体制は、第2章「第2節 情報収集伝達」に準ずる。

市は、管轄区域内において、住民以外の者等に対しても南海トラフ地震臨時情報（巨大

地震警戒) 等の内容、交通対策の実施状況等について的確な周知を行い、これらの者に冷静かつ適切な対応を促すよう努める。

③ 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)が発表された後の災害応急対策の実施状況等に関する情報の収集・伝達等

市は、災害応急対策の実施状況、その他南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)等が発表された後の諸般の状況を具体的に把握するため、末端からの各種の情報の収集体制を整備し、その収集体制は第2章「第2節 情報収集伝達」に準ずる。

市は、災害対策本部等からの指示事項等の伝達が正確かつ迅速に行うものとし、その経路及び方法は第2章「第2節 情報収集伝達」に準ずる。

市は、避難状況等の災害応急対策に係る措置の実施状況の報告等を行うものとし、その報告事項等は第2章「第2節 情報収集伝達」に準ずる。

④ 災害応急対策をとるべき期間等

市は、南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界におけるM8.0以上の地震の発生から1週間、後発地震に対して警戒する措置をとる。また、当該期間経過後1週間、後発地震に対して注意する措置をとる。

⑤ 避難対策等

ア. 住民等の自主的な避難行動及び市が行う避難誘導については、第2章「第8節 避難対策」による。

イ. 避難所の運営・安全確保については、第2章「第8節 避難対策」による。特に要配慮者については、同章「第17節 要配慮者への対応」による。

⑥ 関係機関のとるべき措置

ア. 消防機関等の活動

市は、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)等が発表された場合に、出火及び混乱の防止、津波からの円滑な避難の確保等に関して、次の事項を重点として対策を講ずる。

(ア) 津波警報等の情報の的確な収集及び伝達

(イ) 事前避難対象地域^{*}における地域住民等の避難誘導、避難路の確保

※事前避難対象地域は、地震発生から30分以内に30cm以上の浸水が予想される区域が基準となるが、本市の津波到達予想時間は39分であることから、事前避難対象地域は指定しない。

イ. 警備対策

警察本部は、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)等が発表された場合において、第2章第7節警備・交通・輸送に定めるところにより、犯罪及び混乱の防止等に関して必要な措置を講ずる。

ウ. 水道

市及び安房郡市広域市町村圏事務組合水道部は、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)等が発表された場合においても、第2章「第11節 食料・飲料水・生活必需品等の供給」に準じて必要な飲料水を供給する体制を確保する。

エ. 交通

(ア) 道路

a. 市は、道路管理者等と調整の上、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)等が発表された場合の交通対策等の情報についてあらかじめ情報提供するものとし、その方法は第3章「第2節 情報収集伝達」及び同章「第7節 警備・交通・輸送」に準ずる。

b. 市は、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)等が発表された場合、津波浸水が予想される区域内での車両の走行を極力抑制する。周知方法は、第3章「第7節 警備・交通・輸送」に準ずる。

(イ) 船舶及び港湾

- a. 市は、在港船舶の避難等対策について、津波に対する安全性に留意するものとし、その方法は「2. 津波からの防護、円滑な避難の確保及び迅速な救助に関する事項」に準ずる。この場合においては、後発地震の発生に備えた海上輸送路の確保についても考慮する。
- オ. 市が自ら管理等を行う道路、河川その他の施設に関する対策
市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）等が発表された場合において講ずる道路管理上の措置を適切に講じる。この場合において、市は、橋梁、トンネル及び法面のうち、危険度が特に高いと予想されるものに留意する。
市は、河川、海岸及び漁港施設について、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）等が発表された場合、それらの情報に応じた水門及び閘門の閉鎖手順の確認又は閉鎖等津波の発生に備えた措置を適切に講じる。この場合において、市は、内水排除施設等については、施設の管理上必要な操作、非常用発電装置の準備、点検その他所要の措置を講ずる。

市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）等が発表された場合、庁舎等公共施設のうち、後発地震の発生後における災害応急対策の実施上大きな役割を果たすことが期待できるものについて、その機能を果たすため、必要な措置を講ずる。

この場合において、市は、非常用発電装置の準備、水や食料等の備蓄、コンピューター・システム等重要資機材の点検その他所要の措置を実施する。

市が自ら管理又は運営する南海トラフ地震防災対策計画の対象となる施設又は事業に相当する施設又は事業に関する対策は、「7. 南海トラフ地震防災対策計画」に準ずる。

⑦ 関係者との連携協力の確保滞留旅客等に対する措置

市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）等が発表された場合における滞留旅客等の保護等のため、避難所の設置や帰宅支援等必要な対策を講じるものとし、その内容は、第2章「第19節 帰宅困難者等対策」に準ずる。

南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）等が発表された場合に、市以外の機関が行う滞留旅客等の避難誘導及び保護、食料等のあっせん、市が実施する活動との連携等の措置は、当該機関が作成する南海トラフ地震防災対策計画（「7. 南海トラフ地震防災対策計画」参照）に基づき実施する。

(3) 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）発表時の応急対策

① 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）等の伝達、活動体制等

市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）等については、確実に情報を伝達するものとし、その経路及び方法は第3章「第2節 情報収集伝達」に準ずる。この場合において、勤務時間内及び勤務時間外等の時間帯に応じ、伝達が確実に行われるよう留意する。

市は、管轄区域内の地域住民等並びに防災関係機関に対し、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）等を正確かつ広範に伝達するものとし、その経路及び方法は第3章「第2節 情報収集伝達」に準ずる。この場合において、防災行政無線、緊急速報メール等の活用による伝達手段の多重化・多様化に努め、可能な限り短い時間内において正確かつ広範に伝達するよう留意する。

なお、地域住民等に対する南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）等の伝達を行う際には、具体的にとるべき行動をあわせて示すこと等に配慮する。

市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表された場合に注意配備をとるものとし、その体制は第3章「第1節 災害応急活動体制」に準ずる。

市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）等について、状況の変化等に応じて逐次伝達するために必要な措置を講じるとともに地域住民等が正確に理解できる平明な表現を用い、反復継続して行うよう努める。

② 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）等が発表された後の周知

市は、地域住民等に冷静な対応を呼びかけるとともに、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）等の内容、交通に関する情報、ライフラインに関する情報、生活関連情報等地域住民等に密接に関係のある事項について、周知するものとし、その体制及び周知方法は、第3章「第2節 情報収集伝達」に準ずる。

③ 災害応急対策をとるべき期間等

県及び市は、南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界においてM7.0以上M8.0未満又はプレート境界以外や想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲でM7.0以上の地震（太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く。）が発生するケースの場合は1週間、南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界面で通常と異なるゆっくりすべりが観測されたケースの場合はプレート境界面で通常と異なるゆっくりすべりの変化が収まってから、変化していた期間と概ね同程度の期間が経過するまでの期間、本節「2. 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒注）発表時の応急対策」に準じて後発地震に対して注意する措置をとる。

④ 市のとるべき措置

市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）等が発表された場合において、地域住民等に対し、日頃からの地震への備えを再確認する等防災対応をとる旨を呼びかけるものとし、第1章 第1節「1. 防災知識の普及と防災意識の啓発」及び同章 第7節「5. 津波広報、避難訓練」に準じて行う。

市は、施設・設備等の点検等日頃からの地震への備えを再確認する。

4. 地震防災上緊急に整備すべき施設等の整備計画

市及び防災関係機関は、南海トラフ地震が発生した場合の直接的被害を極力軽減し、災害応急対策を的確かつ迅速に実施するため、次の地震防災上緊急に整備すべき施設等について、計画的な整備を推進する。

(1) 避難場所・避難施設、避難経路等の整備

避難所等に指定される公共・公用施設の耐震化を図るとともに、津波に対しては最大クラスの津波にも対応できるよう整備に努める。

(2) 避難誘導及び救助活動のための拠点施設その他の消防用施設

避難誘導や救助活動のための拠点施設、資機材、車両等の整備に努める。

(3) 消防活動が困難である区域の解消に資する道路

市街地において幅員6メートル以上の道路からホースが到達しない区域において、幅員6メートル以上の道路の整備に努める。

(4) 延焼防止上必要な道路、公園、緑地等の整備

住宅密集地における延焼防止上必要な道路、公園、緑地、広場その他公共空地等の整備に努める。

(5) 道路、緊急輸送道路、ヘリポート、港湾施設、漁港施設等

緊急輸送道路、ヘリポート、港湾施設、漁港施設等の輸送機能を確保するため必要な施設の

整備に努める。

緊急輸送道路に指定されている市管理道路については、線形不良や隘路区間などの改善のため、必要に応じてバイパス及び拡幅整備等を推進する。漁港施設については、耐震強化岸壁の整備を推進する。

(6) 共同溝、電線共同溝等

災害時のライフライン機能の維持を図るため、電線、ガス管、水道管、下水管等公益物件を地下に埋設する共同溝等の整備に努める。

(7) 海岸保全施設等

津波被害の発生を防止し、又は軽減することにより円滑な避難を確保するため必要な海岸保全施設等の整備に努める。

(8) 砂防設備、地すべり防止施設、急傾斜地崩壊防止施設等

避難経路、緊急輸送を確保するため必要な道路又は人家の地震防災上必要な砂防設備、地すべり防止施設等の整備に努める。

(9) 医療機関、社会福祉施設、学校等

公的医療機関、休日・夜間診療病院、社会福祉施設、公立学校、その他不特定多数の利用者がある施設の耐震化の促進に努める。

(10) ため池

老朽化、降雨、地震等によりため池が決壊した場合に影響が大きい農業用ため池について、「ため池データベース」を整備し、改修を必要とするものから計画的に改修を行う。また、決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設等が存在し、人的被害を与えるおそれのあるため池について、緊急連絡体制の整備等を推進するとともに、決壊した場合の影響度が大きいため池から、鴨川市防災マップの作成・周知を促進する。

(11) 地域防災拠点施設

災害時の応急対策活動の拠点となる庁舎等の耐震化、防災機能の強化等整備に努める。

(12) 防災行政無線施設

災害時に迅速かつ的確な被害状況の把握及び住民への情報伝達を行うため必要な防災行政無線等の整備に努める。

(13) 備蓄施設等

飲料水、食料等を確保するため必要な備蓄倉庫、自家発電設備等の非常電源の整備に努める。

(14) 救助用資機材等の備蓄倉庫、救護設備等の整備

災害時の応急措置に必要な救助用資機材その他の物資の備蓄倉庫の整備に努める。また、負傷者を一時的に収容、保護するための救護設備、その他応急措置に必要な設備等の整備に努める。

5. 防災訓練計画

市及び防災関係機関は、関係機関及び自主防災組織等と連携強化を目的とし、大規模な地震・津波を想定した防災訓練を年1回以上実施するものとする。

その他、防災訓練の実施内容については、第1章「第1節 地域防災力の向上」及び「第5節 津波災害予防対策」に準ずる。

6. 地震防災上必要な教育及び広報に関する計画

県、市及び防災関係機関は、地震防災上必要な教育及び広報の充実に努める。
なお、南海トラフ地震臨時情報についての防災教育及び広報は、次に掲げる事項とする。

(1) 市及び防災関係機関の職員に対する教育

- ① 南海トラフ地震臨時情報（調査中）、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）及び南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の内容並びにこれらに基づきとられる措置の内容
- ② 南海トラフ地震に伴い発生すると予想される地震動及び津波に関する知識
- ③ 南海トラフ地震臨時情報（調査中）、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）等が出された場合に具体的にとるべき行動に関する知識
- ④ 南海トラフ地震臨時情報（調査中）、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）等が出された場合に職員等が果たすべき役割
- ⑤ 南海トラフ地震防災対策として現在講じられている対策に関する知識
- ⑥ 南海トラフ地震対策として今後取り組む必要のある課題

(2) 地域住民等に対する教育及び広報

- ① 南海トラフ地震臨時情報（調査中）、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）及び南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の内容並びにこれらに基づきとられる措置の内容
- ② 南海トラフ地震に伴い発生すると予想される地震動及び津波に関する知識
- ③ 南海トラフ地震臨時情報（調査中）、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）等が出された場合の出火防止対策、近隣の人々と協力して行う救助活動・避難行動、自動車運転の自粛等、防災上とるべき行動に関する知識

その他、防災教育及び広報の実施については、第1章「第1節 地域防災力の向上」及び第1章「第5節 津波災害予防対策」に準ずる。

7. 南海トラフ地震防災対策計画

県及び市は、南海トラフ地震による津波で30cm以上の浸水が想定され、南海トラフ地震防災対策計画又は南海トラフ地震防災規程（以下「対策計画等」という。）の策定が義務付けられた一定の事業者に対し、対策計画等に基づく訓練、教育、広報等の実施を促進する。

また、対策計画等が未届出の事業者に対しては、必要に応じて届出の勧告等を行うほか、作成義務がない事業者に対しても、自主的に対策計画等に準ずる計画を作成するよう促進する。

第5章 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震対応計画

第1節 計画の目的

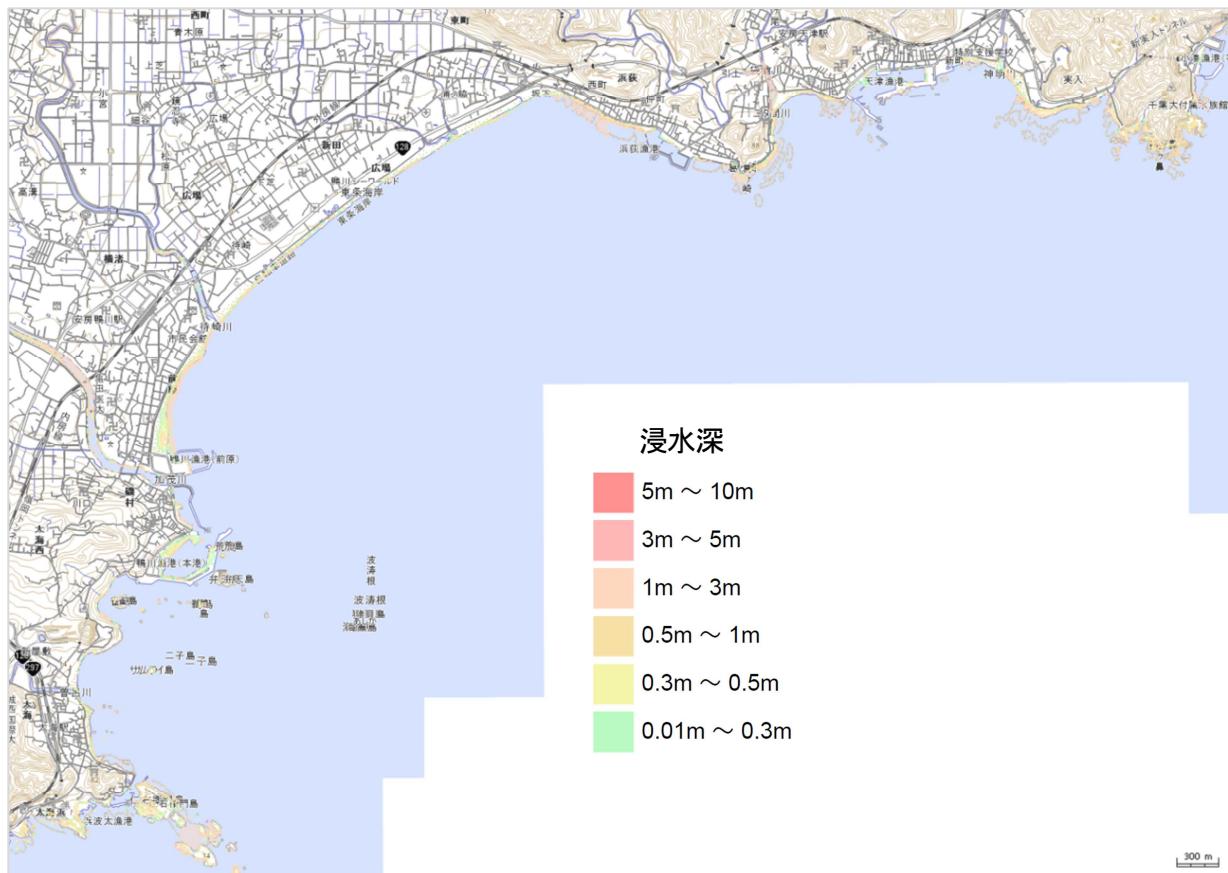
1. 計画の目的

本市は、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法に基づく「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域」に指定されていないが、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震が発生した場合に、津波による浸水が生ずるおそれがある地区がある。

このため、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震への対応事項を定める。

2. 地震・津波の想定

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震が発生した場合、市内の最大震度は3と予測されている。また、地震発生から最短で59分後に津波（高さ1m）が到達し、最大津波高は3m、海岸部や各漁港などが浸水すると予測されている。



日本海溝・千島海溝地震津波浸水想定（ちば情報マップ）

3. 定義

この章において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

(1) 後発地震

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の想定震源域周辺で M_w 7 以上の地震が発生した後に発生する、更に大きな規模の後発の地震をいう。

(2) 北海道・三陸沖後発地震注意情報

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域（「三陸・日高沖」や「十勝・根室沖」の海域）及び想定震源域に影響を与える外側のエリアで、 M_w 7.0 以上の地震が発生した場合に気象庁から発表される情報をいう。

第2節 後発地震への注意を促す情報が発信された場合の対応

項目	実施担当	関係機関
1. 北海道・三陸沖後発地震注意情報の伝達、活動体制等	本部事務局	防災関係機関
2. 後発地震への注意を促す情報等が発表された後の周知	本部事務局	防災関係機関
3. 災害応急対応を取るべき地域及び期間等		
4. 市のとるべき措置	本部事務局	

1. 北海道・三陸沖後発地震注意情報の伝達、活動体制等

- (1) 市は、後発地震への注意を促す情報等を、勤務時間内・外に関わらず、確実に伝達する。その方法は、第2章「第2節 情報収集伝達」に準ずる。
- (2) 市は、住民、防災関係機関等に対し、後発地震への注意を促す情報等を正確かつ広範に伝達する。その方法は、第2章「第2節 情報収集伝達」に準ずる。
その際、多重、多様な手段を活用し、短時間で正確かつ広範に伝達する。また、地域住民等には、とするべき具体的行動をあわせて示す。
- (3) 市は、後発地震への注意を促す情報等が発表された場合に第1配備をとるものとし、その体制は第2章「第1節 災害応急活動体制」に準ずる。
- (4) 市は、後発地震への注意を促す情報について、状況の変化等に応じて必要な情報を逐次伝達する。その際、住民等が正確に理解できる平明な表現を用い、反復継続して行う。

2. 後発地震への注意を促す情報等が発表された後の周知

市は、住民等に冷静な対応を呼びかけるとともに、住民等に密接に関係する事項（後発地震への注意を促す情報等の内容、交通に関する情報、ライフラインに関する情報、生活関連情報等）を周知する。その体制、方法は、第2章「第2節 情報収集伝達」に準ずる。

3. 災害応急対策をとるべき地域及び期間等

鴨川市は、北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表に伴い、北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表に至った地震の発生から1週間※、後発地震に注意する措置をとる。

※対象地震発生から168時間経過した以降の正時までの期間

4. 市のとるべき措置

- 市が、後発地震への注意を促す情報等が発表された場合にとるべき措置は、第4章 第3節 3 (3) 「④ 市のとるべき措置」に準ずる。

第3編 風水害等編

鴨川市地域防災計画

第3編 風水害等編

第1章 災害予防計画.....	1
第1節 水害予防対策.....	1
1. 河川改修等に関する治水事業.....	1
2. 浸水想定区域の調査把握等.....	1
3. 避難確保計画の作成.....	2
4. 道路災害による事故防止.....	2
5. 気象(降水量)、河川流量等の観測.....	2
6. 電力施設洪水対策.....	2
7. 通信施設水害防止対策.....	3
第2節 高潮予防対策.....	4
1. 海岸高潮対策.....	4
2. 海岸防災林造成事業.....	4
3. 高潮に対する自衛体制の確立.....	4
4. 避難確保計画の作成.....	4
第3節 土砂災害予防対策.....	5
1. 土砂災害防止対策.....	5
2. 国土保全事業の推進.....	5
3. 防災知識の普及と防災意識の啓発.....	7
4. 災害に強いまちづくりの推進.....	7
第4節 雪害予防対策.....	8
1. 道路雪害防止対策.....	8
第5節 風害予防対策.....	8
1. 電力施設風害防止対策.....	9
2. 通信施設風害防止対策.....	9
3. 台風・竜巻等に関する知識の普及啓発.....	9
4. 農作物等の風害防止対策.....	10
第6節 防災施設等の整備.....	11
第7節 消防体制の整備.....	12
1. 消防団及び常備消防体制の充実、強化.....	12
2. 消防団員の確保.....	12
3. 消防施設の整備.....	12
4. 消防職員、団員等の教育訓練.....	13
5. 市町村相互の応援体制.....	14
6. 消防思想の普及.....	14
第8節 地域防災力の向上.....	15
1. 防災知識の普及と防災意識の啓発.....	15
2. 広報すべき内容.....	15
3. 教育訓練計画.....	15
4. 自主防災組織の育成、強化.....	15

第9節 要配慮者の安全確保対策	16
第2章 災害応急対策計画	17
第1節 災害応急活動体制	17
1. 初動体制	17
2. 配備体制	17
3. 職員の動員	19
4. 災害警戒本部	19
5. 災害対策本部	19
第2節 情報収集伝達	20
1. 情報連絡体制	20
2. 気象情報等の収集伝達	20
3. 被害情報の収集・調査	22
4. 災害報告	22
第3節 災害広報・広聴活動	23
第4節 災害救助法の適用	24
第5節 広域応援・自衛隊派遣要請	25
第6節 水防	26
1. 水防組織	26
2. 出動準備並びに出動	26
3. 避難のための立退き	26
4. 水防解除	26
5. 協力応援	27
6. 水防体制の強化	27
7. 情報の収集・伝達・報告	27
8. 河川のはん濁・浸水被害等の拡大防止	28
第7節 警備・交通・輸送	29
1. 警備計画	29
2. 交通規制	29
3. 緊急輸送路の確保	29
4. 緊急通行車両の確認	29
5. 緊急輸送の実施	29
第8節 避難対策	30
1. 避難情報の発令	30
2. 警戒区域の設定	34
3. 避難誘導	34
4. 避難所開設	34
5. 避難所の運営	35
6. 避難所設備の整備	35
7. 避難者への支援	35
8. 要配慮者の避難対策	35
9. 広域避難・広域一時滞在	35
10. 避難所の集約及び解消	35
第9節 救助・救急・消防	36
第10節 医療救護	37

第 11 節 防疫・清掃.....	38
第 12 節 食料・飲料水・生活必需品等の供給.....	39
第 13 節 行方不明者の捜索・遺体の処理.....	40
第 14 節 被災住宅対策.....	41
第 15 節 文教対策.....	42
第 16 節 ライフライン施設等の応急・復旧計画.....	43
第 17 節 ボランティア活動への対応.....	44
第 18 節 要配慮者への対応.....	45
第 19 節 孤立対策.....	46
第 20 節 在港船舶対策.....	48
1. 市の対策.....	48
2. 勝浦海上保安署等の対策.....	48
第 3 章 災害復旧・復興計画.....	49

第1章 災害予防計画

第1節 水害予防対策

項目	実施担当	関係機関
1. 河川改修等に関する治水事業	都市建設課	県
2. 浸水想定区域の調査把握等	危機管理課	県
3. 避難確保計画の作成	危機管理課	
4. 道路災害による事故防止	都市建設課、農林水産課	県
5. 気象（降水量）、河川流量等の観測		県、国
6. 電力施設洪水対策		東京電力パワーグリッド（株）
7. 通信施設水害防止対策		通信事業者

1. 河川改修等に関する治水事業

(1) 河川改修の推進

本市の河川は近年河川改修工事が施工されたので降雨による出水被害は減少したが、大雨の際には、河川周辺の道路や住宅、農地が浸水することがある。

都市建設課は、県と連携を図り、河川のはん濫による災害を防止するため、二級河川の改修、護岸等の整備を促進する。

また、市が管理する準用河川や普通河川の改修を実施する。

(2) 下水路の整備

都市建設課は、集中豪雨時の浸水被害の解消を図るため、下水路の整備を進める。

① 都市下水路の整備

集中豪雨時に浸水する地域において、都市下水路の整備を進める。

② 一般排水路の整備

低位市街地における浸水被害の解消を図るため、緊急度に応じて計画的に一般排水路を整備する。

2. 浸水想定区域の調査把握等

(1) 浸水想定区域の把握

危機管理課は、浸水による被害の軽減を図るため、浸水のおそれのある地域の把握に努める。

(2) 避難計画の策定

危機管理課は、浸水想定区域の指定を受け、計画に洪水予報等の伝達方法、避難場所、その他必要な避難計画を決定し記載する。

(3) 浸水想定区域の周知

危機管理課は、水害の危険性を正しく認識してもらうために、鴨川市防災マップや広報紙、インターネット（鴨川市防災マップ（web版）等）により浸水想定区域や避難所等の周知に努める。

3. 避難確保計画の作成

水防法第15条の3の規定に基づき、洪水浸水想定区域内に存在する高齢者、障害者、乳幼児は水防法の規定に基づき、洪水浸水想定区域内に存在する高齢者、障害者、乳幼児等の要配慮者が利用する施設の所有者又は管理者は、洪水時における当該要配慮者利用施設の利用者の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な訓練、その他の措置に関する避難確保計画を作成し、市への報告及び計画に基づく訓練を行う。また、自衛水防組織の設置に努める。

危機管理課は、避難確保計画の作成を促進し、計画の実効性を高めるため、計画の作成や見直しの技術的支援等を行う。なお、水防法の規定により避難確保計画の作成及び訓練等を義務づける要配慮者利用施設は、資料編に示す。

4. 道路災害による事故防止

(1) 緊急時における措置

都市建設課及び県は、災害が発生した場合には、通行の危険を防止するため、できるかぎりの応急措置を講ずる。

(2) 異常気象時における交通規制

都市建設課、農林水産課及び県は、異常気象時において、道路災害による事故を未然に防止するため、降雨出水等により道路状態が悪く、がけ崩れ、道路損壊等が予想され交通の安全が確保できない場合は、道路法第46条の規定により通行の禁止又は制限を行い、また、雨量が規制基準値に達したときは、「異常気象時における道路通行規制要領」に基づく交通止めの措置をとる。

5. 気象（降水量）、河川流量等の観測

集中豪雨時には、降り始めてから短時間で大きな災害が発生する場合がある。

県及び国は、雨量観測装置の設置や警戒巡視等により累積雨量、時間雨量等の雨量情報、河川水位等の水防情報等を的確に把握できる監視体制の整備を図る。

6. 電力施設洪水対策

東京電力パワーグリッド（株）は、次のとおりの洪水対策を実施する。なお、これは洪水によりひきおこされる浸水に対するもので、堤防決壊などによる水の流勢については、特に配慮されていない。

(1) 災害予防計画目標

各河川の流域を特定区域とし、浸水災害を想定する。特定区域外も四隅の状況から浸水災害を想定する。

(2) 防災施設の対策

① 送電設備

高潮対策に準じる。

② 變電設備

既往の浸水実績を考慮して浸水に対処する。

③ 配電設備

高潮対策に準じる。

④ 通信設備

高潮対策に準じる。

(3) 防災事業計画

全般計画、実施計画とも、上記(2)に準じ実施するよう努める。

7. 通信施設水害防止対策

通信事業者は、次のとおりの洪水対策を実施する。

(1) 局外設備

過去の発生地域の調査検討により、重複災害の発生を防ぐため、設備の2ルート化及び地下化を推進する。

(2) 局舎設備

洪水による局舎及び局内通信設備の浸水被害予防のため、局舎浸水防止措置を計画的に実施する。

(3) 無線設備

鉄塔等の基礎を流水の洗堀から防護する措置を講ずるとともに、通信機の設置場所もできるだけ2階以上にするよう配慮する。

また、停電に対処するため、予備電源装置の設備及び整備を図る。

第2節 高潮予防対策

項目	実施担当	関係機関
1. 海岸高潮対策		県
2. 海岸防災林造成事業		県
3. 高潮に対する自衛体制の確立	危機管理課	
4. 避難確保計画の作成	危機管理課	

1. 海岸高潮対策

県は、「千葉東沿岸海岸保全基本計画」に基づいて、地域住民や利用者との合意形成を図りながら、海岸保全施設（防潮堤、護岸、離岸堤等）の整備を実施する。

2. 海岸防災林造成事業

県は、森林によって高潮災害を防止するとともに、津波等の被害を軽減するため、海岸防災林造成事業を実施する。

3. 高潮に対する自衛体制の確立

危機管理課は、高潮の情報に対して住民が自主的に避難する体制を、津波に対する自主避難体制づくりに準じて構築する。

4. 避難確保計画の作成

高潮浸水想定区域に存在する要配慮者利用施設について、本章 第1節「3. 避難確保計画の作成」に準ずる対策を行う。

第3節 土砂災害予防対策

項目	実施担当	関係機関
1. 土砂災害防止対策	危機管理課、都市建設課	県
2. 国土保全事業の推進	都市建設課、農林水産課	県
3. 防災知識の普及と防災意識の啓発	危機管理課	県
4. 災害に強いまちづくりの推進	都市建設課	

1. 土砂災害防止対策

(1) 土砂災害警戒区域等の指定

県は、土砂災害警戒区域等及び土砂災害が発生する区域を明らかにし、土砂災害区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律（平成12年法律第57号。以下「土砂災害防止法」という。）に基づき、市長からの意見を聞いた上で「土砂災害警戒区域」、「土砂災害特別警戒区域」を指定する。

(2) 土砂災害警戒区域・特別警戒区域等の周知等

危機管理課は、土砂災害警戒区域、特別警戒区域に指定された区域について、これらの事項を記載した印刷物の配布、インターネットの利用（鴨川市防災マップ（web版）等）などによって、住民への周知を行い、円滑な警戒避難の確保を図る。

(3) 警戒避難体制の整備

危機管理課は、土砂災害の発生に対し、警戒避難体制の整備を図る。

- ① 土砂災害警戒区域については、速やかに警戒避難体制を検討し、住民への周知を図る。
- ② 土砂災害警戒区域周辺地域の実情に即した警戒、避難誘導、救護の方法を本計画に明確化し、住民への周知徹底を図る。
- ③ 個々の土砂災害警戒区域について、地域の実情に応じた避難場所及び避難路の確保、整備を図る。
- ④ 災害時における指揮命令伝達体制、情報収集伝達体制、及び職員の動員配備体制等の点検整備を図る。
- ⑤ 自主防災組織の育成に努め、その組織を通じて災害に関する予警報や避難情報の伝達、地区の情報収集等の防災活動を行う。
- ⑥ 土砂災害警戒区域にかかる要配慮者利用施設で、土砂災害から利用者の円滑な避難確保を図る必要がある施設については、土砂災害に関する警報、避難情報等の伝達方法を定めるとともに、要配慮者の避難支援体制の確立に努める。また、要配慮者利用施設の管理者等に対し、避難確保計画の作成や避難訓練の実施状況等について、定期的に確認するよう努める。なお、土砂災害防止法の規定により避難確保計画の作成及び訓練等を義務づける要配慮者利用施設は、資料編に示す。

2. 国土保全事業の推進

土砂災害は、地形・地質等を素因とし、大雨や地震による揺れ等を誘因として発生するもので、その防止については、科学的調査により地形・気象・地下構造・地下水の状況等を十分把握し地

すべり等の発生のメカニズムを解明して効果的な防止工事を進める必要がある。

(1) 急傾斜地崩壊対策

① 急傾斜地崩壊危険区域の指定

県は、市と協議のうえ急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律（昭和44年法律第57号。以下「急傾斜地法」という。）第3条の規定により、急傾斜地崩壊危険区域を指定する。

② 行為の制限

都市建設課は、県と協力して急傾斜地における災害を防止するため、急傾斜地法に基づき崩壊を助長するような行為の制限、防災措置の勧告及び改善措置の命令等を行う。

また、急傾斜地崩壊危険区域内の居住用建物については、建築基準法及び千葉県建築基準法施行条例に基づく災害危険区域の指定により、建築物の建築制限の徹底を図る。

③ 防止工事の実施

都市建設課は、県と協力して急傾斜地崩壊危険区域内において、土地所有者、管理者及び被害を受けるおそれのある者等が防止工事を施行することが困難又は不適当と認められ、かつ、急傾斜地法に基づく工事採択基準に適合するもののうち、緊急度が高く、地域住民の協力が得られるものから防止工事を実施する。

(2) 地すべり災害防止対策

本市における地すべり防止区域等は、嶺岡山系を中心とした東南東から西北西の方向に走る破碎帯に沿ってみられる。

都市建設課及び農林水産課は、県と協力して地すべり等防止法（昭和33年法律第30号）等に基づき指定されている区域について、地すべり等による災害の防止に努める。

① 地すべり防止区域等の指定

地すべり等防止法第3条の規定により、主務大臣が県知事の意見をきいて地すべり防止区域を指定する。

② 行為の制限

地すべりによる災害を防止するため、地すべり等防止法第18条の規定により、県は地すべり防止区域内において、地すべりの防止を阻害し、又は、地すべりを助長し、若しくは誘発する行為等の制限を行う。

③ 防止工事の実施

市は、県の地すべり防止工事に関する基本計画の作成に協力し、県は、緊急度の高い区域から順次防止工事を実施する。

(3) 土石流対策

都市建設課は、県と協力して、土石流が発生するおそれのある区域について、土石流の発生を助長するような行為を制限するため、砂防法（明治30年法律第29号）第2条に基づく砂防指定を促進し、県は、土石流が発生するおそれの高い箇所から防止工事を実施する。

(4) 山地災害対策

山地災害危険地区とは、山腹の崩壊、崩壊土砂の流出及び地すべりによる災害が現に発生し、又は発生する危険のある箇所で、人家又は、公共施設に被害を及ぼすおそれのある地区をいい、県は「山地災害危険地区調査要領」により、山腹崩壊危険地区、地すべり危険地区、崩壊土砂流出危険地区の調査を実施している。

これらの地域では、降雨等により崩壊の可能性が高いことから、農林水産課は、県と協議しながら計画的に治山事業の実施を図る。

(5) 宅地造成災害対策

県は、大規模盛土造成地の崩壊等を防止するため必要に応じて宅地造成及び特定盛土等規制法に基づく宅地造成工事規制区域や造成宅地防災区域を指定し、災害防止措置を推進する。

都市建設課は、大規模盛土造成地マップを周知し、大規模盛土の危険性や災害対策を啓発する。

(6) 盛土の崩落を防ぐ安全対策

都市建設課は県と連携し、盛土による災害防止に向けた総点検等を踏まえ、危険が確認された盛土について、関係法令に基づく監督処分、撤去命令等の必要な防災措置を行う。

危機管理課は、防災措置が完了するまでの間の避難情報の発令基準等の暫定措置が必要な場合、県に対して適切な助言や支援を求める。

(7) 土・石・砂利採取場災害対策

県は、土・石・砂利採取場における災害の発生を未然に防止するため、千葉県土採取条例・採石法（昭和25年法律第291号）・砂利採取法（昭和43年法律第74号）に基づく許可に際しては、周辺地域の状況等に十分留意する。

また、一旦廃止された採取場は、土・石・砂利の採取法令の適用外となることから、廃止に際しては、各採取業種及び関係組合に対し、指導の徹底を図ることとする。

(8) ため池等災害対策

老朽化により、降雨、地震等により災害の発生するおそれのある農業用ため池について、農林水産課は、施設の管理者に対し計画的に改修を行うよう指導する。

また、県が作成する「ため池データベース」を活用し、改修を必要とするものから計画的に改修を行うものとする。

さらに、決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設等が存在し、人的被害を与えるおそれのあるため池について、緊急連絡体制の整備等を推進するとともに、決壊した場合の影響度が大きいため池から鴨川市防災マップの作成・周知を促進する。

3. 防災知識の普及と防災意識の啓発

危機管理課及び県は、住民に対し鴨川市防災マップ、広報紙、パンフレット、インターネット（鴨川市防災マップ（web版）等）等多様な手段により、土砂災害に関する知識の普及と防災意識の啓発を図る。

また、全国的に実施される土砂災害防止月間等において、災害発生時における応急対策の迅速・円滑化を図るため、各種防災訓練の実施に努める。

なお、県では土砂災害危険箇所をインターネットで公表している。

4. 災害に強いまちづくりの推進

都市建設課は、立地適正化計画による都市のコンパクト化及び防災まちづくりの推進にあたっては、災害リスクを十分考慮の上、居住誘導区域を設定するとともに、同計画にハード・ソフト両面からの防災対策・安全確保対策を定める防災指針を位置付ける。

また、土砂災害の発生のおそれのある土地の区域について、土砂災害に対するリスクの評価を踏まえ、都市的土地区画整理事業を誘導しないものとし、必要に応じて、移転等も促進するなど、土砂災害等に強い土地利用の推進に努める。

第4節 雪害予防対策

項目	実施担当	関係機関
1. 道路雪害防止対策	都市建設課、農林水産課	県

1. 道路雪害防止対策

都市建設課、農林水産課及び県は、降雪や氷結が予想される場合には市管理道路に砂や融雪剤等を散布しスリップによる交通事故や転倒を防止する。

また、積雪の状況に応じ、都市建設課、農林水産課、県及び防災機関はグレーダー、ショベル類、ブルドーザー等機械による除雪と人力による除雪により、道路の雪害防止を図る。

第5節 風害予防対策

項目	実施担当	関係機関
1. 電力施設風害防止対策		東京電力パワーグリッド(株)
2. 通信施設風害防止対策		通信事業者
3. 台風・竜巻等に関する知識の普及啓発	危機管理課	
4. 農作物等の風害防止対策	農林水産課	安房農業事務所、安房農業協同組合

1. 電力施設風害防止対策

東京電力パワーグリッド(株)は、次のとおりの風害防止対策を実施する。

(1) 強風対策

送電、配電、通信の各設備に対する風圧荷重は、電気設備技術基準の各該当項目により対策を実施する。

(2) 塩害対策

がいし増結又は耐塩がいし使用による絶縁強化を主体とする対策を、汚損区分に応じ実施している。また、塩汚損の測定・がいし洗浄など設備状況に応じて対応を実施する。

2. 通信施設風害防止対策

通信事業者は、次のとおりの風害対策を実施する。

(1) 強風対策

- ① 局外設備：設備の2ルート化を推進する。
- ② 局内設備：風害等の停電による通信機器電源の確保対策を計画的に推進する。
- ③ 空中線：無線のアンテナ支持物に対する強度は、電気設備技術基準又は鋼構造物設計基準によっている。

(2) 塩害対策

本市は、塩害を被り易い地勢にあるので、海岸線付近に設置する空中線は、塩害防止対策を施している。

3. 台風・竜巻等に関する知識の普及啓発

危機管理課は、台風・竜巻等による風害を最小限にとどめるため、住民や事業者等に対して、以下の普及啓発を図る。

(1) 気象情報の確認

気象庁が発表する警報や注意報、気象情報などの防災気象情報については、平時から、テレビ・ラジオ等により確認することを心掛けるよう啓発する。

なお、竜巻などの激しい突風に関する気象情報には、事前に注意を呼びかける「予告的な気象情報」と「雷注意報」、竜巻等の激しい突風が発生しやすい気象状況になった時点の「竜巻注意情報」があることに留意する。

(2) 身を守るための知識

台風から身を守るために、正確な気象情報を収集し、早めに安全な場所に避難すること。また、避難する時間が少ない竜巻等から身を守るために、頑丈な建物内に移動するなど、安全確保に努めるなどを普及する。

4. 農作物等の風害防止対策

農林水産課、安房農業事務所、安房農業協同組合等は、農作物の風害防止について防風林・防風垣・砂防林・多目的防災網の設置等を指導し、被害の軽減を図る。また、降雹等の被害についても指導する。

第6節 防災施設等の整備

※地震・津波災害編 第1章「第4節 防災施設等の整備」参照

第7節 消防体制の整備

項目	実施担当	関係機関
1. 消防団及び常備消防体制の充実、強化	危機管理課	安房都市広域市町村圏事務組合消防本部
2. 消防団員の確保	危機管理課	
3. 消防施設の整備		安房都市広域市町村圏事務組合消防本部
4. 消防職員、団員等の教育訓練		安房都市広域市町村圏事務組合消防本部
5. 市町村相互の応援体制		安房都市広域市町村圏事務組合消防本部
6. 消防思想の普及		安房都市広域市町村圏事務組合消防本部

各種災害の発生に対処するため、消防体制の整備と消防施設の整備拡充、消防職員及び団員の教育訓練、消防思想の普及及び市町村相互間の応援体制等の推進を図る。

1. 消防団及び常備消防体制の充実、強化

本市には、消防団4支団25分団が組織されている。また、安房都市全市町で組織している安房都市広域市町村圏事務組合に常備消防(消防本部・署)が設置されており、市には、鴨川消防署と天津小湊分遣所及び長狭分遣所が設置されている。

危機管理課及び安房都市広域市町村圏事務組合消防本部は、それぞれ、消防団及び常備消防体制の充実・強化を推進する。

2. 消防団員の確保

危機管理課は、以下の事項に留意しながら、消防団員の確保に努める。

- ① 消防団に関する住民意識の高揚
- ② 処遇の改善
- ③ 消防団の施設・設備の改善
- ④ 女性消防団員の積極的確保、能力活用等
- ⑤ 機能別消防団員・分団の採用推進

3. 消防施設の整備

安房都市広域市町村圏事務組合消防本部は、県が交付している「消防防災施設強化事業補助金」を利用し、消防施設の整備を進める。

(1) 消防施設の現況の把握

安房都市広域市町村圏事務組合消防本部は、消防施設の現況を把握する。

(2) 消防施設の整備

① 消防ポンプ車等

国の示す「消防力の整備指針」に応じて県との協議のうえ、年次計画に基づき整備する。

安房都市広域市町村圏事務組合消防本部は必要に応じ、国及び県から助成を受けて整備促進を図る。

② 消防水利

国の示す「消防水利の基準」を満すため、県との協議のうえ、年次計画に基づいて、耐震性防火水槽(100 m³)及び防火水槽(40 m³)等を危険度の高い地域を優先に整備する。また、消防水利の多様化についても整備を図る。

③ 河川への消火用水確保施設の整備

都市における河川空間は、火災の延焼遮断帯としての防災機能のほか、消火用水や災害の緊急的な生活用水の供給源としての防災機能を併せ持っている。

また、洪水調整を目的として調整池等消火用配水池としての活用等を含めて、消火用水の確保等が必要な河川等の調査を実施し、対策を進める。

④ 救助資機材

阪神・淡路大震災及び地下鉄サリン事件等の災害への対応力強化を図るために下記について整備する。

ア. ファイバースコープ等災害に有用と考えられる資機材

イ. 防毒服等、消防隊員を保護する資機材

ウ. その他救助資機材

⑤ その他の消防設備

県の指導及び支援をうけ、年次計画に基づき整備する。

4. 消防職員、団員等の教育訓練

安房都市広域市町村圏事務組合消防本部職員及び消防団員等は、消防大学校及び県消防学校において、概ね次のとおり教育訓練を受ける。

(1) 消防大学校での教育訓練

幹部として必要な教育訓練を行う。

(2) 消防庁で示す「消防学校の教育訓練の基準」による県消防学校での教育訓練

① 消防職員

ア. 初任教育

イ. 専科教育（救助、救急等の各科、課程）

ウ. 幹部教育（中級幹部科）

エ. 特別教育（訓練指導科、はしご自動車等講習会、水難救助科、高度救助科、女性活躍推進研修、航空特別応援研修）

② 消防団員

ア. 基礎教育（新任科）

イ. 専科教育（警防科）

ウ. 幹部教育（指揮幹部科現場指揮課程、指揮幹部科分団指揮課程）

エ. 特別教育（訓練指導科、女性消防団員科、小型無人航空機（ドローン）基礎研修、オフロードバイク研修、一日入校及び現地教育）

③ 自衛消防隊

企業等の自衛消防隊員に対し、要請により教育訓練を実施する。

④ 災害救援ボランティア

災害時に災害救援活動を行うボランティアに必要な消防分野に係る知識・技能の習得について、講師の派遣等の協力を行う。

5. 市町村相互の応援体制

安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部は、消防組織法（昭和22年法律第226号）第39条の規定により、千葉県広域消防相互応援協定が締結されているので、運営の推進を図るとともに、市においては、相互の連絡調整を密にして各種災害に対応する。

また、平成8年度に県で策定した「千葉県消防広域応援基本計画」に基づいた迅速かつ的確な広域応援が実施できるようにする。

6. 消防思想の普及

安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部は、各種の行事を行い、消防思想の普及徹底を図る。

① 春秋2回の火災予防運動を実施する。（各1週間）

② 県消防大会及び全国消防操法大会千葉県代表選考会等を通じて、消防職員・団員の士気の高揚を図る。

③ 各種講習会等を開催する。

④ 下記関係団体と協力して、消防思想の普及及び火災予防の徹底を図る。

公益財団法人千葉県消防協会

一般社団法人千葉県危険物安全協会連合会

一般社団法人千葉県消防設備協会

第8節 地域防災力の向上

項目	実施担当	関係機関
1. 防災知識の普及と防災意識の啓発	危機管理課	県、関係機関
2. 広報すべき内容	危機管理課	県、関係機関
3. 教育訓練計画	各課、学校教育課	県、関係機関
4. 自主防災組織の育成、強化	危機管理課、商工観光課	安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部、社会福祉協議会、県、施設管理者、事業所

1. 防災知識の普及と防災意識の啓発

※地震・津波災害編 第1章「第1節 地域防災力の向上」参照

2. 広報すべき内容

普及・啓発すべき防災広報の事項は、概ね次のとおりである。

(1) 市地域防災計画の概要

災害対策基本法第42条に基づく「鴨川市地域防災計画」の要旨の公表は、鴨川市防災会議が鴨川市地域防災計画を作成し、又は修正したときに、その概要について行う。

(2) 災害予防の知識

平常時から市民、事業所等が自らの身を守るための知識、自主防災組織等の地域防災力向上のための知識、その他一般的な災害に関する知識を広報する。

特に、防火あるいは台風時における家屋の保全方法等の災害防止対策について、それぞれ予想される災害シーズン前に各世帯へ周知徹底するように努める。

(3) 災害時の心得

災害が発生し、又は発生のおそれがあるときにおいて、適切な行動がとれるようあらかじめ承知しておくべき事項を広報する。

特に、避難指示等の発令基準に活用する防災気象情報や5段階の警戒レベル等の関係性の意味と内容及び地域の水害・土砂災害リスクや災害時にとるべき行動について説明する。

3. 教育訓練計画

※地震・津波災害編 第1章「第1節 地域防災力の向上」参照

4. 自主防災組織の育成、強化

※地震・津波災害編 第1章「第1節 地域防災力の向上」参照

第9節 要配慮者の安全確保対策

※地震・津波災害編 第1章「第6節 要配慮者の安全確保対策」参照

第2章 災害応急対策計画

第1節 災害応急活動体制

災害が発生した場合、人命損傷にとどまらず、家屋の倒壊、火災やがけ崩れの発生、道路・橋梁の破損、さらに生活関連施設の機能障害などの発生が予想される。

このような被害の拡大を防止し、被災者の救援救護に全力を挙げて対処するため、市、県及び各防災関係機関は、それぞれの計画に基づき迅速かつ的確な活動体制のもと災害応急対策に万全を期する。

その際、全職員は、以下のプロアクティブ原則を基本理念とし、危機意識を共有して、行動するものとする。

- ・疑わしいときは行動せよ
- ・最悪事態を想定して行動せよ
- ・空振りは許されるが見逃しは許されない

1. 初動体制

市は、気象注意報、警報等に対応して、情報連絡体制、災害警戒本部を設置する。

2. 配備体制

(1) 配備基準

災害が発生した場合又は発生するおそれのある場合、状況に応じて次の配備基準により、災害警戒及び応急対策にあたる。

なお、実際の職員の収集状況や対応の必要性などの判断をしながら、柔軟に対応する。

■配備体制（風水害）

配備段階	配備基準	配備を要する部署
連絡体制 第1配備	<ol style="list-style-type: none">1. 市に次の注意報のうち何れかが発表されたとき（自動配備） ① 大雨注意報 ② 高潮注意報 ③ 洪水注意報2. 水防法により「待機」又は「準備」の警告が発表されたとき3. 民間の気象情報・河川情報により、市域に気象災害のおそれがあるとき4. その他危機管理課長が必要と認めたとき	・危機管理課

第3編 風水害等編 第2章 災害応急対策計画
第1節 災害応急活動体制

配備段階		配備基準	配備を要する部署
災害警戒本部 (災害即応体制)	第2配備	1. 市に次の警報のうち何れかが発表されたとき（自動配備） ① 大雨警報 ② 高潮警報 ③ 洪水警報 ④ 暴風警報（陸上のみ） 2. 深夜から明け方に前記の警報の発表が予想されるとき 3. 水防法による「出動」及び「警戒」の警告が発表されたとき 4. 比較的軽微な規模の災害、若しくは局地的な災害が発生したとき、又は大きな被害の発生が予想されるとき 5. 市に土砂災害警戒情報又は氾濫危険情報、若しくは「特別警報に至る可能性への言及」に係る気象情報が発表されたとき、又は、深夜から明け方に前記の情報の発表が予想されるとき 6. その他副市長（本部長）が必要と認めたとき	• 危機管理課 • 総務課長 • 市民生活課長 • 天津小湊支所長 • 健康推進課長 • 福祉課長 • 子ども支援課長 • 農林水産課長 • 都市建設課長 • 学校教育課長 • 生涯学習課長 • 状況に応じ、各所属職員を登庁させる
災害対策本部	第3配備	1. 市民の生命・身体に危害を及ぼす局地的災害が発生したとき 2. 記録的短時間大雨情報、土壤雨量指数の情報が発表されたとき 3. 市に次の特別警報のうち何れかが発表されたとき ① 大雨 ② 暴風 ③ 高潮 ④ 波浪 4. 市域の広範囲にわたる災害が発生すると予測されたとき 5. 小型～中型台風が鴨川市に影響を及ぼすおそれがあるとき 6. 以下に該当する場合で、総合的な対策を講ずるため、市長（本部長）が必要と認めたとき ① 大規模停電・断水等が発生し、回復までに長期間を有すると見込まれるとき ② 本市の全域又は一部が台風の暴風域に入ることが確実と予測されるとき 7. その他市長（本部長）が必要と認めたとき	• 全所属の班長及び副班長 • 消防団長 • 状況に応じ、各所属班員を登庁させる（概ね所属職員の3分の1）
	第4配備	1. 第3配備体制では対処できない規模に災害が拡大するおそれがあるとき 2. 市域の広範囲にわたって災害が発生する事態が切迫しているとき 3. 中型～大型台風が鴨川市に影響を及ぼすおそれがあるとき 4. その他市長（本部長）が必要と認めたとき	• 第3配備に加え、状況に応じ、各所属班員を登庁させる（概ね所属職員の3分の2）
	第5配備	1. 市全域に甚大な災害が発生したときで、第4配備体制では対処できないとき 2. 市全域に甚大な災害が発生する事態が切迫しているとき 3. 大型台風が鴨川市を通過するおそれがあるとき 4. その他市長（本部長）が必要と認めたとき	全職員

(2) 配備の決定

危機管理課長は、災害情報を収集し災害情報及び必要な対策を市長又は副市長に報告する。
市長又は副市長は、報告に基づいて配備体制及び本部の設置を決定し、動員を指示する。

3. 職員の動員

※地震・津波災害編 第2章「第1節 災害応急活動体制」参照

4. 災害警戒本部

※地震・津波災害編 第2章「第1節 災害応急活動体制」参照

5. 災害対策本部

※地震・津波災害編 第2章「第1節 災害応急活動体制」参照

第2節 情報収集伝達

項目	実施担当	関係機関
1. 情報連絡体制	本部事務局	
2. 気象情報等の収集伝達	本部事務局	県、銚子地方気象台
3. 被害情報の収集・調査	各班	鴨川警察署、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部
4. 災害報告	本部事務局	県

1. 情報連絡体制

※地震・津波災害編 第2章「第2節 情報収集伝達」参照

2. 気象情報等の収集伝達

(1) 気象情報

銚子地方気象台は、次の気象情報を発表する。本市が属する予報区は、南部（一次細分区域名）、夷隅・安房（二次細分予報区）である。

■気象注意報・警報等の種類

注 意 報	気象注意報	風雪注意報、強風注意報、大雨注意報、大雪注意報、濃霧注意報、雷注意報、乾燥注意報、着氷・着雪注意報、霜注意報、低温注意報
	高潮注意報・波浪注意報・洪水注意報	高潮注意報・波浪注意報・洪水注意報
警 報	浸水注意報（浸水に関する注意事項を気象注意報の中に含めて述べる）	浸水注意報（浸水に関する注意事項を気象注意報の中に含めて述べる）
	地面現象注意報（地面現象に関する注意事項を気象注意報の中に含めて述べる）	地面現象注意報（地面現象に関する注意事項を気象注意報の中に含めて述べる）
特別警報	気象警報	暴風警報・暴風雪警報・大雨警報・大雪警報、土砂崩れ
	高潮警報・波浪警報・洪水警報	高潮警報・波浪警報・洪水警報
記録的短時間大雨情報	浸水警報（浸水に関する警戒事項を気象警報の中に含めて述べる）	浸水警報（浸水に関する警戒事項を気象警報の中に含めて述べる）
	地面現象警報（地面現象に関する警戒事項を気象警報の中に含めて述べる）	地面現象警報（地面現象に関する警戒事項を気象警報の中に含めて述べる）
線状降水帯に関する各種情報	大雨、暴風、高潮、波浪、暴風雪、大雪（数十年に一度の現象）、土砂崩れ	大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で実際に降り続いている場合、「線状降水帯」というキーワードを用いて、顕著な大雨に関する気象情報を発表。
竜巻注意情報	1時間雨量で100mmを超す降水が観測された場合	積乱雲の下で発生する竜巻、ダウンバースト等による激しい突風に対して注意を呼びかける

※ 土砂崩れ注意報及び浸水注意報はその注意報事項を気象注意報に、土砂崩れ警報はその警報事項を気象警報に、土砂崩れ特別警報はその警報事項を気象特別警報に、浸水警報はその警報事項を気象警報又は気象特別警報に、それぞれ含めて行われる。

土砂崩れ特別警報は、「大雨特別警報（土砂災害）」として発表される。浸水警報の警報事

項を含めて行われる気象特別警報は、「大雨特別警報（浸水害）」として発表される。

(2) 火災気象通報

銚子地方気象台は、消防法に基づき、次のような気象状況のとき、知事に対し火災気象通報の発表及び終了の通報を行う。市長（本部長）は、知事から、この通報を受けたとき、又は気象の状況から火災の予防上危険であると認めたときは、火災警報を発令することができる。

なお、林野火災気象通報は、火災気象通報の一部として行い、火災気象通報の発表及び終了の通報をもって行う。

■火災気象通報の基準

- 実効湿度が60%以下で最小湿度30%以下になる見込みのとき。
 - 平均風速15メートル以上の風が吹く見込みのとき。
ただし、降雨（雪）を伴うときは、火災気象通報を行わない事がある。
- （注）基準値は気象官署の値（但し、銚子地方気象台は15メートル以上）

(3) 火災警報

市長（本部長）は、次の場合に市民に対して火災の警戒を喚起するために火災警報を発令することができる。

■火災警報の基準

- 消防法の規定により知事から火災気象通報を受けたとき。
- 気象の状況が火災の予防上危険であると認めたとき。

(4) 水防警報

知事は、銚子地方気象台の気象情報等から洪水のおそれがあると認めたときは、水防警報を発令し、水防管理者に通知する。

水防管理者は、水防警報の通知を受けたときは、消防団に待機又は出動の措置をとらせる。

(5) 水位周知

県から水位周知河川である加茂川の特別警戒水位到達情報等が市に通知された場合、市は避難情報の発令を判断し（第8節「1. 避難情報の発令」参照）、洪水浸水想定区域の住民及び要配慮者利用施設の管理者等にその旨を伝達する。

(6) 土砂災害警戒情報

県及び銚子地方気象台は、市町村を単位として次の基準により土砂災害警戒情報を共同発表する。県はホームページ等を利用して、災害発生の危険度や雨量予測等の詳細情報を提供する。

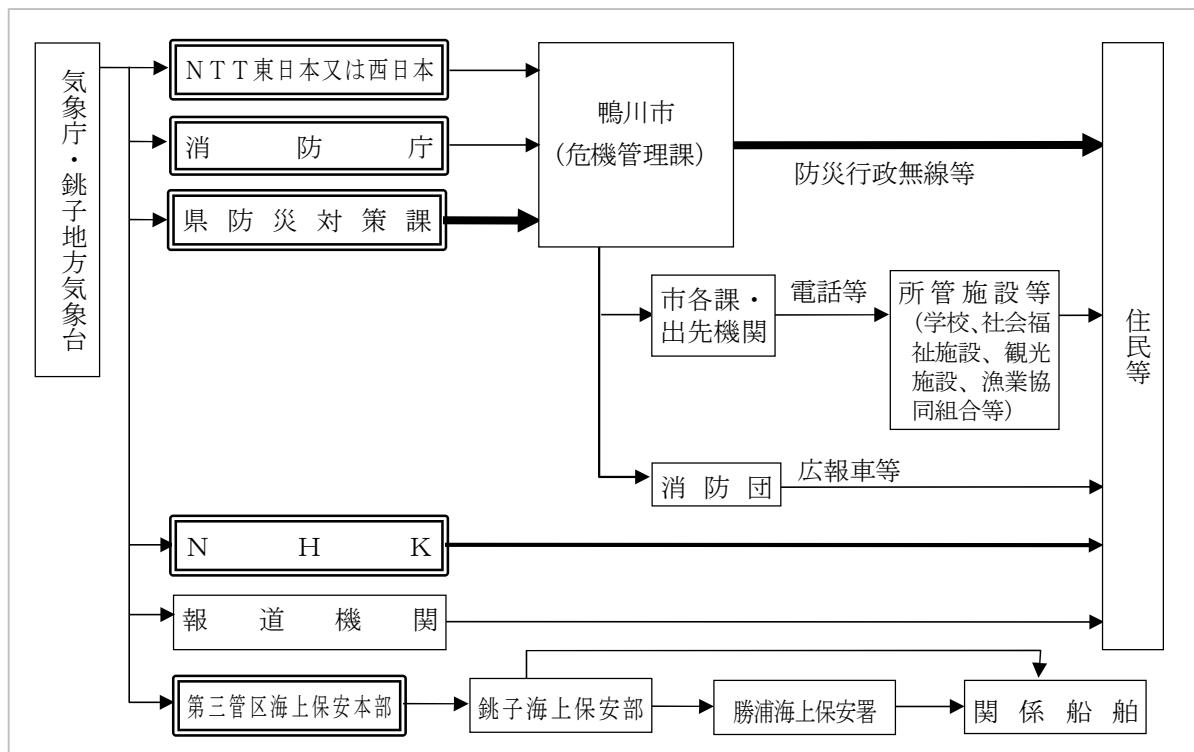
なお、土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生の危険度を降雨に基づいて判定し、発表されるもので、個別の災害発生箇所、時間、規模などを詳細に特定するものではないことに留意する。

また、発表は土石流や集中的に発生する急傾斜地の崩壊とし、斜面の深層崩壊、山体の崩壊、地すべり等については、発表の対象とされないことに留意する。

(7) 特別警報・警報・注意報等の伝達系統

特別警報・警報及び注意報等の伝達系統は図の通りである。

■特別警報・警報・注意報等の伝達系統図



- (注) 1 二重枠で囲まれている機関は気象業務法施行令第8条第1号並びに第3号並びに第9条の規定に基づく法定伝達先。
 2 太線矢印の経路は、気象業務法第15条の2によって、特別警報の通知もしくは周知の措置が義務づけられている伝達経路。
 3 銚子地方気象台から千葉県庁への伝達は、「気象情報伝送処理システム(アデス)」等により行う。
 4 障害等により上記3の通信経路が途絶した場合には、代替経路として、千葉県防災行政無線及びNTT公衆回線等で行う。

3. 被害情報の収集・調査

※地震・津波災害編 第2章「第2節 情報収集伝達」参照

4. 災害報告

※地震・津波災害編 第2章「第2節 情報収集伝達」参照

第3節 災害広報・広聴活動

※地震・津波災害編 第2章「第3節 災害広報・広聴活動」参照

第4節 災害救助法の適用

※地震・津波災害編 第2章「第4節 災害救助法の適用」参照

第5節 広域応援・自衛隊派遣要請

※地震・津波災害編 第2章「第5節 広域応援・自衛隊派遣要請」参照

第6節 水防

項目	実施担当	関係機関
1. 水防組織	消防対策班	
2. 出動準備並びに出動	消防対策班	
3. 避難のための立退き	消防対策班	県
4. 水防解除	消防対策班	県
5. 協力応援	消防対策班	県
6. 水防体制の強化	消防対策班	県
7. 情報の収集・伝達・報告	消防対策班	県
8. 河川のはん濫・浸水被害等の拡大防止	消防対策班	県

1. 水防組織

市長（本部長）は、水防に関する予報、注意報及び警報等により水害が発生するおそれがあると認められたとき、又は現に水害が発生したときは、県水防計画を準用し、市災害対策本部事務分掌等に準じて処理する。ただし、市災害対策本部が設置されたときは、その組織に統合される。

2. 出動準備並びに出動

水防警報が発せられたとき、水位が知事及び市長（本部長）が定めるはん濫注意水位（警戒水位）に達したとき、その他水防上必要があると認められるときは、県及び市の水防計画で定めるところにより、消防団を出動させ、又は出動の準備をさせる。

(1) 出動準備

水防管理者（市長）は次の場合、消防団に対し出動準備をさせる。

- ① 河川の水位が通報水位に達し、なお上昇のおそれがあり、かつ出動の必要が予測されるとき。
- ② 気象状況等により、高潮の危険が予想されるとき。
- ③ 水防警報により、待機又は準備の指令が発令されたとき。
- ④ 上記以外で、水防管理者（市長）が、水防上必要があると認めたとき。

(2) 出動

水防管理者（市長）は、次の場合、直ちに消防団をあらかじめ定められた計画に基づき出動させ、警戒配置につかせる。

- ① 河川の水位がはん濫注意水位（警戒水位）に達したとき。
- ② 潮位が上昇し、被害のおそれがあるとき。
- ③ 上記以外で、水防管理者（市長）が、水防上必要があると認めたとき。

3. 避難のための立退き

本章「第8節 避難対策」による。

4. 水防解除

水防管理者（市長）は、水位がはん濫注意水位（警戒水位）以下に減じ、かつ危険がなくなった

とき又は高潮の危険性がなくなったときは、水防解除を明示、これを一般に周知させるとともに、安房土木事務所長に対しその旨報告する。

5. 協力応援

水防管理者(市長)は、緊急の必要があるときは、他の水防管理者、市町村長、消防団長、消防長に応援を求めることができる。

6. 水防体制の強化

(1) 警察官の出動要請

水防管理者(市長)は、水防のための水防区域内の立入を禁止、盗難防止、避難立退きのための誘導及び緊急輸送等必要があると認められるときは鴨川警察署長に対して、警察官の出動を求めることができる。

(2) 車両の移動等の措置命令、強制措置等について

水防活動時における緊急通行車両の通行を確保するため、警察官、消防吏員等(消防団員、水防団員等)による緊急通行車両の通行の確保のための措置等の規定(車両の移動等の措置命令、強制措置等の行為)により、水防管理者は鴨川警察署と密接な連絡をとって活動し、水防体制の強化を図る。

7. 情報の収集・伝達・報告

(1) 警報、雨量・水位等

気象等予警報、洪水予報、水防警報を受信・伝達するほか、県水防情報システム等で雨量、河川水位等の観測値を監視する。また、状況に応じて関係機関に情報提供を行う。

(2) 決壊時の通報

水防法第25条に基づき、堤防その他の施設が決壊したとき(地震による場合も含む。)は、水防管理者(市長)は、直ちにこれを関係者(当該施設の管理者及び現地指導班(安房土木事務所))に通報する。

(3) 緊急報告

次の状況に該当するときは、現地指導班長(安房土木事務所長)に緊急報告を行う。

- ① 消防機関等を出動させたとき。
- ② 他の水防管理者に応援を要求したとき。
- ③ 堤防が決壊、はん濫したとき。
- ④ その他必要と認める事態が生じたとき。

(4) 水防顛末報告

水防活動が終結したときは遅滞なく次の事項をとりまとめ、水防活動実施状況報告書の様式により現地指導班長(安房土木事務所長)に報告する。

- ①降雨及び水位記録
- ②出動及び水防解除の時刻
- ③消防機関等に属する者の出動の時刻及び人員
- ④水防作業の状況
- ⑤堤防その他の施設等の異常の有無及びこれに対する処置とその結果
- ⑥使用資材の種類及び員数とその消耗分及び回収分
- ⑦水防法第28条による収用又は使用機具、資材の種類、員数及び使用場所

- ⑧障害物を処分した数量及びその理由並びに除去の場所
- ⑨土地を一部使用したときは、その箇所及び所有者名とその事由
- ⑩他の水防管理者又は消防長に対して応援を求めたときはその状況
- ⑪居住者出動の状況
- ⑫警察官の出動状況
- ⑬現地指導班の出動人員名簿
- ⑭立退きの状況及びそれを指示した事由
- ⑮水防関係者の死傷
- ⑯殊勲者及びその功績
- ⑰雨後の水防につき考慮を要する点、その他水防管理者の所見
- ⑱堤防その他の施設で緊急工事を要するものが生じたときはその場所及び損傷状況
- ⑲千葉県建設業協会及び電業協会の協力要請状況
- ⑳その他必要となる事項

8. 河川のはん濫・浸水被害等の拡大防止

(1) 警戒巡視

重要水防区域、二次災害につながるおそれのある堤防等の巡視、警戒を行い、浸水、はん濫の危険性の把握に努める。特に、集中豪雨等による急激な出水・増水の際には迅速に対処するととともに、避難指示の的確な実施に努める。

(2) 河川等施設の被害拡大防止措置（応急復旧措置）

① 河川施設の損壊等による浸水防止	出水等による浸水被害が生じたり、又はそのおそれがある場合、被害の実態に応じて土のう積み等の浸水防止措置を講じ、二次災害を防止する。
② 堤防の決壊等による出水防止措置	堤防の損壊・亀裂が入るなど被害が生じた場合は、被害実態に応じた出水防止措置を講じる。
③ 河川施設の応急復旧	そのまま放置すれば二次災害につながるおそれのある堤防施設については、関係業者等を手配するなど早期に応急復旧措置を講じ、被害の拡大防止を図る。
④ その他の水防活動の実施	<ul style="list-style-type: none">・出動、監視、警戒及び水防作業・通信連絡及び輸送・避難のための立ち退き

第7節 警備・交通・輸送

項目	実施担当	関係機関
1. 警備計画		鴨川警察署
2. 交通規制	土木班、本部事務局	鴨川警察署、県、国
3. 緊急輸送路の確保	土木班	県
4. 緊急通行車両の確認	本部事務局	県公安委員会
5. 緊急輸送の実施	本部事務局	

1. 警備計画

(1) 災害警備の基本方針

※地震・津波災害編 第2章「第7節 警備・交通・輸送」参照

(2) 警備体制

警察本部及び警察署は、災害が発生し、又は発生するおそれがある場合は、その規模に応じ指揮体制を確立し災害警備活動を行う。

① 災害警備本部

県内に特別警報が発表された場合等

② 対策室

県内で各種警報(波浪を除く。)に加えて土砂災害警戒情報又は氾濫危険情報が発表され、要救助事案が発生し又は発生する可能性がある場合等

③ 連絡室

県内に警報(波浪警報を除く。)が発表された場合等

(3) 警備活動要領

※地震・津波災害編 第2章「第7節 警備・交通・輸送」参照

(4) 市の活動

※地震・津波災害編 第2章「第7節 警備・交通・輸送」参照

2. 交通規制

※地震・津波災害編 第2章「第7節 警備・交通・輸送」参照

3. 緊急輸送路の確保

※地震・津波災害編 第2章「第7節 警備・交通・輸送」参照

4. 緊急通行車両の確認

※地震・津波災害編 第2章「第7節 警備・交通・輸送」参照

5. 緊急輸送の実施

※地震・津波災害編 第2章「第7節 警備・交通・輸送」参照

第8節 避難対策

項目	実施担当	関係機関
1. 避難情報の発令	本部事務局	
2. 警戒区域の設定	本部事務局	
3. 避難誘導	本部事務局	
4. 避難所開設	教育班、各班、防災班	
5. 避難所の運営	教育班、市民生活班、各班	
6. 避難所設備の整備	教育班	
7. 避難者への支援	本部事務局、教育班、産業班、医療支援班	
8. 要配慮者の避難対策	福祉班、教育班	
9. 広域避難・広域一時滞在	本部事務局	
10. 避難所の集約及び解消	本部事務局	

1. 避難情報の発令

(1) 避難指示等の発令

市長（本部長）は、災害が発生し、又は発生するおそれがある場合は、必要と認める地域の居住者、滞在者その他の者に対し、避難のための立ち退きを指示し、緊急を要すると認めるとときは緊急安全確保を指示する。

また、避難の指示に先立ち、一般住民の避難準備と避難行動要支援者等の避難開始を促すため「高齢者等避難」を伝達する。

避難指示等は、本項に掲げるもののほか、別に定める「鴨川市避難情報の判断・伝達マニュアル」によるものとする。

■避難指示等の発令権者及び要件

発令権者	指示等を行う要件	根拠法令
市長 (本部長)	○災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、市民の生命又は身体を災害から保護し、その他災害の拡大を防止するため特に必要があると認めるときは立退き避難を指示し、急を要するときは緊急安全確保を指示できる。	災害対策基本法第60条
知事	○災害の発生により市長（本部長）がその全部又は大部分の事務を行うことができなくなったとき	災害対策基本法第60条
知事、知事の命を受けた県職員	○洪水等により著しい危険が切迫していると認められるとき	水防法第29条
警察官 海上保安官	○市長（本部長）が避難のための立退きを指示することができないと認められるとき ○市長（本部長）から要求があったとき ○人の生命若しくは身体に危険を及ぼすおそれのある天災等、特に急を要するとき ○地すべりにより著しい危険が切迫していると認められるとき	災害対策基本法第61条 警察官職務執行法（昭和23年法律第136号）第4条 地すべり等防止法第25条

発令権者	指示等を行う要件	根拠法令
災害派遣を命じられた部隊等の自衛官	○人の生命若しくは身体に危険を及ぼすおそれのある天災等、特に急を要する場合で、その場に警察官、海上保安官がいないとき	自衛隊法（昭和29年法律第165号）第94条
水防管理者	○洪水等により著しい危険が切迫していると認められるとき	水防法第29条

(2) 警戒レベル

警戒レベルとは、「居住者等がとるべき行動」と「行動を居住者等に促す情報」を関連付けるものであり、5段階に分けて設定されている。

災害発生のおそれがあるとき及び災害が発生したときには、警戒レベルを用いて、住民が出された情報から行動を直感的にわかるよう伝達する。

■警戒レベル及び住民がとるべき行動

避難情報等	居住者等がとるべき行動等
[警戒レベル1] 早期注意情報 (気象庁発表)	<ul style="list-style-type: none"> ●発表される状況：今後気象状況悪化のおそれ ●居住者等がとるべき行動：災害への心構えを高める <ul style="list-style-type: none"> ・防災気象情報等の最新情報に注意する等、災害への心構えを高める。
[警戒レベル2] 大雨・洪水・ 高潮注意報 (気象庁発表)	<ul style="list-style-type: none"> ●発表される状況：気象状況悪化 ●居住者等がとるべき行動：自らの避難行動を確認 <ul style="list-style-type: none"> ・鴨川市防災マップ等により自宅・施設等の災害リスク、指定緊急避難場所や避難経路、避難のタイミング等を再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認・注意するなど、避難に備え自らの避難行動を確認。
[警戒レベル3] 高齢者等避難	<ul style="list-style-type: none"> ●発令される状況：災害のおそれあり ●居住者等がとるべき行動：危険な場所から高齢者等は避難 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等※は危険な場所から避難（「立退き避難」又は「屋内安全確保」）する。 ※避難を完了させるのに時間を要する在宅又は施設利用の高齢者及び障害者のある人等並びにその人の避難を支援する者 ・高齢者等以外の人も必要に応じ、出勤等の外出を控えるなど普段の行動を見合せ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングである。例えば、地域の状況に応じ、早めの避難が望ましい場所の居住者等は、このタイミングで自主的に避難することが望ましい。
[警戒レベル4] 避難指示	<ul style="list-style-type: none"> ●発令される状況：災害のおそれ高い ●居住者等がとるべき行動：危険な場所から全員避難 <ul style="list-style-type: none"> ・危険な場所から全員避難（「立退き避難」又は「屋内安全確保」）する。
[警戒レベル5] 緊急安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ●発令される状況：災害発生又は切迫（必ず発令される情報ではない） ●居住者等がとるべき行動：命の危険直ちに安全確保！ <ul style="list-style-type: none"> ・指定緊急避難場所等への立退き避難することがかえって危険である場合、緊急安全確保する。 ただし、災害発生・切迫の状況で、本行動を安全にとることができるとは限らず、また本行動をとったとしても身の安全を確保できるとは限らない。

(注) 「立退き避難」とは災害リスクのある区域等の居住者等が、自宅・施設等にいては命が脅かされるおそれがあることからその場を離れ、リスクのある区域等の外側等、対象とする災害に対し安全な場所に移動することであり、避難行動の基本である。「屋内安全確保」とは災害リスクのある区域等に存する自宅・施設等であっても、ハザードマップ等で自ら自宅・施設等の浸水想定等を確認し、上階への避難や高層階に留まること等によって計画的に身の安全を確保する行動で、居住者等が自ら判断する。

(3) 避難情報の種類と発令基準

避難の指示等の種類と発令基準は、5段階の警戒レベルに関連付け、次のとおりとし、「洪水等：水位周知河川」・「洪水等：中小河川」・「洪水等：市管理河川・水路等」・「土砂災害」・「高潮」の別にそれぞれ設定する。

避難情報の発令は、防災気象情報、気象台や県からの助言、現場の巡回報告、住民からの通報等を考慮し、総合的かつ迅速に行う。また、水害と土砂災害、複数河川のはん濫、台風等による高潮と河川のはん濫などの危険度が同時に高まっている場合は、それらすべての災害事象を対象として避難対象地区や避難先等を設定して円滑な避難を確保する。

■避難情報の種類及び発令基準の目安（洪水等：水位周知河川）

避難情報	基準（目安）
【警戒レベル3】 高齢者等避難	<ul style="list-style-type: none">○基準地点の水位が避難判断水位を超え、さらに水位の上昇が見込まれるとき○洪水キキクルが「警戒」のとき○堤防に軽微な漏水・侵食等が発見された場合○高齢者等避難の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想されるとき
【警戒レベル4】 避難指示	<ul style="list-style-type: none">○基準地点の水位が氾濫危険水位に達し、さらに水位の上昇が見込まれるとき○洪水キキクルが「危険」のとき○堤防に異常な漏水・侵食等が発見されたとき○避難指示の発令が必要となるような強い降雨を伴う前線や台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合○避難指示の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、立退き避難が困難となる暴風を伴い接近・通過することが予想される場合○基準地点の水位が堤防天端高に到達するおそれが高いとき
【警戒レベル5】 緊急安全確保	<ul style="list-style-type: none">○河川水位が堤防高に達したとき○洪水キキクルが「災害切迫」のとき○堤防に異常な漏水・侵食の進行、亀裂・すべりの発生等が確認された場合○樋門等の機能障害が発見された場合や排水機場の運転を停止せざるをえない場合○決壊や越水、溢水が発生したとき（水防団等からの報告により把握できたとき）

■避難情報の種類及び発令基準の目安（洪水等：中小河川）

避難情報	基準（目安）
【警戒レベル3】 高齢者等避難	<ul style="list-style-type: none"> ○洪水キキクルが「警戒」で、河川水位が堤防高に達すると見込まれるとき ○大雨警報(浸水害)又は洪水警報が発表され、堤防に軽微な漏水・侵食等が発見されたとき ○高齢者等避難の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想されるとき
【警戒レベル4】 避難指示	<ul style="list-style-type: none"> ○洪水キキクルが「危険」で、河川水位が堤防高に達すると予想されるとき ○堤防に異常な漏水・侵食等が発見されたとき ○避難指示の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が夜間から明け方に接近・通過することが予想されるとき ○避難指示の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、立退き避難が困難となる暴風を伴い接近・通過することが予想される場合
【警戒レベル5】 緊急安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ○河川水位が堤防高に達したとき ○洪水キキクルが「災害切迫」になったとき ○堤防に異常な漏水・侵食の進行、亀裂・すべりの発生等が確認された場合 ○樋門等の機能支障が発見された場合や排水機場の運転を停止せざるをえない場合 ○決壊や越水、溢水が発生したとき（水防団等からの報告により把握できたとき）

■避難情報の種類及び発令基準の目安（洪水等：市管理河川・水路等）

中小河川と同様とする。

■避難情報の種類及び発令基準の目安（土砂災害）

避難情報	基準（目安）
【警戒レベル3】 高齢者等避難	<ul style="list-style-type: none"> ○大雨警報（土砂災害）が発表されたとき ○数時間後に避難経路等の事前通行規制等の基準に達することが想定されるとき ○大雨注意報が発表され、当該注意報の中で、夜間～翌日早朝に大雨警報（土砂災害）に切り替える可能性が高い旨に言及されているとき
【警戒レベル4】 避難指示	<ul style="list-style-type: none"> ○土砂災害警戒情報が発表されたとき ○土砂キキクルが「危険」となった場合 ○避難指示の発令が必要となる強い降雨を伴う台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合 ○土砂災害の前兆現象（山鳴り、湧き水・地下水の濁り、渓流の水量の変化等）が発見されたとき
【警戒レベル5】 緊急安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ○大雨特別警報（土砂災害）が発表された場合 ○土砂キキクルが「災害切迫」となったとき ○土砂災害が発生したとき

■避難情報の種類及び発令基準の目安（高潮）

避難情報	基準（目安）
【警戒レベル3】 高齢者等避難	<ul style="list-style-type: none"> ○高潮警報が発表されたとき ○高潮注意報の発表において警報に切り替える可能性が高い旨に言及された場合 ○高潮注意報が発表されている状況において、台風情報で台風の暴風域が本市にかかると予想されている、又は台風が本市に接近することが見込まれる場合 ○強い降雨を伴う台風等が夜間から明け方に本市に接近・通過することが予想される場合 ○伊勢湾台風級の台風が接近し、上陸2時間前に特別警報発表の可能性がある旨、府県気象情報や気象庁の記者会見等により周知された場合
【警戒レベル4】 避難指示	<ul style="list-style-type: none"> ○高潮警報発表時で、風向・風速などから、人的被害や家屋被害の発生する危険性が特に高いと判断された場合 ○高潮注意報が発表され、当該注意報において、夜間～翌日早朝までに警報に切り替える可能性が高い旨に言及される場合
【警戒レベル5】 緊急安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ○高潮特別警報が発表されたとき ○防潮堤の倒壊や決壊等が発生した場合又はそのおそれがある場合 ○異常な越波・越流が発生した場合 ○高潮氾濫が発生した場合

(4) 避難指示等の伝達

※地震・津波災害編参照

(5) 避難の措置と周知

※地震・津波災害編参照

(6) 解除

※地震・津波災害編参照

2. 警戒区域の設定

※地震・津波災害編参照

3. 避難誘導

※地震・津波災害編 第2章「第8節 避難対策」参照

4. 避難所開設

(1) 避難所の開設

市長（本部長）は、災害の状況に応じて開設する避難所を決定する。

教育班、各班は、避難所を開設する施設の管理者に連絡し、開設準備のため職員（避難所職員）を派遣する。派遣された職員は、施設の管理者等と協力して避難者受入れの準備を行う。

教育班は、避難所からの連絡を受け、避難所の開設状況を把握するほか、「教育班（避難所総括）の手引き（風水害）」に基づく対応をとる。

防災班は、協定施設避難所開設の要請を行う。

(2) 避難者の受入れ

避難所職員は、施設管理者等と協力して、避難スペースへの案内、施設利用の注意、避難

者の要望聴取等を行う。

また、各避難所（学校施設避難所、社会教育施設避難所、協定施設避難所）の統括者は、避難者等の状況及びニーズを把握し、隨時、災害対策本部に報告する。

5. 避難所の運営

※地震・津波災害編 第2章「第8節 避難対策」参照

6. 避難所設備の整備

※地震・津波災害編 第2章「第8節 避難対策」参照

7. 避難者への支援

※地震・津波災害編 第2章「第8節 避難対策」参照

8. 要配慮者の避難対策

※地震・津波災害編 第2章「第8節 避難対策」参照

9. 広域避難・広域一時滞在

※地震・津波災害編 第2章「第8節 避難対策」参照

10. 避難所の集約及び解消

※地震・津波災害編 第2章「第8節 避難対策」参照

第9節 救助・救急・消防

項目	実施担当	関係機関
1. 救助活動	市民生活班、消防対策班	鴨川警察署、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部
2. 救急活動		安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部
3. 消防活動	消防対策班	安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部

※地震・津波災害編 第2章「第6節 消防・救助救急・危険物等対策」参照

第10節 医療救護

※地震・津波災害編 第2章「第9節 医療救護」参照

第11節 防疫・清掃

※地震・津波災害編 第2章「第10節 防疫・清掃」参照

第12節 食料・飲料水・生活必需品等の供給

※地震・津波災害編 第2章「第11節 食料・飲料水・生活必需品等の供給」参照

第13節 行方不明者の捜索・遺体の処理

※地震・津波災害編 第2章「第12節 行方不明者の捜索・遺体の処理」参照

第14節 被災住宅対策

※地震・津波災害編 第2章「第13節 被災住宅対策」参照

第15節 文教対策

※地震・津波災害編 第2章「第14節 文教対策」参照

第16節 ライフライン施設等の応急・復旧

※地震・津波災害編 第2章「第15節 ライフライン施設等の応急・復旧」参照

第17節 ボランティア活動への対応

※地震・津波災害編 第2章「第16節 ボランティア活動への対応」参照

第18節 要配慮者への対応

※地震・津波災害編 第2章「第17節 要配慮者への対応」参照

第19節 孤立対策

※地震・津波災害編 第2章「第18節 孤立対策」参照

第20節 帰宅困難者対策

※地震・津波災害編 第2章「第19節 帰宅困難者対策」参照

第21節 在港船舶対策

項目	実施担当	関係機関
1. 市の対策	本部事務局	
2. 勝浦海上保安署等の対策	本部事務局	勝浦海上保安署

1. 市の対策

本部事務局は、次の対策を実施する。

- ① 気象予警報の周知徹底を図るとともに、関係機関と相互に情報を交換する。
- ② 船舶乗組員に対し、情報伝達の必要がある場合、又は要請があった場合、市防災行政無線により通報する。

③ 避難場所

- | | |
|----------------|--------------------|
| ア. 船舶、雑種船 | 船溜、河口、陸に引揚げ |
| イ. 小型船(500t未満) | 港内錨泊又は陸に引揚げ |
| ウ. 小型船 | 小湊漁港、天津漁港及び鴨川漁港内錨泊 |
| エ. 大型船 | 港外避泊 |

2. 勝浦海上保安署等の対策

- ① 巡視船舶及び陸上職員による情報周知及び保船の指導を行う。
- ② 台風が接近し、又は来襲のおそれがあるときは、在港船の海難防止対策を実施するよう指導する。
- ③ 情報を伝達する。

■情報の伝達方法

- 電話又はFAXにより各漁業組合に連絡する。
- 電話又はFAXにより千葉県水産情報通信センター及び勝浦漁業無線局に連絡し、漁業無線により各船舶に伝達する。
- 巡視船艇又は陸上職員により在泊船に対し、マイクを持って必要事項を伝達する。
- 第三管区海上保安本部警備救難部運用司令センターの無線(VHF 16ch/12ch)により航行船舶に対し緊急放送を行う。
- V L旗（台風接近する、適当な警戒手段を取られたい。）信号を掲揚する。
- 海上保安庁法第18条第1項各号に基づく移動命令等の港内整理を行う。

第3章 災害復旧・復興計画

※地震・津波災害編「第3章 災害復旧・復興計画」参照

第4編 大規模事故編

鴨川市地域防災計画

第1章 大規模事故体制

第1節 災害応急活動体制.....	1
1. 配備体制.....	1
2. 職員の動員.....	1
3. 事故警戒本部.....	1
4. 事故対策本部.....	2
5. 合同調整所.....	4
第2節 情報の収集・報告.....	6
第2章 大規模事故対策計画	
第1節 大規模火災対策.....	7
1. 基本方針.....	7
2. 予防対策計画.....	7
3. 災害情報.....	9
4. 応急対策計画.....	9
第2節 林野火災対策.....	10
1. 基本方針.....	10
2. 予防対策計画.....	10
3. 災害情報.....	10
4. 応急対策計画.....	11
第3節 危険物等災害対策.....	12
1. 基本方針.....	12
2. 予防対策計画.....	12
3. 災害情報.....	13
4. 応急対策計画.....	13
第4節 海上災害対策.....	15
1. 基本方針.....	15
2. 予防対策計画.....	15
3. 災害情報.....	15
4. 応急対策計画.....	16
第5節 油等海上流出災害対策.....	18
1. 基本方針.....	18
2. 予防対策計画.....	18
3. 災害情報.....	18
4. 応急対策計画.....	19
第6節 航空機災害対策.....	21
1. 基本方針.....	21
2. 予防対策計画.....	21
3. 災害情報.....	21
4. 応急対策計画.....	22
第7節 鉄道災害対策.....	24

1. 基本方針.....	24
2. 予防対策計画.....	24
3. 災害情報.....	24
4. 応急対策計画.....	24
第8節 道路災害対策.....	26
1. 基本方針.....	26
2. 予防対策計画.....	26
3. 災害情報.....	26
4. 応急対策計画.....	26
第9節 放射性物質事故対策.....	29
1. 基本方針.....	29
2. 予防対策計画.....	30
3. 災害情報.....	30
4. 応急対策計画.....	31
5. 災害復旧計画.....	33

第1章 大規模事故体制

第1節 災害応急活動体制

1. 配備体制

(1) 配備基準

大規模事故が発生した場合、状況に応じて次の配備体制をとり、応急対策にあたる。

■配備体制（大規模事故）

配備段階		配備基準	配備を要する部署
連絡体制	第1配備	1. 直接即報基準に該当する大規模事故の発生の連絡を受けたとき 2. その他市長（本部長）が必要と認めたとき	・危機管理課
事故警戒本部	第2配備	1. 大規模事故の状況により、被災者等への対応が必要なとき 2. その他市長（本部長）が必要と認めたとき	・危機管理課 ・対応を所管する課
事故対策本部	第3配備	1. 大規模事故の状況により、避難、被災者対応、事後処理等について、全般的な対応が必要なとき 2. その他市長（本部長）が必要と認めたとき	・本部事務局 ・対応を所管する班

(2) 配備の決定

危機管理課長は、災害情報を収集し災害情報及び必要な対策を市長（本部長）に報告する。市長（本部長）は、報告に基づいて配備体制及び災害対策本部の設置を決定し、動員を指示する。

2. 職員の動員

(1) 動員方法

市長（本部長）は、各班長に配備及び動員を連絡する。各班長は、所属職員に連絡する。連絡は、電話及び庁内放送、職員参集メール等を用いる。
勤務時間外の場合は、職員参集メール、非常連絡網により連絡する。

(2) 参集場所

勤務時間内及び勤務時間外ともに、参集場所は各自の勤務先とする。
なお、災害状況等により、やむをえず参集場所に行けない場合は、直近の庁舎とする。

(3) 動員報告

参集した職員は、所属単位に各班長を通じて動員報告を行う。

3. 事故警戒本部

(1) 設置基準

市長（本部長）は、警戒活動の必要があると認める場合は、必要な職員を配備し、鴨川市役所に事故警戒本部を設置する。

なお、市域が広域であるため、局地的な被害の場合は、住民対応に支障がないように、現地対策本部を設置することができる。

(2) 組織

事故警戒本部は、事故対策本部の組織を準用する。

(3) 指揮の権限

事故警戒本部の設置及び指揮は、市長の権限により行われるが、市長の判断を仰ぐことができない場合は、次の順によりその権限を委任する。なお、市警戒本部長、市警戒副本部長及び市警戒本部員の代替職員については、次のとおりとする。

■警戒本部長及び代替職員

名 称	本部長	代替職員
警戒本部長	市 長	副市長

(4) 運営

事故警戒本部の活動は、次のとおりである。

■事故警戒本部の活動内容

- | | |
|--------------|------------------|
| ○事故情報の収集 | ○関係機関との連絡・調整 |
| ○危険箇所の警戒巡視 | ○所管施設の警戒巡視及び予防措置 |
| ○軽微な被害への応急対策 | ○住民への災害広報 |

(5) 事故警戒本部の廃止

市長（本部長）は、事故による被害が発生しなかったとき、あるいは事態が終息したときは、事故警戒本部を廃止する。

(6) 事故対策本部への移行

市長（本部長）は、災害が拡大したとき、若しくは拡大のおそれがあるときは、事故警戒本部から事故対策本部へ移行する。

4. 事故対策本部

(1) 設置基準

事故対策本部は、次の設置基準に該当し、市長（本部長）が必要と認めたときに設置する。

■災害対策本部の設置基準

- | |
|---|
| ○大規模事故の発生により多数の被害者が発生したとき。 |
| ○大規模事故の発生により市民の生命・身体及び市民生活に多大な影響を及ぼすとき。 |
| ○その他、市長（本部長）が必要と認めたとき。 |

(2) 設置場所

事故対策本部は、原則として、市役所本庁舎4階会議室に設置する。これらが被災のため使用できない場合は、事故の状況により鴨川市総合保健福祉会館等に設置する。

■事故対策本部の設置場所

区 分	設置順位	設置場所
事故対策本部	1	市役所本庁舎4階会議室
	2	鴨川市総合保健福祉会館

(3) 事故対策本部設置の通知

本部事務局は、本部を設置した場合、直ちに千葉県、自衛隊、鴨川警察署、その他必要な防災関係機関等に通知する。

■本部設置の通知

通 知 先	通 知 方 法
市各課	府内放送、職員収集メール、市防災行政用無線、電話、口頭
防災関係機関	県防災行政無線、電話、口頭
一般市民	市防災行政無線（固定系）、広報車、市ホームページ、安全・安心メール
報道機関	電話、口頭
隣接市町村	電話、文書、県防災行政無線

(4) 指揮

事故対策本部の設置及び指揮は、市長（本部長）の権限により行われるが、市長の判断を仰ぐことができない場合は、次の順によりその権限を委任する。

■市事故対策本部長及び代替職員

名 称	本部長、副本部長、本部員	代替職員
市対策本部長	市 長	副市長
市対策副本部長	副市長	危機管理課長

(5) 本部の組織

事故対策本部の組織及び編成は「鴨川市災害対策本部条例」及び「鴨川市災害対策本部規則」の定めるところによるが、その概要は次のとおりである。

① 本部の組織

本部長 (市長)	・事故対策本部の事務を総括し、職員を指揮監督する。 ・本部の設置・廃止の決定、避難指示等の発令、警戒区域の設定、自衛隊の災害派遣要請の権限をもつ。
副本部長 (副市長)	・本部長の補佐をし、本部長に事故あるときはその職務を代理する。 ・本部長が適切に判断するために必要なアドバイスが行えるよう、各班からの情報を収集・分析する。
本部員	・本部長の命を受け、本部の事務に従事する。

② 班

災害対策を行うため本部に班をおく。班長（副班長）及び班に属する本部員は、市長（本部長）が指名する。

班長	・班における職員の活動を統括する。 ・班内における人員の配置・補充、他機関への応援の要請等を行う。
副班長	・班長の補佐をし、班長が事故あるときその職務を代理する。
班員	・班長の指示にしたがって対策を実行する。

③ 本部室

市長（本部長）は、本部に本部室を設け、災害応急対策に関する基本方針その他重要事項を審査決定するため、本部室会議を開催する。本部室に属するものは、市長（本部長）が指名する。

本部室員	教育長、全所属長、その他市長が認める者
本部室会議 の協議事項	○事故対策本部配置体制の決定 ○避難所等の開設決定 ○避難指示等の決定 ○自衛隊派遣要請依頼の決定

	<ul style="list-style-type: none">○災害救助法適用申請の決定○県及び他市町村への応援要請の決定○その他重要事項の決定 <p>※市長（本部長）が最終決定権限を有する。</p>
--	---

(6) 事故対策本部の廃止

市長（本部長）は、事故により被害の発生する危険が解消したと認めたとき、又は応急対策が概ね完了したと認めたときは、事故対策本部を廃止する。廃止の通知は、設置時の通知と同様に行う。

なお、事故の規模等により、事後処理を必要とする場合は、関係課等において継続して対処する。

5. 合同調整所

事故発生現場等において、関係機関（消防、警察、自衛隊、医療等の現地で活動する機関をいう。）の活動を円滑に調整する必要があると認めるとき、市又は県は、合同調整所を速やかに設置し現地関係機関の間の連絡調整を図る。

第4編 大規模事故編 第1章 大規模事故体制
第2節 情報の収集・報告

第2節 情報の収集・報告

市長（本部長）は、災害対策基本法第53条の規定により、市域に災害が発生し、又は発生が予想されるときは、速やかに被害情報等を収集し、千葉県防災情報システム及び電話・ファクシミリ又は防災行政無線により県本部事務局に報告する。

県に報告できない場合、又は次の基準に該当する災害又は事故が発生した場合には、「火災・災害等即報要領」に基づき、消防庁へも報告する（覚知後30分以内）。

- (1) 消防庁即報基準に該当する火災・災害のうち、一定規模以上のもの（「直接即報基準」に該当する火災・災害等）を覚知した場合
- (2) 通信の途絶等により知事に報告することができない場合
- (3) 119番通報の殺到状況時にその状況を報告

■火災・災害等即報要領の直接即報基準

火災等即報	交通機関の火災	航空機火災、タンカー火災、船舶火災であって社会的影響度の高いもの、トンネル内車両火災、列車火災
	危険物等に係る事故	(1) 死者（交通事故によるものを除く。）又は行方不明者が発生したもの (2) 負傷者が5名以上発生したもの (3) 危険物等を貯蔵し又は取り扱う施設の火災・爆発事故で当該工場等の施設内又は周辺の500平方メートル程度以上の区域に影響を与えたもの (4) 危険物等を貯蔵し、又は取り扱う施設からの危険物等の漏えい事故で、次に該当するもの ① 海上、河川へ危険物等が流出し、防除・回収等の活動を要するもの ② 500キロリットル以上のタンクからの危険物等の漏えい等 (5) 市街地又は高速道路上におけるタンクローリーの事故に伴う漏えいで、付近住民の避難、道路の全面通行禁止等の措置を要するもの (6) 市街地又は高速道路上において発生したタンクローリーの火災
	原子力災害	(1) 爆発、火災の発生、放射性物質・放射線の漏えい (2) 放射性物質輸送車両の火災（そのおそれがあるものを含む。） (3) 核燃料物質等運搬中の火災、事故（その通報があった場合） (4) 基準以上の放射線の検出（その通報があった場合） (5) 放射性同位元素等取扱事業所に係る火災で、放射性同位元素・放射線の漏えい
	ホテル、病院、映画館、百貨店において発生した火災	
	その他の事故	爆発、異臭等の事故であって報道機関に大きく取り上げられる等社会的影響の高いもの
	救急・救助事故即報	死者及び負傷者の合計が15人以上発生した救急・救助事故で次に掲げるもの (1) 列車、航空機、船舶の衝突、転覆等による救急・救助事故 (2) バスの転落等による救急・救助事故 (3) ハイジャック及びテロ等による救急・救助事故 (4) 不特定多数の者が集まる場所における救急・救助事故 (5) その他報道機関に取り上げられる等社会的影響度が高いもの

第2章 大規模事故対策計画

第1節 大規模火災対策

1. 基本方針

(1) 基本方針

市域において大規模な延焼火災が発生した場合に、関係機関と連携して被災者を迅速かつ適切に救助するとともに、延焼の防止など被害の軽減を図るため、市がとるべき応急措置を定める。

(2) 想定する災害

想定する大規模火災は、次のとおりである。

■想定する大規模火災

○市街地において延焼火災が発生した場合

2. 予防対策計画

(1) 建築物不燃化の促進

都市建設課は、都市部において火災の延焼拡大を未然に防ぐため、法令に基づき、次の対策の実施を検討する。

① 建築物の防火規制

市街地における延焼防止を次により促進する。

ア. 建築物が密集し、火災により多くの被害を生ずるおそれのある地域においては、防火地域及び準防火地域の指定を行い、耐火建築物又は準耐火建築物の建築を促進する。

イ. 防火・準防火地域以外の市街地における延焼の防止を図るため、建築基準法第22条による屋根不燃区域の指定に基づき、木造建築物の屋根の不燃措置及び外壁の延焼防止措置を指導する。

② 都市防災不燃化促進事業

大規模火災から市民の生命・財産を守るため、避難場所周辺等の一定範囲の不燃化を促進する。

(2) 防災空間の整備・拡大

都市建設課は、延焼を防止する防災空間の整備・拡大を図るために、次の対策を行う。

① 公園は、防災都市づくりの一環として、火災に強い植栽を行うなど、防災効果を考慮した整備を進める。

② 市道の幅員拡大や街路樹の植栽等の街路の整備を進める。

(3) 市街地の整備

都市建設課は、土地区画整理事業等により防災上安全性の高い市街地形成を図る。

(4) 火災予防検査

安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部は、火災を未然に防止するため、消防法等に基づき防火対象物の所有者等に対して火災予防上必要な資料の提出を命じ、又は防火対象物への

立ち入り検査を実施し、火災予防の徹底を図る。

(5) 住宅の防火対策

安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部は、住宅火災の予防と被害の軽減を図るため、住宅への住宅用防災機器の設置及び維持管理を含めた住宅防火への意識の高揚を図る。
また、防炎製品の活用を推進する。

(6) 多数の者を収容する建築物

① 消防計画の作成及び遵守

安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部は、多数の者を収容する建築物の管理権原者に對し、防火管理者の選任及び防火管理者による消防計画の作成を履行、消防計画の遵守を指導する。

② 防火対象物の点検及び報告

特定防火対象物の管理権原者に対し、火災予防上必要な事項の適否について、定期に防火対象物点検資格者の点検を受けさせ、報告させる。

(7) 大規模・高層建築物の防火対策

安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部は、大規模・高層建築物の管理権原者又は関係者に對し、次の事項について指導する。

① 消消防災システムのインテリジェント化の推進

- ア. 高水準消防防災設備の整備
- イ. 複数の消防用設備等を集中管理する総合操作盤の整備

② 防災センターの整備

防災センター要員に対する高度な教育の計画的な実施

(8) 文化財の防火対策

文化財振興室及び安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部は、文化財の所有者又は管理者に對して次の事項を指導する。

なお、防火施設の整備にあたっては、重要文化財（建造物）については「重要文化財（建造物）等防災施設整備事業（防災施設等）指針（文化庁、令和3年12月）」に基づいて行い、それ以外の指定・登録文化財（建造物）についても本指針を勘案して行う。

① 消防設備の設置・整備

文化財の所有者及び管理者は、消火器、消火栓設備、動力消防設備等の消防設備を設置するとともに、自動火災報知設備、漏電火災警報設備の設置により、火災の発生を報知し、迅速な消火活動を行うことができるよう設備の設置・整備を行う。

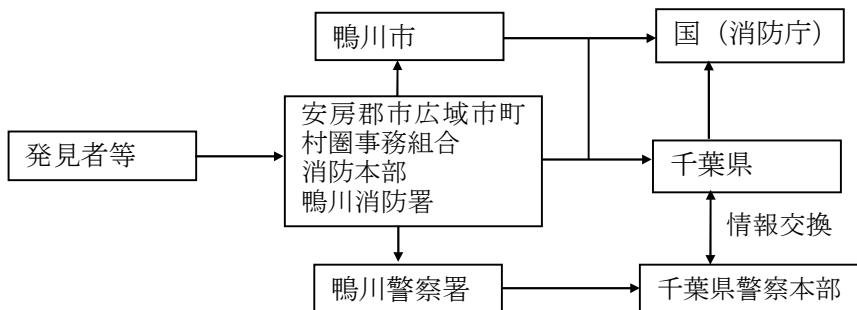
② 防火管理

文化財の所有者及び管理者は、火災の発生を未然に防止するため、日頃から適切な防火管理を行う。管理にあたっては、定期的な巡視と監視を行うとともに、環境を整備し、危険箇所の点検について消防機関から適切な指導を受ける。日常的な措置については、防火責任者を定め防火管理計画、防災訓練等の具体的な消防計画を作成し、自衛消防隊を組織して消火活動の体制を整備しておく。

また、毎年1月26日を文化財防火デーとして文化財建造物の消火訓練を実施する。

3. 災害情報

大規模火災発生時の情報伝達経路は、次のとおりである。



4. 応急対策計画

大規模火災が発生した場合は、次の応急対策を実施する。対策の詳細については、第3編「第2章 災害応急対策計画」を適用する。

(1) 広報活動

住民に対して防災行政無線、広報車等により火災発生の状況、避難指示等について広報する。

(2) 応急活動体制

必要に応じて事故対策本部を設置する。合同調整所が設置された場合は、公共施設、資機材の提供等の支援を実施する。

(3) 捜索・救助救出活動

搜索・救出は安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署、消防団、鴨川警察署及び各交番が対応する。

(4) 消防活動

火災の消火は、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署、消防団が実施する。消火にあたっては、避難所・避難経路の確保及び重要かつ危険度の高い箇所・地域を優先しながら活動を実施する。

また、消防活動の円滑化を図るため、必要に応じて消防警戒区域を設定する。安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署だけでは対応が困難なときは、「千葉県広域消防相互応援協定」に基づき、千葉県内の消防組織に対し応援を要請する。

消火、飛火警戒等においては、近隣住民、住民会の協力を得て効果的な活動を実施する。

(5) 避難

延焼火災が住民への影響がある場合は、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署、消防団、鴨川警察署等と連携して、避難区域を設定し、避難広報、誘導、避難所の開設・受入れを行う。

(6) 医療救護活動

亀田総合病院及び国保病院で対応する。負傷者の搬送は安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署が対応する。

(7) 交通規制

鴨川警察署及び各交番は応急活動のため必要に応じて交通規制を実施する。

第2節 林野火災対策

1. 基本方針

(1) 基本方針

市域において広範囲にわたる林野火災が発生した場合に、関係機関と連携して延焼の防止など被害の軽減を図るため、市がとるべき応急措置を定める。

(2) 想定する災害

想定する林野火災は、次のとおりである。

■想定する林野火災

- 市域において広範囲にわたる林野火災が発生した場合
- 市域の林野火災により、住民の避難、観光客等の森林滞在者の救出等が必要な場合

2. 予防対策計画

(1) 広報

① 広報などによる注意

安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部は、市の広報紙、ホームページ等を利用し、林野火災予防に対する意識を喚起する。また、ハイカー及び林業労働者に携帯用すいがら入れの保持の徹底を図る。

② 学校教育による指導

学校教育課は、自然の保護、森林の保護育成、鳥獣の保護等の観点から、児童・生徒に対して林野火災予防の考え方や方法を理解させるための普及指導を行う。

(2) 法令による規制

次の法令による規制を行い、林野火災を防止する。

- ① 火の使用制限（消防法第22条第4項、火災予防条例）
- ② 一定区域におけるたき火、喫煙の制限（消防法第23条）
- ③ 火入れの許可制の励行（森林法第21条、第22条）

(3) 林野の整備

森林所有者は、林野等を下草刈、枝打ち、間伐等を実施し、消火活動に資する。

(4) 林野火災特別地域対策事業

県及び農林水産課は、事業を実施する地域を協議して決定し、林野火災特別地域対策事業計画を作成する。

3. 災害情報

(1) 林野火災気象通報（※修正を検討中）

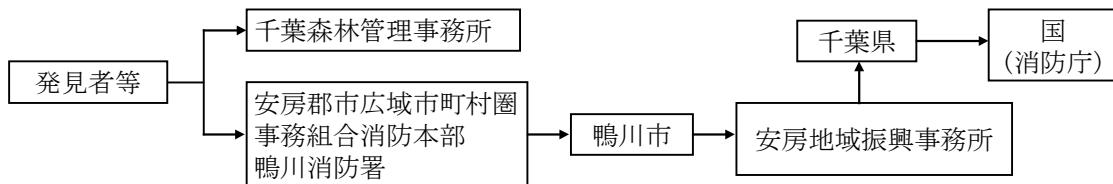
林野火災気象通報は、火災気象通報の一部として行い、火災気象通報の発表及び終了をもって行う。林野火災気象通報を受けたときは、通報内容及び取るべき予防措置等を、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部等の関係機関へ通報するとともに、住民に広報する。

林野火災気象通報を受けたとき、又は気象の状況により林野火災発生の危険性があると認めたときは、消防法第22条に基づき火災警報を発令する。

(2) 林野火災発生時の通報

林野火災発生時の通報は、次のとおりである。

■林野火災発生時の伝達経路



4. 応急対策計画

林野火災が発生した場合は、次の応急対策を実施する。対策の詳細については、第3編「第2章 災害応急対策計画」を適用する。

(1) 広報活動

住民に対して防災行政無線、広報車等により火災発生の状況、避難指示等について広報する。

また、火災発生区域の観光客、林業者等の森林滞在者に対して退去するよう広報する。

(2) 応急活動体制

必要に応じて事故対策本部を設置する。合同調整所が設置された場合は、公共施設、資機材の提供等の支援を実施する。

(3) 消防活動

火災の消火は、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署、消防団が実施する。消火にあたっては、林野火災防御図の活用、適切な消火部隊の配置、森林関連機関等の出動協力等により効果的な地上消火を行う。安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署だけでは対応が困難なときは、「千葉県広域消防相互応援協定」に基づき、千葉県内の消防組織に対し応援を要請する。

住家への延焼拡大の危険性がある場合、林野火災が広域化する場合等には、千葉県にヘリコプターの出動を要請し、空中消火を実施する。

(4) 避難

林野火災が住宅地まで及ぶ危険性がある場合は、避難区域を設定し、避難広報、誘導、避難所の開設・受け入れを行う。

(5) 捜索・救助救出活動

孤立者を発見した場合は、ヘリコプターによる救出を千葉県に要請する。

(6) 交通規制

鴨川警察署及び各交番は応急活動のため必要に応じて交通規制を実施する。

第3節 危険物等災害対策

1. 基本方針

(1) 基本方針

市域において危険物等の漏えい、流出、火災、爆発等により多数の死傷者を伴う大規模な事故や住民へ影響する事故が発生した場合に、関係機関と連携して被災者を迅速かつ適切に救助し住民対策をすることにより被害の軽減を図るため、市がとるべき応急措置を定める。

(2) 危険物等の定義

危険物等とは、次のものをいう。

○危険物：消防法第2条第7項に規定されているもの

（例）石油類（ガソリン、灯油、軽油、重油）など

○火薬類：火薬類取締法（昭和25年法律第149号）第2条に規定されているもの

（例）火薬、爆薬、火工品（工業雷管、電気雷管）など

○高圧ガス：高圧ガス保安法（昭和26年法律第204号）第2条に規定されているもののうち、基準の圧力及び温度の状態により「高圧ガス」となる。

（例）液化石油ガス（LPG）、アセチレン、アンモニアなど

○毒物・劇物：毒物及び劇物取締法（昭和25年法律第303号）第2条に規定されているものの

（例）毒物（シアノ化水素、シアノ化ナトリウム等）、劇物（ホルムアルデヒド等）など

(3) 想定する災害

想定する危険物等災害は、次のとおりである。

■想定する危険物等災害

○危険物等の漏えい、流出、火災、爆発等により、多数の死傷者が発生する場合

○危険物等の漏えい、流出、火災、爆発等により、地域住民等に影響が及ぶ場合

2. 予防対策計画

(1) 予防査察

安房都市広域市町村圏事務組合消防本部は、消防法その他法令に基づいて、危険物施設の設置又は変更の許可に対する審査及び立入検査を行い、法令に定める基準に不適合な場合は、改修、移転など危険物の規制を実施する。

(2) 事業所防災対策の強化

安房都市広域市町村圏事務組合消防本部は、危険物施設の管理者等に対し、危険物保安監督者・危険物保安統括管理者・危険物施設保安員の選任、防災組織の確立、消防用設備の設置、防災訓練等を指導する。

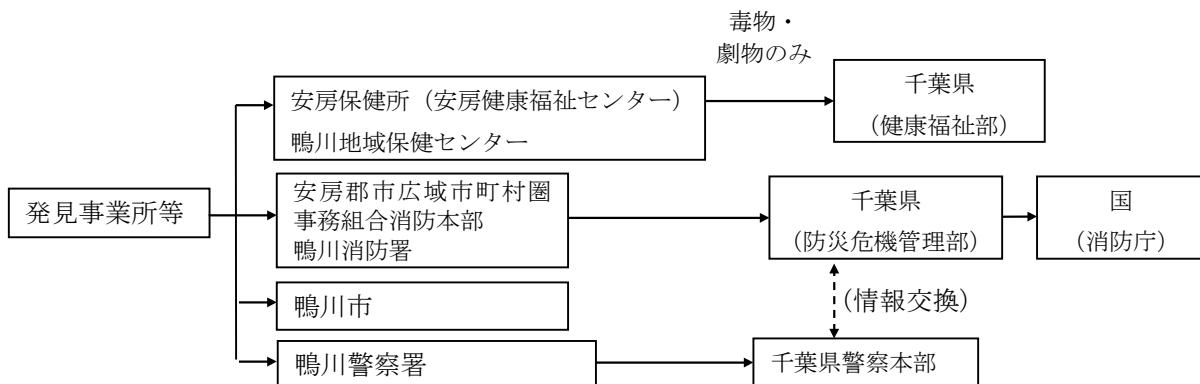
各危険物施設は、防災組織を確立し情報連絡や緊急動員等に備えた体制の整備、従業員の保安教育や防災訓練を行い防災措置の習熟を図る。

(3) 消防体制の強化

安房都市広域市町村圏事務組合消防本部は、危険物の性質、数量等を把握し、事業所ごとの予防規程を作成するとともに、危険物取扱者及び施設関係者に対して、関係法令及び災害防止の具体的な方策について教育を行う。

3. 災害情報

危険物等災害発生時の情報伝達経路は、次のとおりである。



4. 応急対策計画

危険物等災害が発生した場合は、次の応急対策を実施する。対策の詳細については、第3編「第2章 災害応急対策計画」を適用する。

(1) 広報活動

住民に対して防災行政無線、広報車等により次の事項を広報する。

■住民に対する広報

- 災害発生の状況
- 危険物等の種類、性状など人体・影響に与える状況、対処方法
- 医療機関等の情報
- 関係機関の実施する応急対策の概要
- 避難の指示等、避難先

(2) 応急活動体制

必要に応じて事故対策本部を設置する。合同調整所が設置された場合は、公共施設、資機材の提供等の支援を実施する。

(3) 捜索・救助救出活動

安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署、消防団、鴨川警察署が対応する。

(4) 医療救護活動

亀田総合病院及び国保病院で対応する。負傷者の搬送は安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署、消防団が対応する。

(5) 消防活動

事業者は、消防が到着するまでの間、自衛消防組織等によりその延焼の拡大を最小限に抑える。安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署、消防団は、事業者との連携により、化学消火薬剤、中和剤、ガス検知器等を活用し、危険物等の性状にあった適切な消防活動を実施する。

なお、消防活動の円滑化を図るため、必要に応じて消防警戒区域を設定する。住民の避難の必要がある場合は、鴨川市に連絡する。

(6) 避難

住民の避難の必要がある場合は、避難区域を設定し、避難広報、誘導、避難所の開設・受

け入れを行う。

(7) 交通規制

鴨川警察署は応急活動のため必要に応じて交通規制を実施する。

第4節 海上災害対策

1. 基本方針

(1) 基本方針

市付近の海域において、船舶の衝突、乗揚げ、転覆、火災、爆発、浸水、機関故障等の海難の発生による多数の遭難者、行方不明者、死傷者等が発生し、又は生ずるおそれのある事態であって、保護を要する場合に、早期に初動体制を確立して、被害の防止や軽減を図るために、市がとるべき応急措置を定める。

ただし、油等の流出事故については第5節「油等海上流出災害対策」の定めるところによる。

(2) 想定する災害

想定する海上災害は、次のとおりである。

■想定する海上災害

- 旅客船、その他多数の人が乗船している船舶の海難で、多数の人命の損失を伴う場合
- 漁船の集団海難で、多数の人命の損失を伴う場合

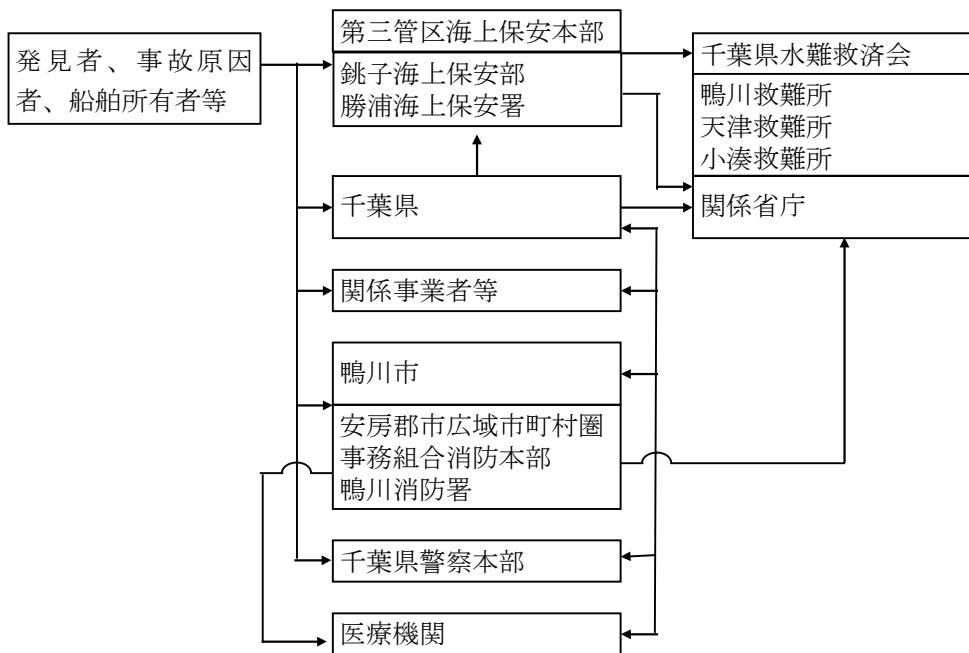
2. 予防対策計画

危機管理課は、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部、海上保安本部及び千葉県水難救済会等と連携して、海難救助訓練を実施する。

3. 災害情報

初動体制を早期に確立するためには早期の災害覚知が不可欠である。関係機関は下記のルートにより情報の受伝達を緊急に行う。

県は、漁業無線通信系を利用した海上事故の通報等の応急通信、並びに漁船、県所属船舶からの事故に係る情報の収集を実施する。



4. 応急対策計画

海上災害が発生した場合は、次の応急対策を実施する。対策の詳細については、第3編「第2章 災害応急対策計画」を適用する。

(1) 広報活動

住民に対して防災行政無線、広報車等により海上災害の発生状況、避難指示等について広報する。

また、周辺船舶に対して必要な措置について、海上保安署等と協力しながら、市防災行政無線等により広報する。

(2) 応急活動体制

災害を覚知した場合は、防災関係機関は直ちに初動体制を確立して、対応に努める。一次的に対応をする関係機関及び主な対応は以下のとおりである。

市	避難指示等、他団体への応援要請、住民への広報
当該船舶所有者等	消火、救難、救助、広報、被災者家族等への情報提供
第三管区海上保安本部	捜索、救助、救急、消火、関係機関との連絡調整、事故原因の調査・広報
鴨川消防署	捜索、消火、救難、救助、救急、搬送
県警察	捜索、救難、救助、搬送路・物資輸送路の確保
県	関係機関との連絡調整
医療機関	負傷者等の応急医療、救護等

また、必要に応じて事故対策本部を設置する。合同調整所が設置された場合は、公共施設、資機材の提供等の支援を実施する。

(3) 関係機関の体制

① 第三管区海上保安本部の体制

ア. 災害の発生が予想される場合

(ア) 警戒配備

大規模海難に至らない海上災害の発生が予想されるときは、必要に応じ、海上保安庁非常配備規則に基づき第三管区海上保安本部長が発令し、緊急に事前の措置を実施してこれに備える態勢を確立する。

(イ) 非常配備

大規模海難等の発生が予想されるときに、海上保安庁非常配備規則に基づき、必要に応じ、第三管区海上保安本部長が非常配備乙を発令し、緊急の措置を実施してこれに備える態勢を確立する。

イ. 災害が発生した場合

(ア) 大規模海難等対策本部の設置

大規模海難その他海上における災害の際に、救助、援助、汚染の防除及び犯罪の捜査に関する業務を特に統一的かつ強力に推進するため、大規模海難等対策本部規則に基づき設置する。

(イ) 中規模海難等対策本部の設置

大規模でない海難その他における災害が発生した際に、救助、援助及び汚染の防除に関する業務を協力かつ的確に推進するため、大規模海難等対策本部規則に基づき設置する。

② 県の体制

海難が発生し、又はまさに発生しようとしている場合において、災害応急対策を円滑に実施するため、必要に応じ応急活動体制を整え、災害応急対策を実施する。

③ 市の体制

海難が発生し、又は発生するおそれがある場合、その状況に応じて応急活動体制を整え、その海域に係る災害応急対策を実施する。

④ 防災関係機関の体制

関係機関の長は、海難が発生し、又は発生するおそれがある場合、その状況に応じて応急活動体制を整え、関係機関と連携を取りながら、その所管に係る災害応急対策を実施する。

(4) 消防活動

勝浦海上保安署及び安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部と密接に連携し、消火活動に協力する。

(5) 避難

海上災害が住宅地まで及ぶ危険性がある場合は、避難区域を設定し、避難広報、誘導、避難所の開設・受け入れを行う。

(6) 捜索・救助救出活動

遭難船舶を認知した場合、市は勝浦海上保安署及び鴨川警察署に連絡をするとともに、直ちに現場に臨み、捜索及び救護活動を実施する。

(7) 交通規制

鴨川警察署及び各交番は応急活動のため必要に応じて交通規制を実施する。

第5節 油等海上流出災害対策

1. 基本方針

(1) 基本方針

市周辺海域において、油等の流出事故が発生した場合に、流出した油等の拡散防止と回収等を実施し、付近の船舶並びに沿岸住民の安全を図るとともに、水産業、その他産業の被害の軽減を図り、環境汚染を最小限化するため、市がとるべき応急措置を定める。

(2) 想定する災害

想定する油等海上流出災害は、次のとおりである。

■想定する油等海上流出災害

○船舶等の接触、衝突、乗揚げ、沈没等の事故による大量の油等（「海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律」（以下「海防法」という。）第3条でいう油及び有害液体物質）の流出を伴う場合

2. 予防対策計画

(1) 広域的な活動体制

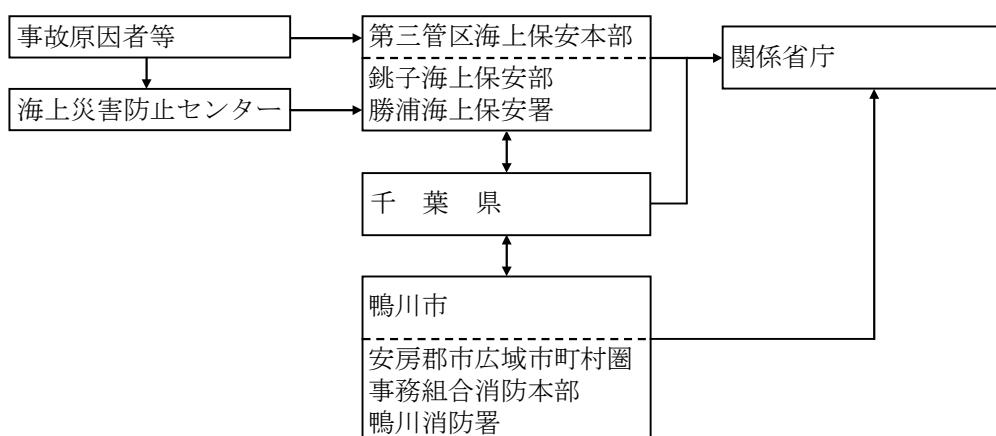
国、県及び危機管理課は、各機関との連携を密にし、事故発生時に総合的かつ計画的な防災活動が円滑に行われるよう広域的な活動体制を確立する。

(2) 油防除作業体制の整備

危機管理課及び環境課は、県が策定した「油防除作業手順マニュアル」（平成11年3月）、「千葉県油等海上流出事故対応マニュアル」（平成18年3月）を活用し、地域に即した対応ができるような体制を整備するとともに、油防除資機材の備蓄や関係機関が行う防災訓練等に参加する。

3. 災害情報

市及び防災関係機関は、油等流出事故が発生した場合に、被害の拡大等を防止し、沿岸地域住民、沿岸施設及び船舶の安全確保を図るとともに、水産業、その他産業の被害を軽減するため、緊急時の情報収集連絡体制を確立しておく。



4. 応急対策計画

油等海上流出災害が発生した場合は、次の応急対策を実施する。対策の詳細については、第3編「第2章 災害応急対策」を適用する。

(1) 広報活動

住民に対して防災行政無線、広報車等により油等海上流出災害の発生状況、避難指示等について広報する。ガス、異臭等が発生し、生命身体に影響がある場合は、警戒区域の設定を行う。

また、市は、付近の海域において油流出事故が発生し、被害の発生又はそのおそれがあるときは、海岸線のパトロールを実施し、速やかにその状況を勝浦海上保安署及び県に報告する。

(2) 応急活動体制

油等流出事故が発生した場合における被害の軽減を図るために、防災関係機関及び関係団体並びに事故原因者等は災害応急対策への備えに万全を期す。

① 油防除作業体制の整備

市は、県が策定した「油防除作業手順マニュアル」や「千葉県油等海上流出事故対応マニュアル」を活用し、地域に即した対応が迅速かつ的確にできるよう、体制整備に努める。

② 油防除資機材等の整備

市は、油防除資機材の整備を図るよう努める。

(3) 消防活動

勝浦海上保安署及び安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部と密接に連携し、消火活動に協力する。

(4) 避難

海上災害が住宅地まで及ぶ危険性がある場合は、避難区域を設定し、避難広報、誘導、避難所の開設・受け入れを行う。

(5) 防除活動

① 防除方針

流出した油等は、海上で防除することに目標を置き、防除方針の決定にあたっては海上での回収を可能な限り実施し、海岸線への漂着を回避するよう努める。

また、市及び防災関係機関においては、勝浦海上保安署等海上保安機関との連携を図りつつ、流出油等の性状及び有害性の有無について迅速な把握に努め、効率的な流出油等の拡散防止、回収及び処理を行う。

② 流出油の防除措置

市は、漂着油により海岸が汚染され、又はそのおそれがある場合は、事故原因者等の要請に基づき、その被害を防止するための除去作業等を実施するとともに、必要に応じ回収油の保管場所の確保に努める。

(6) 環境保全等に関する対策

市は、油等流出事故による地域住民の健康被害の防止及び軽減を図るとともに、環境の保全を図る。

① 必要に応じて環境調査を実施するとともに、環境汚染に関する情報を国等防災関係機関へ通報する。

② 異臭等の発生により、住民の生命・身体に有害な影響が予測される場合は、住民からの

健康相談に対応する。

- ③ 海鳥、海生生物等に被害が発生した場合には、関係団体等の協力を得て、その保護に努める。

(7) **油回収作業実施者の健康対策**

被災地における健康対策は、県及び医療機関の協力を得て市が実施する。

(8) **補償対策**

- ① 船舶油濁損害賠償保障法による補償

船舶油濁損害賠償保障法（昭和 50 年法律第 95 号）に基づき、流出した燃料油により損害を受けた漁業者及び観光業者等は、その損害額に加えて損害の防止、軽減に要した費用を船舶所有者に請求できる。また、国、地方公共団体等は、損害の防止、軽減に要した費用を同法に基づき船舶所有者に請求できる。

- ② 海防法による補償

海防法第 41 条の 2 に基づく海上保安庁長官からの要請により、地方公共団体等が防除措置を講じた場合、同法第 41 条の 3 に基づき、その費用を行政処分により船舶所有者に請求できる。

(9) **事後の監視等の実施**

市及び防災関係機関は、油等の回収等応急対策による措置が終了した後においても、必要に応じ、環境への影響の把握に努める。

第6節 航空機災害対策

1. 基本方針

(1) 基本方針

市及びその周辺並びにその他の地域において、航空機の炎上等により、多数の死傷者を伴う大規模な災害（以下「航空機災害」という。）が発生した場合、またはまさに発生しようとしている場合に、その拡大を防御し、被害の軽減を図るため、市がとるべき応急措置を定める。

なお、海上遭難の場合は、第4節「海上災害対策」に準ずる。

(2) 想定する災害

想定する航空災害は、次のとおりである。

■想定する航空災害

- 航空機の墜落炎上により、多数の搭乗者に被害が発生した場合
- ヘリコプター、小型飛行機等の墜落炎上により、搭乗者とともに住民等に影響がある被害が発生した場合

2. 予防対策計画

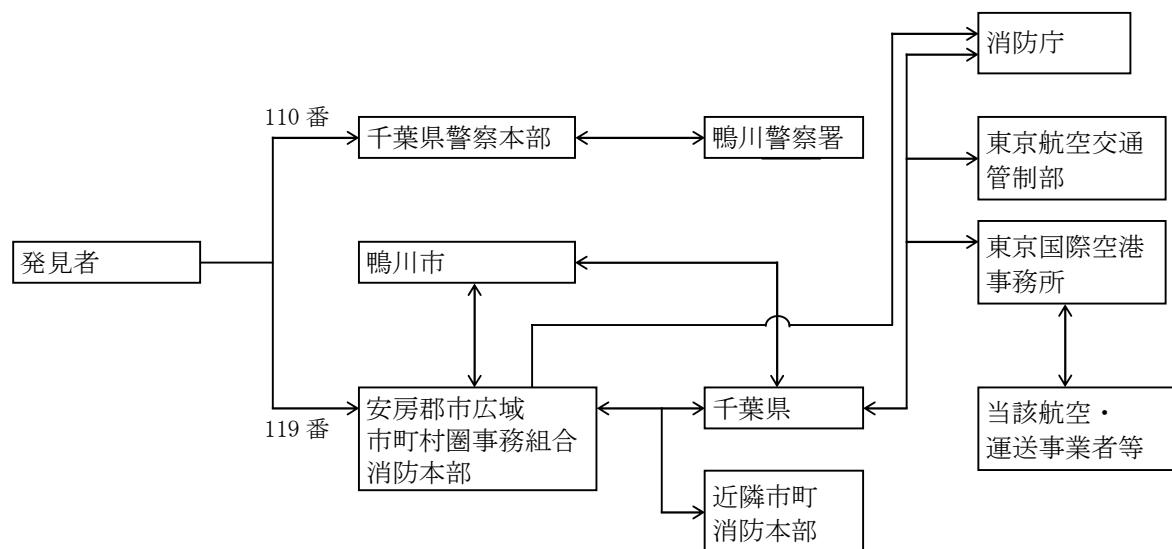
危機管理課は、関係機関とともに、航空機災害について情報の収集・連絡が円滑に行える体制を整備する。

3. 災害情報

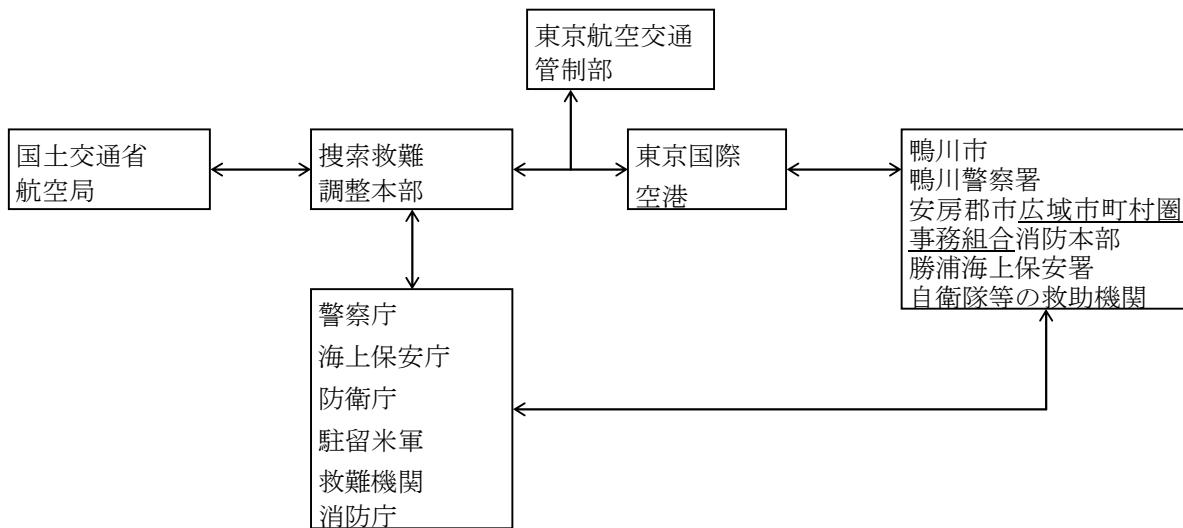
航空機災害が発生し、またはまさに発生しようとしている場合に防災関係機関は早期に初動体制を確立してその拡大を防御し、被害の軽減を図る。

また、県への通報は国が定めている「火災・災害等即報要領」の様式により行うことになる。

(1) 発生地点が明確な場合



(2) 発生地点が不明確な場合（遭難機の捜索）



(注) 捜索救難調整本部は、通常、東京空港事務所（羽田）に設けられる。

4. 応急対策計画

航空災害が発生した場合は、次の応急対策を実施する。対策の詳細については、第3編「第2章 災害応急対策計画」を適用する。

(1) 広報活動

住民に対して防災行政無線、広報車等により災害発生の状況、避難の必要性等について広報する。

(2) 応急活動体制

必要に応じて事故対策本部を設置する。合同調整所が設置された場合は、公共施設、資機材の提供等の支援を実施する。

(3) 捜索・救助救出活動

航空機の乗客及び被災地域住民等の救出、救護、収容等を行う場合は、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署、消防団、鴨川警察署及び各交番により実施する。

① 救出班の派遣

実施機関は、乗客、地域住民等の救出のため、救出班を派遣し、担架等救出に必要な資器材を投入し、迅速に救出活動を実施する。

② 救護班の派遣

負傷者の救護は、千葉県医師会、千葉県歯科医師会、日本赤十字社千葉県支部等の協力機関が編成する救護班の派遣を受けて、応急措置を施した後に、あらかじめ指定された医療機関に搬送する。

なお、協力機関が編成する救護班は、第3編第2章第9節「救助・救急・消防」及び第10節「医療救護」の定めるところによる。

③ 市救護本部の開設

重軽傷者の救護は、原則として市が仮設市救護本部を開設し、迅速な処置を図る。

④ 救急、搬送

消防機関が中心となって応急措置後の負傷者を、あらかじめ指定された医療機関に搬送する。

(5) 遺体一時保存所等の設置

遺体の収容は、原則として市が、遺体安置所、検案場所を設置し、収容する。

遺体の収容、埋葬に係る実施事項は、第3編第2章第13節「行方不明者の捜索・遺体の処理計画」の定めるところによる。

(4) 医療救護活動

亀田総合病院及び国保病院で対応する。必要に応じて災害現場近くに市救護本部を設置し、トリアージを行う。負傷者の搬送は安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署、消防団が対応する。

(5) 消防活動

航空機の墜落炎上による火災の消火は、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署、消防団が実施する。消防活動の円滑化を図るため、必要に応じて消防警戒区域を設定する。

- ① 航空機災害に係る火災が発生した場合、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部は、化学消防車、化学消火薬剤等による消防活動を重点的に実施する。
- ② 航空機災害に係る火災が発生した場合、市長（本部長）及び安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部は、必要に応じて地域住民及び旅客の生命、身体の安全を図るとともに、消防活動の円滑化を期すため、警戒区域を設定する。
- ③ 災害の規模等が大きく、市、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部限りでは対処できないと思われる場合は、千葉県広域消防相互応援協定により近隣市町消防機関に応援を求める。

(6) 交通規制

鴨川警察署及び各交番は応急活動のため必要に応じて交通規制を実施する。

(7) 遺体の収容、処理

検案を終了した遺体を収容するために、公共施設に遺体安置所を設置し、必要な措置をとる。

(8) 被災者家族等への支援

被災者家族等のために原因者等の要請に基づき、待機所や宿泊施設、火葬等の必要な対応を支援する。

第7節 鉄道災害対策

1. 基本方針

(1) 基本方針

鉄道施設の大規模災害を未然に防止し、火災発生時には迅速、的確に応急対策を実施するとともに旅客の安全及び輸送の確保に努める。

災害が発生した場合、被害を最小限にとどめ、輸送の確保を図るための防災関係機関の対策(早期初動体制の確立、被害状況の把握、的確な応急対策の実施)に市が協力すべき応急措置を定める。

(2) 想定する災害

想定する鉄道災害は、次のとおりである。

■想定する鉄道災害

○列車の衝突、脱線により多数の乗客に被害が発生した場合

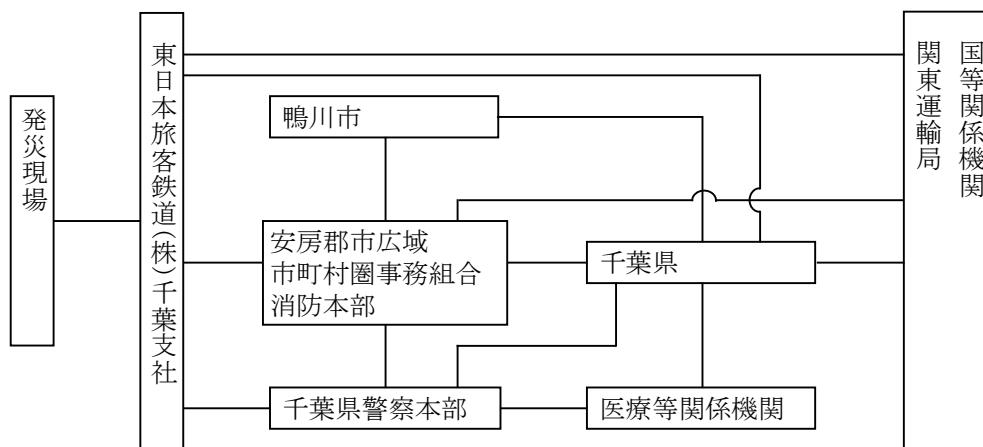
2. 予防対策計画

県、東日本旅客鉄道（株）、危機管理課は、相互間における情報の収集・連絡体制の整備を図る。

また、都市建設課及び東日本旅客鉄道（株）は、踏切道の立体交差化、構造の改良、踏切保安設備の整備、交通規制の実施、踏切道の改良に努める。

3. 災害情報

鉄道災害発生時の情報伝達経路は、次のとおりである。



4. 応急対策計画

鉄道災害が発生した場合は、次の応急対策を実施する。対策の詳細については、第3編「第2章 災害応急対策計画」を適用する。

(1) 広報活動

住民に対して防災行政無線、広報車等により災害発生の状況、復旧状況等について広報する。

(2) 応急活動体制

必要に応じて事故対策本部を設置する。合同調整所が設置された場合は、公共施設、資機材の提供等の支援を実施する。

(3) 捜索・救助救出活動

東日本旅客鉄道（株）が行う発生直後の救助救出活動の他、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署、鴨川警察署及び各交番が対応する。

(4) 医療救護活動

亀田総合病院及び国保病院で対応する。負傷者の搬送は安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署が対応する。

(5) 消防活動

事故発生直後には東日本旅客鉄道（株）が初期消火を行う。火災の消火は、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署、消防団が実施する。消防活動の円滑化を図るため、必要に応じて消防警戒区域を設定する。

(6) 交通規制

鴨川警察署及び各交番は応急活動のため必要に応じて交通規制を実施する。

(7) 遺体の収容、処理

検案を終了した遺体を収容するために、公共施設に遺体安置所を設置し、必要な措置をとる。

(8) 被災者家族等への支援

被災者家族等のために原因者等の要請に基づき、待機所や宿泊施設、火葬等の必要な対応を支援する。

(9) 災害復旧

東日本旅客鉄道（株）は、被災施設及び車両の迅速な復旧に努めるとともに、可能な限り復旧予定期を明らかにするよう努める。

第8節 道路災害対策

1. 基本方針

(1) 基本方針

市域において車両の衝突等により、大規模な救急救助活動や消火活動等が必要とされている事故が発生した場合に、関係機関と連携して被災者を迅速かつ適切に救助することにより被害の軽減を図るため、市がとるべき応急措置を定める。

(2) 想定する災害

想定する道路災害は、次のとおりである。

■想定する道路災害

- 観光バス等の大型車両の事故により多数の死傷者が発生する場合
- 集団交通事故により多数の死傷者が発生する場合
- 危険物を積載する車両の事故により危険物が流出し、住民等に影響が及ぶ場合

2. 予防対策計画

(1) 危険箇所の把握・改修

道路管理者は、災害の発生するおそれのある箇所を把握し、改修工事等を順次行うとともに、異常気象時においては緊急パトロール等を実施し監視体制を強化する。

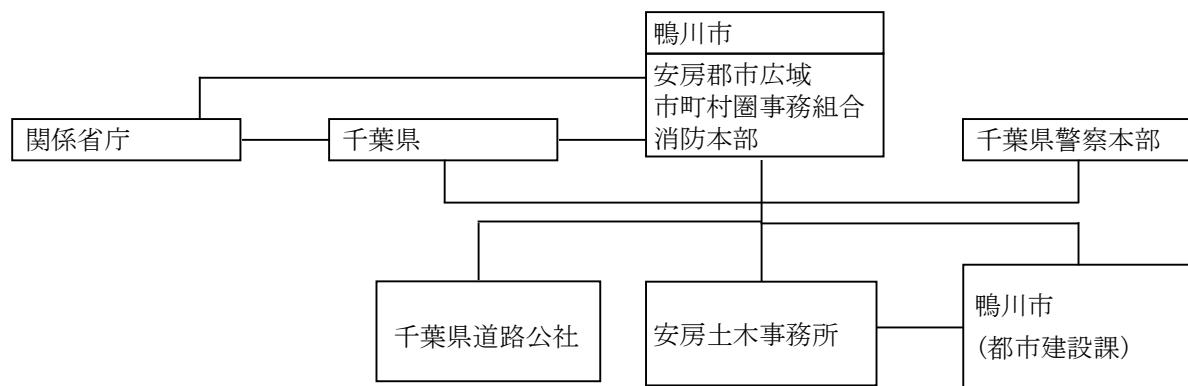
また、被災した施設の早期復旧を図るため応急復旧用資機材の保有に努める。

(2) 危険物積載車の予防

輸送事業者は、法令の定めるところにより防除資機材を携帯するとともに、危険物の名称及び事故の際講ずべき措置を記載した書面を携帯するものとする。

3. 災害情報

道路災害発生時の情報伝達経路は、次のとおりである。



4. 応急対策計画

道路災害が発生した場合は、次の応急対策を実施する。対策の詳細については、第3編「第2章 災害応急対策計画」を適用する。

(1) 広報活動

住民に対して防災行政無線、広報車等により災害発生の状況、危険物流出に対する対処方法、避難指示等について広報する。

(2) 応急活動体制

必要に応じて事故対策本部を設置する。合同調整所が設置された場合は、公共施設、資機材の提供等の支援を実施する。

- ① 消防活動による被災者の救出救助、医療機関への救急搬送を実施するほか、被害の拡大を防止するため必要な措置を執る。
- ② 二次災害を防止し、救出救助活動が円滑に実施できるよう、必要な災害地周辺道路の交通規制を行うとともに、崩落土砂等障害物の除去及び被災道路構造物の構造図の提示等救出救助活動へ協力する。
- ③ 障害物の除去、仮設道路の建設等の応急復旧を行い早期の道路交通の確保を行う。復旧に際しては被災原因を究明し再発防止策を策定する。
- ④ 災害の規模が大きく市単独では十分な応急対策を実施できないときは、周辺の消防機関及び市町に応援を求める
- ⑤ 県に対し、災害救助法の適用要請及び自衛隊の災害派遣要請を依頼する。

(3) 捜索・救助救出活動

安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署、鴨川警察署及び各交番が対応する。

(4) 医療救護活動

亀田総合病院及び国保病院で対応する。負傷者の搬送は安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署、消防団が対応する。

(5) 消防活動

火災の消火は、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署、消防団が実施する。消防活動の円滑化を図るため、必要に応じて消防警戒区域を設定する。

(6) 危険物流出対策

危険物積載車両から危険物が流出した場合、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署は、危険物の性状を把握し、流出・拡散防止の措置をとる。住民への影響がある場合は、市に連絡する。

(7) 避難

危険物が流出し住民への影響がある場合は、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部・鴨川消防署、消防団、鴨川警察署等と連携して、事故の状況や対処方法等を広報する。避難する必要がある場合は、避難区域を設定し、避難広報、誘導、避難所の開設・受け入れを行う。

また、流出した危険物等の性質、量及び気象条件等を勘案し、被害拡大を防止するため、地域住民等に対し、避難指示及び立入禁止区域の設定等の措置を講ずる。

(8) 交通規制

鴨川警察署及び各交番は応急活動のため必要に応じて交通規制を実施する。

- ① 道路構造物の被災による人的な被害を未然に阻止するため、道路災害の発生の恐れがあると認められるときは、道路の交通規制を行う。
- ② 通行規制を実施したときは、その旨を交通関係者並びに地域住民に広報する。

(9) 遺体の収容、処理

検案を終了した遺体を収容するために、公共施設に遺体安置所を設置し、必要な措置をと

る。

(10) 被災者家族等への支援

被災者家族等のために原因者等の要請に基づき、待機所や宿泊施設、火葬等の必要な対応を支援する。

第9節 放射性物質事故対策

1. 基本方針

(1) 基本方針

市及び県には原子力災害対策特別措置法（平成11年法律第156号。以下「原災法」という。）に規定される原子力事業所は存在しないが、医療機関及び試験研究機関等の放射性同位元素使用施設のほか、県内には核燃料物質を使用している事業所がある。

また、「原子力災害対策指針」（平成24年10月 原子力規制委員会）上、県外の原子力事業所の「原子力災害対策重点区域」には入っていない。さらに、核原料物質、核燃料物質又はこれらによって汚染された物質（以下「核燃料物質等」という。）あるいは放射性同位元素又はこれらによって汚染された物質（以下「放射性同位元素等」という。）の取扱いや原子力艦寄港の状況を把握することも、国の所掌事項であり、市及び県は核燃料物質等又は放射線同位元素等（以下「放射性物質」という。）の規制に関して法的権限を有していない。

しかし、平成23年3月11日に発生した東日本大震災による福島第一原子力発電所事故に起因する放射性物質等により、水道水の摂取制限や農産物の出荷制限など、住民の生活、社会経済活動などに様々な影響が及んだ。

これらを受け、「地域防災計画」として、放射性物質取扱事業所及び防災関係機関の予防対策、事故発生時の対策について定めることとする。

なお、本計画を迅速かつ的確に推進するため、事故発生時等の具体的な対応などについては、県が定める「放射性物質事故対応マニュアル」によることとする。

※核原料物質：原子力基本法（昭和30年法律第186号）第3条第3号に規定する核原料物質をいう。

※核燃料物質：原子力基本法第3条第2号に規定する核燃料物質をいう。

※放射性同位元素：放射性同位元素等の規制に関する法律（昭和32年法律第167号）第2条第2項に規定する放射性同位元素をいう。

※原子力事業所：原災法第2条第4号に規定にされる工場又は事業所

※核原料物質使用事業所：核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律（昭和32年法律第166号）第57条の8の規定により使用の届出をしている工場又は事業所をいう。

※核燃料物質使用事業所：核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第52条の規定により使用の許可を受けている工場又は事業所をいう。

※放射性同位元素等使用事業所：放射性同位元素等の規制に関する法律第3条第1項の規定により使用の許可を受けている工場又は事業所、同法第3条の2第1項の規定により使用の届出をしている工場又は事業所をいう。

※放射性物質取扱事業所：原災法に規定される原子力事業所をはじめ、放射性物質を取り扱う事業所全般をいう。

(2) 事故の想定

放射性物質事故を次のように想定する。

① 県内の放射性物質取扱事業所施設で取り扱っている核燃料物質の種類及び量から、これらの事業所において、大量の放射線が放出される事故の可能性はないため、地震、津波、火災等の自然災害などに起因する事故を想定する。

② 核燃料物質の運搬に伴う事故については、陸上輸送中の車両接触事故等により格納容器

が破損し、放射性物質が放出するなどを想定する。

- ③ 茨城県等に立地している原災法に規定される原子力事業所については、地震、津波、火災、人為的ミス等の自然災害等による事故などを想定する。
- ④ 原子力艦については、県外の原子力事業所の事故と同様に、地震、津波、火災、人為的ミス等の自然災害等による事故などを想定する。

2. 予防対策計画

(1) 放射性物質取扱施設の把握

安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部は、放射性物質に係る防災対策を迅速かつ的確に行うため、放射性物質取扱事業所の所在地及び取扱物質の種類等の把握に努める。

(2) 情報の収集・連絡体制の整備

県及び危機管理課は、国、警察、消防機関、放射性物質取扱事業者等の関係機関との間ににおける情報の収集・連絡体制を整備する。その際、夜間、休日の場合等においても対応できる体制とする。

(3) 応急活動体制の整備

危機管理課は、職員の非常参集体制、防災関係機関との連携体制、広域応援体制を整備する。

また、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部は、核燃料物質事故の応急対策に従事する者が必要とする防護服や防塵マスク等の防護資機材、放射線測定器等を整備する。

(4) 環境放射線モニタリング体制の整備

環境課は、緊急時における放射性物質又は放射線による被害が発生又は発生するおそれがある場合に備え、放射線測定器及び検出器等を整備する。

(5) 退避誘導体制の整備

危機管理課は、県内外の放射性物質事故発生時に、適切な退避誘導が図れるよう、平常時から地域住民及び自主防災組織の協力を得て退避誘導体制を整備する。また、避難行動要支援者及び観光客等を適切に退避誘導し安否確認を行うため、平常時より、避難行動要支援者に関する情報の把握・共有、退避誘導体制を整備する。

なお、放射線の影響を受けやすい乳幼児等については十分配慮する。

(6) 放射性物質に関する教育・訓練

県及び危機管理課は、必要に応じて防災関係職員に対し、放射性物質事故に関する教育を実施する。市民に対しても放射性物質事故に関する知識の普及を図る。

また、県と連携した放射性物質事故を想定した訓練を実施する。

3. 災害情報

(1) 通報

放射性物質取扱事業者は、施設において、何らかの要因により、周辺環境に影響を及ぼす放射性物質の漏えい等の事故が発生した場合、又は、周辺環境に影響を及ぼす恐れのある場合には速やかに以下の事項について、国、県、市、警察及び消防などの関係機関に通報するものとする。

通報の項目は、概ね次のとおりである。

- ① 事故発生の時刻
- ② 事故発生の場所及び施設
- ③ 事故の状況
- ④ 放射性物質の放出に関する情報
- ⑤ 予想される被害の範囲及び程度等
- ⑥ その他必要と認める事項

(2) 被害状況の報告

市は、放射性物質事故が発生したとの通報を受けた場合、国、県、警察及び消防などの関係機関に通報する。

また、事故の発生状況、人的被害の状況等の情報を収集するとともに、被害規模に関する概括的情報を含め、把握できた範囲から県に報告する。

4. 応急対策計画

(1) 環境放射線モニタリング活動

市又は安房郡市広域市町村圏事務組合水道部は、下水道処理の汚泥、公共施設等での降下物、農産物、水道水等の放射性を測定し、ホームページ、広報紙等で測定値を発表する。

(2) 消火活動

放射性物質使用事業所等において火災が発生した場合、事業者は従事者の安全を確保するとともに、迅速に消火活動を行うものとする。

安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部は、事業者からの情報や専門家等の意見を基に、消火活動方法を決定するとともに安全性の確保に努め迅速に消火活動を行うものとする。

(3) 避難等の防護対策

県は、緊急時における環境放射線モニタリング等活動の結果など必要な情報を関係市町村に提供し、環境放射線モニタリング結果などから、原子力規制委員会が定める原子力災害対策指針の「O I L (Operational Intervention Level) と防護措置について」に該当すると認められる場合は、国の指示等に基づき、当該市町村に対し連絡又は必要に応じて退避・避難を要請する。

市は、放射性物質の放出に伴う放射線被ばくから地域住民を防護するため、状況に応じて、市民に対して「屋内退避」又は「避難」の措置を講ずるものとする。

■参考 O I Lと防護措置について（原子力規制委員会「原子力災害対策指針」）

基準の種類	基準の概要	初期設定値※1	防護措置の概要
緊急防護措置	O I L 1	地表面からの放射線、再浮遊した放射性物質の吸入、不注意な経口摂取による被ばく影響を防止するため、住民等を数時間内に避難や屋内退避等させるための基準	500 μ Sv/h (地上 1 m で計測した場合の空間放射線量率※2)
	O I L 4	不注意な経口摂取、皮膚汚染からの外部被ばくを防止するため、除染を講じるための基準	β 線 : 40,000 cpm※3 (皮膚から数 cm での検出器の計数率) β 線 : 13,000 cpm※4【1ヶ月後の値】 (皮膚から数 cm での検出器の計数率)

第4編 大規模事故編 第2章 大規模事故対策計画
第9節 放射性物質事故対策

	基準の種類	基準の概要	初期設定値※1	防護措置の概要		
早期防護措置	O I L 2	地表面からの放射線、再浮遊した放射性物質の吸入、不注意な経口摂取による被ばく影響を防止するため、地域生産物※5 の摂取を制限するとともに、住民等を1週間程度内に一時移転させるための基準	20 μ Sv/h (地上1mで計測した場合の空間放射線量率※2)	1日内を目途に区域を特定し、地域生産物の摂取を制限するとともに1週間程度内に一時移転を実施。		
飲食物摂取制限	飲食物に係るスクリーニング基準	OIL6による飲食物の摂取制限を判断する準備として、飲食物中の放射性核種濃度測定を実施すべき地域を特定する際の基準	0.5 μ Sv/h※6 (地上1mで計測した場合の空間放射線量率※2)	数日内を目途に飲食物中の放射性核種濃度を測定すべき区域を特定。		
	O I L 6	経口摂取による被ばく影響を防止するため、飲食物の摂取を制限する際の基準	核種※7 放射性ヨウ素 放射性セシウム ブルトニウム及び超ウラン元素のアルファ核種 ウラン	飲料水・牛乳・乳製品 300Bq/kg 200Bq/kg 1Bq/kg 20Bq/kg	野菜類、穀類、肉、卵、魚、その他 2,000Bq/kg 500Bq/kg 10Bq/kg 100Bq/kg	1週間内を目途に飲食物中の放射性核種濃度の測定と分析を行い、基準を超えるものにつき摂取制限を迅速に実施。

※1 「初期設定値」とは緊急事態当初に用いるO I Lの値であり、地上沈着した放射性核種組成が明確になった時点で必要な場合にはO I Lの初期設定値は改定される。

※2 本値は地上1mで計測した場合の空間放射線量率である。実際の適用にあたっては、空間放射線量率計測機器の設置場所における線量率と地上1mでの線量率との差異を考慮して、判断基準の値を補正する必要がある。O I L 1については緊急時モニタリングにより得られた空間放射線量率(1時間値)がO I L 1の基準値を超えた場合、O I L 2については、空間放射線量率の時間的・空間的な変化を参照しつつ、緊急時モニタリングにより得られた空間放射線量率(1時間値)がO I L 2の基準値を超えたときから起算しておおむね1日が経過した時点の空間放射線量率(1時間値)がO I L 2の基準値を超えた場合に、防護措置の実施が必要であると判断する。

※3 我が国において広く用いられている β 線の入射窓面積が20 c m²の検出器を利用した場合の計数率であり、表面汚染密度は約120Bq/c m²相当となる。他の計測器を使用して測定する場合には、この表面汚染密度から入射窓面積や検出効率を勘案した計数率を求める必要がある。

※4 ※3と同様、表面汚染密度は約40Bq/cm²相当となり、計測器の仕様が異なる場合には、計数率の換算が必要である。

※5 「地域生産物」とは、放出された放射性物質により直接汚染される野外で生産された食品であって、数週間以内に消費されるもの(例えば野菜、該当地域の牧草を食べた牛の乳)をいう。

※6 実効性を考慮して、計測場所の自然放射線によるバックグラウンドによる寄与も含めた値とする。

※7 その他の核種の設定の必要性も含めて今後検討する。その際、IAEAのGSG-2におけるO I L 6を参考として数値を設定する。

※8 根菜、芋類を除く野菜類が対象。

※9 IAEAでは、飲食物摂取制限が効果的かつ効率的に行われるよう、飲食物中の放射性核種濃度の測定が開始されるまでの間の暫定的な飲食物摂取制限の実施及び当該測定の対象の決定に係る基準であるO I L 3等を設定しているが、我が国では、放射性核種濃度を測定すべき区域を特定するための基準である「飲食物に係るスクリーニング基準」を定める。

(4) 飲料水及び飲食物の摂取制限等

市は、住民の内部被ばくに対処するため、国の指示、指導又は助言に基づき、放射性物質により汚染され又は汚染のおそれのある飲料水及び飲食物の摂取の制限、農産物の出荷の制限、また法令に基づき食品の廃棄・回収等の必要な措置を行う。

■食品衛生法(昭和22年法律第233号)に基づく放射性セシウムの基準

対象	放射性セシウム(セシウム134及びセシウム137)
飲料水	10 ベクレル/キログラム
牛乳	50 ベクレル/キログラム
乳児用食品	50 ベクレル/キログラム
一般食品	100 ベクレル/キログラム

(5) 広域避難

① 市外への広域避難

市は、放射性物質事故により、他の市町村へ避難することが必要な場合は、被災者の受け入れについて、県及び他市町村に要請し協議を行う。

② 広域避難者の受け入れ

市は、被災市町村又は県から、広域避難者の受け入れ要請があった場合は、可能な限り受け入れに協力する。受け入れを行う場合は、支援体制を構築するとともに、滞在施設の提供、所在地情報の把握、その他の支援に努める。

5. 災害復旧計画

(1) 汚染された土壤等の除去等の措置

市は、国及び県の指示、法令等に基づき、所管する施設の土壤等の除染等の措置を行う。

放射性物質取扱事業所の事業者等は、国、県、関係市町村及び防災関係機関と連携し、周辺環境における除染、除去を行う。

(2) 各種制限措置等の解除

市は、国及び県の指示、指導又は助言に基づき、飲料水及び飲食物の摂取の制限、農林水産物の出荷の制限等の各種制限措置等を解除する。

(3) 住民の健康管理

市及び県は、被災者の状況を把握するとともに、健康状態に応じた対応や心のケアを実施する。

(4) 風評被害対策

市は、国及び県等と連携し、各種モニタリング結果や放射能に関する正しい知識を、広く正確にわかりやすく広報することにより風評被害の発生を抑制する。

(5) 廃棄物等の適正な処理

市は、国及び県等と連携し、放射性物質に汚染された汚泥や焼却灰等の廃棄物や土壤等が適正に処理されるよう、必要な措置を講ずる。